

- このたびは、当社製品をお買いあげいただきましてまことにありがとうございます。
- この取付説明書に示した表示記号の内容は、製品を安全に正しく施工していただき、施主様等の危害や損害を未然に防止するためのものです。
表示記号の内容を良く理解したうえで、本書の内容(指示)にしたがってください。
- この取付説明書では、次のような記号を使用しています。

安全に関する記号 記号の意味

**警告**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負うおそれのある内容を示しています。

**注意**

- 取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負うおそれのある内容、または物的損害のおそれがある内容を示しています。

一般情報に関する記号

**ポイント**

- 取付手順で、特に注意して作業をしていただきたいことを示しています。
- 守っていただかないと組付けができない内容、または製品全体に後々不具合が発生するおそれのある内容を示しています。

※

- 取付説明の内容全体(個々の説明枠)にかかる注意事項を示しています。
- 取付説明の内容に制限がある場合の条件を示しています。

**補足**

- 説明の内容で知っておくと便利なことを示しています。

※製品破損、倒壊による人への危害・物的損害が想定されますので、下記事項をお守りください。

<施工の前に>

**注意**

- 製品の施工には、危険を伴う場合がありますので、必ず専門の工事業者による施工をお願いします。
- 本製品は、1階設置用です。2階以上には設置しないでください。
- 本製品は躯体取付け専用のため、躯体から独立して設置しないでください。
- 屋根材へ接触する部品へシリコンシーリング材を使用する場合は、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがありますので、当社指定の脱アルコール系シーリング材を現場で手配してください。

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業(株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン(合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング・シリコン(株)	SE960

- 母屋の屋根から雪が直接落ちない場所に設置してください。落雪により、製品が破損するおそれがあります。
- 屋根材は、弊社指定品を使用してください。指定品以外を使用した場合、強風による屋根材の飛散や強度低下の原因になります。
- 寒冷地では凍結破損を防ぐため、樋樋に排水路ヒーター等を取付けてください。
- 「柱固定用カイモノ」や「スペーサー」は必要に応じて現場で手配してください。

<施工の前に>

🔑 ポイント

- 正しく施工，組付けをするために、施工前に必ず取付説明書をお読みください。
- 製品の施工については、必ず取付説明書にしたがってください。
- 梱包明細表で必要な部材、部品が揃っているか確認してください。
- 施工終了後、取扱説明書は施主様にお渡しください。

<施工上のご注意>

⚠️ 注意

- ボルト，ネジは弊社純正品の規定本数を確実に締付け，固定してください。
- アルミ製品が異種金属と接触する場合は，絶縁処理をしてください。
- 製品の改造は絶対にしないでください。
- 施工終了後は，ボルト，ネジなどにゆるみがないか確認してください。
- 施工終了後は，パネルの開閉チェックを行ない，不具合がないか確認してください。

🔑 ポイント

- 施工工事にあたっては，安全に施工を行なってください。
 - ・作業服および保護具（保護帽、安全帯、眼、耳、手、足の保護具）を正しく使用してください。
 - ・作業場所の整理整頓を行なうとともに，安全確保を行なってください。
特に高所作業での安全確保、倒壊防止、照明による照度の確保など。
 - ・器具、工具、保護具などの機能を確認し，使用してください。
 - ・作業は，相互の作業と各作業工程を考慮して進めてください。免許、技能講習、特別教育が必要な作業は，有資格者が行なってください。
 - ・作業者が相互に安全確認を行なってください。健康状態を十分確認し，健康管理を実施してください。
 - ・万が一、事故が発生した際には，直ちに手当を行ない，救助を第一に心がけてください。
- 取付説明書の指示通りに組付けてください。製品の強度の低下、材料破損をする場合があります。
- 施工中についた汚れは取除き，誤ってキズをつけた場合は補修塗料で補修してください。

<基礎工事についてのご注意>

⚠️ 注意

- 基礎は弊社指定の寸法以上にしてください。
- 寒冷地で凍上するおそれのある地域で使用する場合は，凍上線の下まで基礎を設けてください。
- モルタルやコンクリートの抽出液が，施工中に製品に付着しないように注意してください。抽出液は強アルカリ性で，シミやムラなどの外観不良の原因になります。
- 養生期間は十分にとり，その間に重い物をのせたり，振動を与えないでください。

🔑 ポイント

- コンクリート（またはモルタル）には，塩分を含む砂（海砂）および塩素系や強アルカリ系のコンクリート用混和剤（凍結防止剤、凝固促進剤、急結剤など）は使用しないでください。使用するとアルミなどの金属が腐食する原因になります。必要な場合は非塩素系や非アルカリ系の混和剤をご使用ください。
- 製品の表面に付着したモルタルやコンクリートなどは，速やかに拭き取ってください。

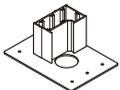
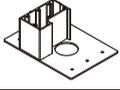
INDEX

1	梱包明細表	4
2	基本寸法と各部の名称	16
	1. 基本寸法	16
	2. 各部名称	22
	3. 基礎伏図	23
3	断面納まり図	32
4	代表的な施工例について	50
	1. 標準柱の場合	50
	2. ロング柱の場合	51
5	施工の前の重要確認事項	52
	1. 本製品の施工について	52
6	本体の施工	61
	1. 水盛遺方・水糸張り	61
	2. 垂木掛けの取付け	62
	3. 柱・桁の取付け	64
	4. 雨樋の取付け	82
	5. テラス用桁フタの取付け	86
	6. 垂木、中骨、妻垂木側面材の取付け	87
	7. 柱キャップ、柱樋カバーの取付け	92
	8. 屋根材の取付け	94
	9. 垂木化粧材の取付け	96
	10. 垂木掛けキャップの取付け	98
7	開閉パネルの取付け	99
	1. 妻梁の取付け	99
	2. 開閉パネルの取付け	107
	4. デッキの貼付け	114
	5. 上レールの取付け	116
	6. 下レールの取付け	120
	7. パネルの建込み	127
	8. レールコーナー部品	141
	9. パネル部品の取付け	151
	10. 調整フィックスパネルの固定	153
	11. パネル寸法の確認	154
	12. 柱戸当りの取付け	155
	13. 部分入隅納まりの場合	157
	14. 柱の固定	158
8	メンテナンス事項	159
	1. ご使用される前に	159
	2. ミゾ塞ぎの取外し方	159
	3. 妻梁のメンテナンスについて	160

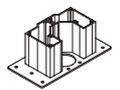
1 梱包明細表

■ 梱包明細表

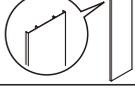
【1】 主柱固定ベース

名 称	略 図	員 数
柱固定ベースプレート 右		1
柱固定ベースプレート 左		1
【1-1】φ4×13 ナベドリルネジ		10
【1-2】φ4.5×63 丸木ネジ		16
【1-3】φ5×35 セルフタッパアンカー		16

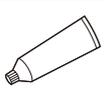
【2】 連棟柱固定ベースセット

名 称	略 図	員 数
連棟柱固定ベースプレート		1
【2-1】φ4×13 ナベドリルネジ		5
【2-2】φ4.5×63 丸木ネジ		8
【3-3】φ5×35 セルフタッパアンカー		16

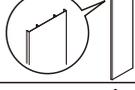
【3】 主柱2本入セット

名 称	略 図	員 数			
		H21	H23	H25	ロング柱
ルームタイプ柱 右		1	1	1	1
ルームタイプ柱 左		1	1	1	1
柱樋カバー		2	2	2	2
柱側面材 右		1	1	1	1
柱側面材 左		1	1	1	1
雨樋下部品		2	2	2	2

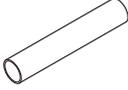
【3】 主柱2本入セット (つづき)

名 称	略 図	員 数			
		H21	H23	H25	ロング柱
縦樋		2	2	2	2
柱戸当り		8	8	8	8
縦樋 L=800		2	2	2	2
92° エルボ		2	2	2	2
雨樋ジョイナー		2	2	2	2
雨樋部品用接着剤		1	1	1	1

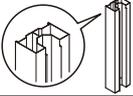
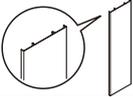
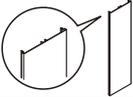
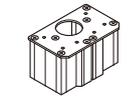
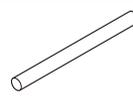
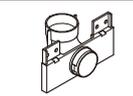
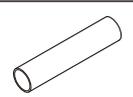
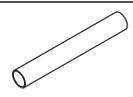
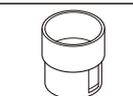
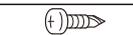
【4】 主柱1本入セット

名 称	略 図	員 数			
		テラス用右		テラス用左	
		H33	ロング柱	H33	ロング柱
テラスタイプ柱 右		1	1	-	-
テラスタイプ柱 左		-	-	1	1
柱樋カバーテラス		1	1	1	1
柱側面材 右 テラス		1	1	-	-
柱側面材 左 テラス		-	-	1	1

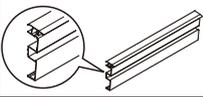
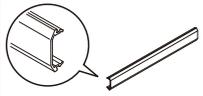
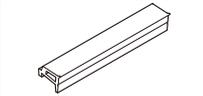
【4】 主柱1本入セット (つづき)

名 称	略 図	員 数			
		テラス用右		テラス用左	
		H33	ロング柱	H33	ロング柱
雨樋下部品		1	1	1	1
縦樋		1	1	1	1
縦樋 L=800		1	1	1	1
92° エルボ		1	1	1	1
雨樋ジョイナー		1	1	1	1

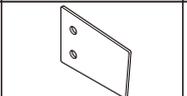
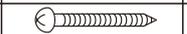
【5】 連棟柱・中間柱(テラス用) セット

名 称	略 図	員 数				
		H21 ルーム用	H23 ルーム用	H25 ルーム用	H33 テラス中間	ロング柱 ルーム・テラス
連棟柱		1	1	1	1	1
連棟柱樋カバー		1	1	1	1	1
連棟柱背面カバー		1	1	1	1	1
連棟柱取付プレート		1	1	1	1	1
アンカー棒		1	1	1	1	1
雨樋下部品		1	1	1	1	1
縦樋		1	1	1	1	1
縦樋 L=800		1	1	1	1	1
92° エルボ		1	1	1	1	1
雨樋ジョイナー		1	1	1	1	1
【5-1】φ4×13 ナベドリルネジ		18	18	18	18	18

【6】 垂木掛けセット

名 称	略 図	員 数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
垂木掛け		1	1	1	1
屋根材受け		3	4	5	6
垂木掛け用ミゾ塞ぎ		3	4	5	6
垂木掛け後付けビート材		3	4	5	6
垂木組付金具		4	5	6	7

【7】 出幅違い用垂木掛け部品セット

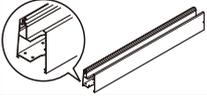
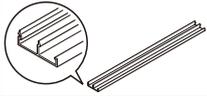
名 称	略 図	員 数
出幅違い用垂木掛けカバー		1
【7-1】φ4.5×63 丸木ネジ		2

■ 梱包明細表 (つづき)

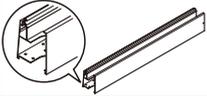
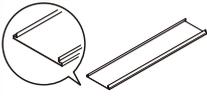
【8】 部分入隅塞ぎ材セット

名 称	略 図	員 数
部分入隅塞ぎ材		1
召し合わせビート		1
調整フィックス戸当り枠		1
【8-1】φ4.5×63 丸木ネジ		7
【8-2】φ4×13 ナベドリルネジ		7
【8-3】φ4×13 サラドリルネジ D=6		3

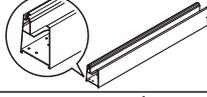
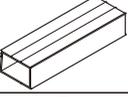
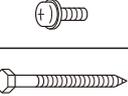
【9】 桁セット

名 称	略 図	員 数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
桁		1	1	1	1
ルーム用桁フタ		1	1	1	1
垂木組付金具		4	5	6	7

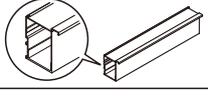
【10】 テラス用桁セット

名 称	略 図	員 数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
桁		1	1	1	1
テラス用桁フタ		1	1	1	1
垂木組付金具		4	5	6	7

【11】 連棟桁部材セット

名 称	略 図	員 数
連結桁		1
連結桁スリーブ		2
雨樋ジョイナー		1
【11-1】φ4×13 ナベドリルネジ		108
【11-2】φ4×14 トラスタッピンネジ 3種		80
【11-3】φ4×12 トラス タッピンネジ 2種 (ゴムワッシャー付)		75
【11-4】φ6×70 六角コーチスクリュー		14
【11-5】M6 平座金		14

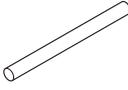
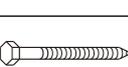
【12】 レール取付材セット

名 称	略 図	員 数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
レール取付材		1	1	1	1
【12-1】φ5×16 ナベドリルネジ		14	14	20	20

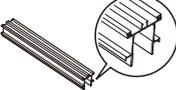
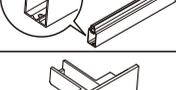
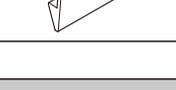
【13】 部品箱セット

名 称	略 図	員 数			
		1.5間-6尺 1.5間-8尺 2.0間-6尺	2.0間-8尺 2.5間-6尺 2.5間-8尺 3.0間-6尺	3.0間-8尺	
桁キャップ 右		1	1	1	
桁キャップ 左		1	1	1	
柱キャップ 右		1	1	1	
柱キャップ 左		1	1	1	
垂木掛キャップ 右		1	1	1	
垂木掛キャップ 左		1	1	1	

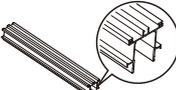
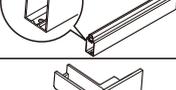
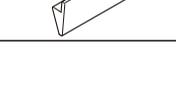
【13】 部品箱セット (つづき)

名 称	略 図	員 数		
		1.5間-6尺 1.5間-8尺 2.0間-6尺	2.0間-8尺 2.5間-6尺 2.5間-8尺 3.0間-6尺	3.0間-8尺
桁金具 右		1	1	1
桁金具 左		1	1	1
アンカー棒		2	2	2
穴隠しシール		10	10	10
シリコンスプレー		1	1	1
ブチルコーキング剤		1	1	1
雨樋部品用接着剤		1	1	1
【13-1】φ4×13 ナベドリルネジ		80	100	110
【13-2】φ4×14 トラスタッピンネジ 3種		75	100	110
【13-3】φ4×12 トラスタッピンネジ 2種 (ゴムワッシャー付)		65	90	105
【13-4】φ5×14 トラスタッピンネジ 3種		8	8	8
【13-5】φ6×70 六角 コーチスクリュー		10	14	14
【13-6】 M6 平座金		10	14	14
【13-7】φ4×13 サラダドリルネジ		2	2	2
本体取付説明書 〈E273〉	—	1	1	1
本体取扱説明書 〈UE077〉	—	1	1	1
デッキ編 (樹ら楽ステージ) 取付説明書 〈E271〉	—	1	1	1
内部日除け 取付説明書 〈E269〉	—	1	1	1
内部日除け 取扱説明書 〈UE067〉	—	1	1	1

【14】 垂木2本入セット

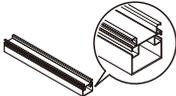
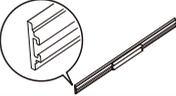
名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
垂木 6尺		2	—
垂木 8尺		—	2
垂木カバー 6尺		2	—
垂木カバー 8尺		—	2
中骨		2	4
垂木カバー先端キャップ		2	2

【15】 垂木3本入セット

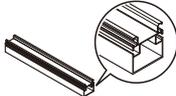
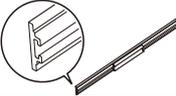
名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
垂木 6尺		3	—
垂木 8尺		—	3
垂木カバー 6尺		3	—
垂木カバー 8尺		—	3
中骨		3	6
垂木カバー先端キャップ		3	3

■ 梱包明細表 (つづき)

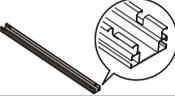
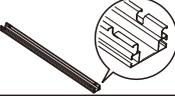
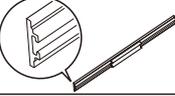
【16】 積雪地用垂木化粧材2本入セット

名 称	略 図	員 数
積雪地用垂木化粧材		2
ミゾ塞ぎ		4
内部日除けレールエンドピース		4
雪下ろし指示シール		1

【17】 積雪地用垂木化粧材3本入セット

名 称	略 図	員 数
積雪地用垂木化粧材		3
ミゾ塞ぎ		6
内部日除けレールエンドピース		6
雪下ろし指示シール		1

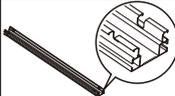
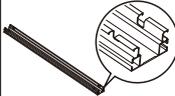
【18】 垂木化粧材 2本入セット

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
垂木化粧材 6尺		2	-
垂木化粧材 8尺		-	2
ミゾ塞ぎ 6尺		4	-

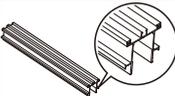
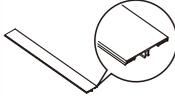
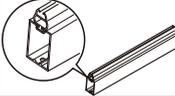
【18】 垂木化粧材 2本入セット (つづき)

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
ミゾ塞ぎ 8尺		-	4
内部日除けレールエンドピース		4	4
雪下ろし指示シール		1	1

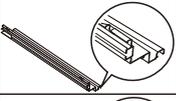
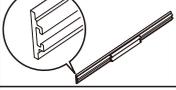
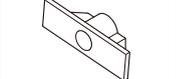
【19】 垂木化粧材 3本入セット

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
垂木化粧材 6尺		3	-
垂木化粧材 8尺		-	3
ミゾ塞ぎ 6尺		6	-
ミゾ塞ぎ 8尺		-	6
内部日除けレールエンドピース		6	6
雪下ろし指示シール		1	1

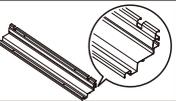
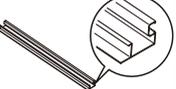
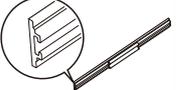
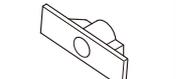
【20】 妻垂木セット

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
垂木		2	2
垂木カバー		2	2
中骨		1	2
垂木カバー先端キャップ		2	2

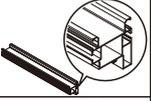
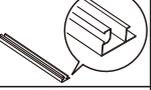
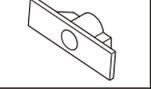
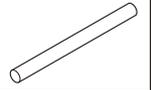
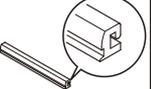
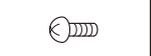
【21】妻垂木化粧材 右セット

名 称	略 図	員 数
ルーム用妻垂木化粧材 右		1
妻垂木側面材 右		1
フィックス押え		1
ミゾ塞ぎ		3
内部日除けレールエンドピース		1

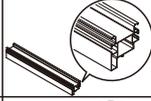
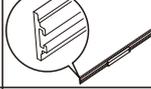
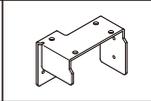
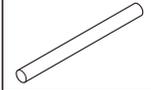
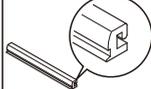
【22】妻垂木化粧材 左セット

名 称	略 図	員 数
ルーム用妻垂木化粧材 左		1
妻垂木側面材 左		1
フィックス押え		1
ミゾ塞ぎ		3
内部日除けレールエンドピース		1

【23】プラス用垂木化粧材 右セット

名 称	略 図	員 数		
		3尺	6尺	8尺
エクシオールプラス用 垂木化粧材 右		1	1	1
フィックス押え		1	1	1
ミゾ塞ぎ		3	3	3
内部日除け レールエンドピース		2	2	2
エクシオールプラス用 柱槌カバー天端押え		1	1	1
桁金具 右		1	1	1
アンカー棒		1	1	1
ミゾ塞ぎ先付ビート (L=595.5)		2	3	4
【23-1】φ4×13 ナベドリルネジ		24	24	24
【23-2】φ5×14トラス タッピンネジ3種		4	4	4
【23-3】φ4×14トラス タッピンネジ3種		6	6	6

【24】プラス用垂木化粧材 左セット

名 称	略 図	員 数		
		3尺	6尺	8尺
エクシオールプラス用 垂木化粧材 左		1	1	1
フィックス押え		1	1	1
ミゾ塞ぎ		3	3	3
内部日除け レールエンドピース		2	2	2
エクシオールプラス用 柱槌カバー天端押え		1	1	1
桁金具 左		1	1	1
アンカー棒		1	1	1
ミゾ塞ぎ先付ビート (L=595.5)		2	3	4
【24-1】φ4×13 ナベドリルネジ		24	24	24
【24-2】φ5×14トラス タッピンネジ3種		4	4	4
【24-3】φ4×14トラス タッピンネジ3種		6	6	6

■ 梱包明細表 (つづき)

【25】 テラス用妻垂木化粧材 右セット

名 称	略 図	員 数
テラス用妻垂木化粧材 右		1
妻垂木側面材 右		1
ミゾ塞ぎ		2
内部日除けレールエンドピース		1

【26】 テラス用妻垂木化粧材 左セット

名 称	略 図	員 数
テラス用妻垂木化粧材 左		1
妻垂木側面材 左		1
ミゾ塞ぎ		2
内部日除けレールエンドピース		1

【27】 ポリカ屋根材セット

名 称	略 図	員 数	
		2枚入	3枚入
屋根材クリア		2	3
屋根材クリアマット		2	3

【28】 熱線吸収ポリカ屋根材

名 称	略 図	員 数	
		2枚入	3枚入
屋根材クリアブルー		2	3

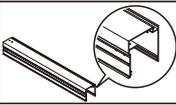
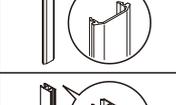
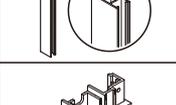
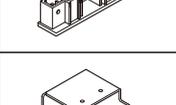
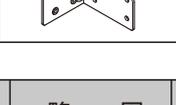
【29】 妻梁2本入セット

名 称	略 図	員 数
妻梁 右		1
妻梁 左		1
妻梁フタ		2
上部方立 右		1
上部方立 左		1
上部方立用ミゾ塞ぎ		2
妻パネル方立枠		2
上部方立キャップ		2

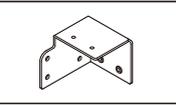
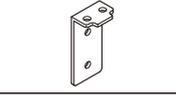
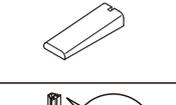
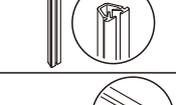
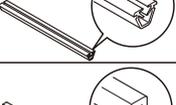
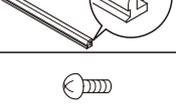
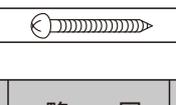
【29】 妻梁2本入セット (つづき)

名 称	略 図	員 数
妻梁金具 右		2
妻梁金具 左		2
上部方立金具		2
妻梁上部側面フィックスパッキン		2
上部方立用グレチャン		2
妻梁用グレチャン		2
【29-1】φ4×14 トラストッピンネジ 3種		36
【29-2】φ4.5×63 丸木ネジ		8

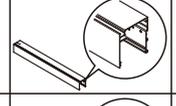
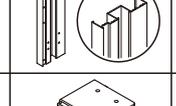
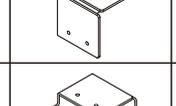
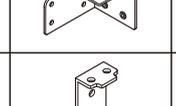
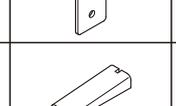
【30】 妻梁 右1本入セット

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
妻梁 右		1	1
妻梁フタ		1	1
上部方立 右		1	1
上部方立用ミゾ塞ぎ		1	1
妻パネル方立枠		1	1
上部方立キャップ		1	1
妻梁金具 右		1	1

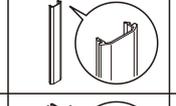
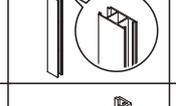
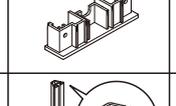
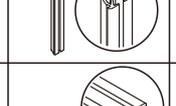
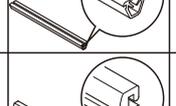
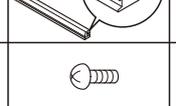
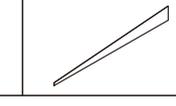
【30】 妻梁 右1本入セット (つづき)

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
妻梁金具 左		1	1
上部方立金具		1	1
妻梁上部側面フィックスパッキン		1	1
上部方立用グレチャン		1	1
妻梁用グレチャン		1	1
ミゾ塞ぎ先付けビート (L=595.5)		3	4
【30-1】φ4×14 トラス タッピンネジ 3種		18	18
【30-2】φ4.5×63 丸木ネジ		4	4

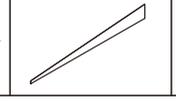
【31】 妻梁 左1本入セット

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
妻梁 左		1	1
妻梁フタ		1	1
上部方立 左		1	1
妻梁金具 右		1	1
妻梁金具 左		1	1
上部方立金具		1	1
妻梁上部側面フィックスパッキン		1	1

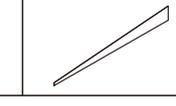
【31】 妻梁 左1本入セット (つづき)

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
上部方立用ミゾ塞ぎ		1	1
妻パネル方立枠		1	1
上部方立キャップ		1	1
上部方立用グレチャン		1	1
妻梁用グレチャン		1	1
ミゾ塞ぎ先付けビート (L=595.5)		3	4
【31-1】φ4×14 トラス タッピンネジ 3種		18	18
【31-2】φ4.5×63 丸木ネジ		4	4

【32】 熱線吸収ポリカ妻梁上部側面フィックス 右セット

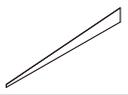
名 称	略 図	員 数
熱線吸収ポリカ妻梁上部側面フィックス クリアブルー		1

【33】 熱線吸収ポリカ妻梁上部側面フィックス 左セット

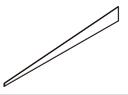
名 称	略 図	員 数
熱線吸収ポリカ妻梁上部側面フィックス クリアブルー		1

■ 梱包明細表 (つづき)

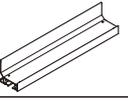
【34】 妻梁上部側面フィックス 右セット

名 称	略 図	員 数
妻梁上部側面フィックスクリア		1
妻梁上部側面フィックスクリアマット		1

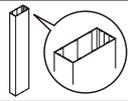
【35】 妻梁上部側面フィックス 左セット

名 称	略 図	員 数
妻梁上部側面フィックスクリア		1
妻梁上部側面フィックスクリアマット		1

【36】 直線レールピースセット

名 称	略 図	員数
上レールピース		1
下レールピース		1
下レールコーナー金具		2
【36-1】φ4×6 サラタッピンネジ 3種 D=6		5
【36-2】φ4×12 トラストッピンネジ 3種 D=8		3

【37】 ベース材 束柱セット

名 称	略 図	員 数	
		1本入	3本入
ベース材束柱		1	3
束柱固定金具		2	6
【37-1】φ5×35 セルフタッパアンカー		3	8
【37-2】φ4×16 ナベドリルネジ		2	6

【38】 パネルセット 落し棒付セット

名 称	略 図	員 数
パネル落し棒付		1

【39】 パネルセット

名 称	略 図	員 数
パネル		1

【40】 調整フィックスパネルセット

名 称	略 図	員 数
調整フィックスパネル		1

【40】 調整フィックスパネルセット (つづき)

名 称	略 図	員 数
調整フィックスパネル上栈キャップ		1

【41】 折戸パネル部品セット

名 称	略 図	員 数	
		2セット用	3セット用
ヒンジ		4	6
取っ手 内側用		2	3
取っ手部外側カバー		2	3
錠部カバー		2	3
パネル開き止めA		2	3

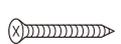
【41】 パネル部品セット (つづき)

名 称	略 図	員 数	
		2セット用	3セット用
パネル開き止めB		2	3
パネル開き止めアーム		2	3
【41-1】φ4×8 サラ タッピンネジ 3種 D=6		18	26
【41-2】φ4×10 サラ タッピンネジ 3種		10	14
【41-3】φ4×14 サラ タッピンネジ 3種		3	4
【41-4】φ4×10 サラ タッピンネジ 3種		5	7

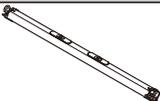
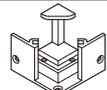
【42】錠セット

名 称	略 図	員 数		
		1セット入	2セット入	3セット入
錠		1	2	3
キー		3	5	5
取っ手 外側用		1	2	3
【42-1】φ4×10 サラタッピンネジ3種 D=6		3	5	7

【44】正面レールセット

名 称	略 図	員 数			
		1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
正面上レール		1	1	1	1
正面下レール		1	1	1	1
【44-1】φ4×13 ナベドリルネジ D=8.2		10	10	14	14
【44-2】φ4.5×63 サラ木ネジ		6	6	8	8
【44-3】φ4.1×32 サラ木ネジ		6	6	8	8
【44-4】フィッシャープラグ S6		6	6	8	8

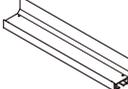
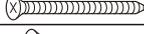
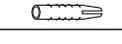
【46】コーナー枠セット

名 称	略 図	員 数
コーナー枠		1
上レールコーナーピース1		1
上レールコーナーピース2		1
上レールコーナー金具		1
下レールコーナーピース1		1
下レールコーナーピース2		1

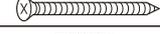
【43】ガラスフィックスパネルセット

名 称	略 図	員 数
ガラスフィックスパネル		1

【45】側面レールセット

名 称	略 図	員 数	
		6尺	8尺
側面上レール		1	1
側面下レール		1	1
【45-1】φ4×13 ナベドリルネジ D=8.2		7	7
【45-2】φ4.5×63サラ木ネジ		5	5
【45-3】φ4.1×32サラ木ネジ		5	5
【45-4】S6フィッシャープラグ		5	5

【46】コーナー枠セット(つづき)

名 称	略 図	員 数
下レールコーナー金具		2
調整用プレート		1
【46-1】φ4×6サラ タッピンネジ3種 D=6		5
【46-2】φ4×12トラス タッピンネジ3種 D=8		6
【46-3】φ4.1×32サラ木ネジ		3
【46-4】φ4.5×63サラ木ネジ		3
【46-5】S6フィッシャープラグ		3
【46-6】φ4×8サラ タッピンネジ3種 D=6		3

■ 梱包明細表 (つづき)

【47】 方立(右) セット

名 称	略 図	員 数
方立 A (右用)		1
方立キャップ		1
方立取付金具		2
フィックス調整縦枠キャップ 右		1
フィックスパネルキャップ 右		1
調整フィックス調整縦枠		1
調整フィックス戸当り枠		1
【47-1】 φ4×12ラスタッピンネジ3種		8
【47-2】 φ4×10トラスタッピンネジ1種 D=8		1
【47-3】 φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		5
【47-4】 φ4×13サラドリルネジ D=6		3
【47-5】 φ4×20ナベタッピンネジ2種 G=5		2

【49】 入隅用縦枠セット

名 称	略 図	員 数
入隅用コーナー柱		1
入隅用コーナー柱上固定金具		1
入隅用コーナー柱下固定金具		1
入隅用コーナー柱スペーサー A		1
入隅用コーナー柱スペーサー B		1
【49-1】 φ4×25 ナベドリルネジ D=8.2		15
【49-2】 φ4×12 サラタッピンネジ 3種 D=6		4
【49-3】 フィッシャープラグ		1
【49-4】 φ4.1×32 丸木ネジ		1
【49-5】 φ4.5×63 丸木ネジ		1

【48】 方立(左) セット

名 称	略 図	員 数
方立A (左用)		1
方立キャップ		1
方立取付金具		2
フィックス調整縦枠キャップ 左		1
フィックスパネルキャップ 左		1
調整フィックス調整縦枠		1
調整フィックス戸当り枠		1
【48-1】 φ4×12ラスタッピンネジ3種		8
【48-2】 φ4×10トラスタッピンネジ1種 D=8		1
【48-3】 φ4×13ナベドリルネジ D=8.2		5
【48-4】 φ4×13サラドリルネジ D=6		3
【48-5】 φ4×20ナベタッピンネジ2種 G=5		2

【50】 前面ベース材セット

名 称	略 図	員 数
前面ベース材		1
ベース材固定金具		2
【50-1】 φ4×12 トラスタッピンネジ 3種		8
【50-2】 φ4×16 ナベドリルネジ D=8.2		4
【50-3】 φ4×16 サラドリルネジ D=8.2		8

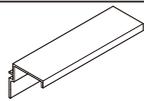
【51】 側面ベース材セット

名 称	略 図	員 数
側面ベース材		1
【51-1】 φ4×16 サラドリルネジ D=8.2		6

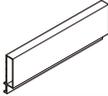
【52】 ベース材延長用セット

名 称	略 図	員 数
ベース材		1
ベース材スリーブ		2
【52-1】 φ4×13 ナベドリルネジ D=8.2		32

【53】 スペーサーセット 中間・延長用

名 称	略 図	員数
ベース材スペーサー A		2
【53-1】φ4×16 ナベドリルネジ D=8.2		4

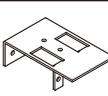
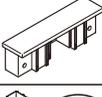
【54】 土間見切り材セット

名 称	略 図	員 数							
		4R	6R	8R	1.0間	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
土間見切り材		1	1	1	1	1	1	1	1
【54-1】φ4×16 ナベドリルネジ D=8.2		4	6	7	6	8	10	12	14

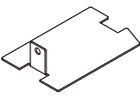
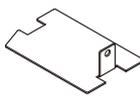
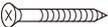
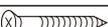
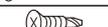
【55】 調整用ライナーセット **オプション**

名 称	略 図	員数
下レール調整用ライナー		20

【56】 移動方立セット

名 称	略 図	員 数	
		右	左
移動方立		1	1
方立フタ		1	1
パネル用方立 B 右		1	-
パネル用方立 B 左		-	1
方立取付金具 A		2	2
方立取付金具 B		1	1
方立取付金具 C 右		1	-
方立取付金具 C 左		-	1
パネル用方立キャップ		1	1
上方方立キャップ		1	1
調整フィックス調整縦枠		1	1

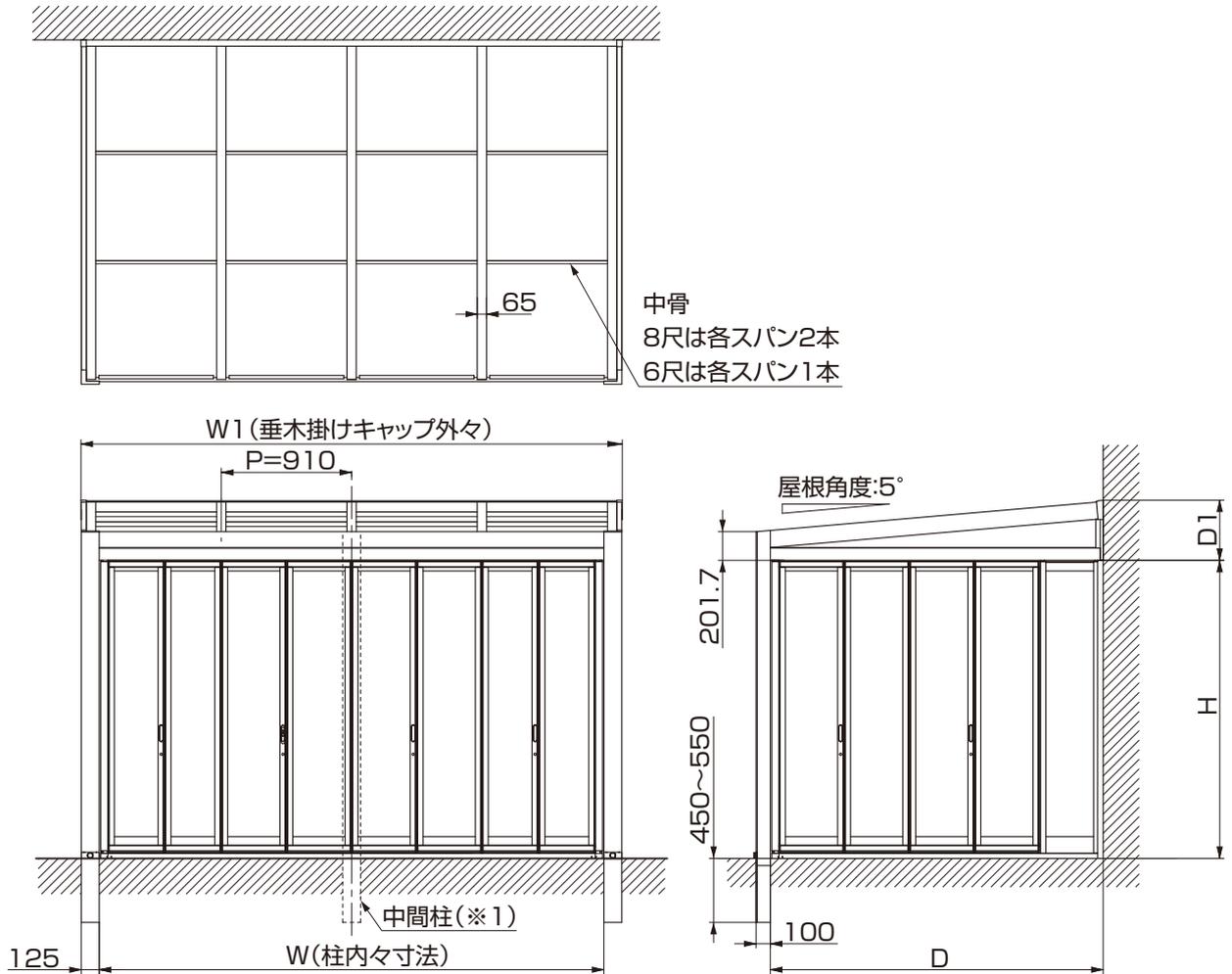
【56】 移動方立セット(つづき)

名 称	略 図	員 数	
		右	左
調整フィックス戸当り枠		1	1
フィックス調整縦枠キャップ 右		1	-
フィックスパネルキャップ 右		1	-
フィックス調整縦枠キャップ 左		-	1
フィックスパネルキャップ 左		-	1
【56-1】φ4×13 ドリルネジ D=8.2		20	20
【56-2】φ4×10 トラスタッピンネジ 1種 D=8.2		2	2
【56-3】φ4.1×40 サラネジ D=8.2		6	6
【56-4】 S6 フィッシャープラグ		3	3
【56-5】φ4×13 サラドリルネジ D=8.2		3	3
【56-6】φ4×14 トラスタッピンネジ 3種 D=8.2		2	2
【56-7】φ4×25 ドリルネジ D=8.2		2	2
【56-8】φ4.5×63 サラネジ		6	6
【56-9】φ4×13 サラドリルネジ D=6		3	3
【56-10】φ4×20 ナベタッピンネジ 2種 G=5		2	2
取付説明書 (E263)	-	1	1

2 基本寸法と各部の名称

1. 基本寸法

1-1 ルームタイプの場合



中骨
8尺は各スパン2本
6尺は各スパン1本

表 1-1 間口寸法

	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
W	2615	3525	4435	5345
W1	2871	3781	4691	5601

表 1-2 出幅寸法

	D	D1
6尺	1725	370.3
8尺	2325	422.8

表 1-3 高さ寸法

	H21	H23	H25
H	2100	2300	2500



警告

●標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合は、強度が不足するため、必ず中間柱を使用してください。(※1)

1-2 テラスタイプの場合（妻梁上部側面フィックス無し）

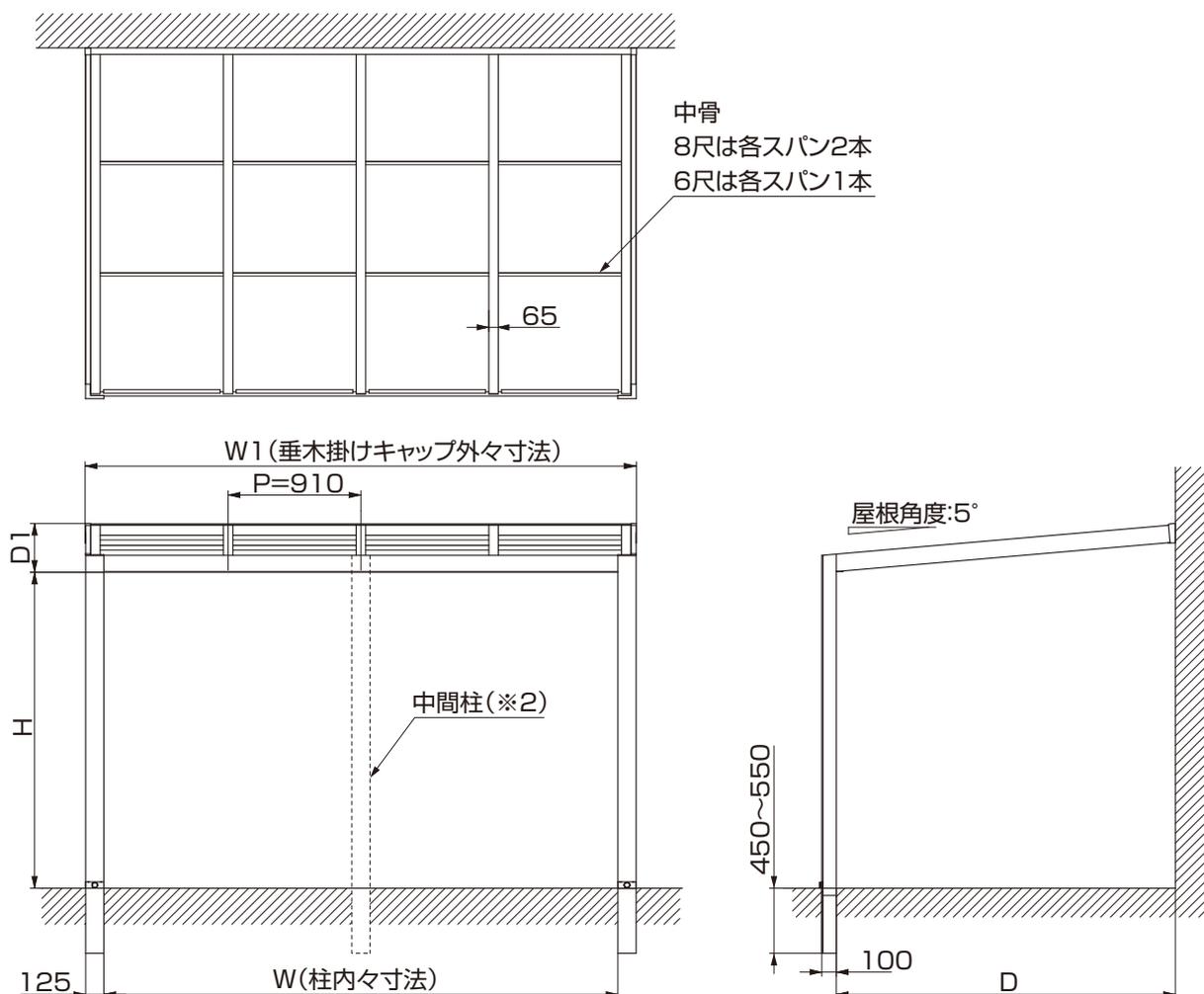


表 1-4 間口寸法

	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
W	2615	3525	4435	5345
W1	2871	3781	4691	5601

表 1-5 出幅寸法

	D	D1
6尺	1725	280.3
8尺	2325	332.8

表 1-6 高さ寸法

	H21	H23	H25	H33
H	2185	2385	2585	3300

警告

●標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合は、強度が不足するため、必ず中間柱を使用してください。(※2)

1. (つづき)

1-3 連棟ルームタイプの場合

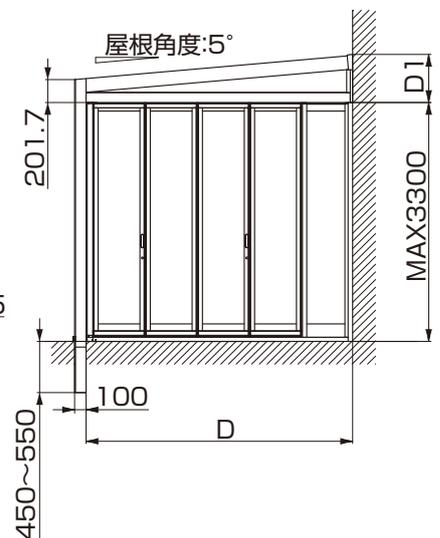
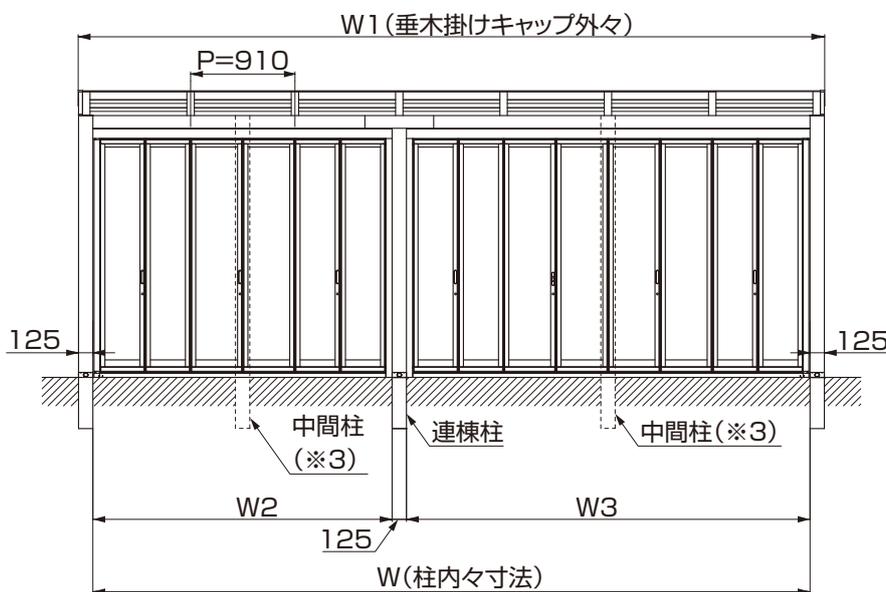
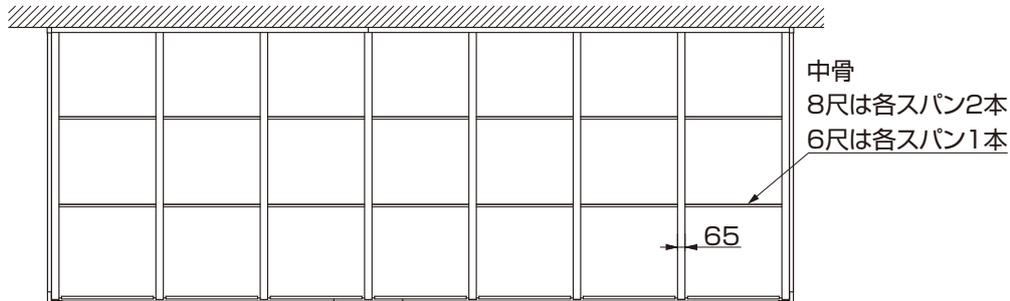


表 1-7 間口寸法

	W	W1	W2	W3
1.5間+2.0間=3.5間	6255	6511	2610	3520
1.5間+2.5間=4.0間	7165	7421	2610	4430
1.5間+3.0間=4.5間	8075	8331	2610	5340
2.5間+2.5間=5.0間	8985	9241	4430	4430
2.5間+3.0間=5.5間	9895	10151	4430	5340
3.0間+3.0間=6.0間	10805	11061	5340	5340

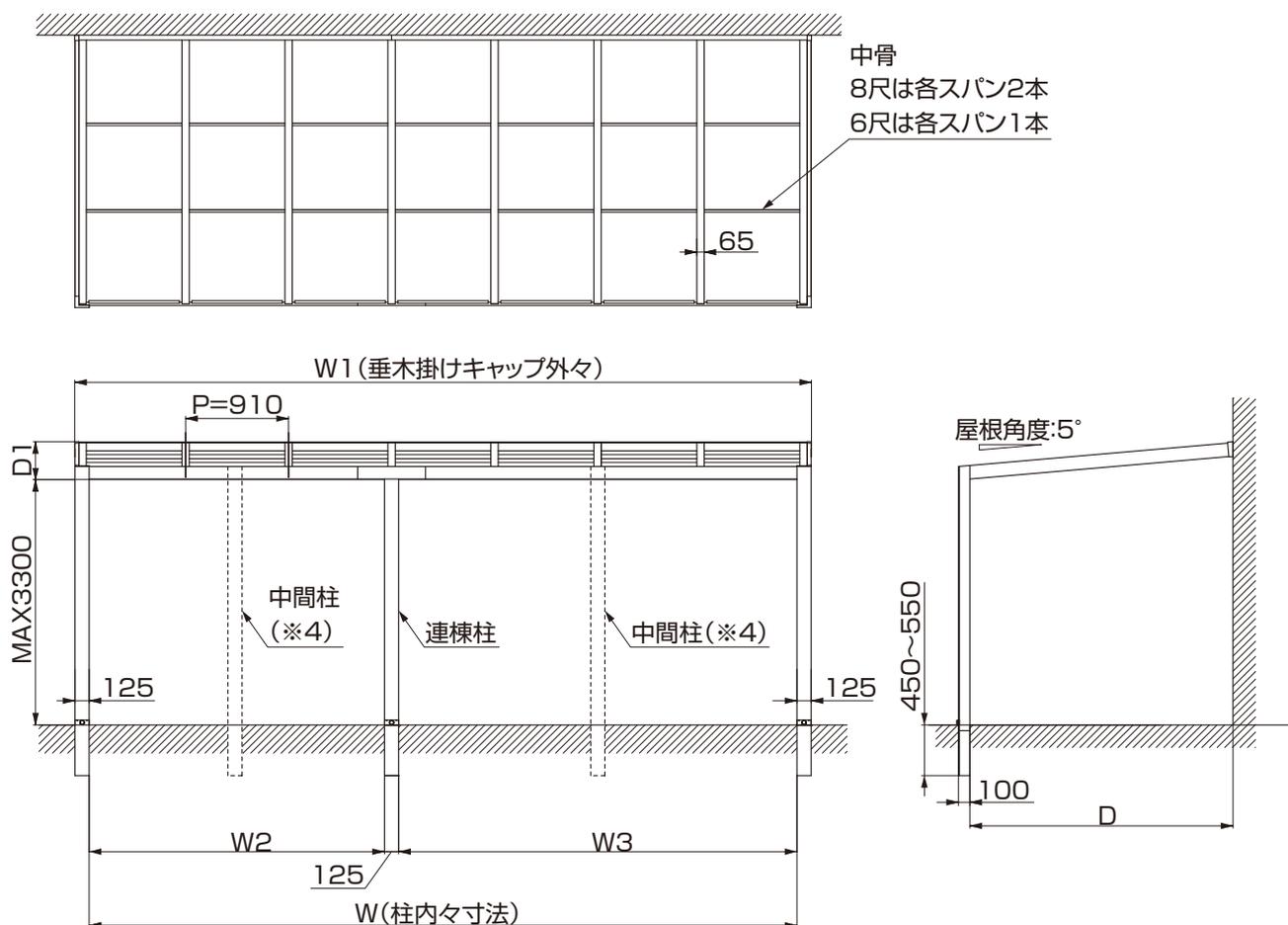
表 1-8 出幅寸法

	D	D1
6尺	1725	370.3
8尺	2325	422.8

警告

●端部柱と連棟柱の間隔が標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合は、強度が不足するため、必ず中間柱を使用してください。(※3)

1-4 連棟テラスタイプの場合（妻梁上部側面フィックス無し）



中骨
8尺は各スパン2本
6尺は各スパン1本

表 1-9 間口寸法

	W	W1	W2	W3
1.5間+2.0間=3.5間	6255	6511	2610	3520
1.5間+2.5間=4.0間	7165	7421	2610	4430
1.5間+3.0間=4.5間	8075	8331	2610	5340
2.5間+2.5間=5.0間	8985	9241	4430	4430
2.5間+3.0間=5.5間	9895	10151	4430	5340
3.0間+3.0間=6.0間	10805	11061	5340	5340

表 1-10 出幅寸法

	D	D1
6尺	1725	280.3
8尺	2325	332.8

警告

●端部柱と連棟柱の間隔が標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合、強度が不足するため、必ず中間柱を使用してください。（※4）

1. (つづき)

1-5 連棟エクシオールプラスL (またはR) の場合

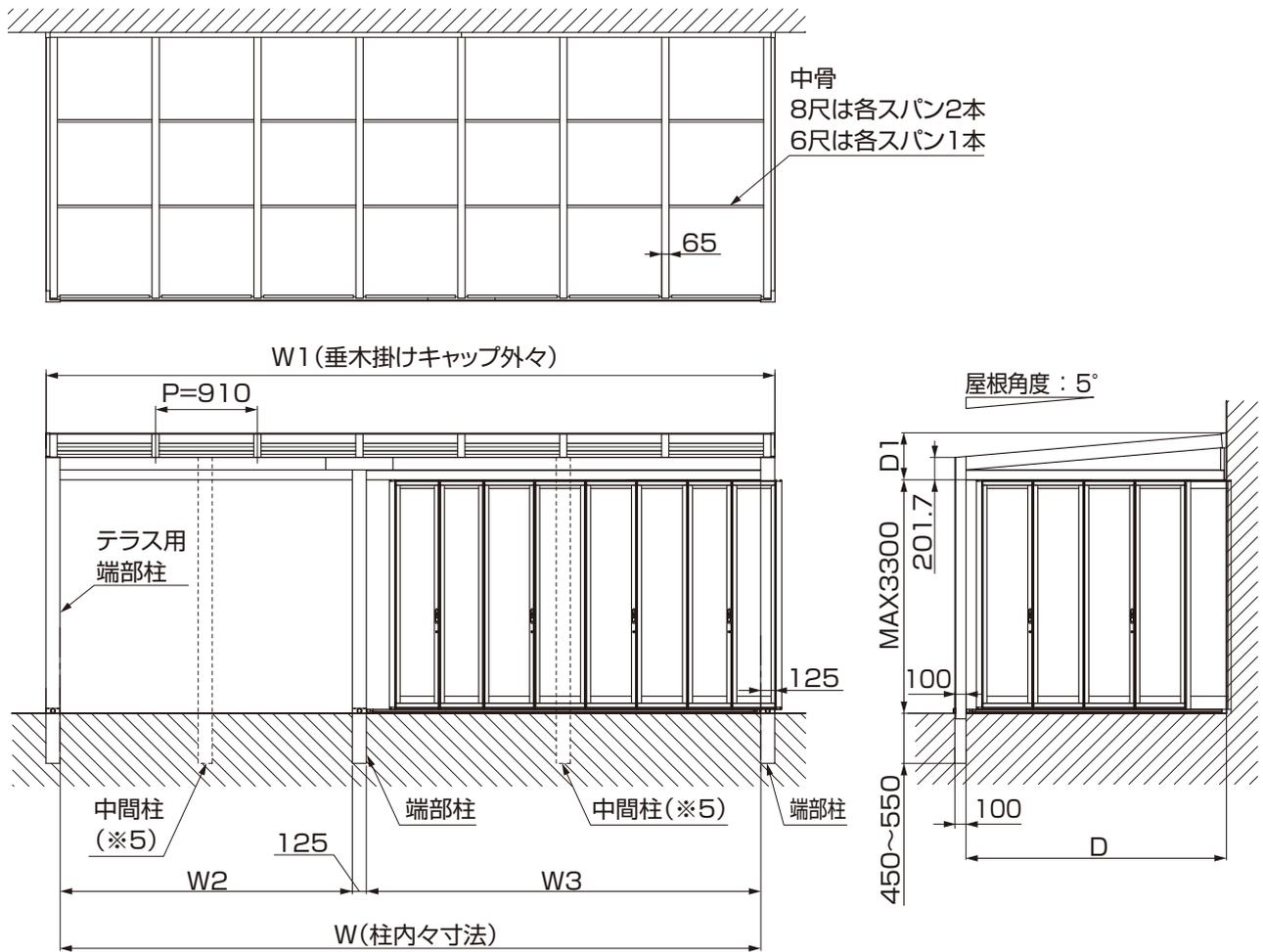


表 1-11 間口寸法

	W	W1	W2	W3		W	W1	W2	W3
1.5間+1.5間=3.0間	5345	5601	2605	2615	2.5間+2.0間=4.5間	8075	8331	4425	3525
1.5間+2.0間=3.5間	6255	6511	2605	3525	2.5間+2.5間=5.0間	8985	9241	4425	4435
2.0間+1.5間=3.5間	6255	6511	3515	2615	2.5間+3.0間=5.5間	9895	10151	4425	5345
2.0間+2.0間=4.0間	7165	7421	3515	3525	3.0間+2.5間=5.5間	9895	10151	5335	4435
2.0間+2.5間=4.5間	8075	8331	3515	4435	3.0間+3.0間=6.0間	10805	11061	5335	5345

表 1-12 出幅寸法

	D	D1
6尺	1725	370.3
8尺	2325	422.8

警告

- 端部柱と連棟柱の間隔が標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合は、強度が不足するため、必ず中間柱を使用してください。(※5)

1-6 連棟エクシオールプラスRLの場合

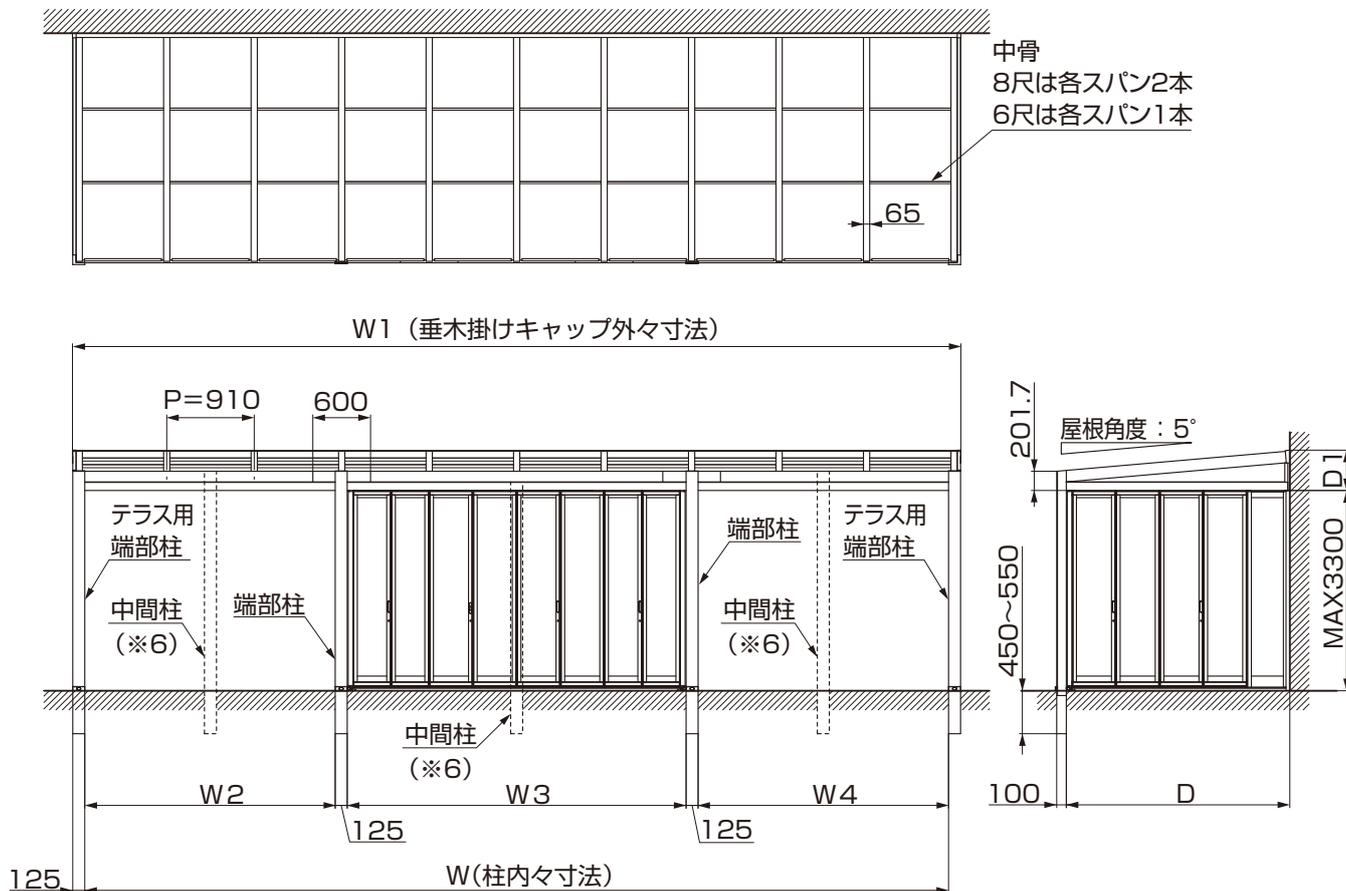


表 1-13 間口寸法

	W	W1	W2	W3	W4
1.5間+1.5間+1.5間=4.5間	8075	8331	2605	2615	2605
1.5間+2.0間+1.5間=5.0間	8985	9241	2605	3525	2605
2.0間+2.0間+1.5間=5.5間	9895	10151	3515	3525	2605
2.0間+2.0間+2.0間=6.0間	10805	11061	3515	3525	3515
2.0間+2.5間+2.0間=6.5間	11715	11971	3515	4435	3515
2.5間+2.5間+2.0間=7.0間	12625	12881	4425	4435	3515
2.5間+2.5間+2.5間=7.5間	13535	13791	4425	4435	4425
2.5間+3.0間+2.5間=8.0間	14445	14701	4425	5345	4425
3.0間+3.0間+2.5間=8.5間	15355	15611	5335	5345	4425
3.0間+3.0間+3.0間=9.0間	16265	16521	5335	5345	5335

表 1-14 出幅寸法

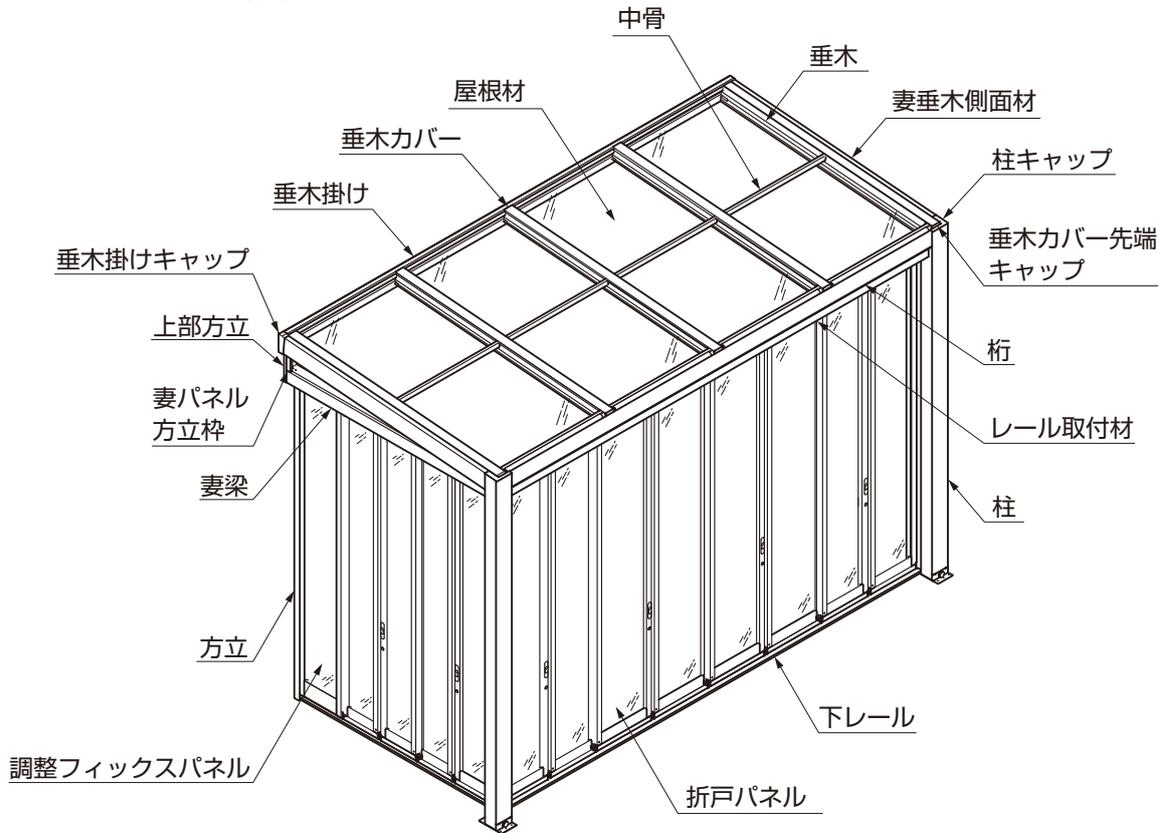
	D	D1
6尺	1725	370.3
8尺	2325	422.8

警告

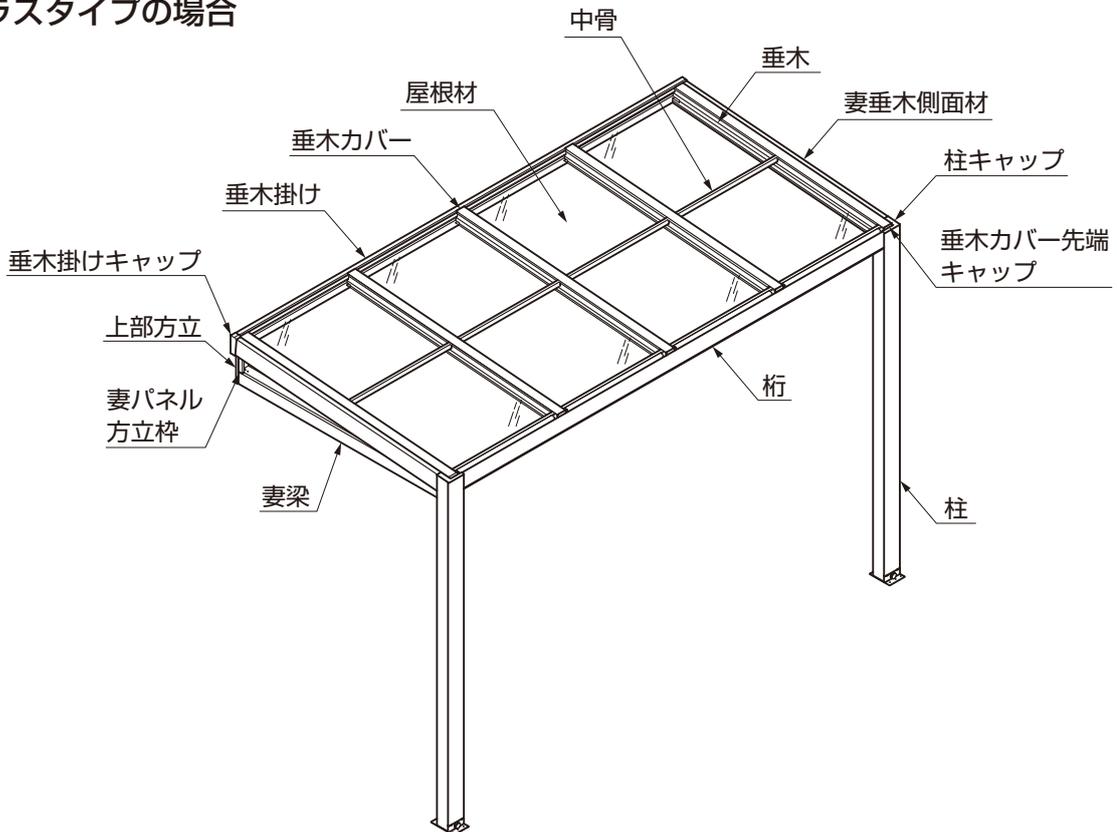
●端部柱と連棟柱の間隔が標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合は、強度が不足するため、必ず中間柱を使用してください。(※6)

2. 各部名称

2-1 ルームタイプの場合



2-2 テラスタイプの場合



2
基本寸法と
各部の名称

3. 基礎伏図

3-1 樹ら楽ステージ 内面立上げ仕様の場合

(1) 基本仕様の場合

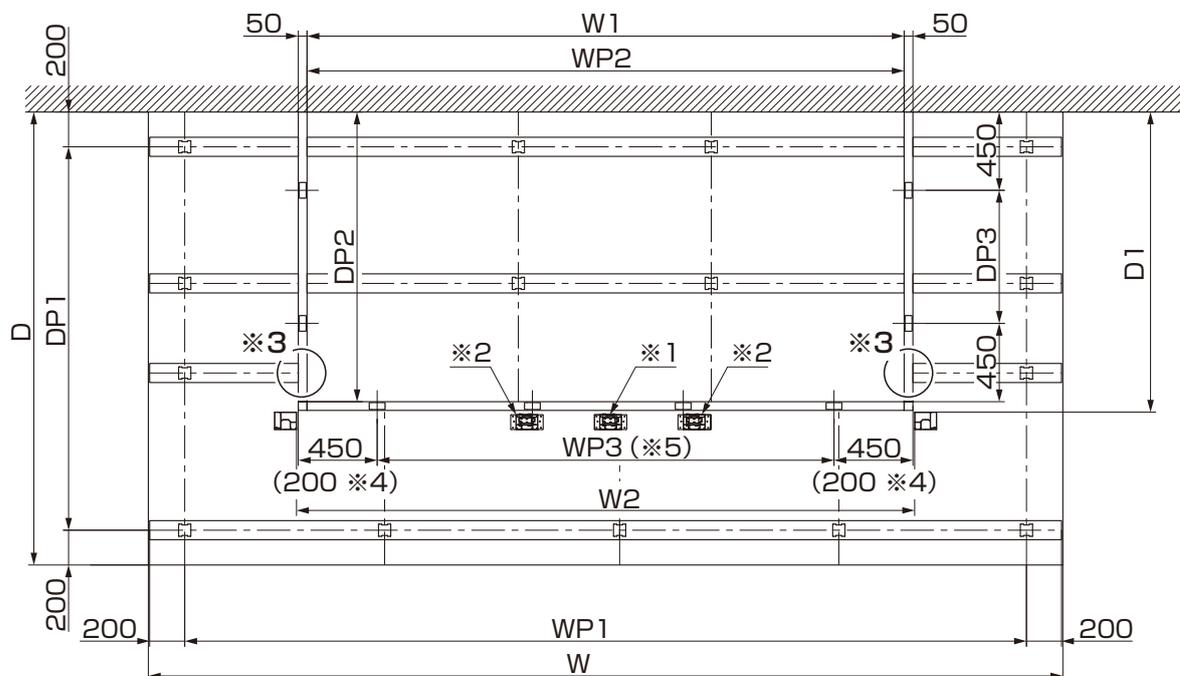


図3-1 基本納まり (6尺・8尺) の場合

表 3-1 間口寸法

	W	W1	W2	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	WP3 (ピッチ)
1.5間	4315	2495	2615	3: 正面左側から 1360,1360,1180	2: 正面左側から 1247.5,1247.5	2: 正面左側から 847.5,847.5
2.0間	5215	3405	3525	4: 正面左側から 1140,1340,1250,1070	3: 正面左側から 1205,1100,1100	3: 正面左側から 885,860,860
2.5間	6115	4315	4435	4: 正面左側から 1590,1790,1250,1070	3: 正面左側から 1415,1450,1450	5: 正面左側から 715,700,700,700,700
3.0間	7015	5225	5345	4: 正面左側から 1590,1790,1700,1520	4: 正面左側から 1300,1302.5,1322.5,1300	5: 正面左側から 885,885,885,885,885

表 3-2 出幅寸法

	D	D1	DP1 (ピッチ)	DP2 (ピッチ)	DP3 (ピッチ)
6尺	2400	1725	3: 躯体側から 785,515,700	3: 躯体側から 200,785,680	1: 765
8尺	2900	2325	4: 躯体側から 725,575,500,700	4: 躯体側から 200,725,575,765	2: 躯体側から 700,665

ポイント

- ※1は、標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合には中間柱を設置します。
- ※2は、積雪地仕様の2.5間の場合のみジーマ本体の中心に対して右寄りか左寄りに中間柱を設置します。
- インナーデッキ仕様の場合は、側面の※3の個所に束柱を1本追加して配置します。
- インナーデッキ仕様の場合は、束柱を間口端部より200mm (※4) とし、さらにWP間 (※5) に1本追加し均等に配置します。

3. (つづき)

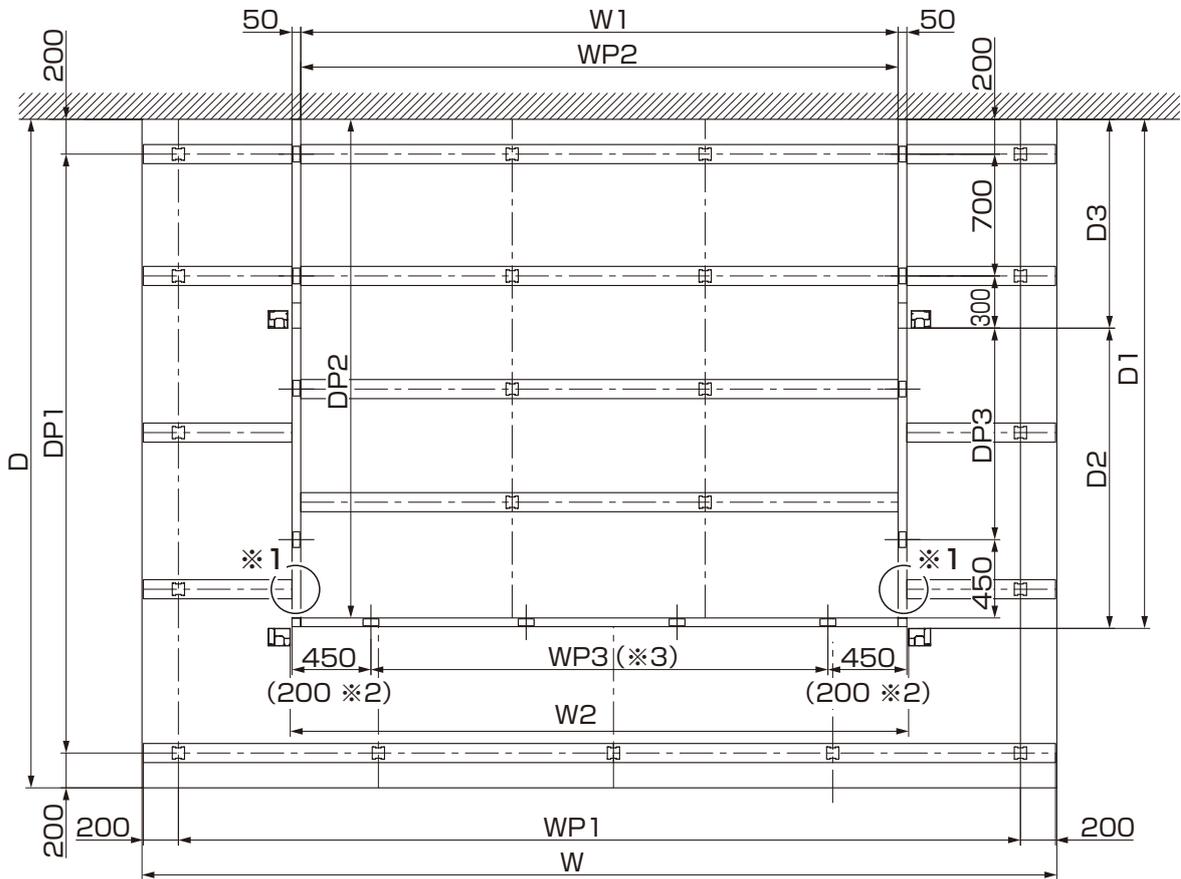


図3-2 バルコニー下・前納まり (6尺+3尺・8尺+3尺) の場合

表 3-3 間口寸法

	W	W1	W2	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	WP3 (ピッチ)
1.5間	4315	2495	2615	3: 正面左側から 1360,1360,1180	2: 正面左側から 1247.5,1247.5	2: 正面左側から 847.5,847.5
2.0間	5215	3405	3525	4: 正面左側から 1140,1340,1250,1070	3: 正面左側から 1205,1100,1100	3: 正面左側から 885,860,860
2.5間	6115	4315	4435	4: 正面左側から 1590,1790,1250,1070	3: 正面左側から 1415,1450,1450	5: 正面左側から 715,700,700,700,700

表 3-4 出幅寸法

	D	D1	D2	D3	DP1 (ピッチ)	DP2 (ピッチ)	DP3 (ピッチ)
6尺+3尺(バルコニー下)	3300	2625	1725	900	4: 躯体側から 900,650,650,700	4: 躯体側から 200,900,650,815	2: 躯体側から 450,765
8尺+3尺(バルコニー下)	3900	3225	2325	900	5: 躯体側から 900,700,600,500,800	5: 躯体側から 200,900,700,600,765	3: 躯体側から 450,680,685
6尺+3尺(バルコニー前)*	3600	2925	1725	1200	4: 躯体側から 700,900,900,700	5: 躯体側から 200,700,650,650,665	2: 躯体側から 350,865
8尺+3尺(バルコニー前)*	4200	3525	2325	1200	5: 躯体側から 700,900,600,900,700	5: 躯体側から 200,700,900,900,765	3: 躯体側から 450,750,615

*バルコニー前仕様のD3寸法はMAX1200mmです。

ポイント

- インナーデッキ仕様の場合は、側面の*3の個所に束柱を1本追加して配置します。
- インナーデッキ仕様の場合は、束柱を間口端部より200mm (*2) とし、さらにWP間 (*3) に1本追加し均等に配置します。

(2) 入隅仕様の場合 ※図は右入隅の場合を示します。

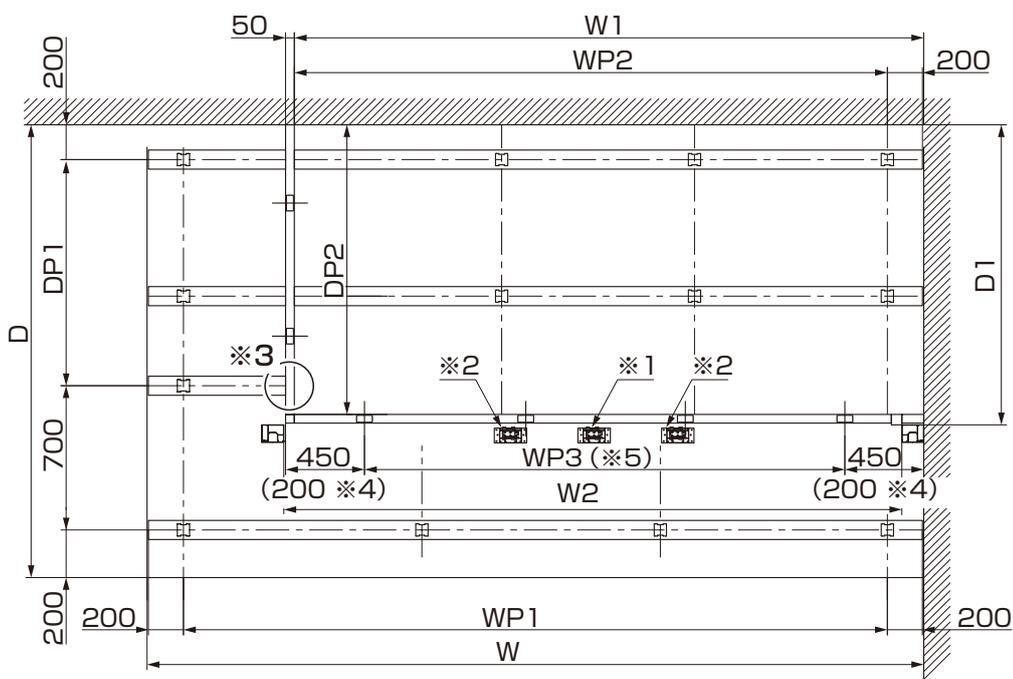


図3-3 基本納まり(6尺・8尺)の場合

表 3-5 間口寸法

	W	W1	W2	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	WP3 (ピッチ)
1.5間	3525	2680	2615	2: 正面左側から 1590,1520	2: 正面左側から 1320,1152.5	2: 正面左側から 920,910
2.0間	4430	3590	3525	3: 正面左側から 1360,1360,1295	3: 正面左側から 1182.5,1100,1100	3: 正面左側から 920,910,910
2.5間	5330	4500	4435	4: 正面左側から 1140,1340,1250,1185	3: 正面左側から 1300,1277.5,1715	4: 正面左側から 920,910,910,910
3.0間	6240	5410	5345	4: 正面左側から 1590,1790,1250,1195	4: 正面左側から 1300,1277.5,1325,1300	6: 正面左側から 645,645,645,875,875,875

表 3-6 出幅寸法

	D	D1	DP1 (ピッチ)	DP2 (ピッチ)
6尺	2400	1725	2: 躯体側から 785,515	3: 躯体側から 200, 785, 680
8尺	2900	2325	3: 躯体側から 725,575,500	4: 躯体側から 200,725, 575, 765

ポイント

- ※1は、標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合には中間柱を設置します。
- ※2は、積雪地仕様の2.5間の場合のみジーマ本体の中心に対して右寄りか左寄りに中間柱を設置します。
- インナーデッキ仕様の場合は、側面の※3の個所に束柱を1本追加して配置します。
- インナーデッキ仕様の場合は、束柱を間口端部より200mm(※4)とし、さらにWP間(※5)に1本追加し均等に配置します。

3. (つづき)

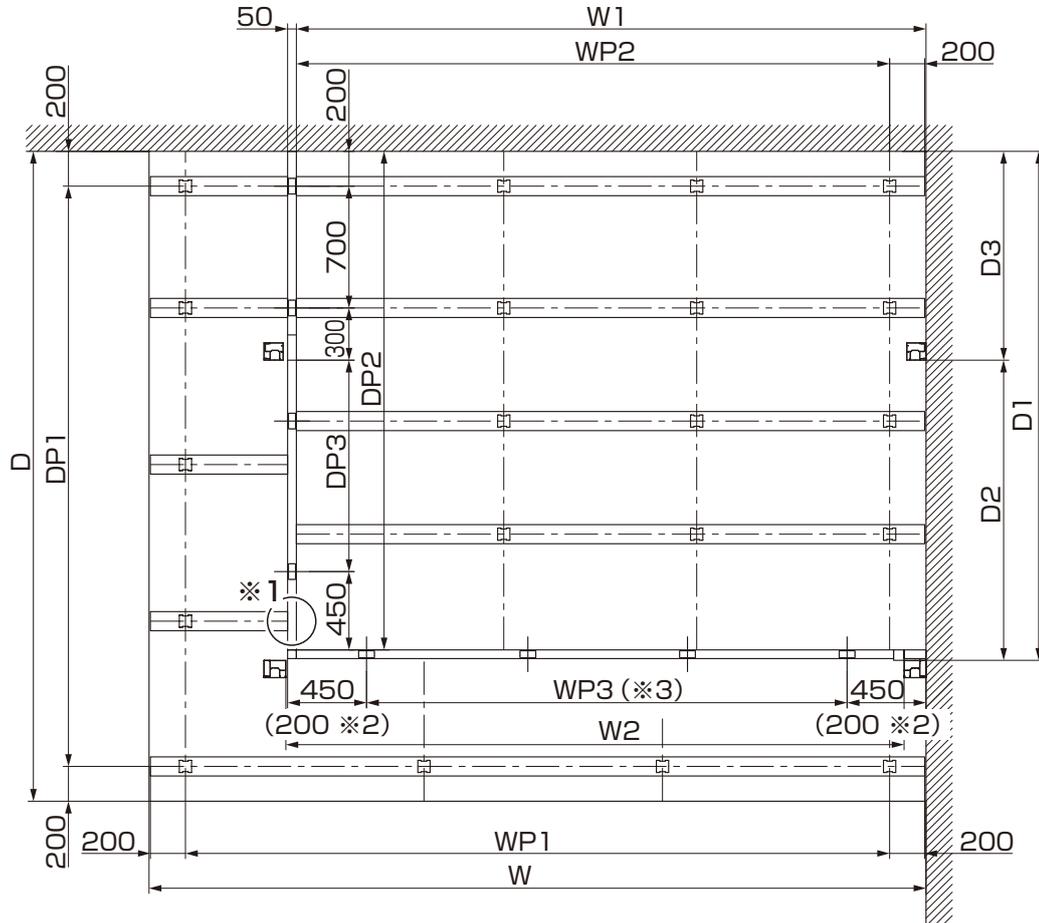


図3-4 バルコニー下・前納まり(6尺+3尺・8尺+3尺)の場合

表 3-7 間口寸法

	W	W1	W2	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	WP3 (ピッチ)
1.5間	3525	2680	2615	2: 正面左側から 1590,1520	2: 正面左側から 1320,1152.5	2: 正面左側から 920,910
2.0間	4430	3590	3525	3: 正面左側から 1360,1360,1295	3: 正面左側から 1182.5,1100,1100	3: 正面左側から 920,910,910
2.5間	5330	4500	4435	4: 正面左側から 1140,1340,1250,1185	3: 正面左側から 1300,1277.5,1715	4: 正面左側から 920,910,910,910

表 3-8 出幅寸法

	D	D1	D2	D3	DP1 (ピッチ)	DP2 (ピッチ)	DP3 (ピッチ)
6尺+3尺(バルコニー下)	3300	2625	1725	900	4: 躯体側から 900,650,650,700	4: 躯体側から 200,900,650,815	2: 躯体側から 450,765
8尺+3尺(バルコニー下)	3900	3225	2325	900	5: 躯体側から 900,700,600,500,800	5: 躯体側から 200,900,700,600,765	3: 躯体側から 450,680,685
6尺+3尺(バルコニー前)*	3600	2925	1725	1200	4: 躯体側から 700,900,900,700	5: 躯体側から 200,700,650,650,665	2: 躯体側から 350,865
8尺+3尺(バルコニー前)*	4200	3525	2325	1200	5: 躯体側から 700,900,600,900,700	5: 躯体側から 200,700,900,900,765	3: 躯体側から 450,750,615

*バルコニー前仕様のD3寸法はMAX1200mmです。

ポイント

- インナーデッキ仕様の場合は、側面の*3の個所に束柱を1本追加して配置します。
- インナーデッキ仕様の場合は、束柱を間口端部より200mm (*2)とし、さらにWP間(*3)に1本追加し均等に配置します。

3-2 樹ら楽ステージ フラットデッキ仕様の場合

(1) 基本仕様の場合

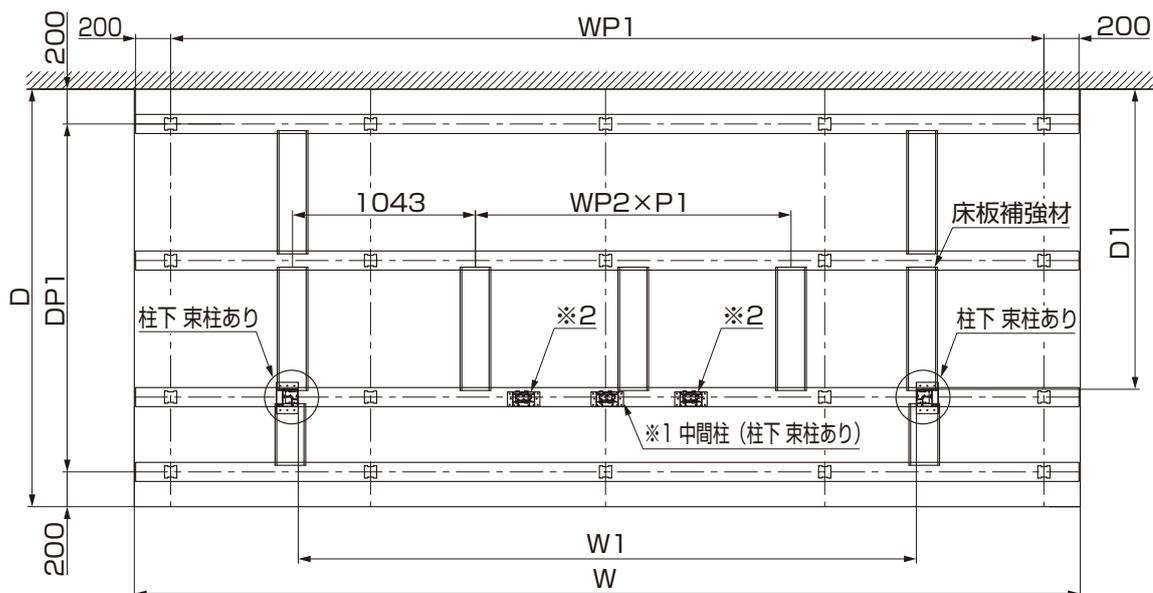


図3-5 基本納まり (6尺・8尺) の場合

表 3-9 間口寸法

	W	W1	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	P1
1.5 間	4495	2615	3 : 正面左側から 1360、1360、1360	1	900
2.0 間	5395	3525	4 : 正面左側から 1140、1340、1250、1250	2	900
2.5 間	6295	4435	4 : 正面左側から 1590、1790、1250、1250	3	900
3.0 間	7195	5345	4 : 正面左側から 1590、1790、1700、1700	4	900

表 3-10 出幅寸法

	D	D1	DP1 (ピッチ)
6 尺	2400	1725	3 : 躯体から 785、785、430
8 尺	2900	2325	4 : 躯体側から 725、725、725、325

ポイント

- ※1は、標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合には中間柱を設置します。
- ※2は、積雪地仕様の2.5間の場合のみジーマ本体の中心に対して右寄りか左寄りに中間柱を設置します。
- 支柱の下には束柱を配置します。また連棟やエクシオールプラスの場合には連棟柱・エクシオールプラス柱の下に束柱を別途追加してください。

3. (つづき)

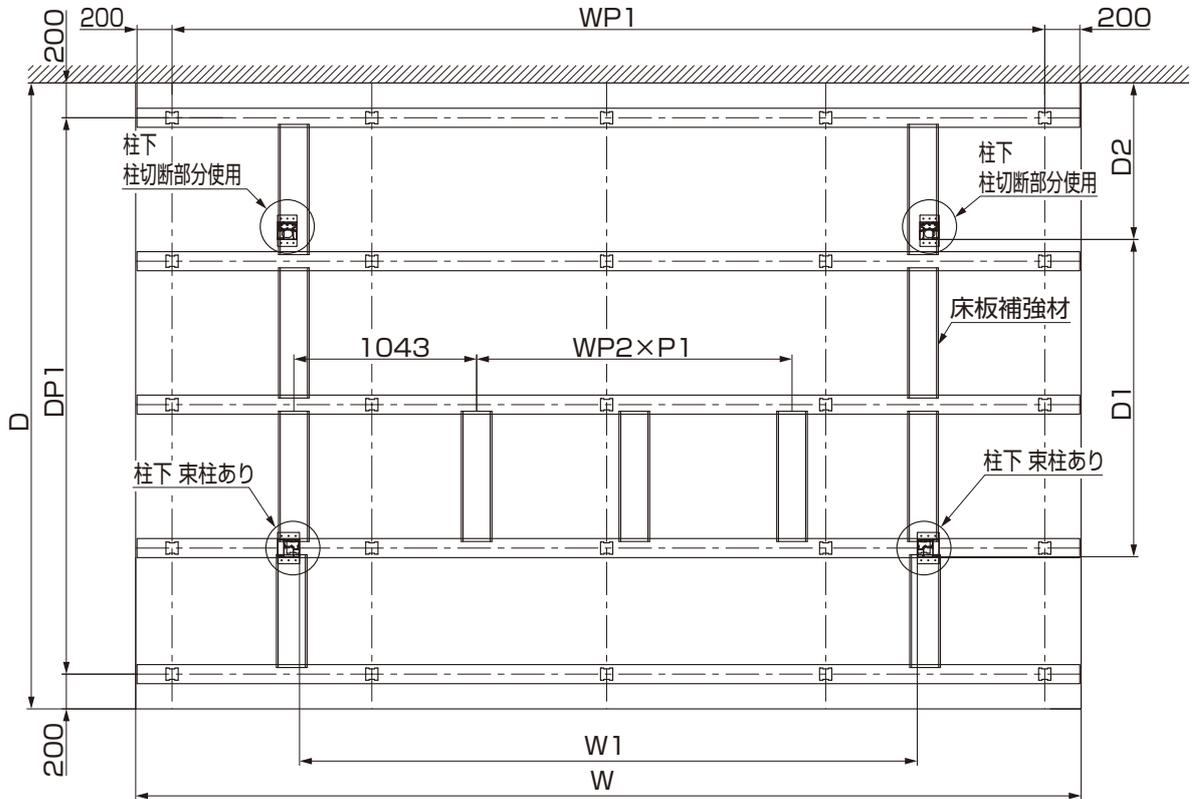


図3-6 バルコニー下・前納まり (6尺+3尺・8尺+3尺) の場合

表 3-11 間口寸法

	W	W1	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	P1
1.5 間	4495	2615	3 : 正面左側から 1360、1360、1360	1	900
2.0 間	5395	3525	4 : 正面左側から 1140、1340、1250、1250	2	900
2.5 間	6295	4435	4 : 正面左側から 1590、1790、1250、1250	3	900

表 3-12 出幅寸法

	D	D1	D2	DP1 (ピッチ)
6 尺 + 3 尺 (バルコニー下)	3600	1825	900	4 : 躯体側から 825、825、825、725
8 尺 + 3 尺 (バルコニー下)	4200	2425	900	5 : 躯体側から 800、800、600、875、725
6 尺 + 3 尺 (バルコニー前)※	3600	1825	1200	5 : 躯体側から 700、700、700、675、425
8 尺 + 3 尺 (バルコニー前)※	4500	2425	1200	5 : 躯体側から 800、800、900、875、725

※バルコニー前仕様のD2寸法はMAX1200mmです。

ポイント

- 主柱の下には束柱を配置します。
- 3尺延長用柱の下には大引きが設置されません。「ジーマ デッキ編 (樹ら楽ステージ) 取付説明書 (E362) 4 フラットデッキ仕様の施工 1. デッキ施工 1-1 3尺延長柱基礎施工」を確認し、3尺延長用柱の下に端材を束柱の代わりに設置してください。

(2) 入隅仕様の場合 ※図は右入隅の場合を示します。

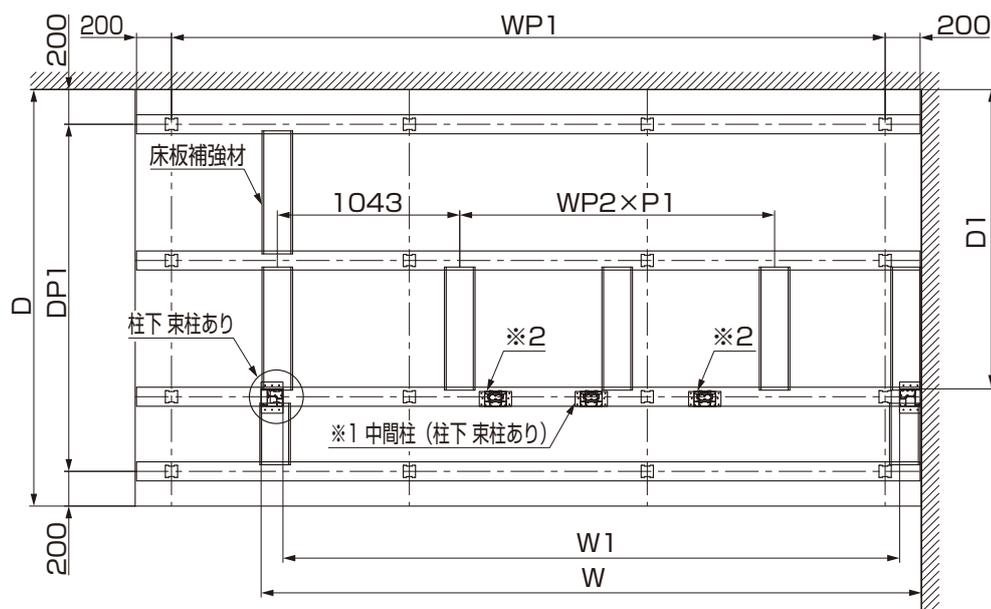


図3-7 基本納まり (6尺・8尺) の場合

表 3-13 間口寸法

	W	W1	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	P1
1.5 間	3590	2615	2 : 正面左側から 1590、1585	1	900
2.0 間	4495	3525	3 : 正面左側から 1360、1360、1360	2	900
2.5 間	5395	4435	4 : 正面左側から 1140、1340、1250、1250	3	900
3.0 間	6295	5345	4 : 正面左側から 1590、1790、1250、1250	4	900

表 3-14 出幅寸法

	D	D1	DP1 (ピッチ)
6 尺	2400	1725	3 : 躯体側から 785、785、430
8 尺	2900	2325	4 : 躯体側から 725、725、725、325

ポイント

- ※1は、標準仕様の3.0間または積雪地仕様の2.0間以上の場合には中間柱を設置します。
- ※2は、積雪地仕様の2.5間の場合のみジーマ本体の中心に対して右寄りか左寄りに中間柱を設置します。
- 主柱の下には束柱を配置します。また連棟やエクシオールプラスの場合には連棟柱・エクシオールプラス柱の下に束柱を別途追加してください。

3. (つづき)

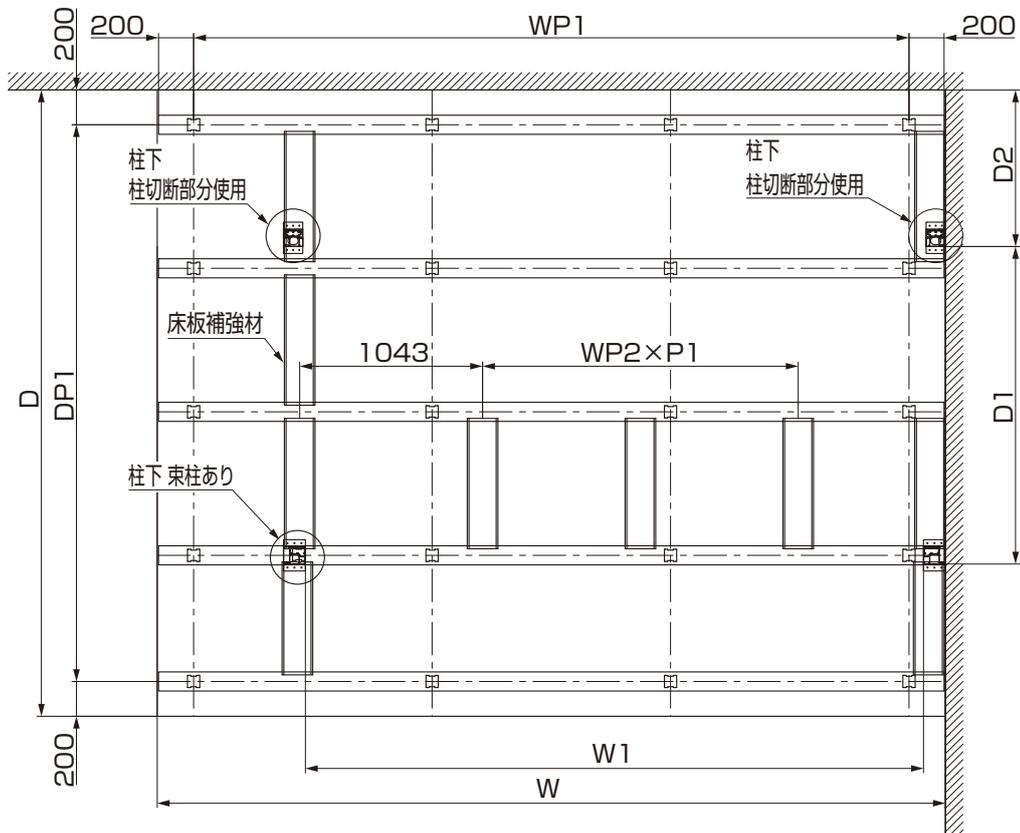


図3-8 バルコニー下・前納まり (6尺+3尺・8尺+3尺) の場合

表 3-15 間口寸法

	W	W1	WP1 (ピッチ)	WP2 (ピッチ)	P1
1.5 間	3590	2615	2 : 正面左側から 1590、1585	1	900
2.0 間	4495	3525	3 : 正面左側から 1360、1360、1360	2	900
2.5 間	5395	4435	4 : 正面左側から 1140、1340、1250、1250	3	900

表 3-16 出幅寸法

	D	D1	D2	DP1 (ピッチ)
6 尺 + 3 尺 (バルコニー下)	3600	1825	900	4 : 躯体側から 825、825、825、725
8 尺 + 3 尺 (バルコニー下)	4200	2425	900	5 : 躯体側から 800、800、600、875、725
6 尺 + 3 尺 (バルコニー前)※	3600	1825	1200	5 : 躯体側から 700、700、700、675、425
8 尺 + 3 尺 (バルコニー前)※	4500	2425	1200	5 : 躯体側から 800、800、900、875、725

※バルコニー前仕様のD2寸法はMAX1200mmです。

ポイント

- 端部柱・3尺延長用柱の下に束柱 (もしくはそれに代わるもの) を設置してください。
束柱が無いと柱部の床板が沈み、パネルの開閉に支障をきたす場合があります。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

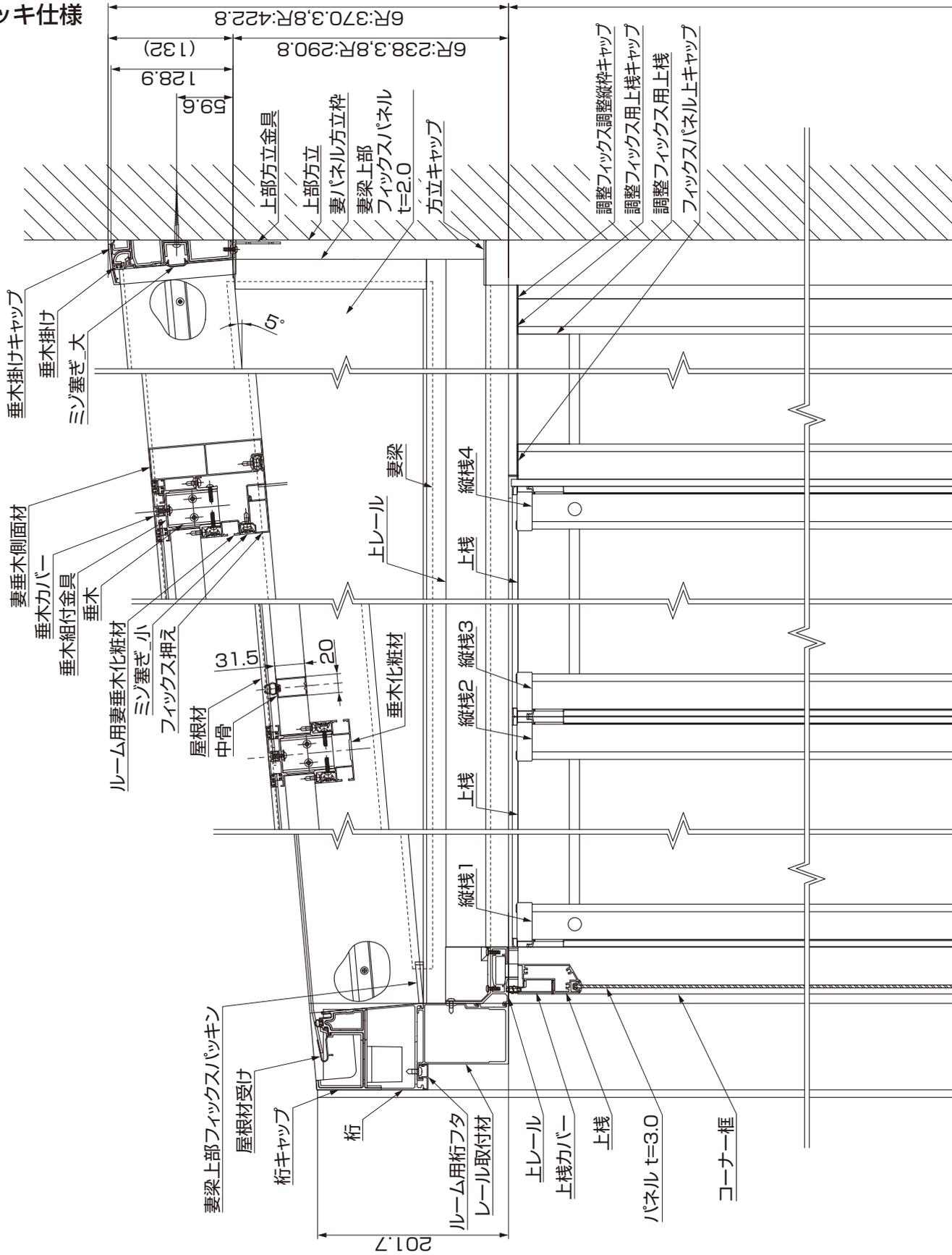
.....

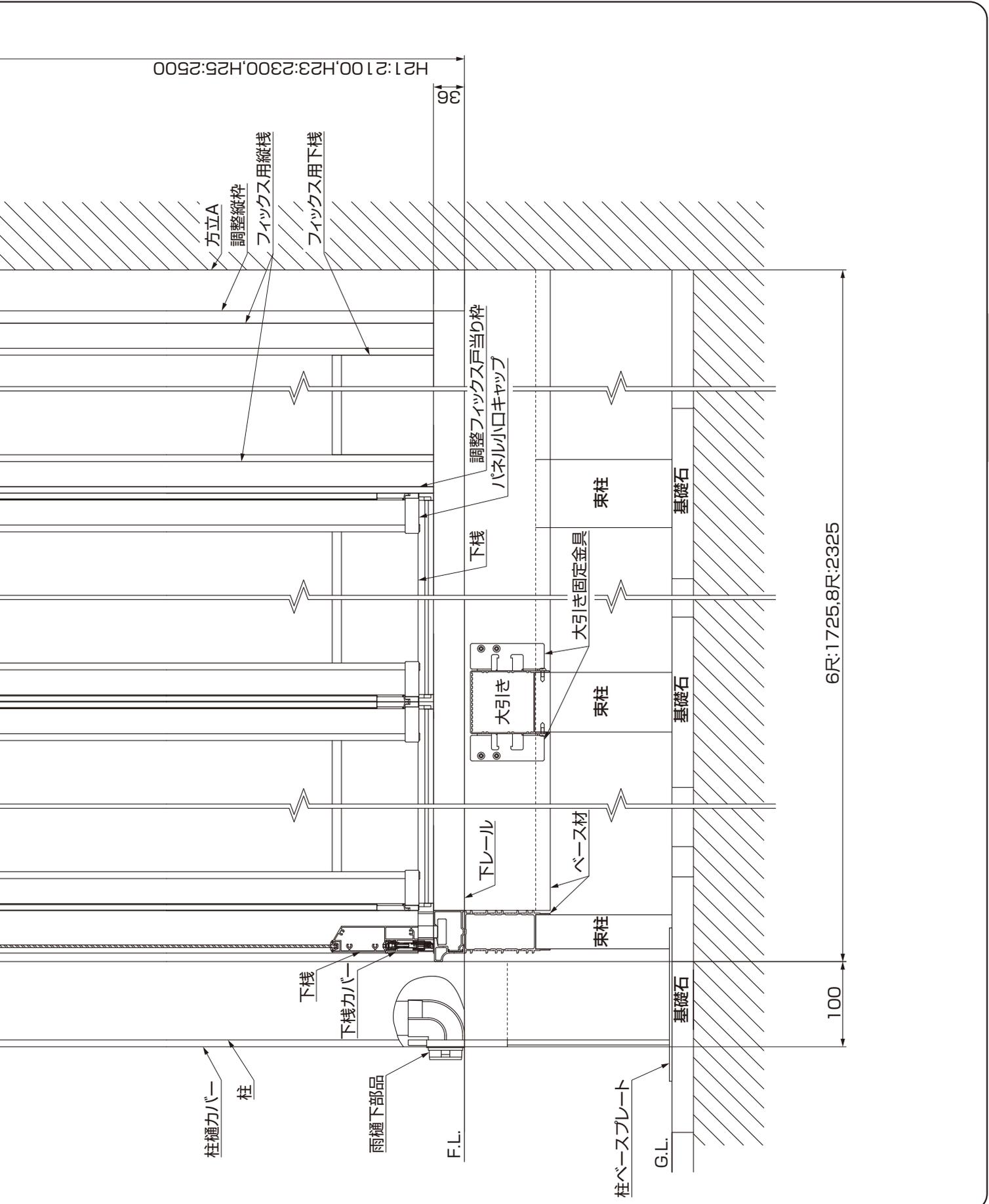
.....

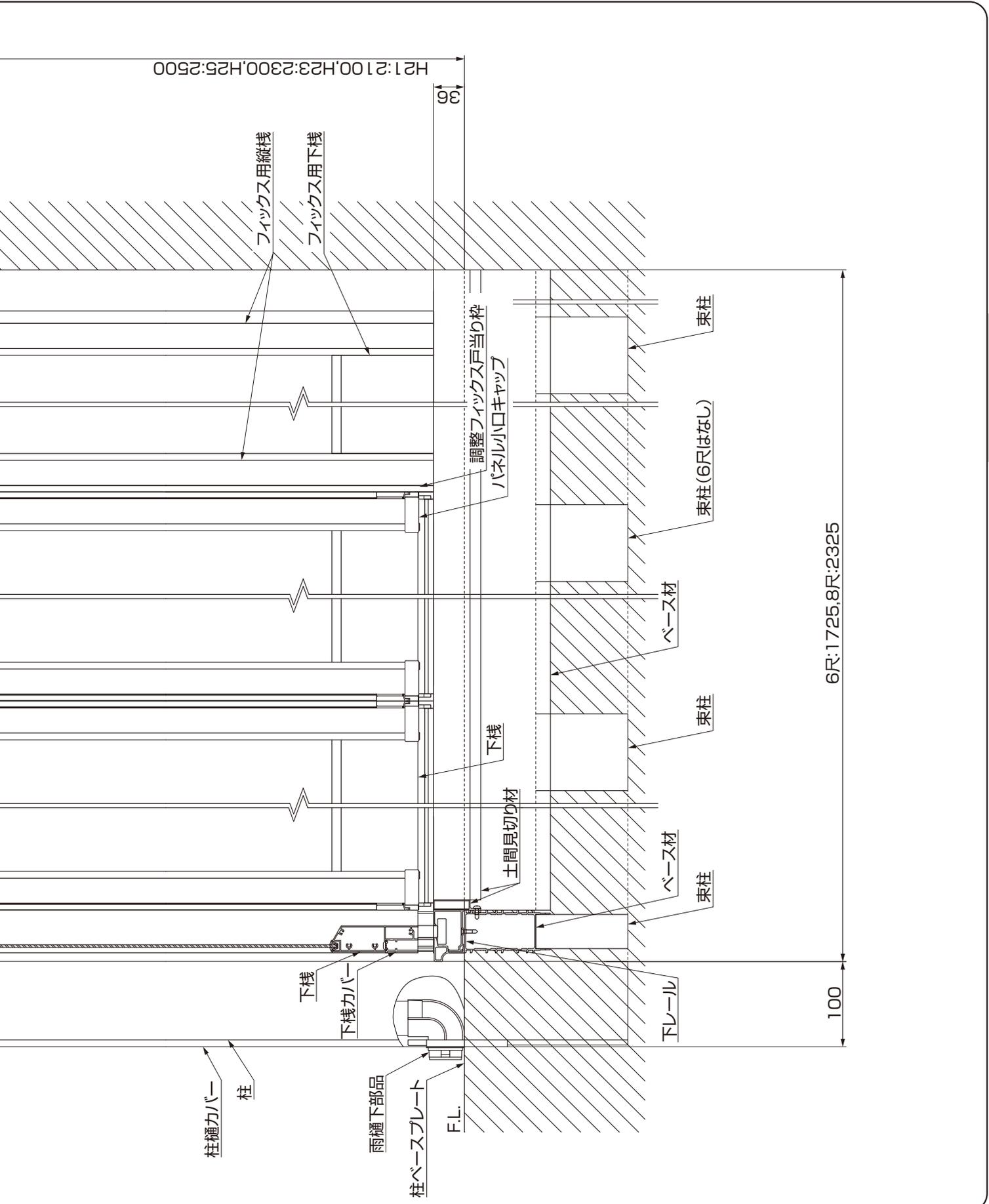
3 断面納まり図

1-1 ルームタイプ出幅断面納まり図

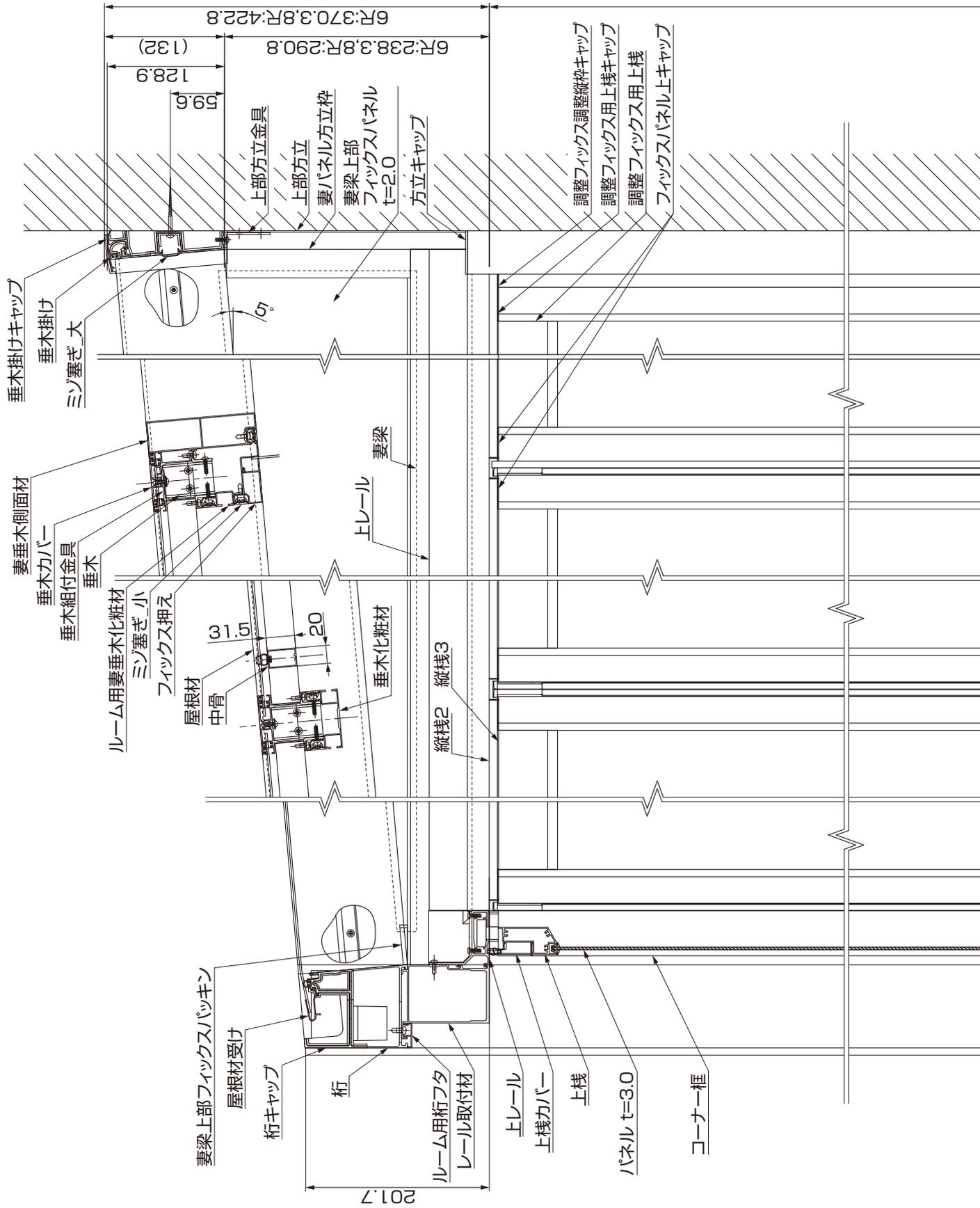
(1) デッキ仕様

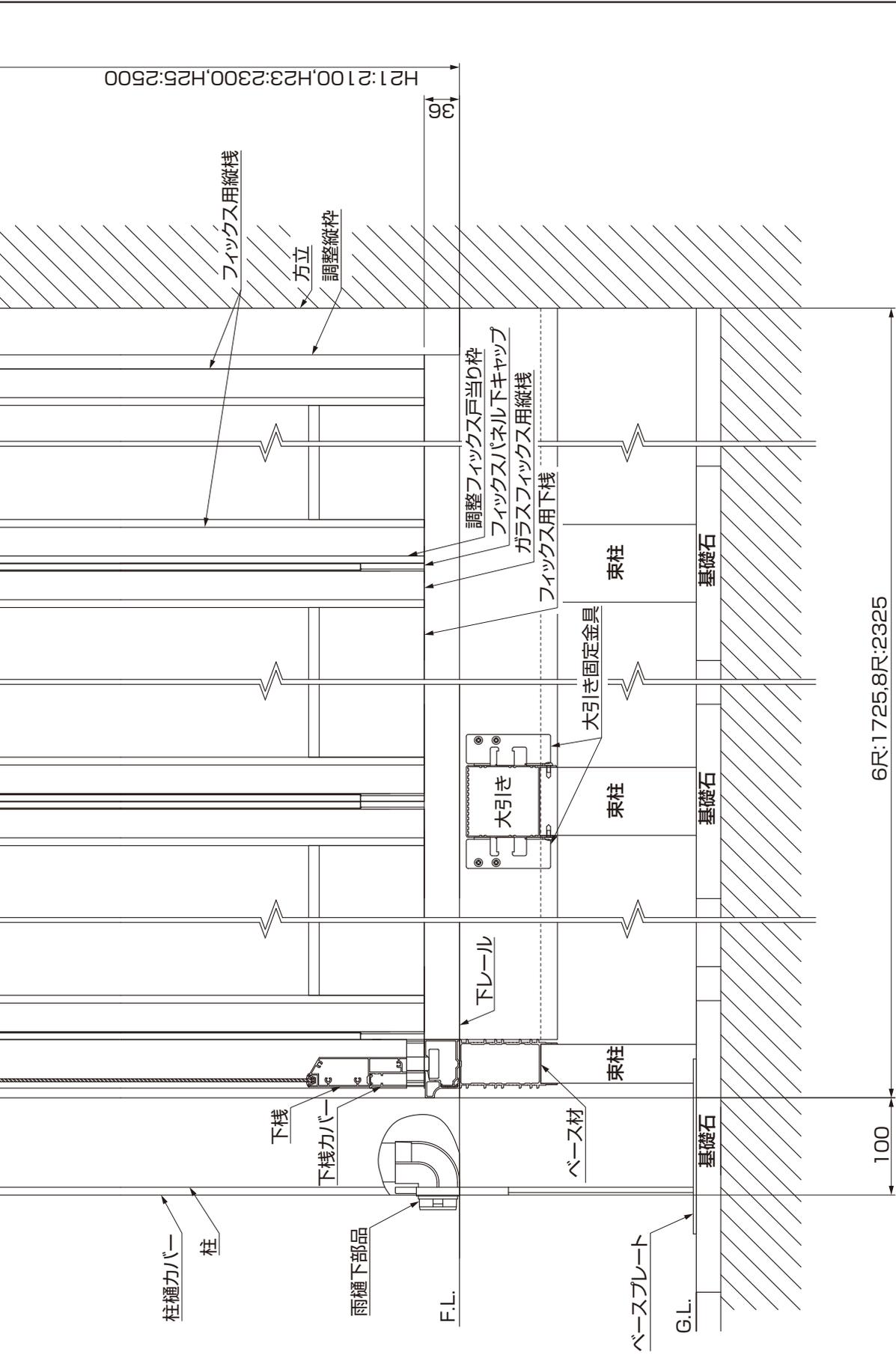




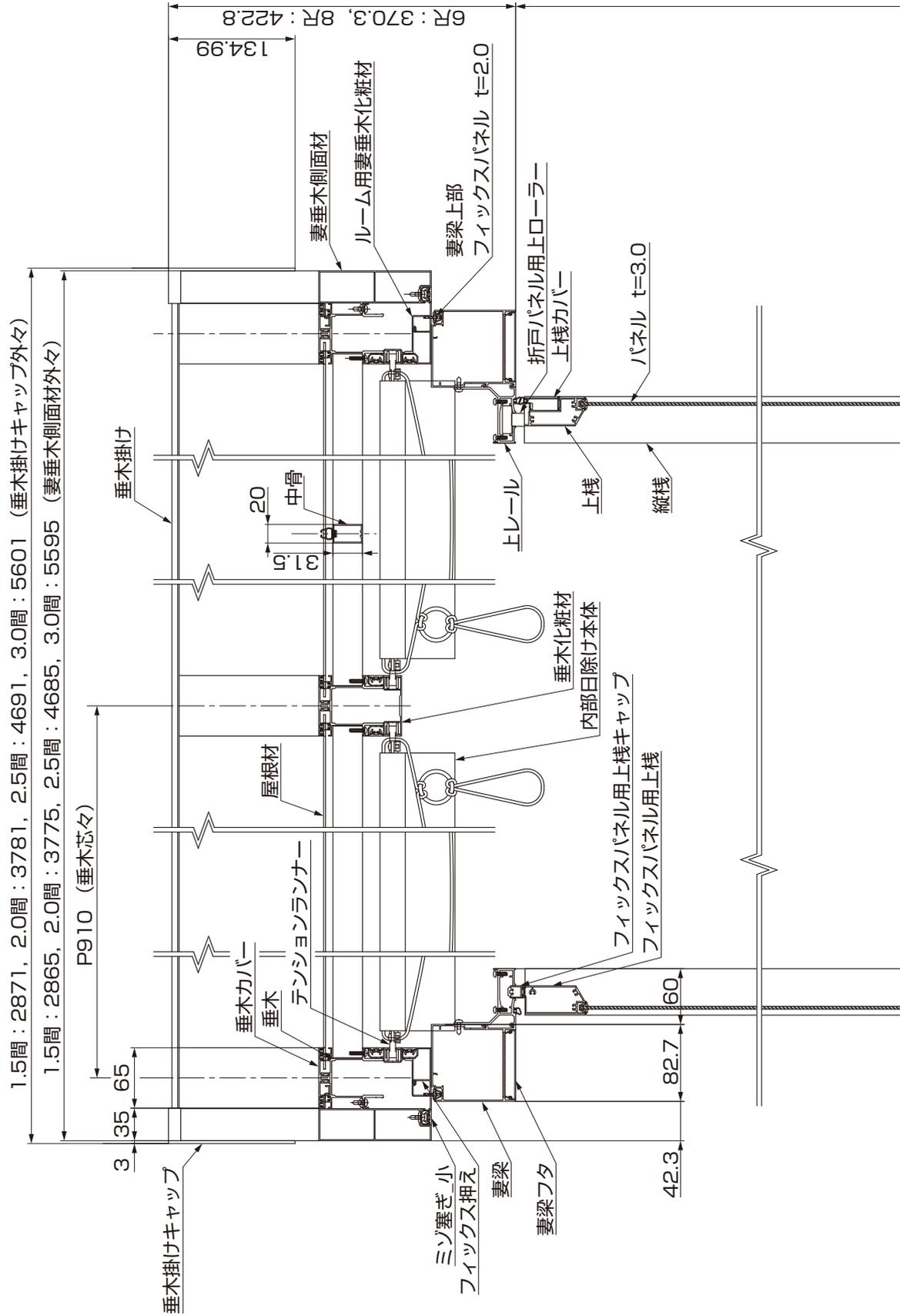


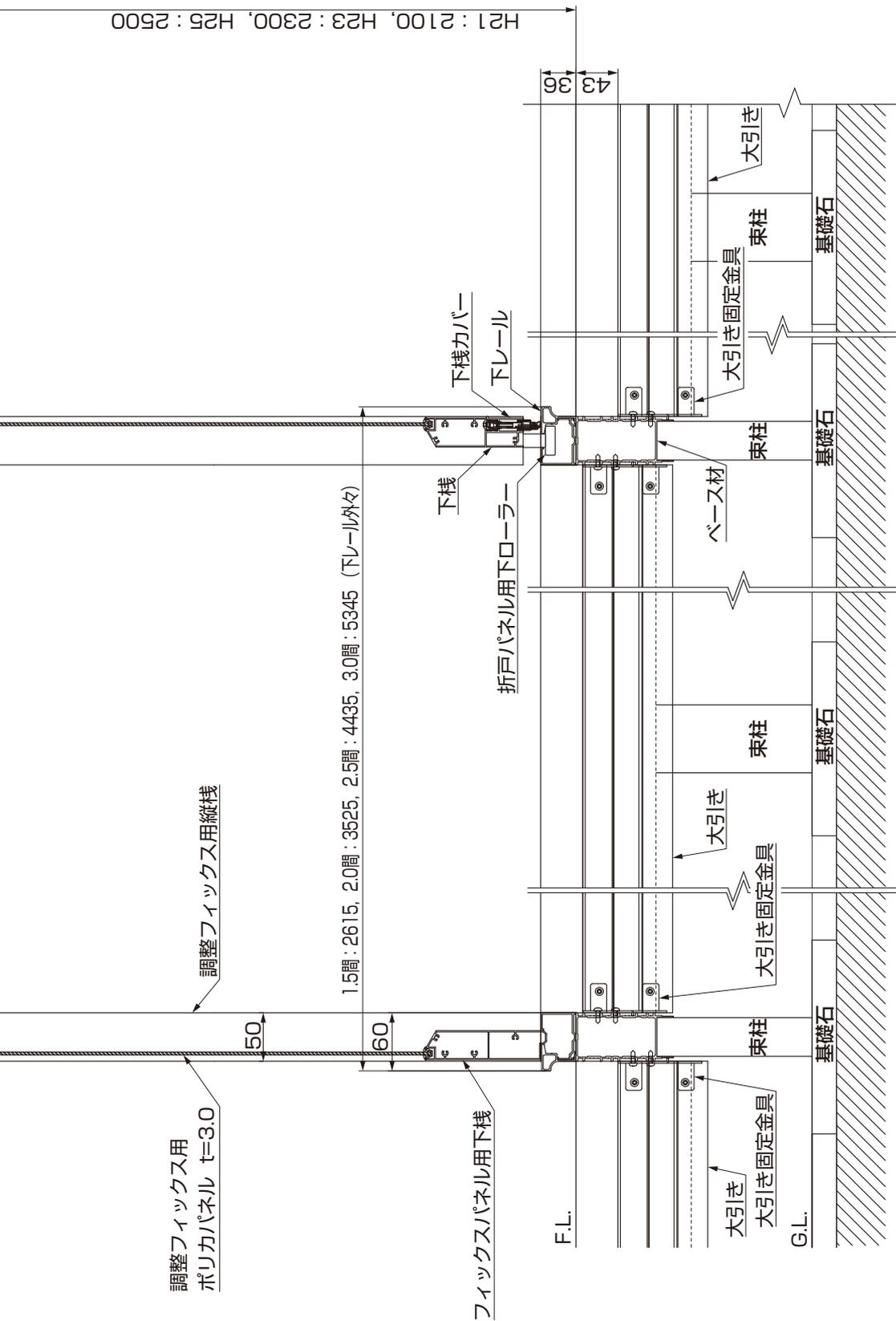
1-2 ルームタイプ出幅断面納まり図 (デッキ_ガラスフィックスパネル)



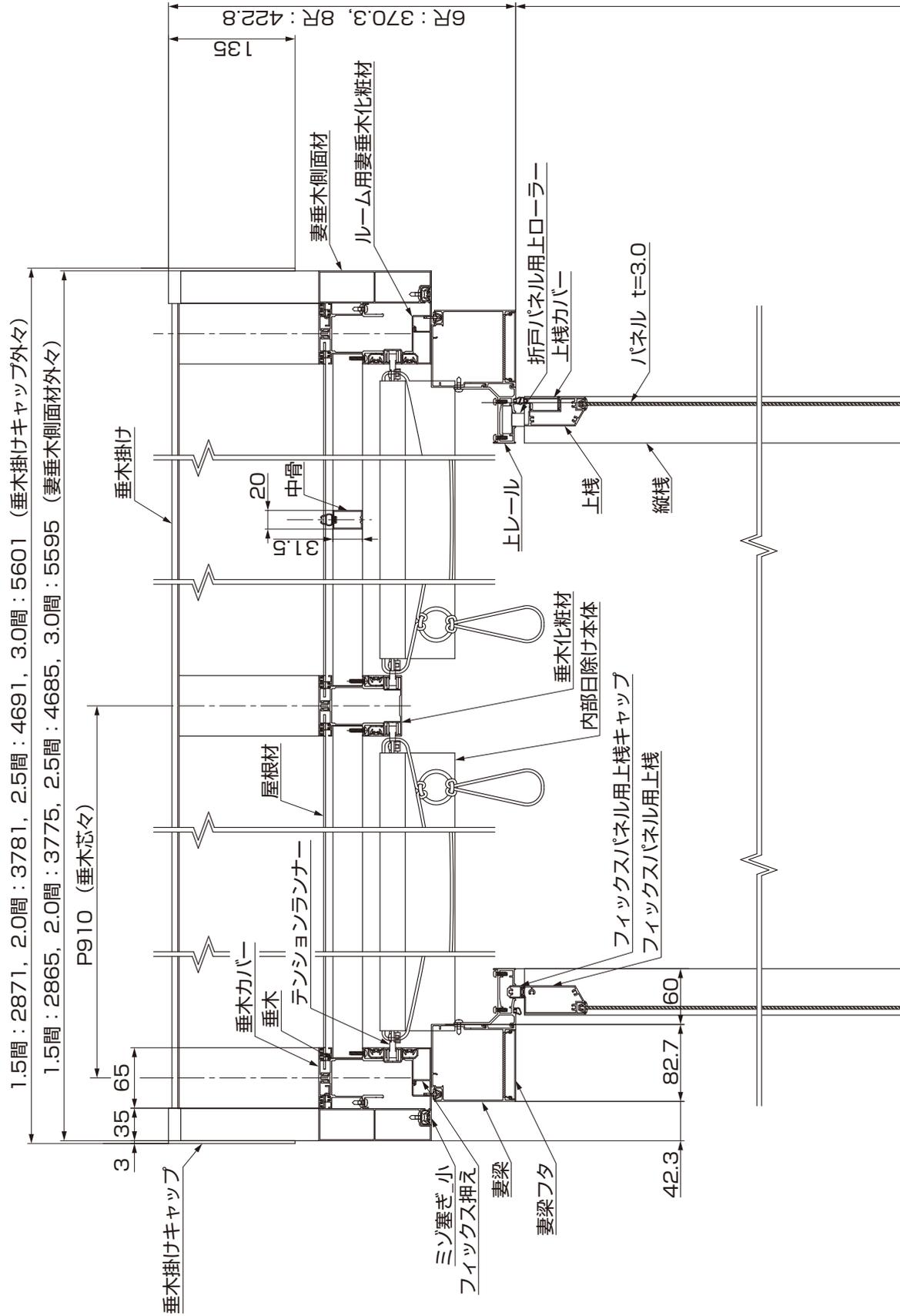


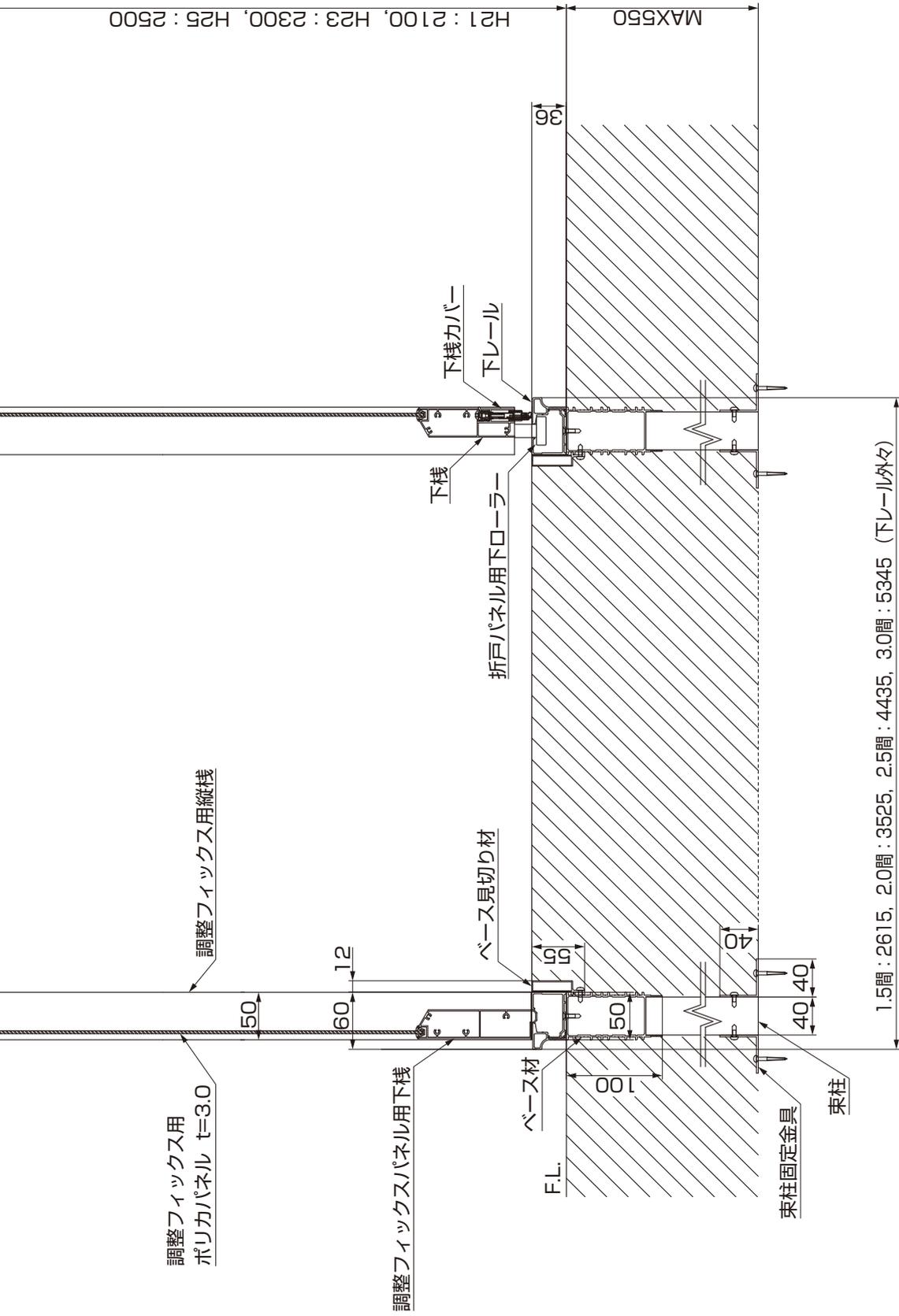
1-3 ルームタイプ間口断面納まり図
 (1) デッキ仕様



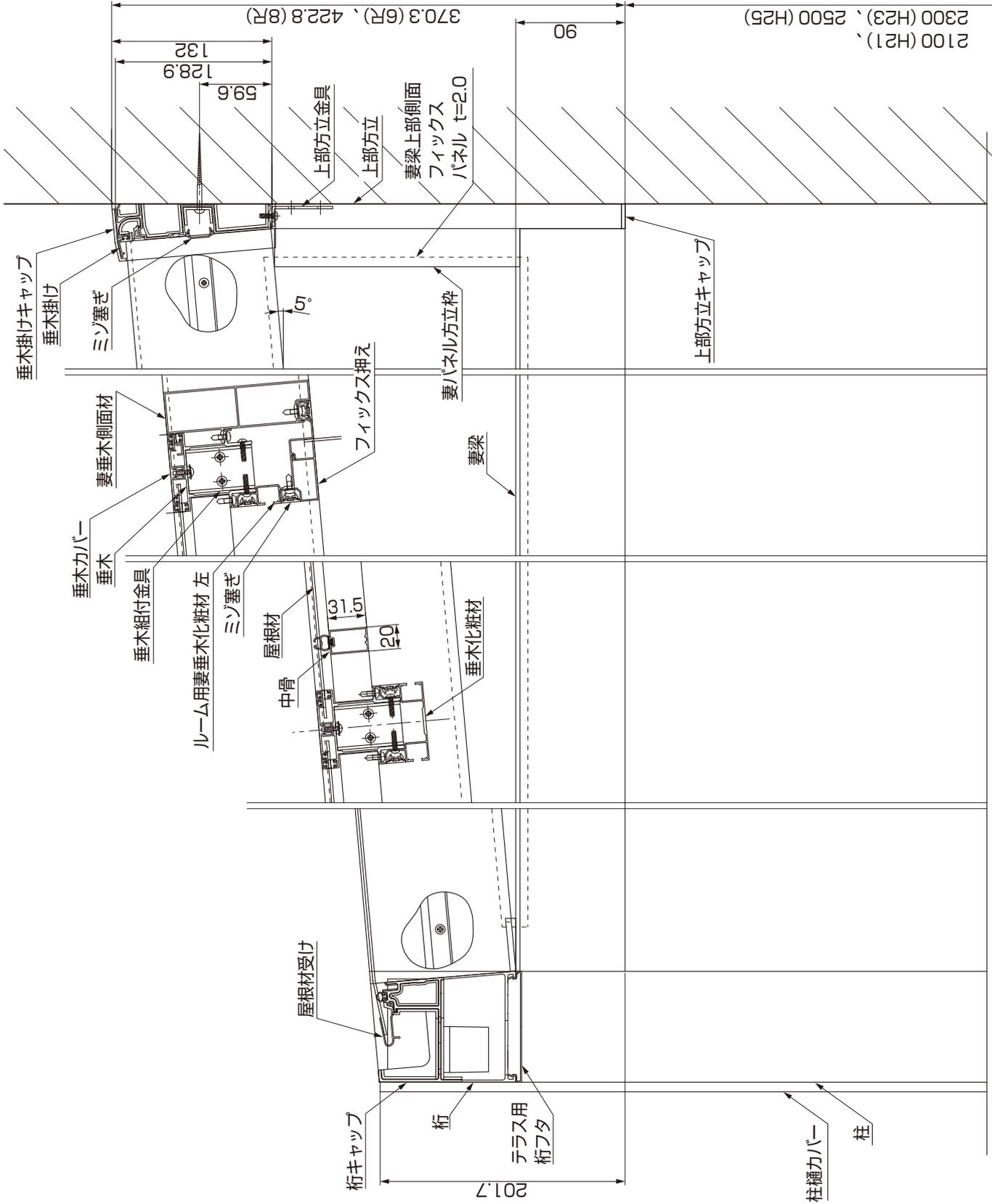


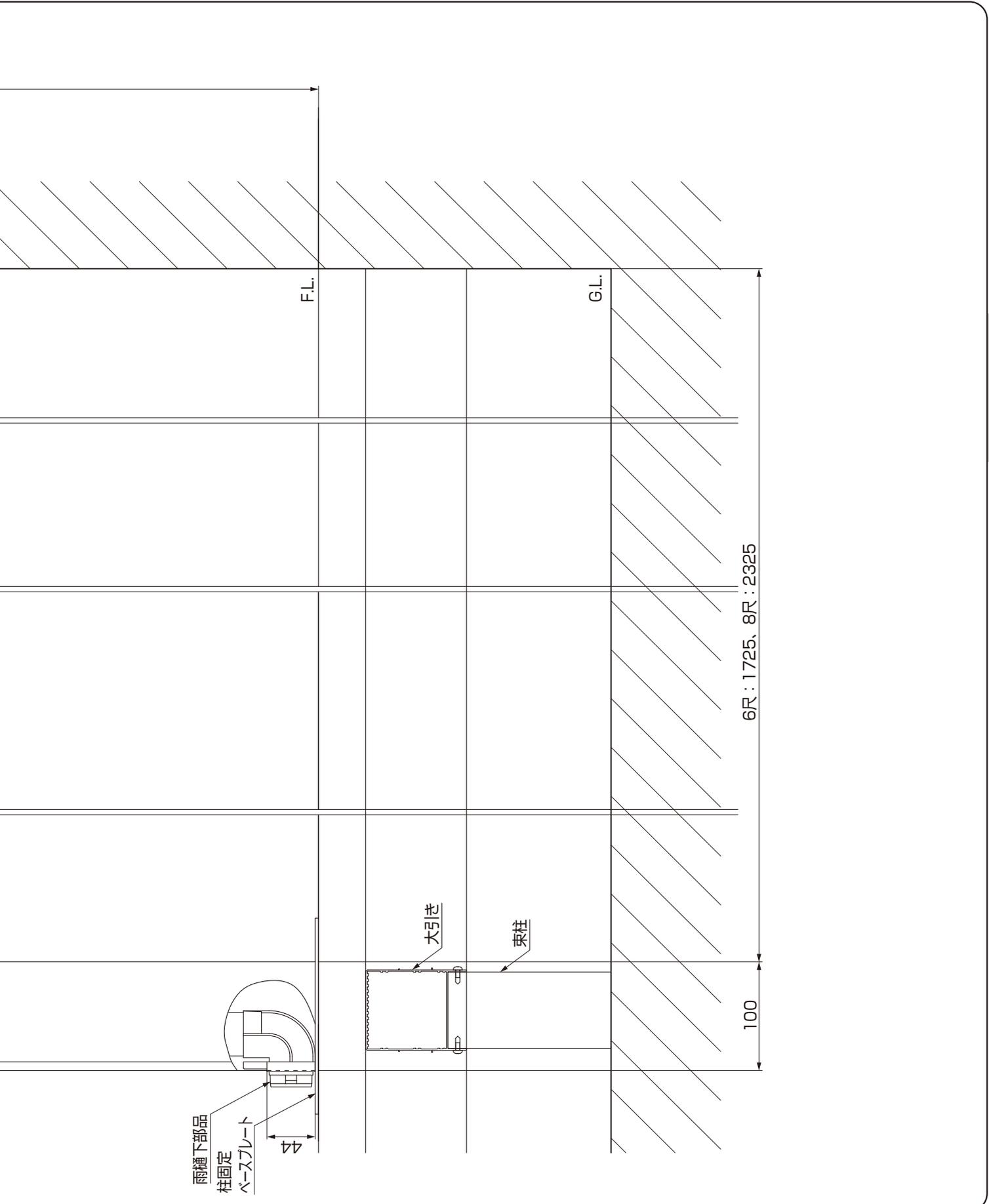
1-3 ルームタイプ間口断面納まり図
 (2) 土間仕様



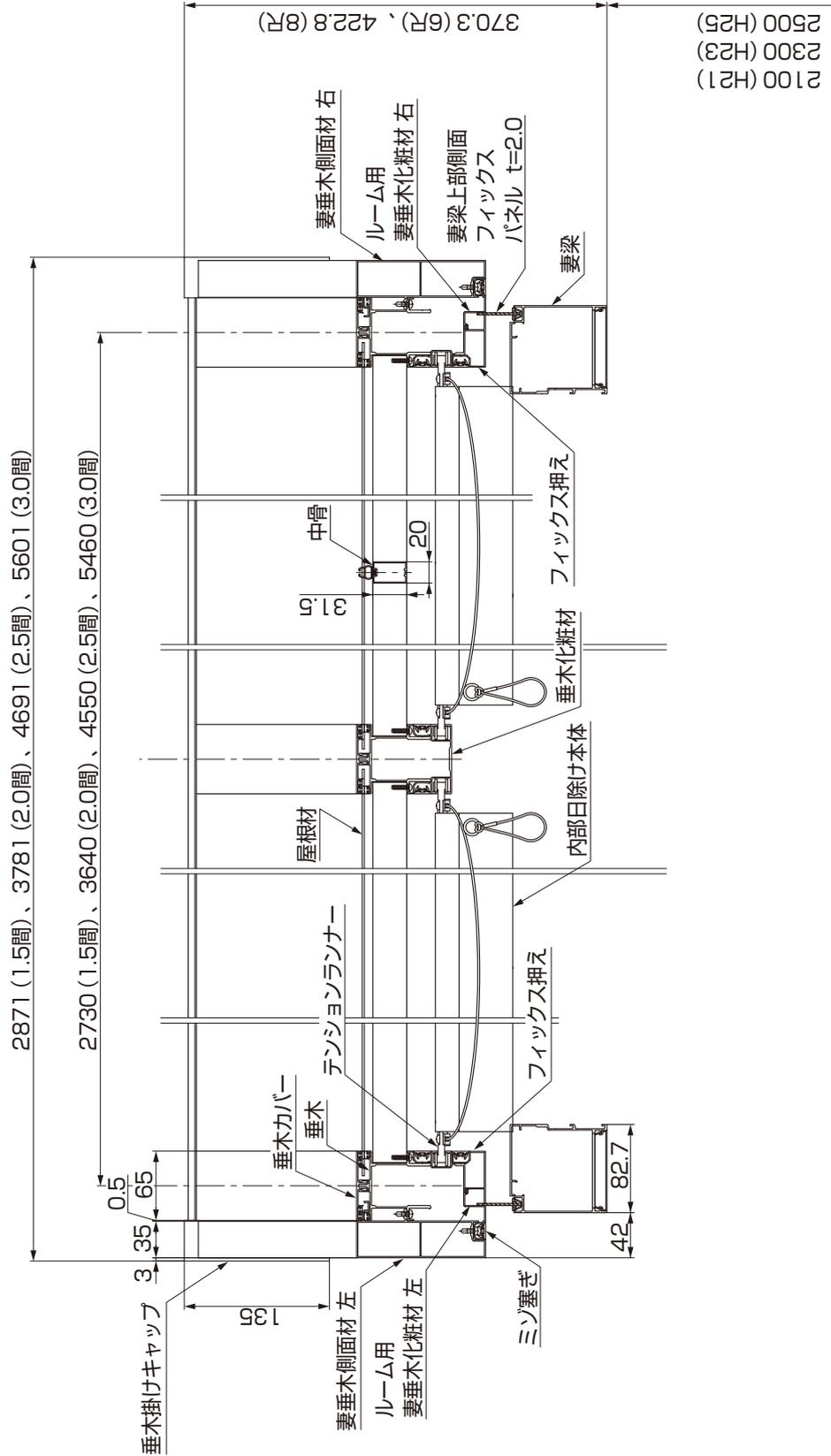


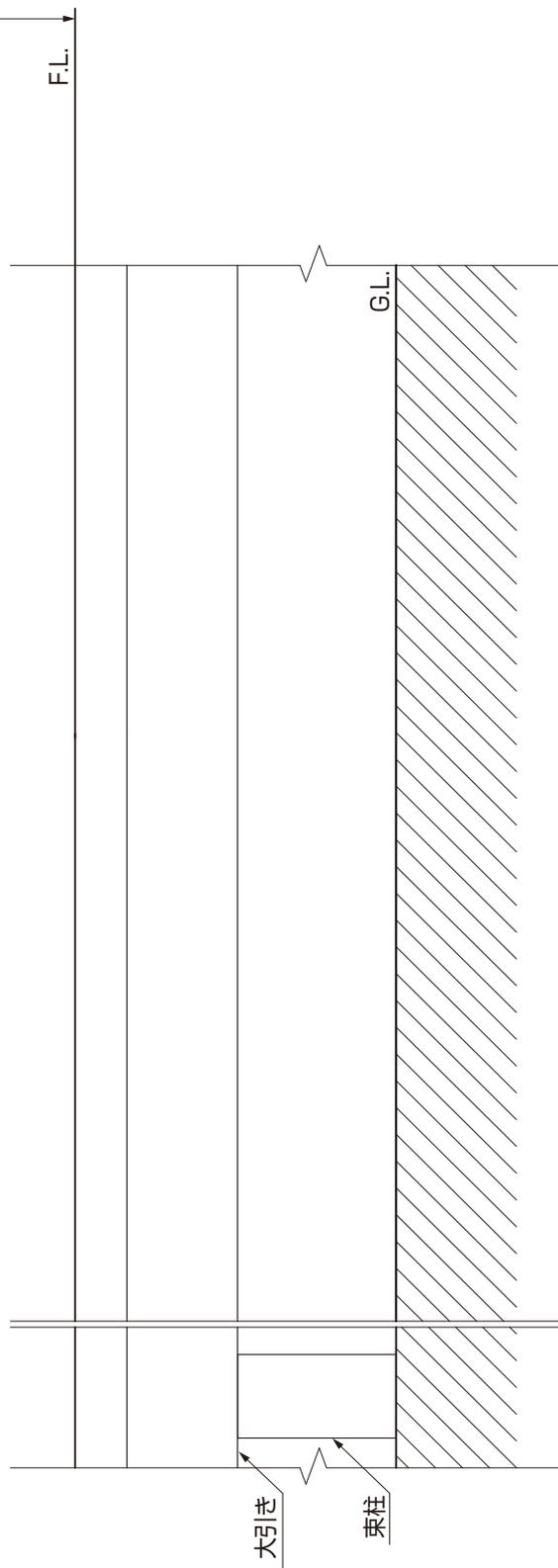
1-4 テラスタイプ出幅断面納まり図 (デッキ) (妻梁上部側面フィックス有り)



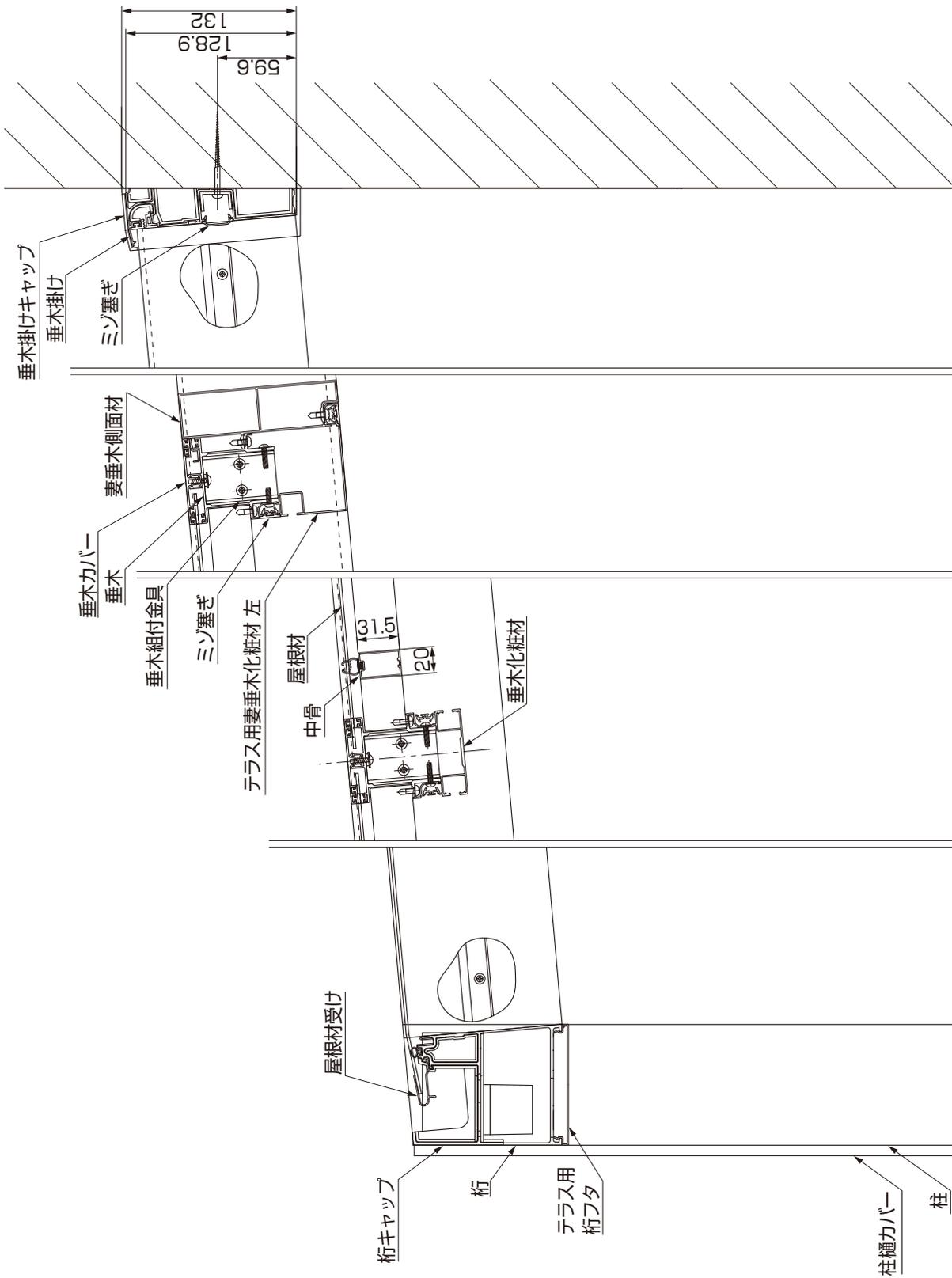


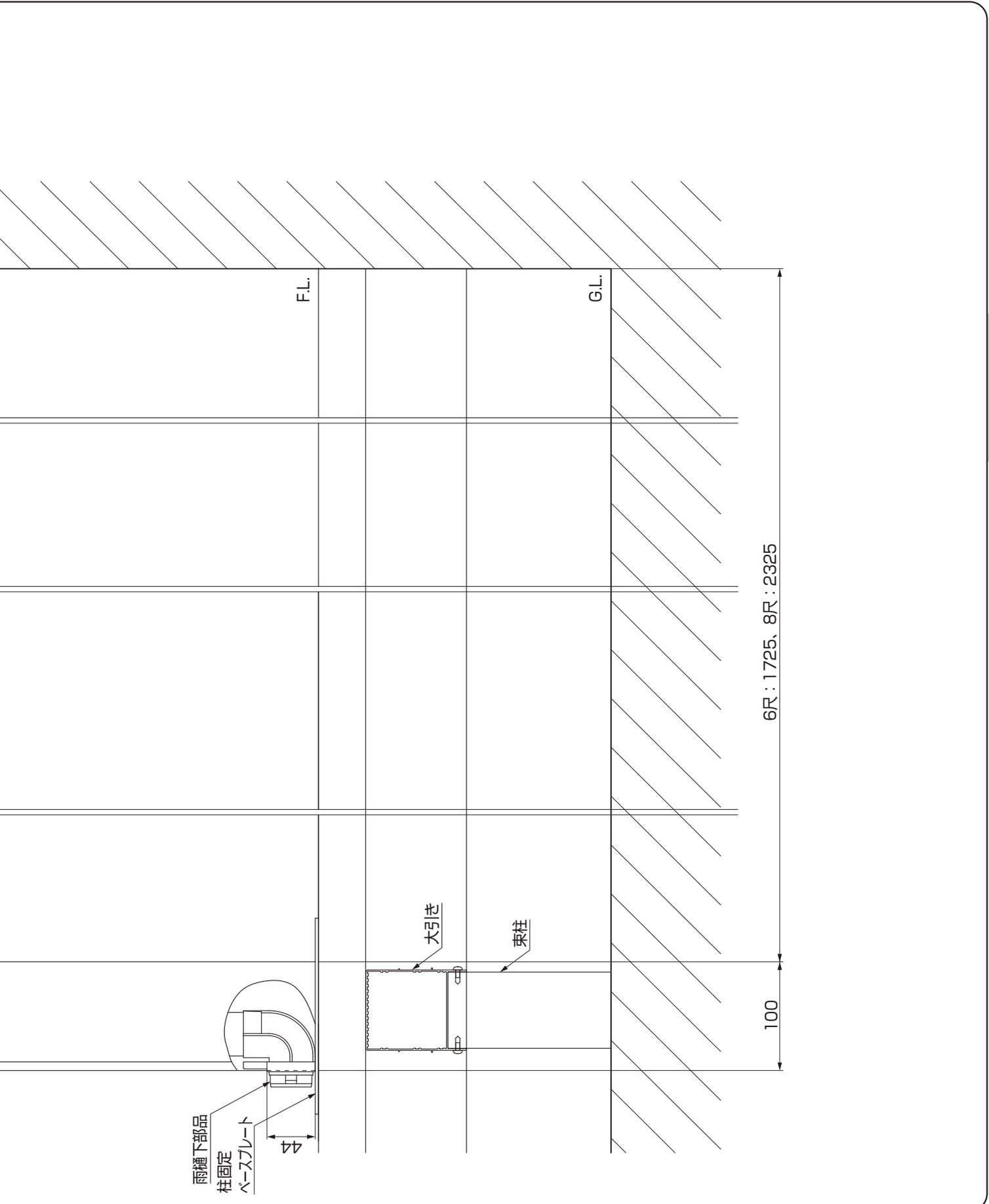
1-5 テラスタイプ間口断面納まり図 (デッキ) (妻梁上部側面フィックス有り)



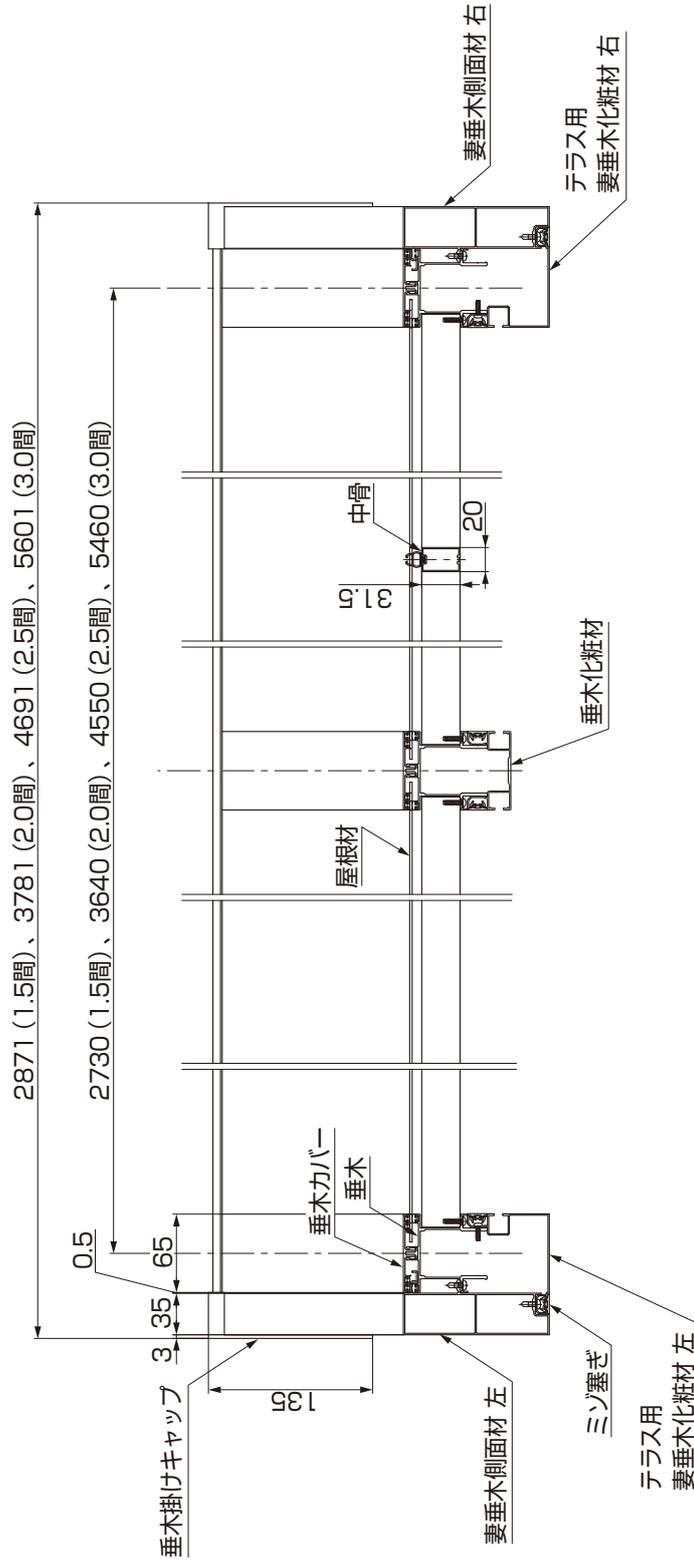


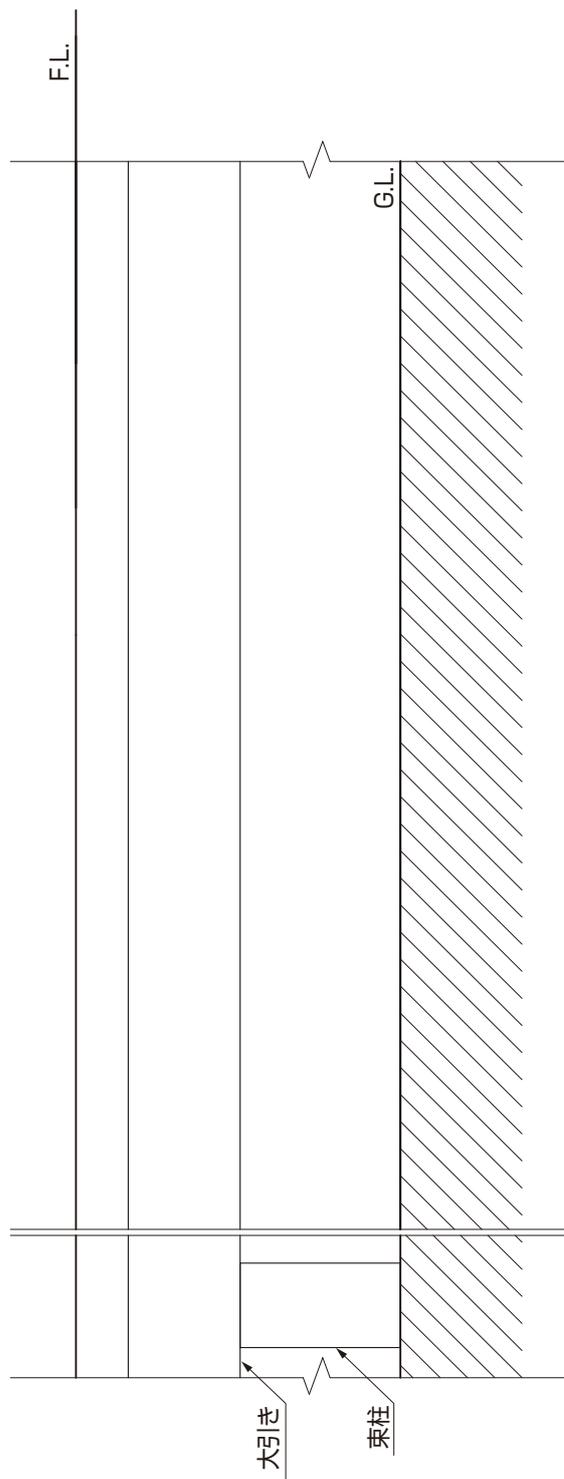
1-6 テラスタイプ出幅断面納まり図 (デッキ) (妻梁上部側面フィックス無し)





1-7 テラストイプ間口断面納まり図 (デッキ) (妻梁上部側面フィックス無し)

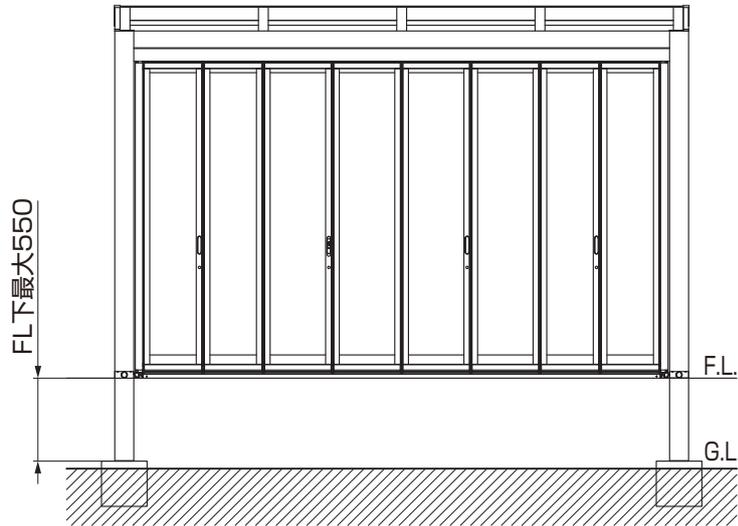




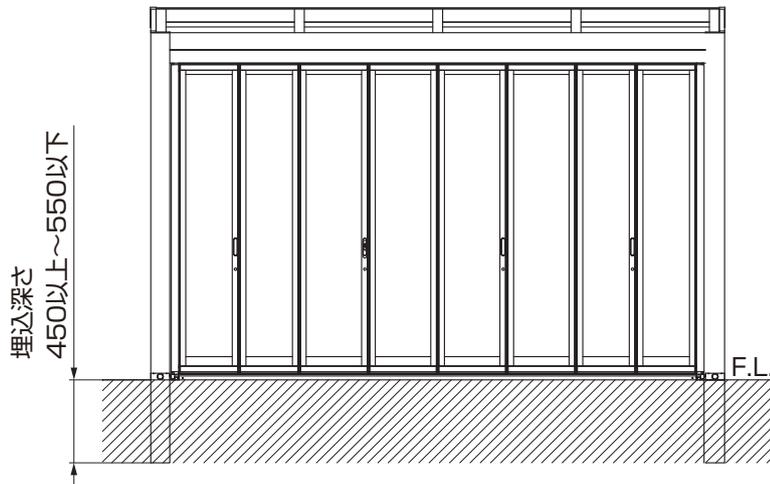
4 代表的な施工例について

1. 標準柱の場合

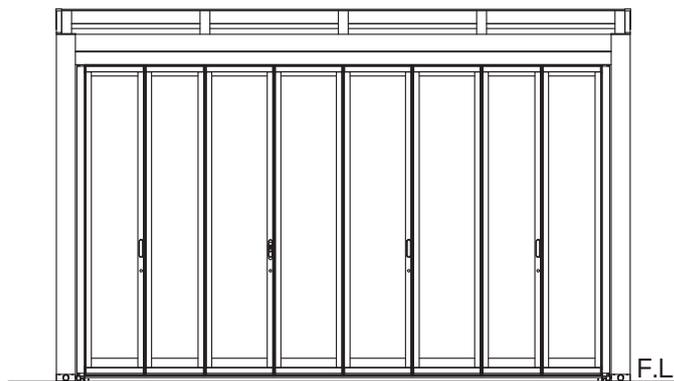
1-1 内面デッキ立上げ施工 束石固定仕様



1-2 土間施工 柱埋込仕様

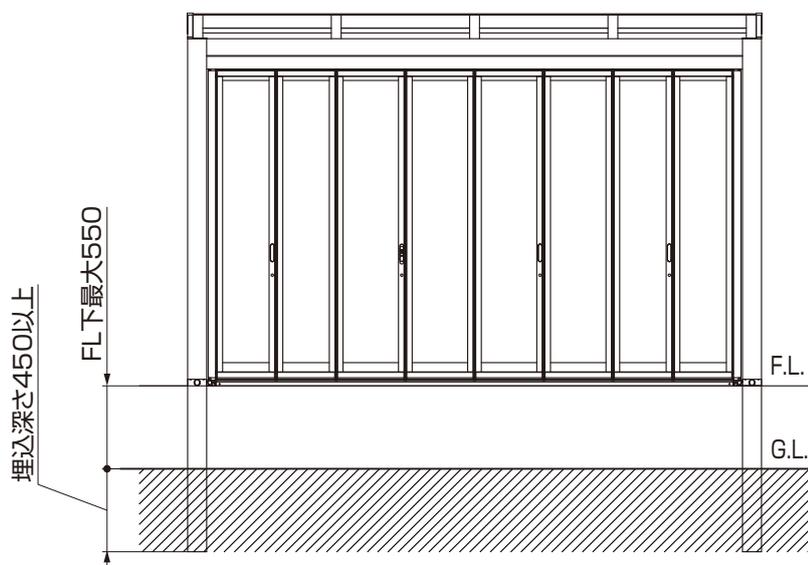


1-3 フラットデッキ施工・土間施工 ベースプレート仕様

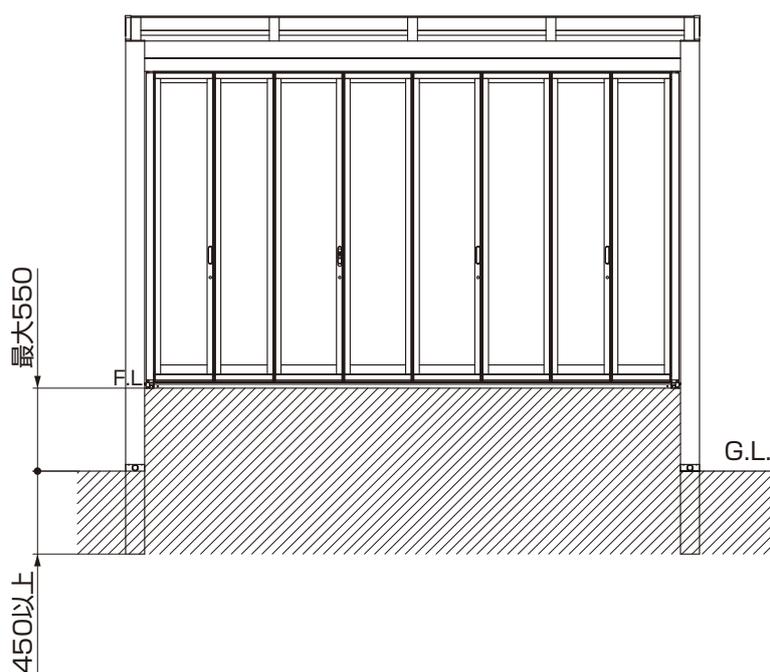


2. ロング柱の場合

2-1 内面デッキ立上げ施工 柱埋込仕様



2-2 内面デッキ立上げ施工・土間施工 外面床なし仕様（インナーデッキなど）



5 施工の前の重要確認事項

1. 本製品の施工について

1-1 柱・垂木掛けの取付け ※本製品でG.L.は束石上のラインとします。

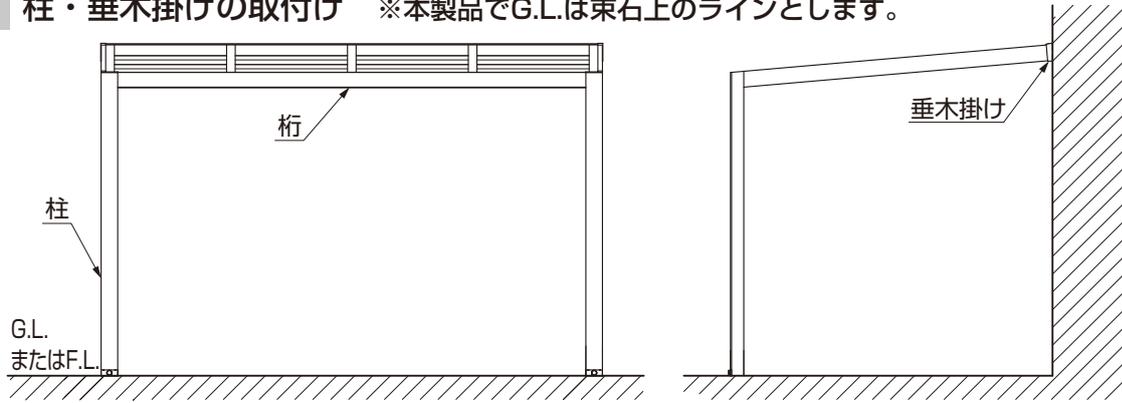


図1-1

表 1-1 垂木掛け固定位置 (F.L.～垂木掛け下面)

	6 尺	許容範囲		8 尺	許容範囲
H2100	2338.3 (2100+238.3)	2336～2339	H2100	2390.8 (2100+290.8)	2388～2391
H2300	2538.3 (2300+238.3)	2536～2539	H2300	2590.8 (2300+290.8)	2588～2591
H2500	2738.3 (2500+238.3)	2736～2739	H2500	2790.8 (2500+290.8)	2788～2791

表 1-2 柱埋込み深さ、加工寸法

	標準寸法	許容範囲
埋込み仕様 (埋込み深さ)	550	450～553 (※1)
柱固定ベース仕様 (柱切断長)	553	553～555

ポイント

- 「2 基本寸法と各部名称 1. 基本寸法」を参照して柱、垂木掛け等の位置出しを行なってください。
- ルームタイプでは垂木掛けの固定の高さ、柱の埋込みや柱の切断寸法は表 1-1 の許容範囲に納まるように施工してください。許容範囲外で施工した場合、パネルのボトム材の作動に悪影響をきたし、雨水などの浸入の原因になります。
- 柱の垂直出しは確実に行ってください。躯体からの距離は基準にしないでください。
- 柱の長さは、埋込み寸法の最大値を550mm、G.L.～F.L.寸法の最大値を550mmとして設定しております。
- 記載の寸法は想定寸法です。切断加工前に必ず現場実寸法を確認してください。
- 柱は必ず下側より切断してください。
- 柱を埋込む仕様で、埋込み寸法、G.L.～F.L.寸法がいずれも550mmよりも短い場合は、それぞれ550mmとの差を「6 本体の施工 3. 柱・梁の取付け 3-2 柱の加工」の切断寸法に加えて切断してください。
柱の埋込み寸法は必ず450mm以上を確保してください。(※1)
例) 柱埋込み寸法450mm、G.L.～F.L.寸法500mmの場合： $(550\text{mm}-450\text{mm}) + (550\text{mm}-500\text{mm}) = 150\text{mm}$ となるので、指定切断寸法に150mmを加算して切断してください。
- 柱をベースプレート固定する仕様で、G.L.～F.L.寸法が550mmよりも短い場合は、550mmとの差を「6 本体の施工 3. 柱・梁の取付け 3-2 柱の加工」の切断寸法に加えて切断してください。
- それぞれが短くなった分、エクシオールおよびテラスの高さを高くしないでください。

1-2 屋根材受けの取付け

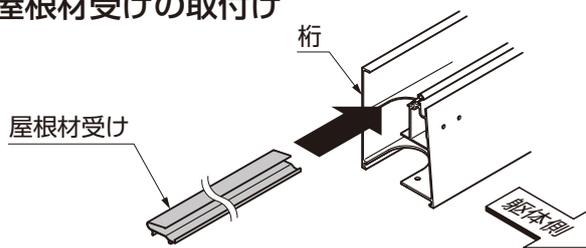


図1-2

ポイント

- 屋根材受けは「垂木掛けセット」に同梱しています。
- 屋根材受けの取付けは垂木掛けの取付けよりも後の工程になるため、取付けを忘れないように気をつけてください。

1-3 網戸・スロープ取付けに伴う床面仕上げについて

(1) 外面仕上げについて

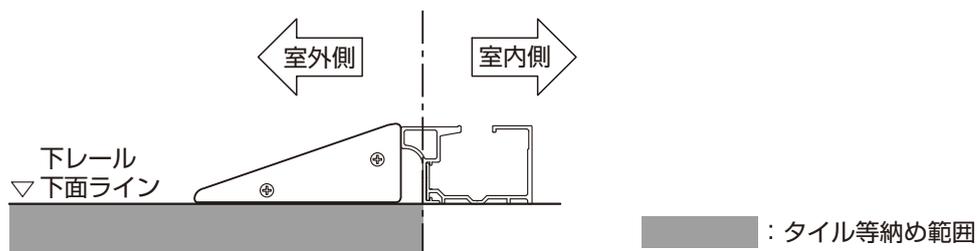


図1-3 タイル等納め範囲について

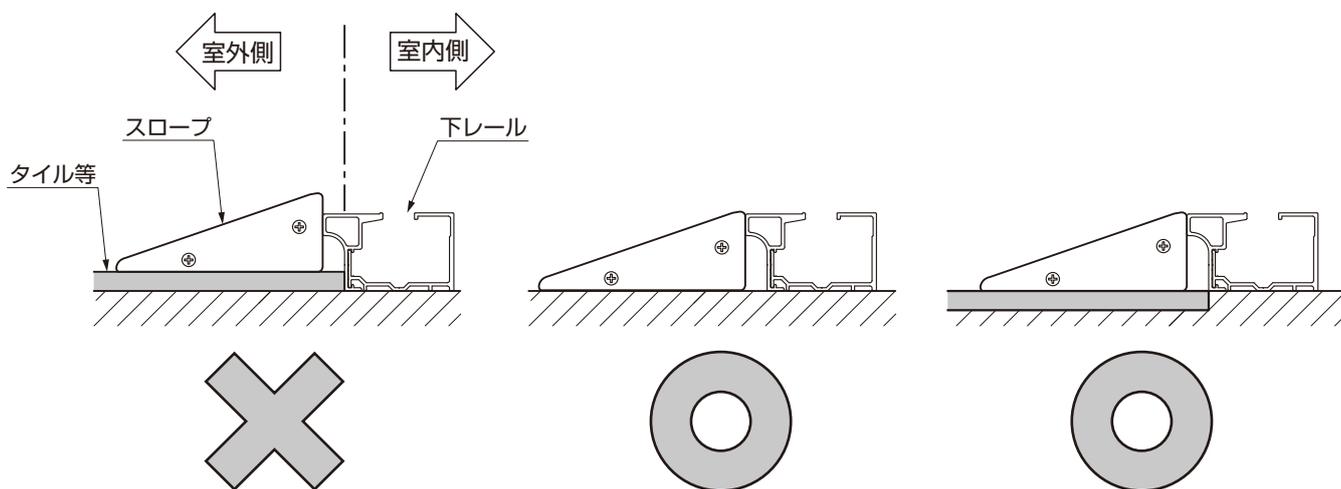


図1-4

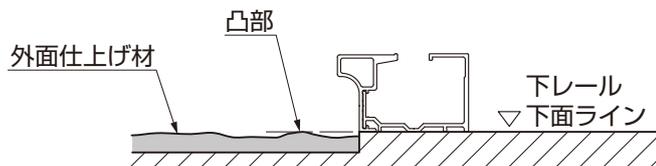


図1-5 凸凹の大きいタイル等の納まりについて

① 室外側の仕上げは、下レール下面と同じか低くなるように仕上げてください。

ポイント

- タイル等は [] の範囲に必ず納めてください。
- 室外側の仕上げを下レール下面より高くしてしまうと、オプションのスロープを取付けた場合、スロープが折戸パネル下面にあたり、折戸パネルが破損するおそれがあります。また、下レールにたまった水やゴミをコーナー部から掃き出せなく場合があります。
- 凸凹の大きなタイルなどで室外側を仕上げた場合、凹部ではなく、凸部が下レール下面より高くないように仕上げてください。

1. (つづき)

1-3 つづき

(2) フラット施工の内面仕上げについて

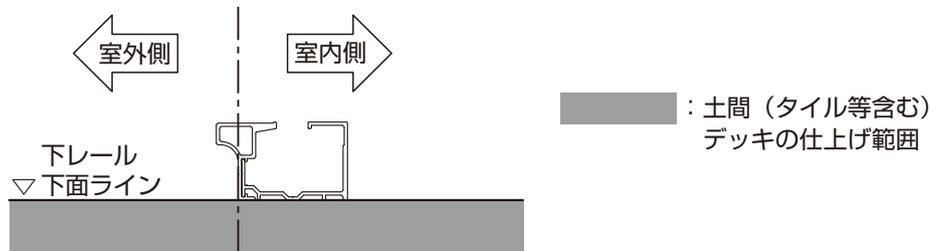


図1-6 仕上げ範囲について

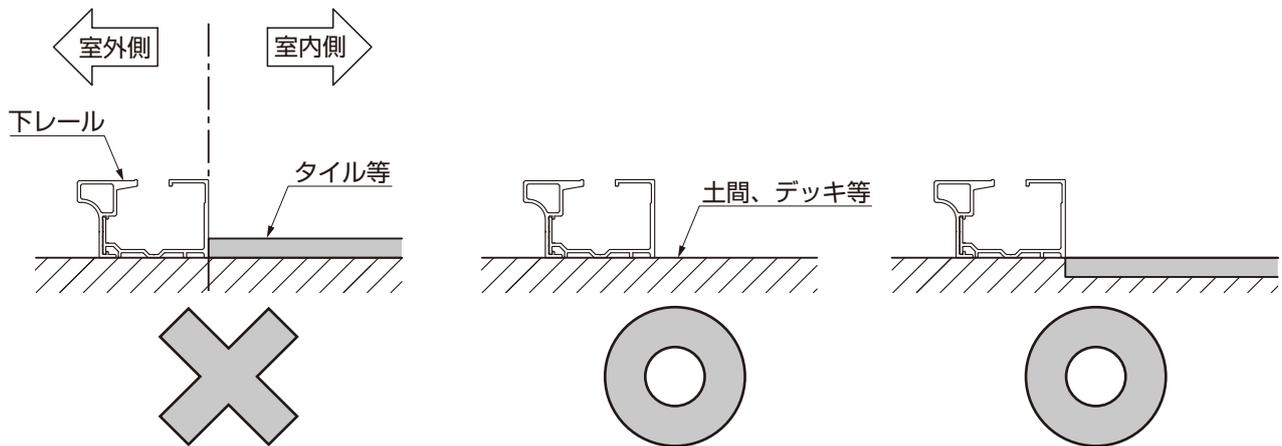


図1-7

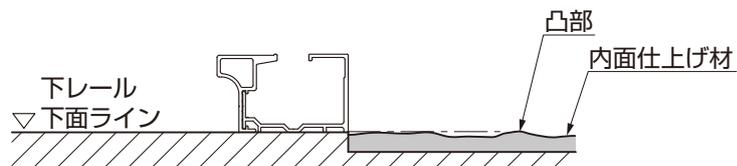


図1-8 凸凹の大きいタイル等の納まりについて

①室内側の仕上げは、下レール下面と同じか低くなるように仕上げてください。

ポイント

- タイル等は  の範囲に必ず納めてください。
- 室内側の仕上げを下レール下面より高くしてしまうと、オプションの網戸レールを取付けた場合、網戸レールが折戸パネル下面にあたり、折戸パネルや網戸レールが破損するおそれがあります。また、オプションのスロープを取付けた場合、スロープが折戸パネル下面にあたり、折戸パネルが破損するおそれがあります。
- 凸凹の大きなタイルなどで室外側を仕上げた場合、凹部ではなく、凸部が下レール下面より高くないように仕上げてください。

(3) 内面立上げ施工の内面仕上げについて

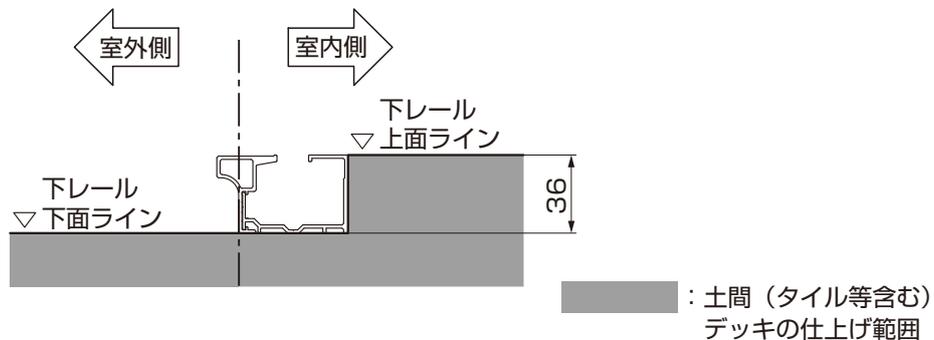


図1-9 仕上げ範囲について

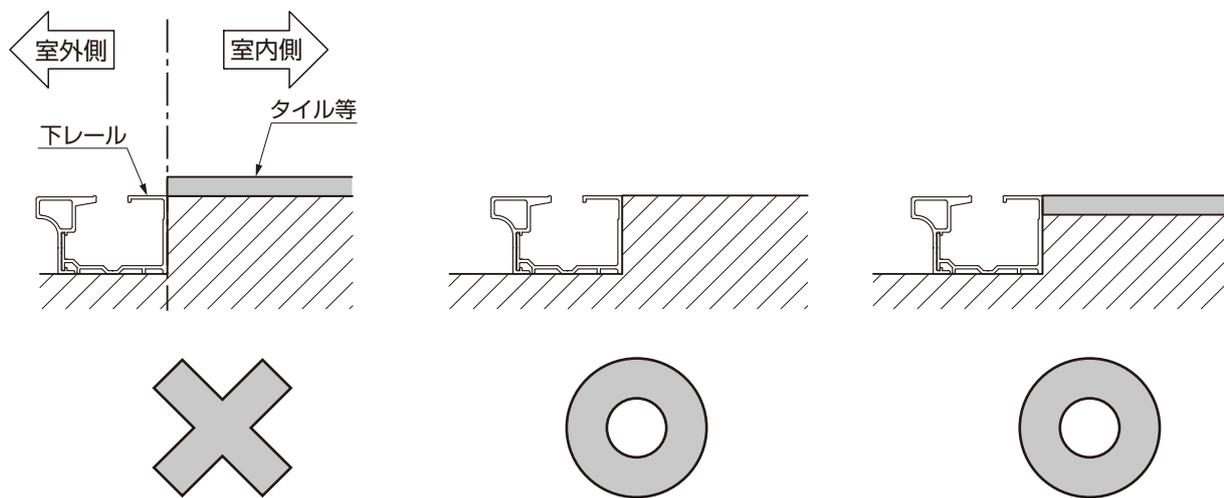


図1-10

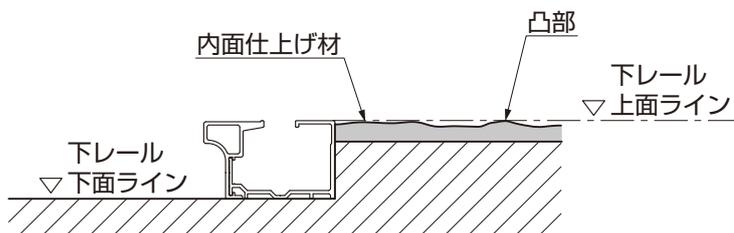


図1-11 凸凹の大きいタイル等の納まりについて

①室内側を下レール上面と同じか低くなるように仕上げてください。

ポイント

- タイル等は  の範囲に必ず納めてください。
- 室内側の仕上げを下レール上面より高くしてしまうと、オプションの網戸レールを取付けた場合、網戸レールが折戸パネル下面にあたり、折戸パネルや網戸レールが破損するおそれがあります。
- 凸凹の大きいタイルなどで室内側を仕上げた場合、凹部ではなく、凸部が下レール上面より高くないように仕上げてください。

1. (つづき)

1-4 エクシオールタイプ 方立の取付け、調整フィックスの固定について

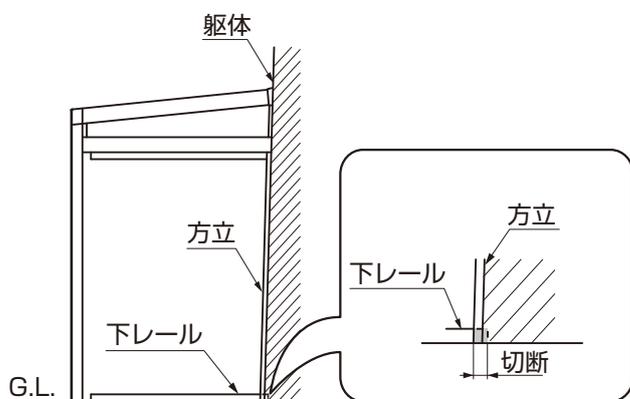


図1-12

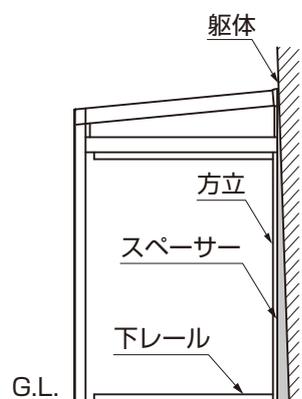


図1-13

① 躯体の状態によって、方立に調整フィックスを固定できない場合、図1-12、図1-13のように方立と調整フィックスを固定できるよう調整をして、位置出しを行なってください。

ポイント

- 図1-12の場合、下レールの切断、調整フィックスの切詰め加工をして、位置出しをしてください。
- 図1-13の場合、躯体と方立の間にスペーサーを入れ、位置出しをしてください。

1-5 垂木カバーの取付け

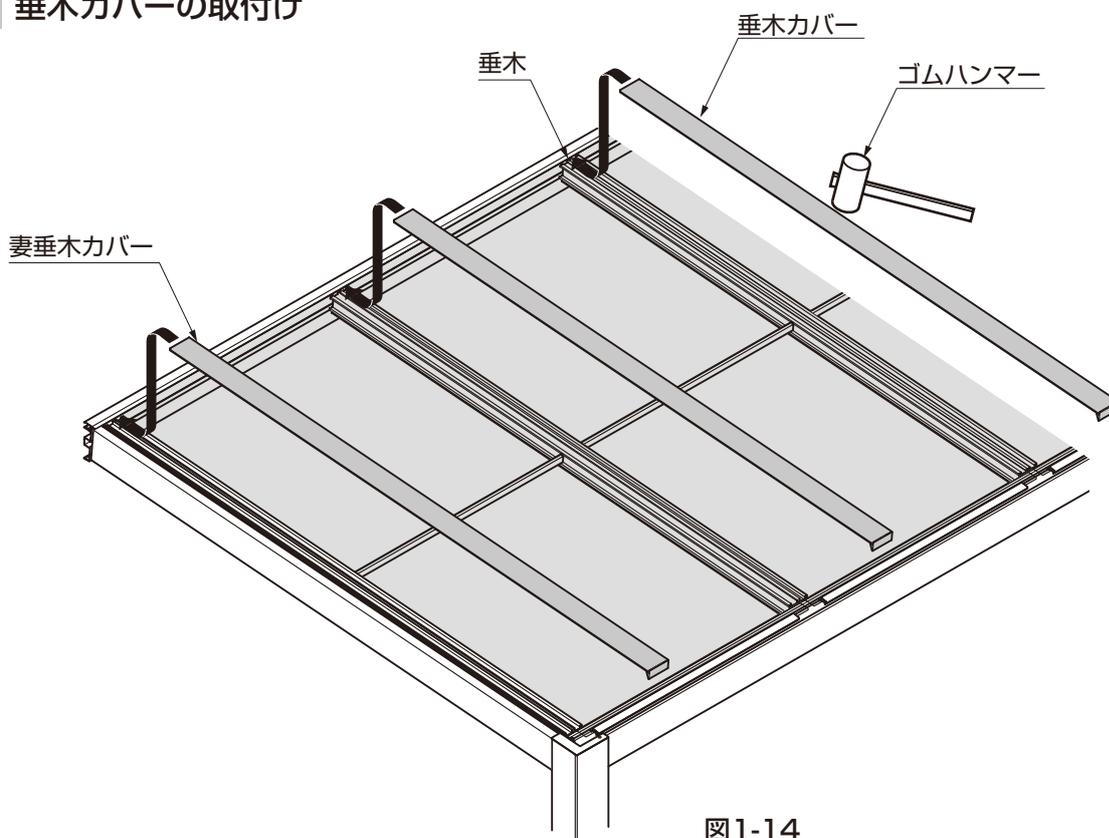


図1-14

ポイント

- 垂木カバー、妻垂木カバーは部材が凹まないように注意しながら、ゴムハンマー等で押込んでください。

1-6 コーナー部の垂直出しについて

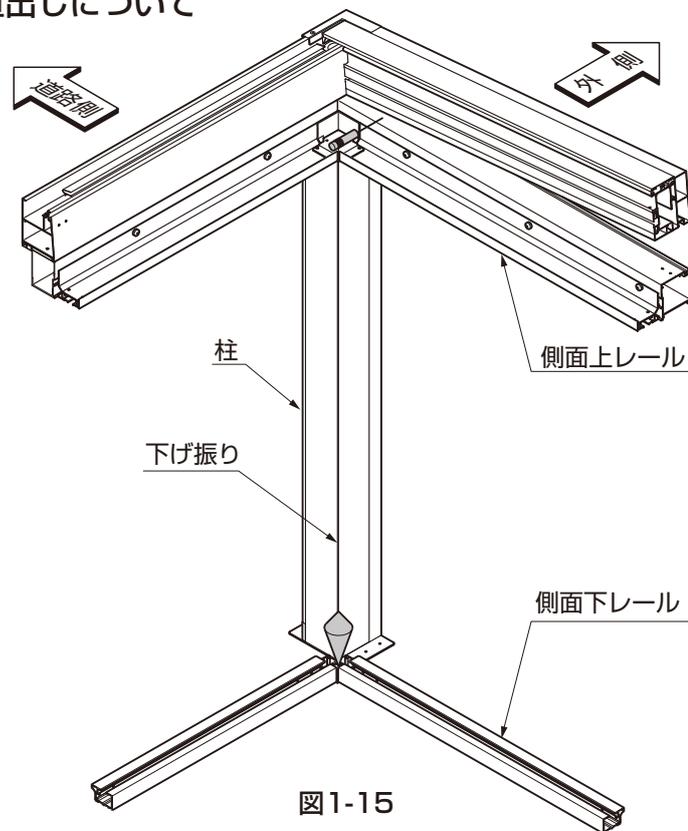


図1-15

ポイント

- 側面上レールと側面下レールの内側角部を、下げ振りを使って垂直な位置にしてください。これを怠ると、パネルのコーナー部の通過がスムーズでなくなります。

1-7 シーリング処理

(1) 基本タイプ

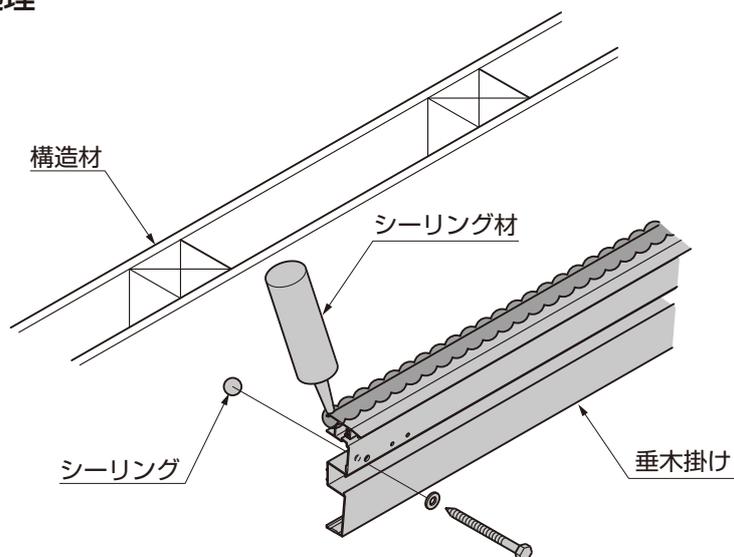


図1-16 垂木掛け、垂木掛け取付けネジ打ち込み部

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。

1. (つづき)

1-7 つづき

(1) つづき

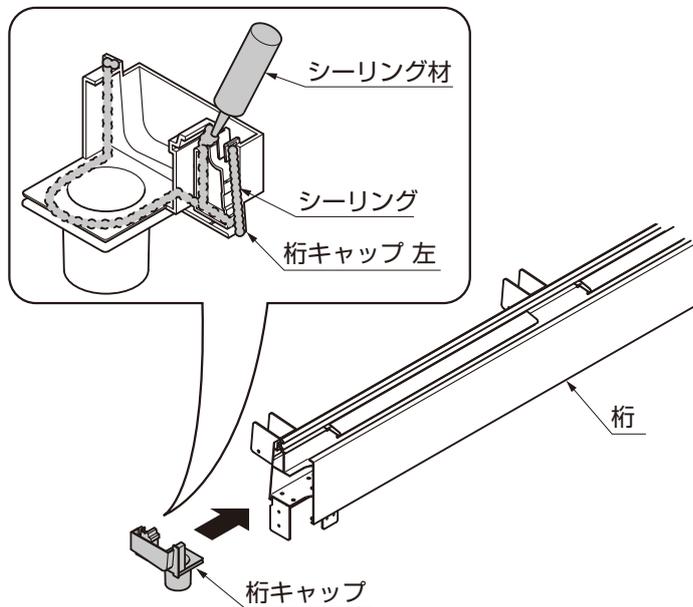


図1-17 桁キャップ

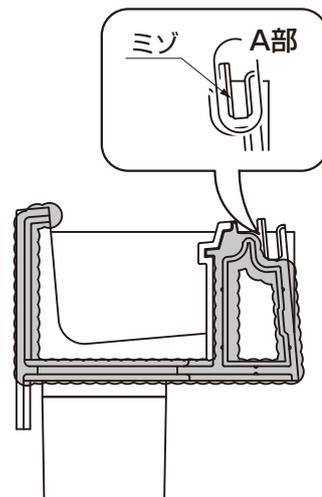


図1-18 ミゾ部シーリング詳細

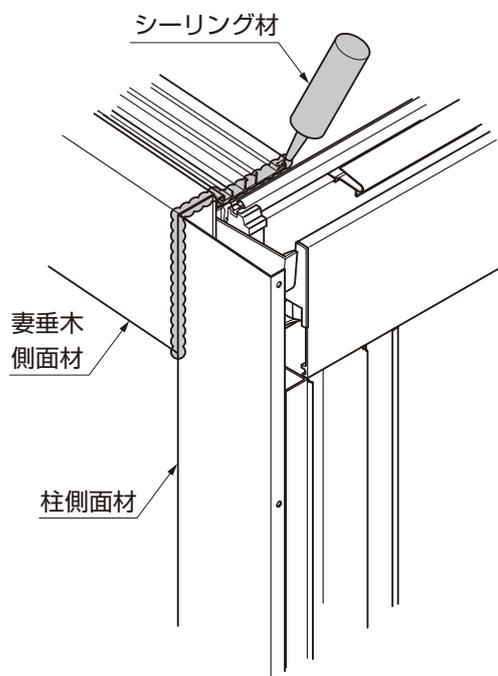
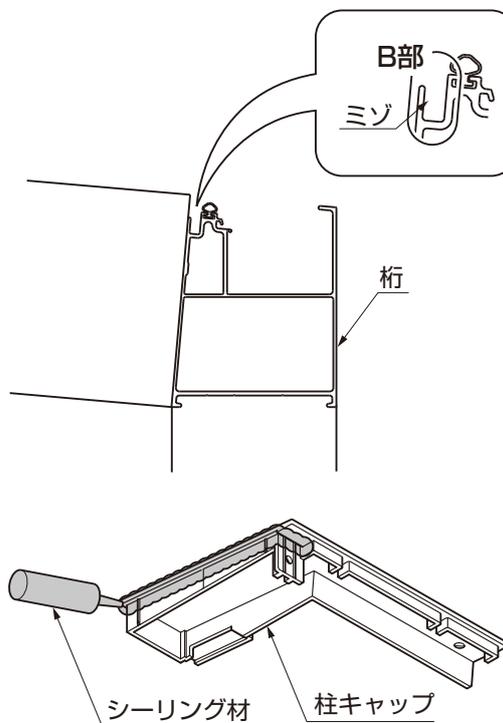


図1-19 柱キャップ、柱・妻垂木側面材



ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- A部、B部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図1-18、図1-19参照)

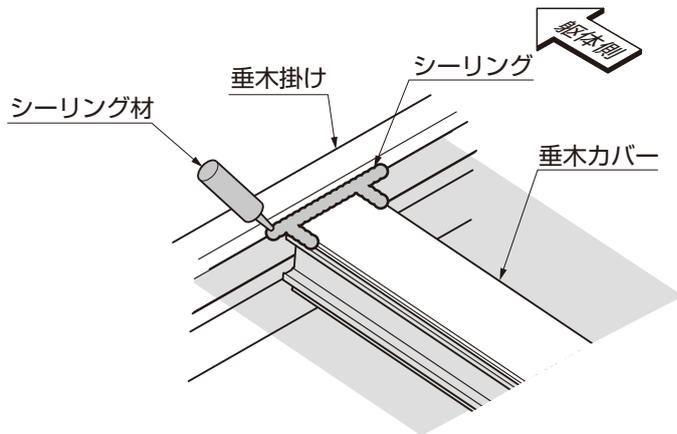


図1-20 垂木掛け・垂木カバー

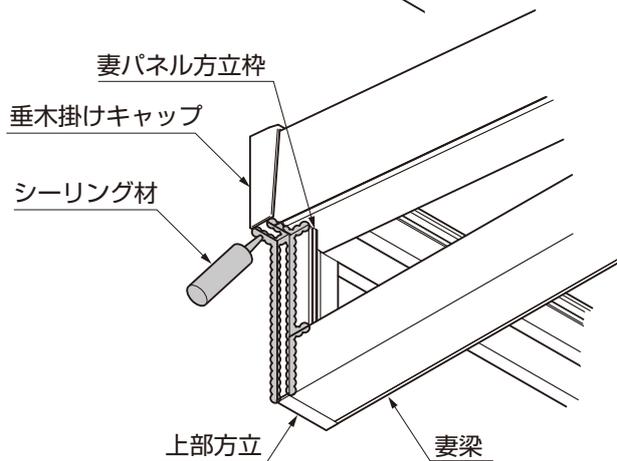
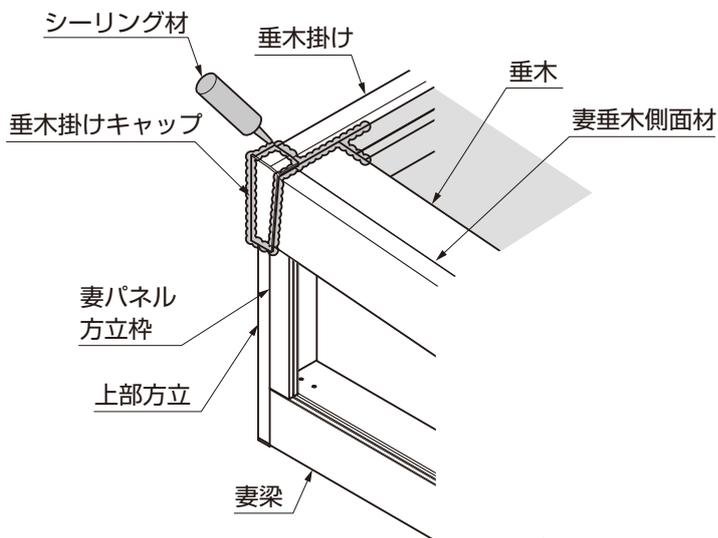


図1-21 垂木掛けキャップ・上部方立・
妻パネル方立枠・垂木・妻垂木側面材

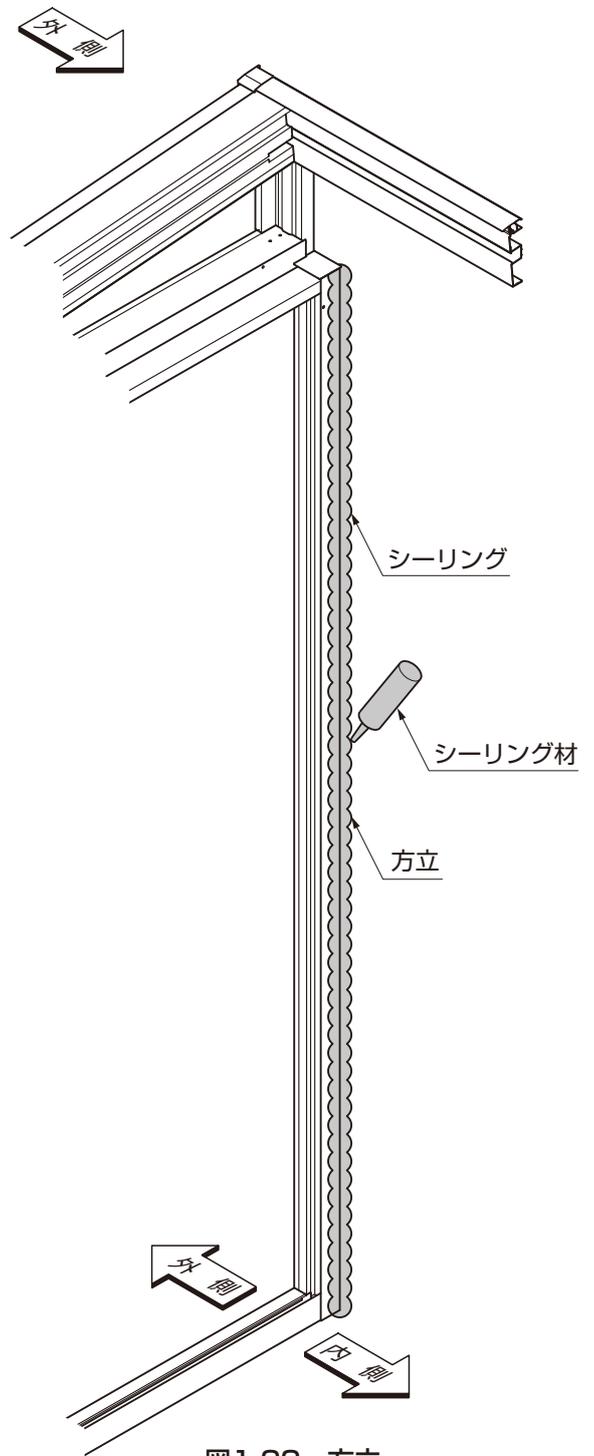


図1-22 方立

ポイント

●指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。

1. (つづき)

1-7 つづき

(2) 連棟、入隅の場合 ※基本タイプのシーリングに加えて行ってください。

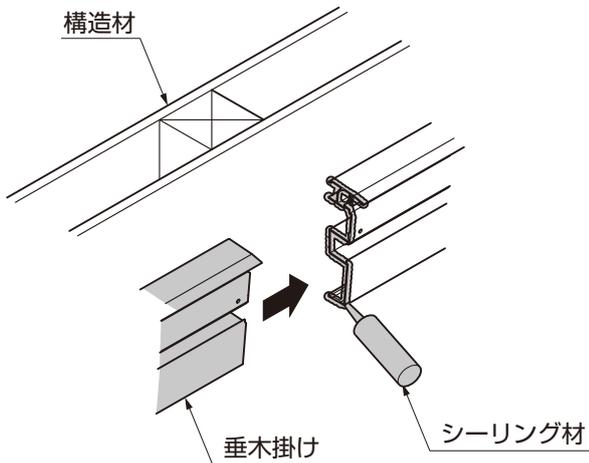


図1-23 連棟時 垂木掛け

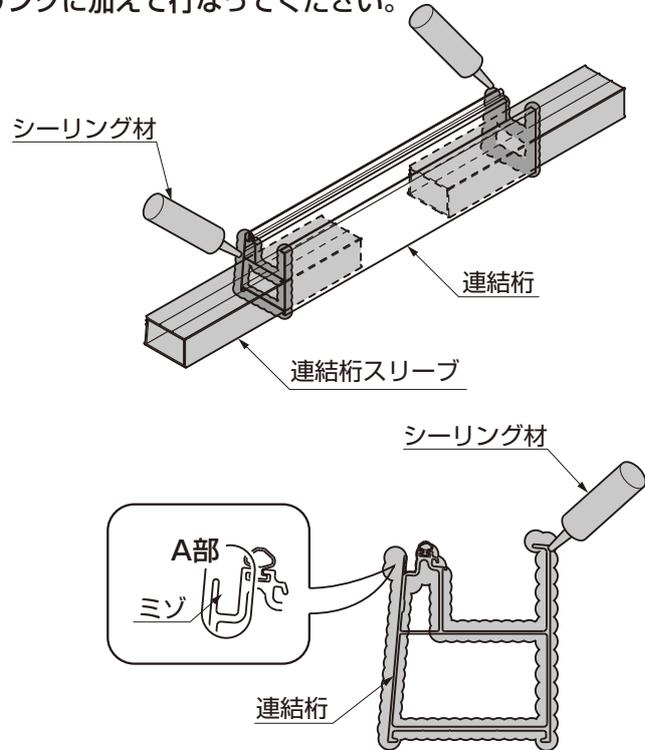


図1-24 連棟時 桁

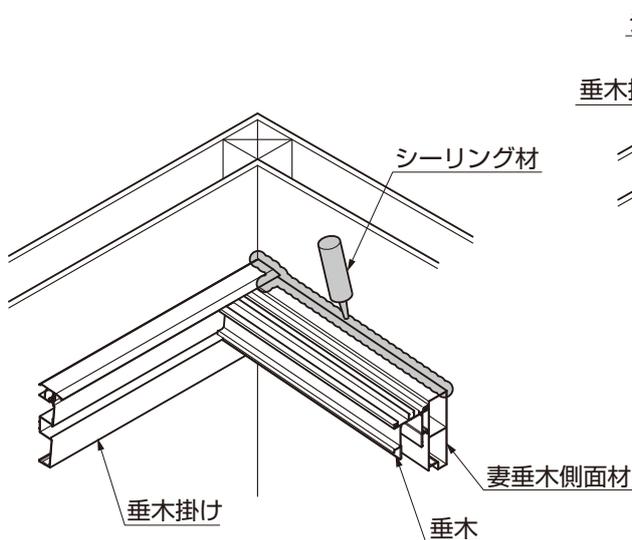


図1-25 入隅時 躯体側妻垂木側面材

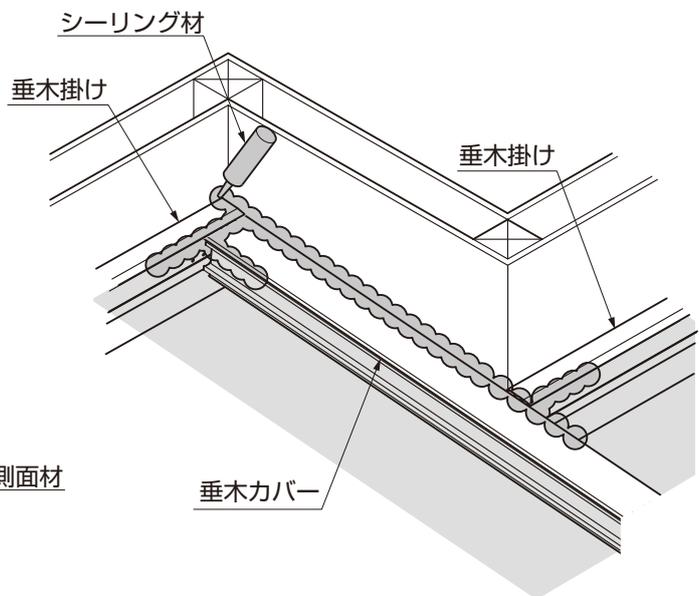


図1-26 出幅違い躯体側垂木部

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。雨漏りの原因になります。
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図1-24参照)

5 施工の前の重要確認事項

6 本体の施工

1. 水盛遣方・水糸張り

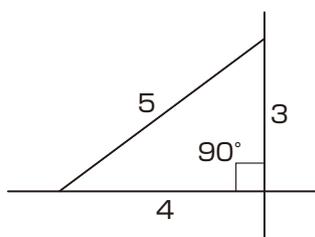
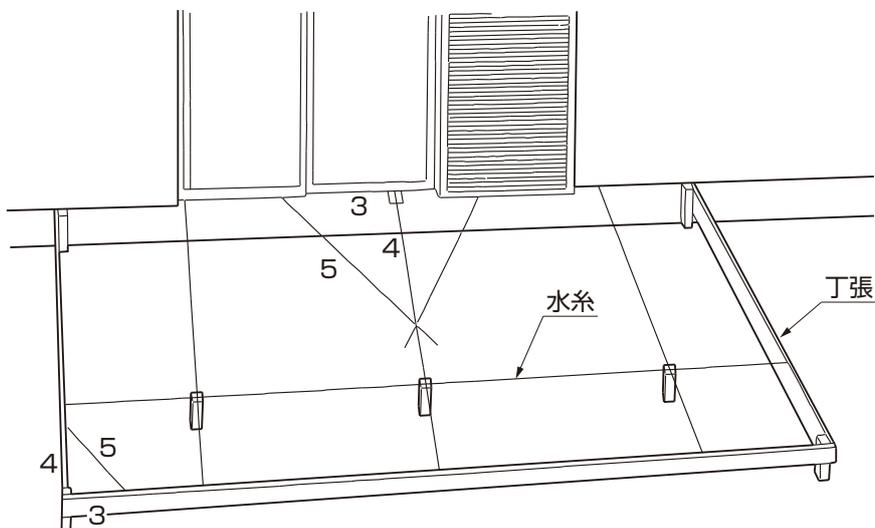


図1-1 直角出し寸法

- ①「2 基本寸法と各部名称」を参照して本体の取付位置およびフロアの高さを決めてください。
- ②前面・両側面に丁張を組んでください。
- ③躯体に柱寸法の印をつけ、図1-1の方法で直角をだし、束柱の位置を出してください。
- ④束柱の位置から、両側の柱位置を決めてください。
- ⑤基準となる箇所の寸法を図1-2を参照し、必要部分の墨出しをしてください。

ポイント

- ルームタイプの場合は、下レール取付けレベルの高さを正確に位置出しし、水平に土間を仕上げてください。下レール取付けレベルの高さが正確でないとパネルの開閉やボトム材の作動に支障が出る場合があります。
- 丁張の位置は本体外寸より前面・両側面ともにやや大きめに決めてください。
- 丁張は水準器等で水平を取ってください。
- 各コーナーの直角を定規、図1-1の方法等で割り出してください。

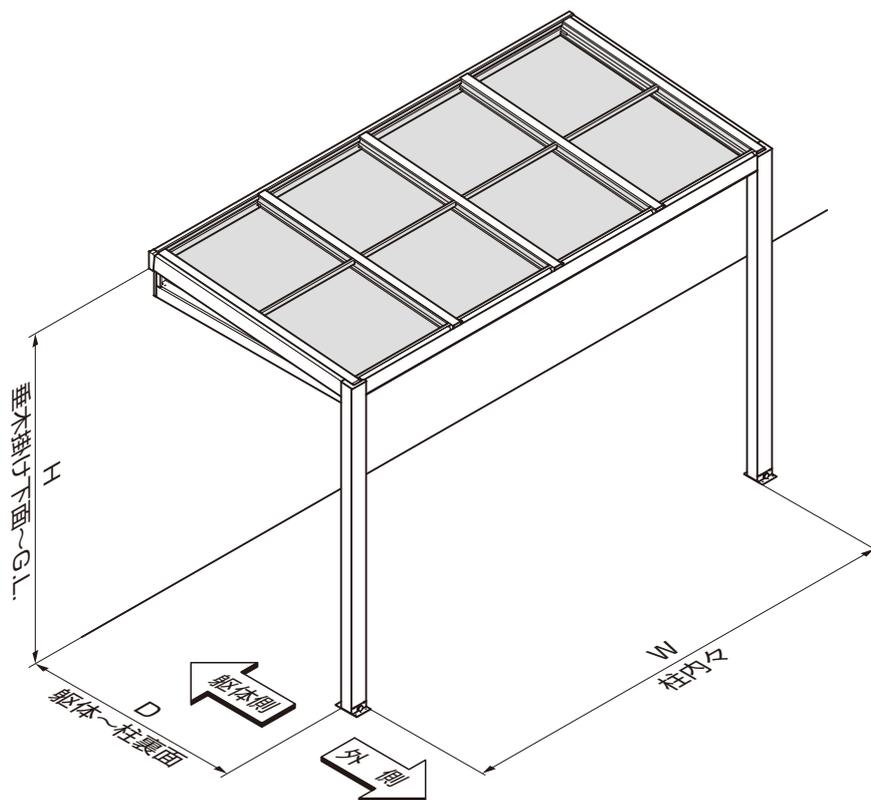


図1-2

2. 垂木掛けの取付け

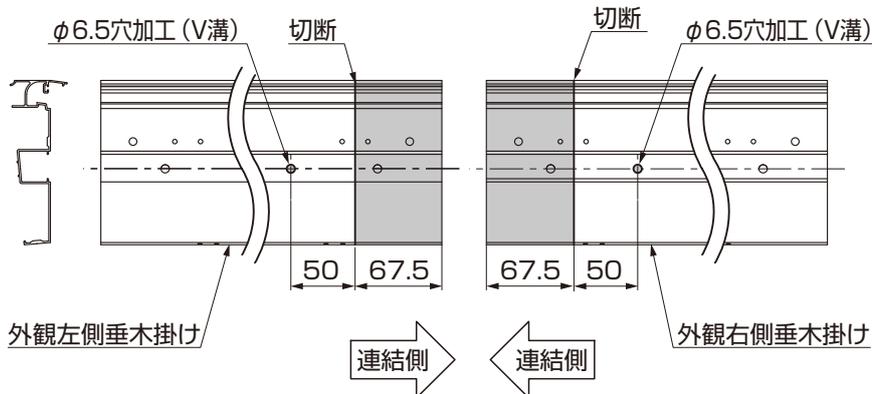


図2-1 連棟の場合の垂木掛けの加工

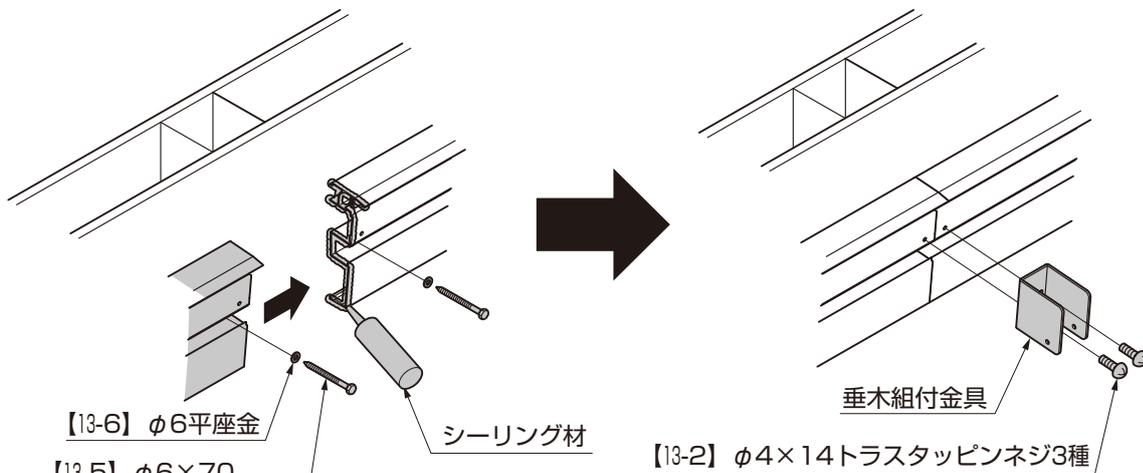
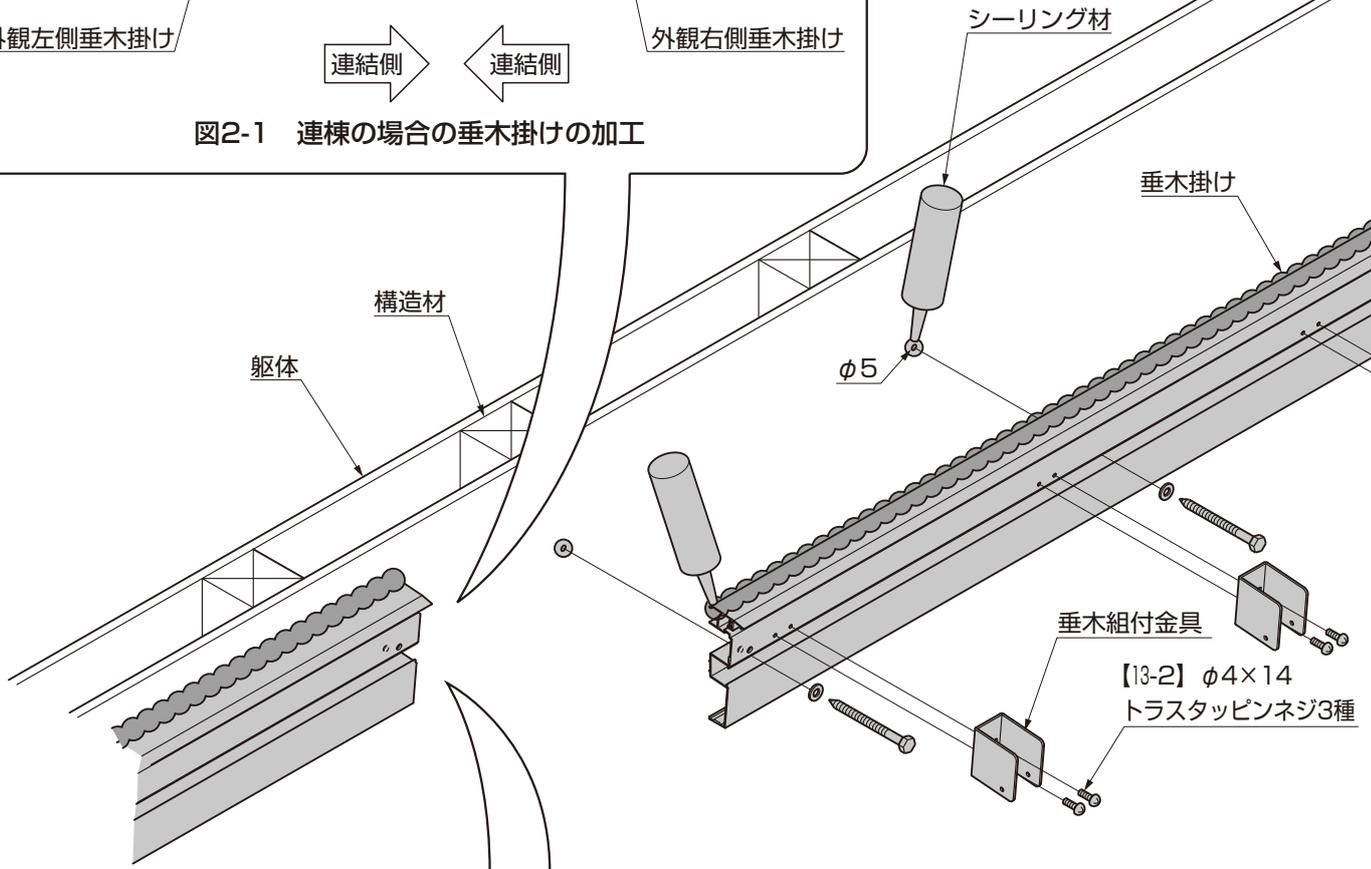
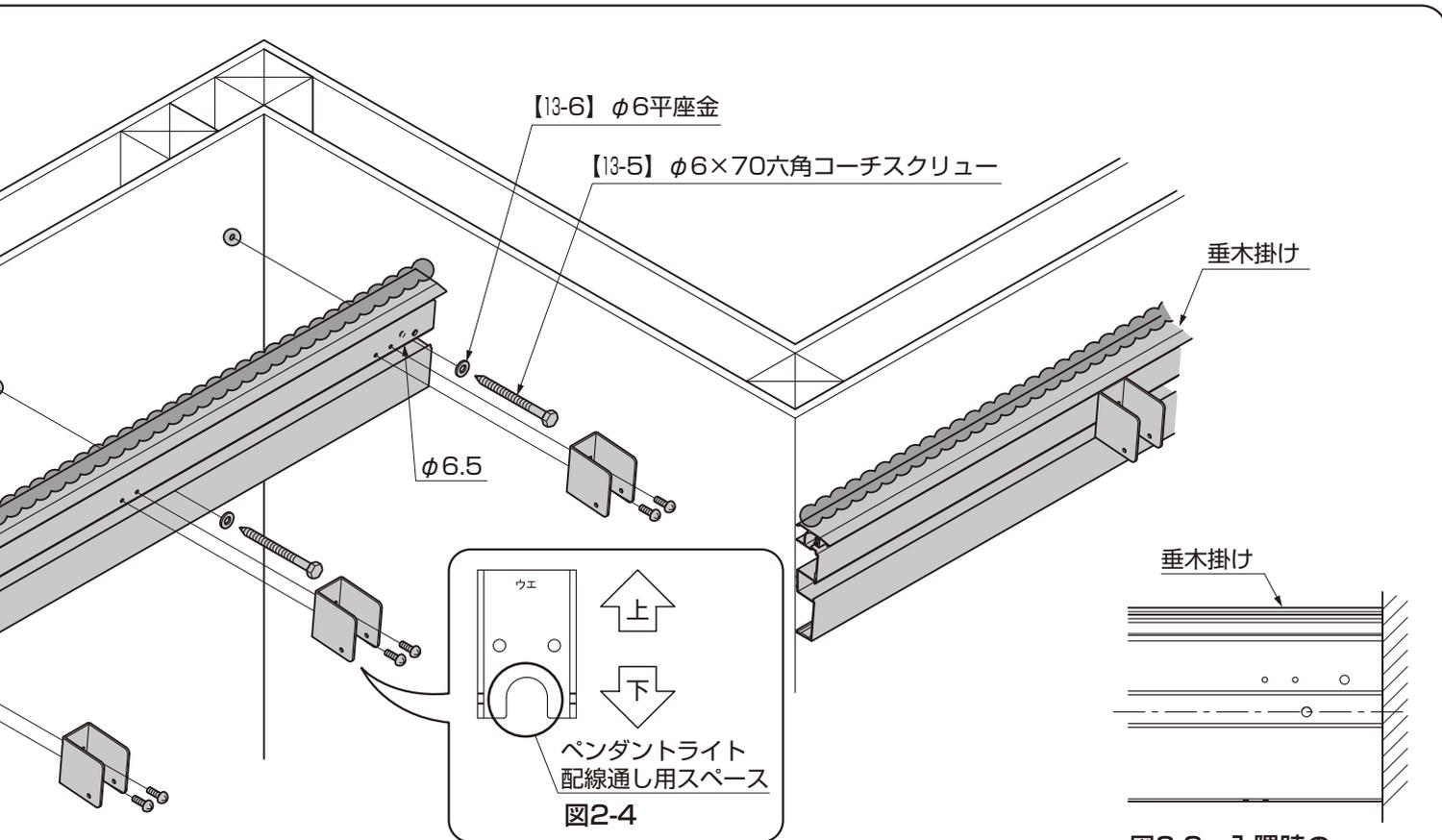


図2-2 連棟の場合の取付け詳細



1.基本タイプの場合

- ①垂木掛けV溝部にφ6.5の穴をあけてください。
- ②垂木掛け取付け用の穴位置を躯体にけがいて、φ5の下穴をあけてください。
- ③垂木掛けを躯体に、【13-5】、【13-6】で取付けてください。
- ④垂木組付金具を垂木掛けに【13-2】で取付けてください。

⚠ 注意

- 垂木掛けは強度確保のため、必ず躯体構造材に取付けてください。

🔑 ポイント

- φ6.5の穴加工の穴ピッチは、躯体構造材と同じピッチになるように加工してください。
- 垂木掛けの取付け高さ・水平・垂直に注意してください。
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。
- 入隅の場合は、図2-3のように取付けてください。
- ペンダントライトなどを設置するために垂木内に配線をする場合、垂木組付金具は図2-4を参照して取付けてください。

2.連棟タイプの場合

- ①連結する側の垂木掛け端部を、図2-1を参照して加工してください。
- ②垂木掛け取付け用の穴位置を躯体にけがいて、φ5の下穴をあけてください。
- ③垂木掛け連結部分にシーリングをして躯体に、【13-5】、【13-6】で取付けてください。(図2-2参照)
- ④垂木組付金具を連結した垂木掛けにまたがるように、【13-2】で取付けてください。(図2-2参照)

🔑 ポイント

- 垂木掛けの取付け高さ・水平・垂直に注意してください。
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。
- ペンダントライトなどを設置するために垂木内に配線をする場合、垂木組付金具は図2-4を参照して取付けてください。

図2-3 入隅時の垂木掛けの位置

3. 柱・桁の取付け

3-1 柱の建込み位置について

(1) ルームタイプ、テラスタイプの場合

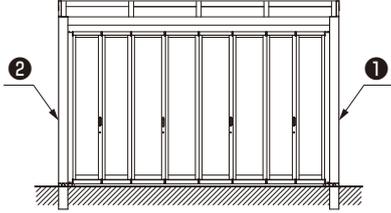


図3-1 ルームタイプ

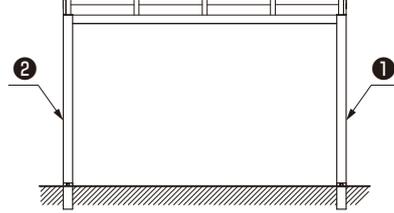


図3-2 テラスタイプ

表 3-1

	①	②
ルームタイプ	ルームタイプ柱 右	ルームタイプ柱 左
テラスタイプ	テラスタイプ柱 右	テラスタイプ柱 左

ポイント

●テラスが妻梁上部側面フィックス仕様の場合、①および②の柱には妻梁金具取付け用の穴加工が必要です。

(2) ルームタイプ連棟、テラスタイプ連棟の場合

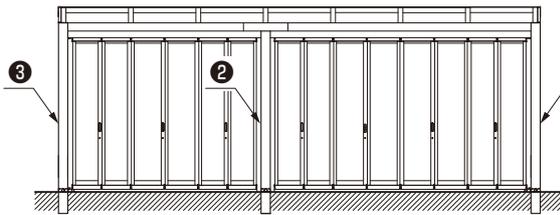


図3-3 ルームタイプ連棟

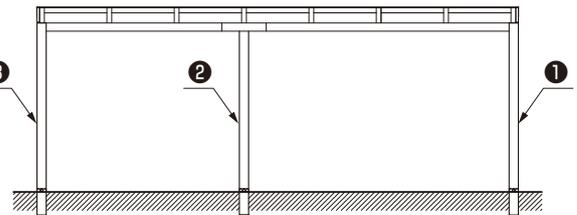


図3-4 テラスタイプ連棟

表 3-2

	①	②	③
ルームタイプ連棟	ルームタイプ柱 右	連棟柱	ルームタイプ柱 左
テラスタイプ連棟	テラスタイプ柱 右	連棟柱	テラスタイプ柱 左

ポイント

●テラスが妻梁上部側面フィックス仕様の場合、①および③の柱には妻梁金具取付け用の穴加工が必要です。

(3) 連棟エクシオールプラスの場合 ※図3-8は、エクシオールプラスLタイプを示します。

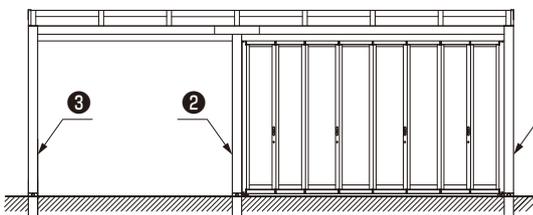


図3-5 連棟エクシオールプラスL

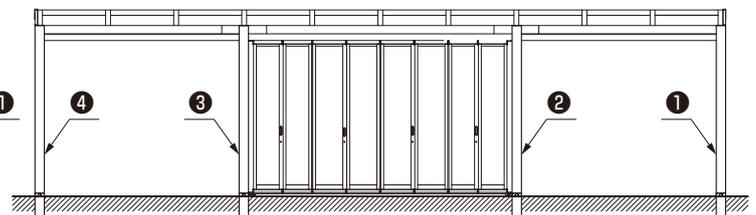


図3-6 連棟エクシオールプラスRL

表 3-3

	①	②	③	④
エクシオールプラスL	ルームタイプ柱 右	ルームタイプ柱 左	テラスタイプ柱 左	—
エクシオールプラスR	テラスタイプ柱 右	ルームタイプ柱 右	ルームタイプ柱 左	—
エクシオールプラスRL	テラスタイプ柱 右	ルームタイプ柱 右	ルームタイプ柱 左	テラスタイプ柱 左

ポイント

●テラスが妻梁上部側面フィックス仕様の場合、テラスの端柱にあたる柱には妻梁金具取付け用の穴加工が必要です。

3-2 柱の加工

※A寸法は柱の埋込み寸法が標準の550mm、G.L.～F.L.寸法が標準の550mmの場合です。
 ※主柱の加工図は右用です。左用については左右対称です。

(1) ルームタイプの場合 ※本加工は標準柱、ロング柱全て対象です。ロング柱は本ページの加工に加えて「P.66」も参照して加工が必要です。

※φ4.5の穴加工はベースプレート固定用です。柱を埋込む場合は不要です。

※標準柱を550mm埋込む場合は柱の加工は不要です。(※1)

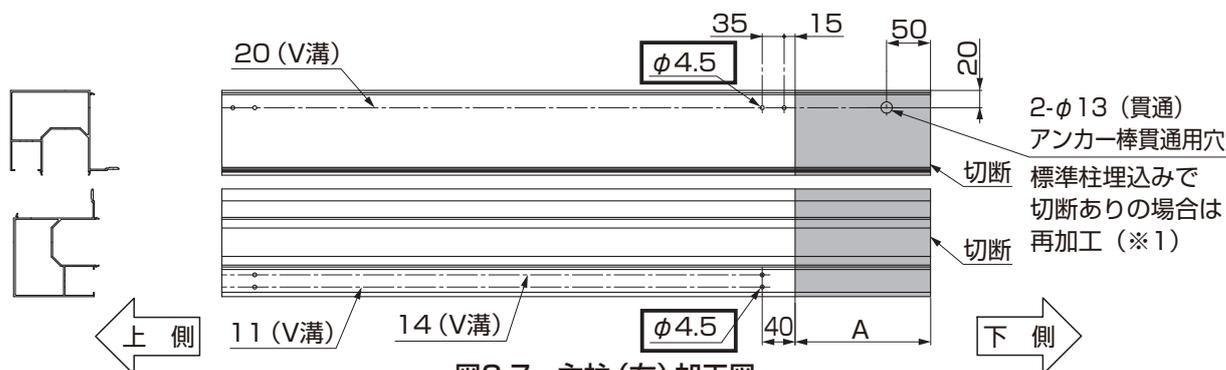


図3-7 主柱(右)加工図

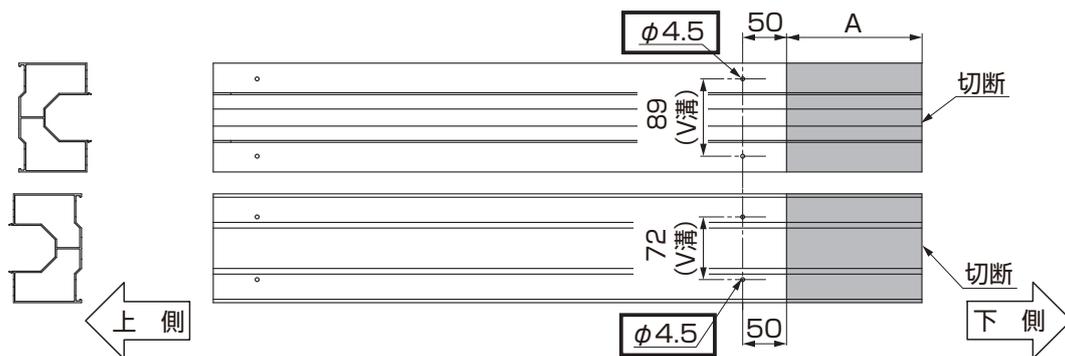


図3-8 連棟柱またはテラス用中間柱加工図

表3-4 切断寸法

	埋込み仕様	A 柱固定ベース仕様		(参考) F.L.～柱上端までの高さ (ベースプレート板厚3mmを含む)
		内面デッキ立上げ	フラット床	
H21柱	切断しない (※1)	切断しない (※2)	553	2190
H23柱				2390
H25柱				2590
ロング柱	H21	1115(※1)	1668(※2)	2190
	H23	915(※1)	1468(※2)	2390
	H25	715(※1)	1268(※2)	2590

①図3-7、図3-8、表3-4、を参照して柱を加工してください。

ポイント

- 柱の長さは、埋込み寸法の最大値を550mm、G.L.～F.L.寸法の最大値を550mmとして設定しております。
- 表3-4に記載の寸法は想定寸法です。切断加工前に必ず現場実寸法を確認してください。
- 柱は必ず下側より切断してください。
- 柱を埋込む仕様で、埋込み寸法、G.L.～F.L.寸法がいずれも550mmよりも短い場合は、それぞれ550mmとの差を表3-4のA寸法に加えて切断してください。柱の埋込み寸法は必ず450mm以上を確保してください。(※1)
 例) H21柱、埋込み寸法450mm、G.L.～F.L.寸法500mmの場合：
 $(550\text{mm} - 450\text{mm}) + (550\text{mm} - 500\text{mm}) = 150\text{mm}$ なので、 $0 + 150\text{mm} = 150\text{mm}$ 切断してください。
- 柱をベースプレート固定する仕様で、G.L.～F.L.寸法が550mmよりも短い場合は、550mmとの差を表3-4のA寸法に加えて切断してください。(※2)
- それぞれが短くなった分、エクシオールおよびテラスの高さを高くしないでください。

3. (つづき)

3-2 つづき

(2) ルームタイプ ロング柱の場合

※本加工はロング柱のみ対象です。

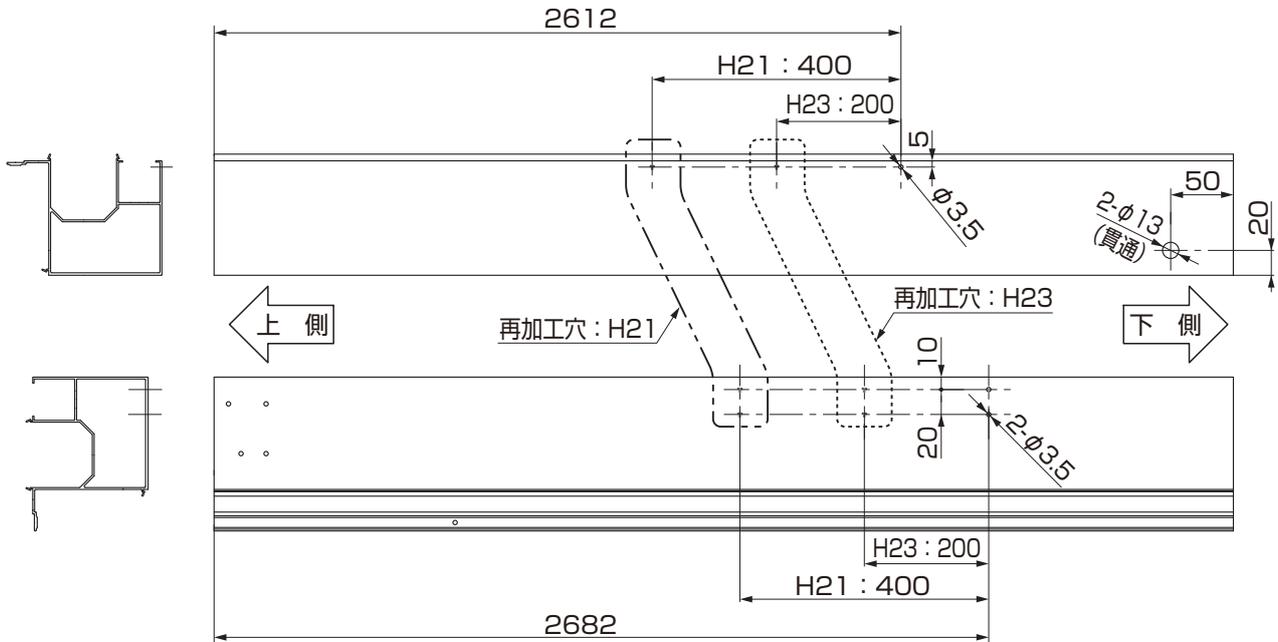


図3-9 主柱(右)加工図

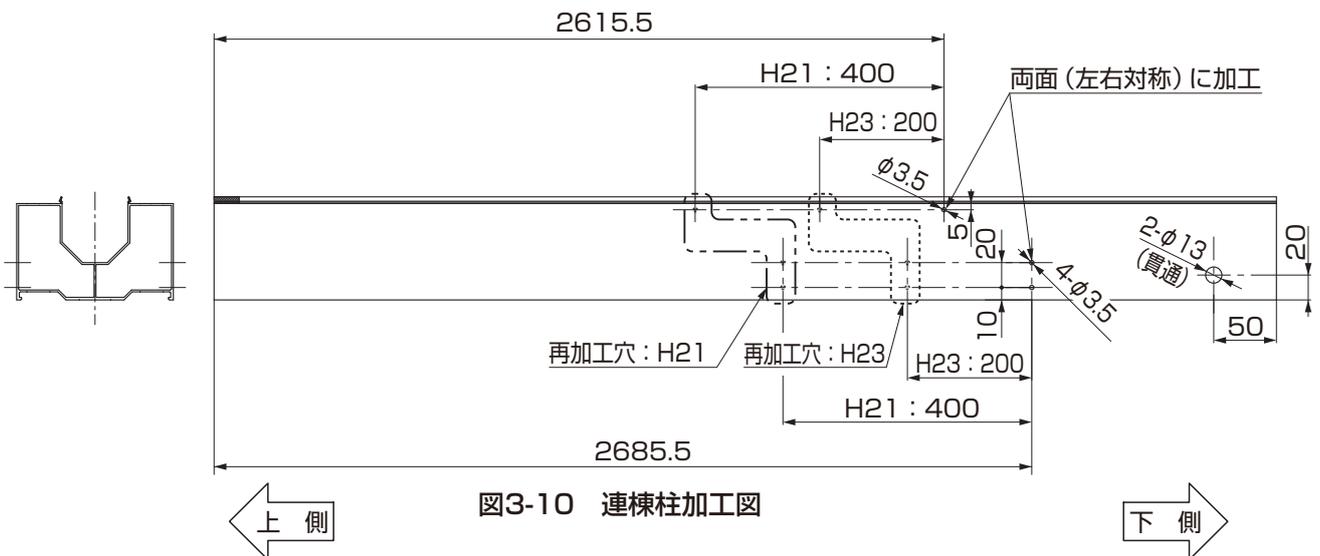


図3-10 連棟柱加工図

①柱の加工穴をガイドにH21は400mm、H23は200mmそれぞれ上側に再加工してください。

ポイント

●対象は、ルーム用主柱と連棟柱です。テラス用主柱およびテラス用中間柱では加工は不要です。

(3) エクシオールプラスのテラス用柱の場合

※本加工(φ4.5穴)はベースプレート固定用です。柱を埋込む場合は不要です。

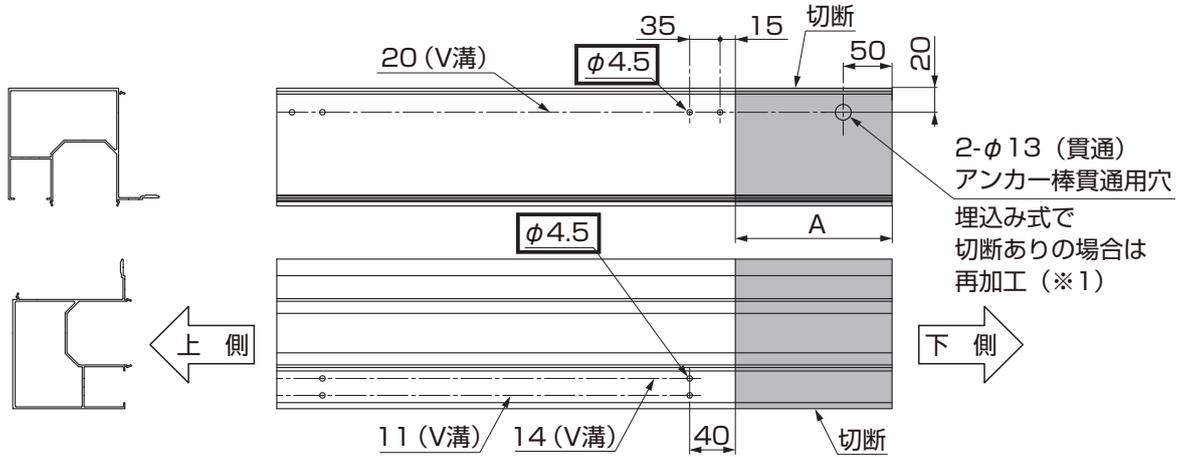


図3-11 テラス用柱(右)加工図

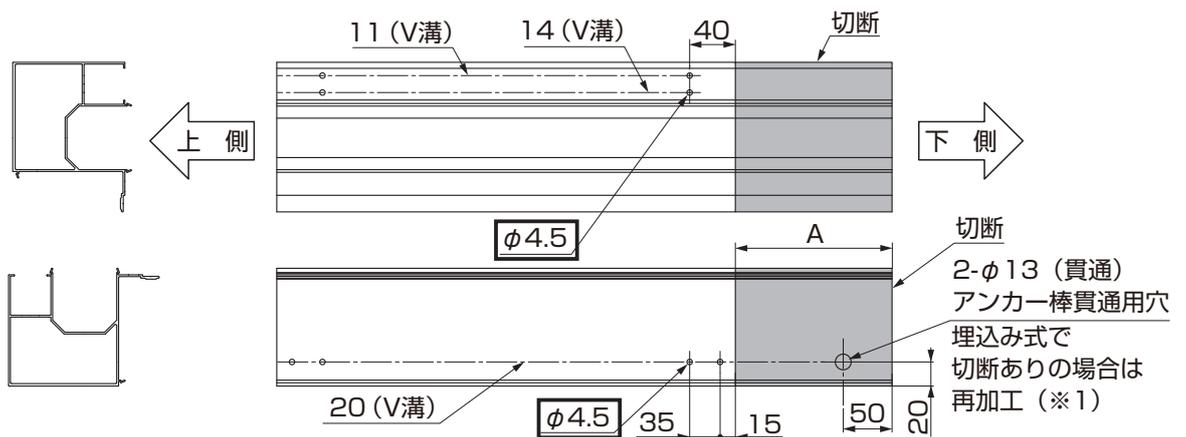


図3-12 テラス用柱(左)加工図

表3-5 切断寸法

	A		(参考) F.L.~柱上端までの高さ (ベースプレート板厚3mmを含む)
	埋め込み仕様	柱固定ベース仕様	
H21	1115 (※1)	1668 (※2)	2190
H23	915 (※1)	1468 (※2)	2390
H25	715 (※1)	1268 (※2)	2590
H33	切断しない (※1)	切断しない (※2)	3305

①図3-11、図3-12、表3-5、を参照して柱を加工してください。

ポイント

- 柱の長さは、埋込み寸法の最大値を550mm、G.L.~F.L.寸法の最大値を550mmとして設定しております。
- 表3-5に記載の寸法は想定寸法です。切断加工前に必ず現場実寸法を確認してください。
- 柱は必ず下側より切断してください。
- 柱を埋込む仕様で、埋込み寸法、G.L.~F.L.寸法がいずれも550mmよりも短い場合は、それぞれ550mmとの差を表3-5のA寸法に加えて切断してください。柱の埋込み寸法は必ず450mm以上を確保してください。(※1)
例)H23、埋込み寸法450mm、G.L.~F.L.寸法0mmの場合： $(550\text{mm}-450\text{mm})+(550\text{mm}-0\text{mm})=650\text{mm}$ なので、 $915+650\text{mm}=1565\text{mm}$ 切断して下さい。
- 柱を束石上にベースプレート固定する仕様で、G.L.~F.L.寸法が550mmよりも短い場合は、550mmとの差を表3-5のA寸法に加えて切断してください。(※2)
- それぞれが短くなった分、エクシオールおよびテラスの高さを高くしないでください。

3. (つづき)

3-3 柱の建込み ※入隅施工の場合は、「3-5 柱側面材」までの手順が済んでから柱を建込んでください。

(1) 埋込み仕様の場合 ※柱を埋込む場合の作業です。

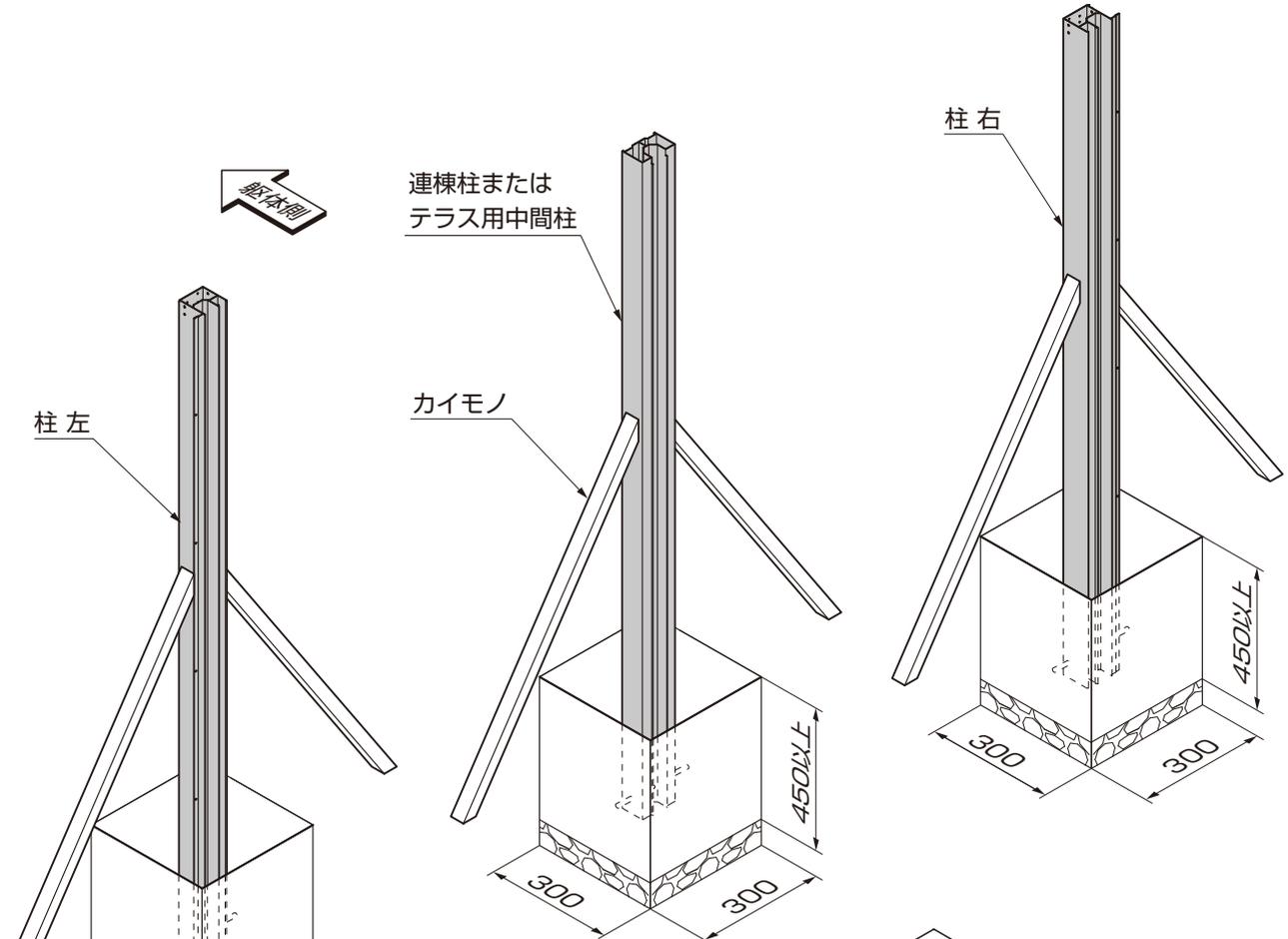


図3-13

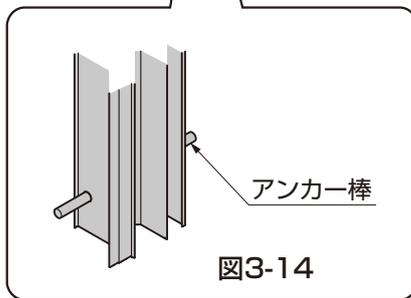


図3-14

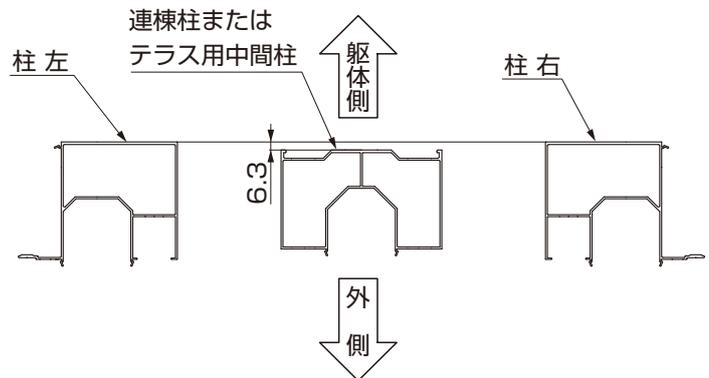


図3-15

- ① 柱にアンカー棒を差込み「2 基本寸法と各部の名称 1. 基本寸法」を参照して建込んでください。
- ② 柱が倒れないように、カイモノ等で仮固定してください。

ポイント

- 連棟仕様の場合は連棟柱またはテラス用中間柱を埋込んでください。
- 柱を固定するカイモノ等は現場で調達してください。

(2) ベースプレート仕様の場合

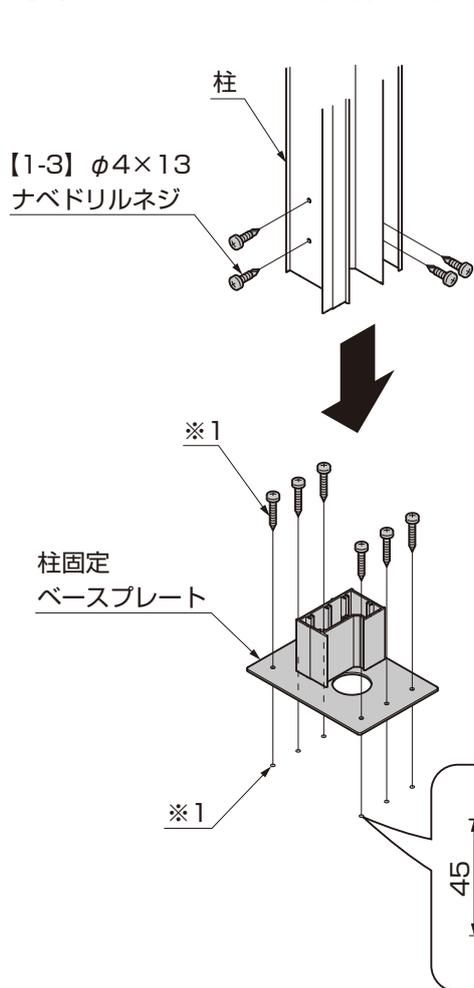


図3-16 柱の固定

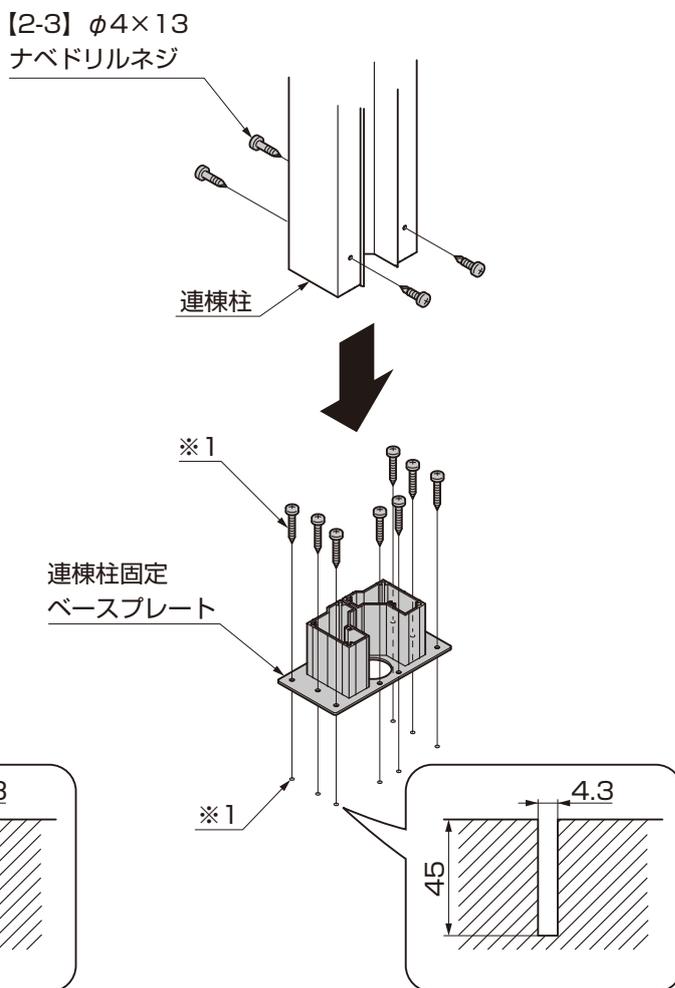


図3-17 連棟柱または
テラス用中間柱の固定

表 3-6 (※1) 柱固定ベースプレート取付けネジ一覧

	取付けネジ	下穴・深さ
土間・束石用	【1-3】φ5×35 ナベセルフタップアンカー	φ4.3・45mm
	【3-3】φ5×35 ナベセルフタップアンカー	
デッキ用	【1-4】φ4.5×63 サラ木ネジ	不要

ポイント

- 土間・束石の場合は、柱の位置を正確に出し取付けてください。一度取付けると、位置の変更ができません。
- 片入隅または両入隅仕様の場合は、この時点でベースプレートは床に固定しないでください。柱側面材を取付けられなくなります。

- ①柱ベースプレートを柱に【1-3】、【2-3】で取付けてください。
- ②柱固定ベースプレートを仮止めしてください。

ポイント

- 柱ベースプレートを固定するネジは、土間・束石用とデッキ用とでは異なります。(表3-6参照)
- 土間に固定する際は、土間の強度を確認してください。

3. (つづき)

3-4 桁の組立て

(1) 桁金具、桁組付け金具の取付け

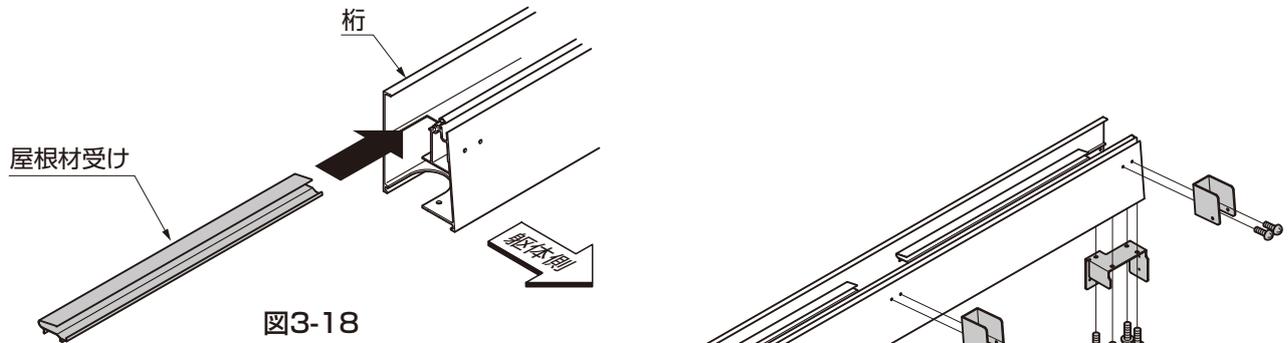


図3-18

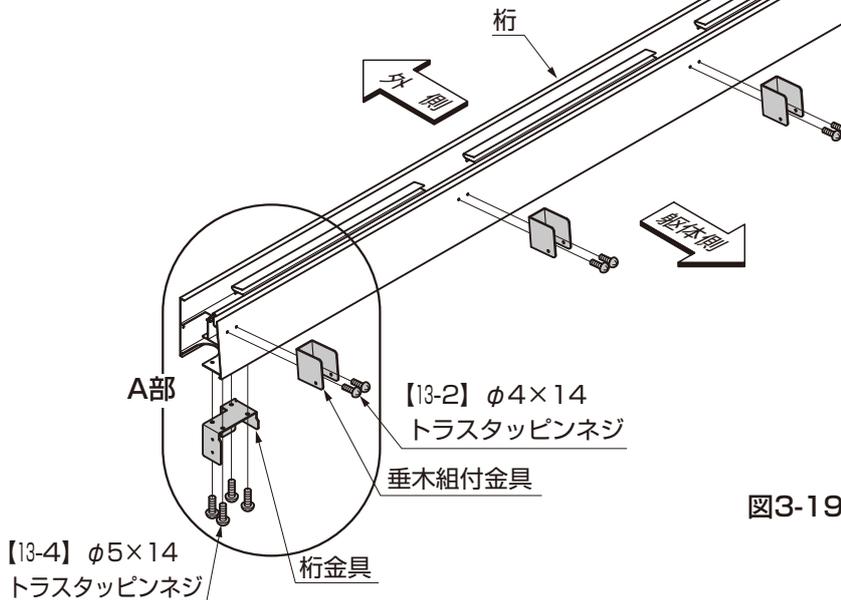


図3-19

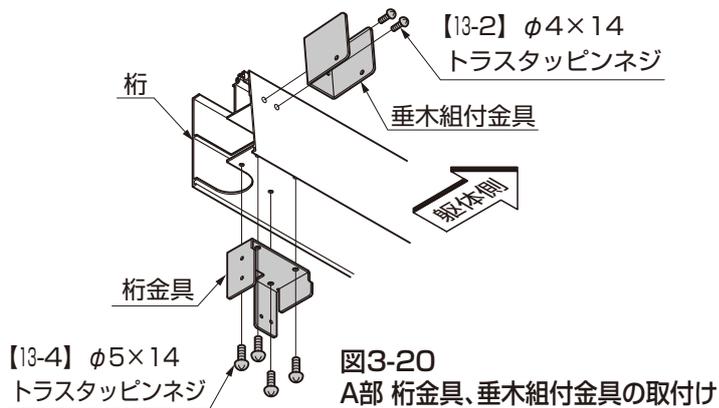


図3-20
A部 桁金具、垂木組付金具の取付け

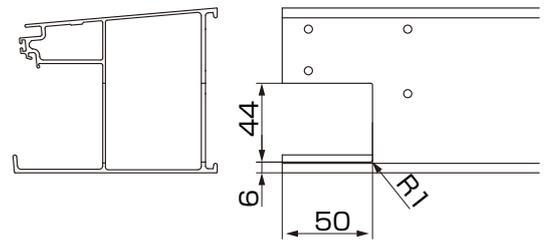


図3-21 桁を切詰める場合

- ① 屋根材受けを桁にスライドして差込んでください。
- ② 垂木組付金具を桁に【13-2】で取付けてください。
- ③ 桁金具を桁に【13-4】で取付けてください。

ポイント

- 屋根材受けは垂木掛けセットに同梱しています。
- 桁を切詰める場合は、切詰めた端部を長方形に切詰めてください。(図3-21参照)

(2) 中間部の柱取付材の取付け ※図は、エクシオールプラスタイプの場合の作業です。
 ※図は、エクシオールプラスLタイプを示します。
 エクシオールプラスRタイプの場合は左右対称です。

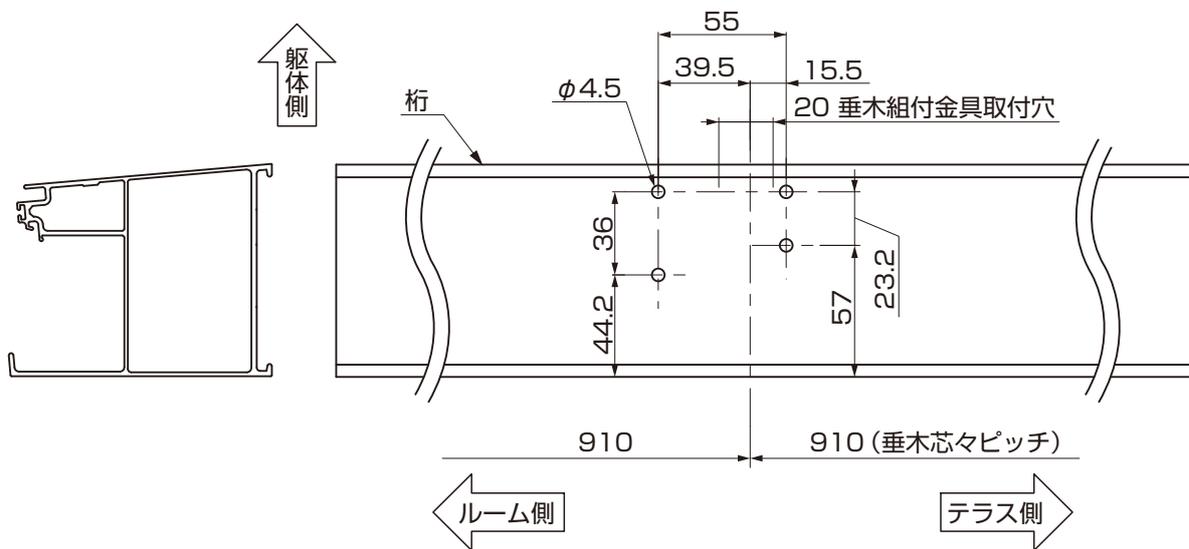


図3-22

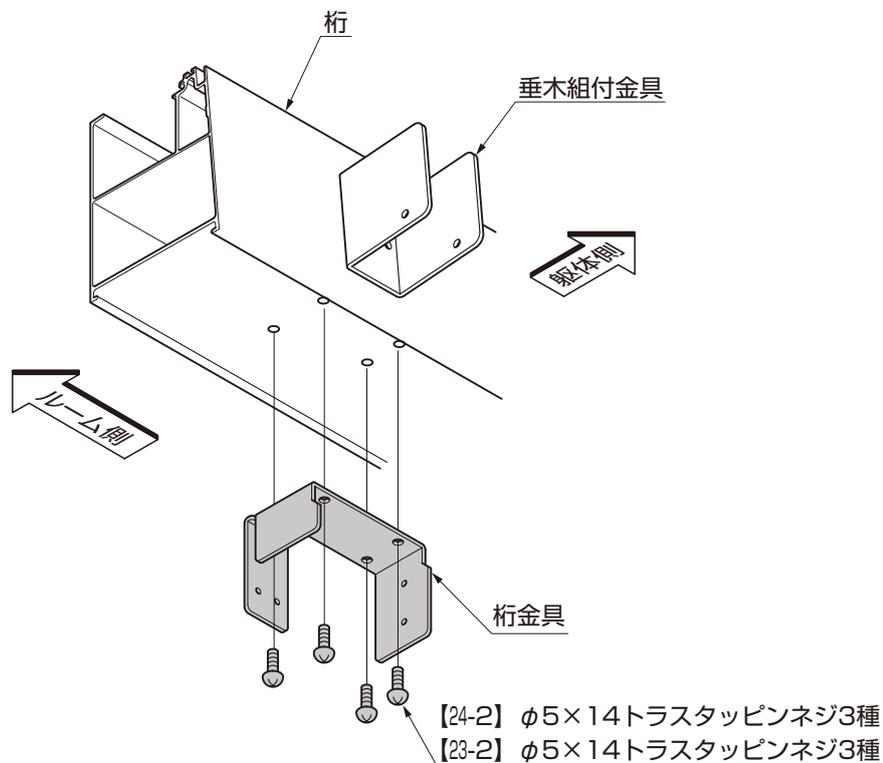


図3-23 エクシオールプラスの場合

- ①図3-22を参照して、桁にφ4.5の穴をあけてください。
- ②桁に桁金具を【23-2】または、【24-2】で取付けてください。

3. (つづき)

3-4 つづき

(3) テラス連棟、エクシオール連棟の場合 ※連棟の場合の作業です。

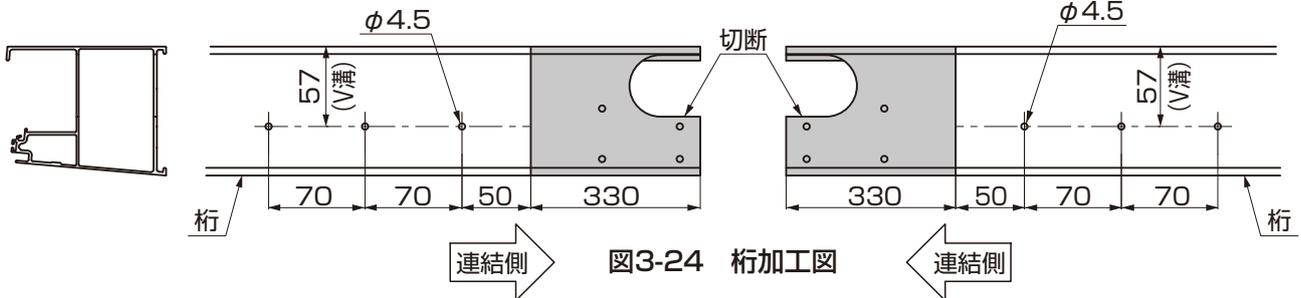


図3-24 桁加工図

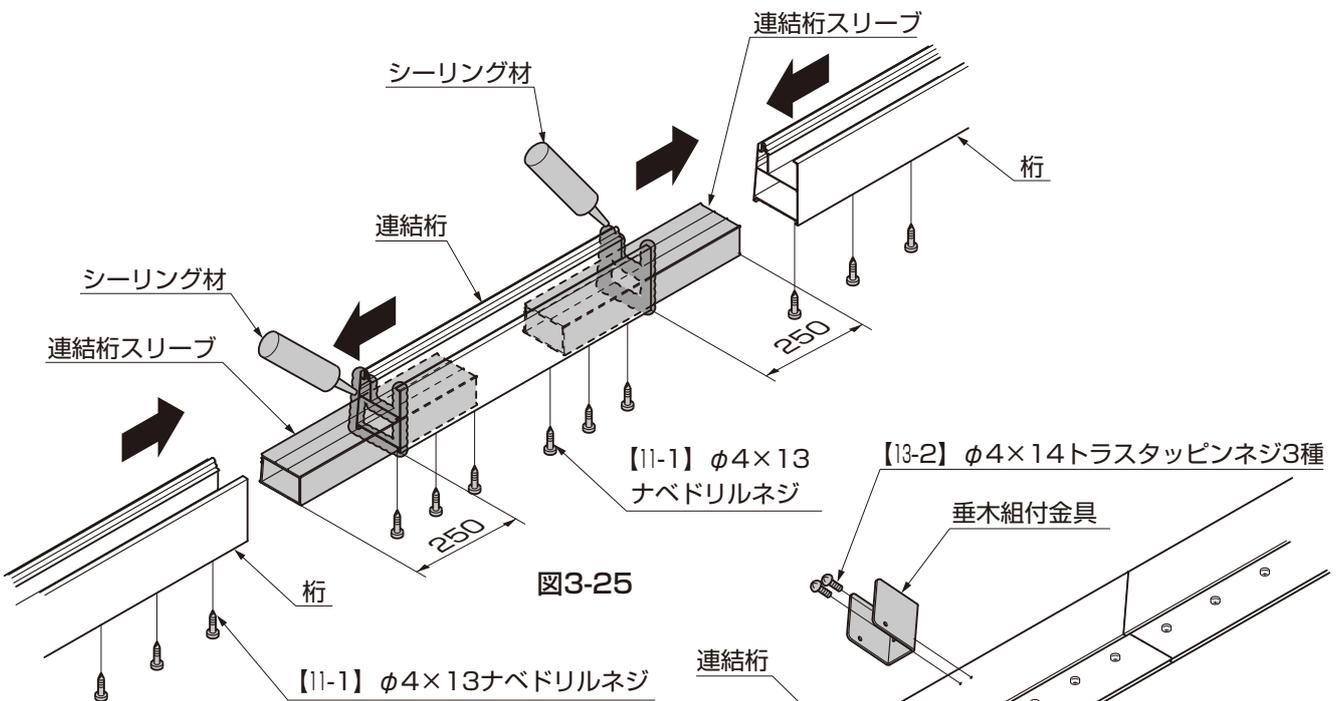


図3-25

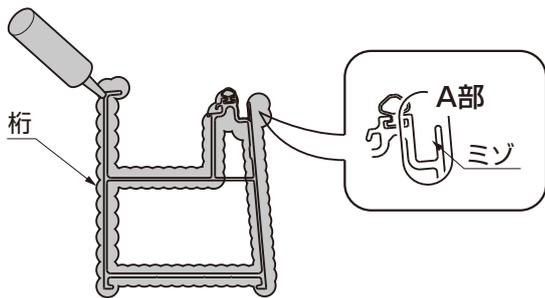


図3-26

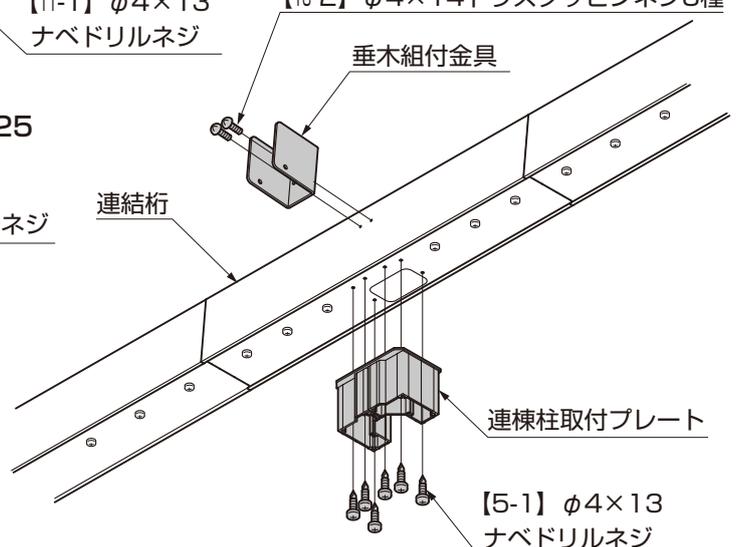


図3-27

- ① 図3-25を参照して桁を加工してください。
- ② 加工した桁、連結桁、連結桁スリーブを【11-1】で取付けてください。(図3-25参照)
- ③ 桁の連結部にシーリングをしてください。(図3-25、図3-26参照)
- ④ 垂木組付金具を連結桁に【13-2】で取付けてください。(図3-27参照)
- ⑤ 連棟柱取付プレートを連結桁に【5-1】で取付けてください。(図3-27参照)

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。(図3-25、図3-26参照)
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図3-26参照)

(4) エクシオールプラス連棟の場合 ※エクシオールプラスLタイプを示します。
 エクシオールプラスRタイプの場合は左右対称です。

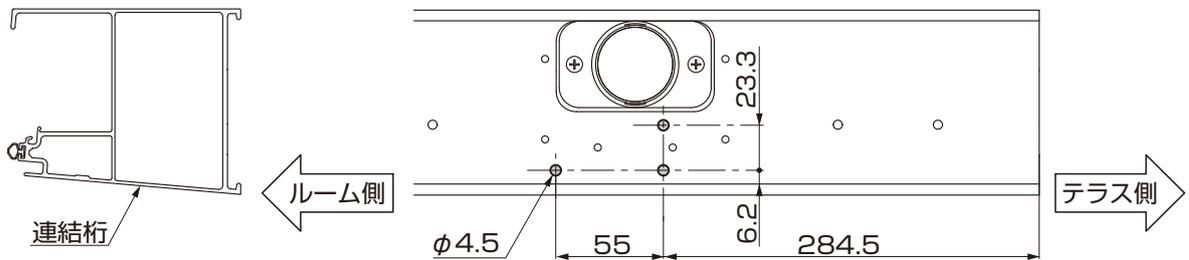


図3-28 連結桁の加工

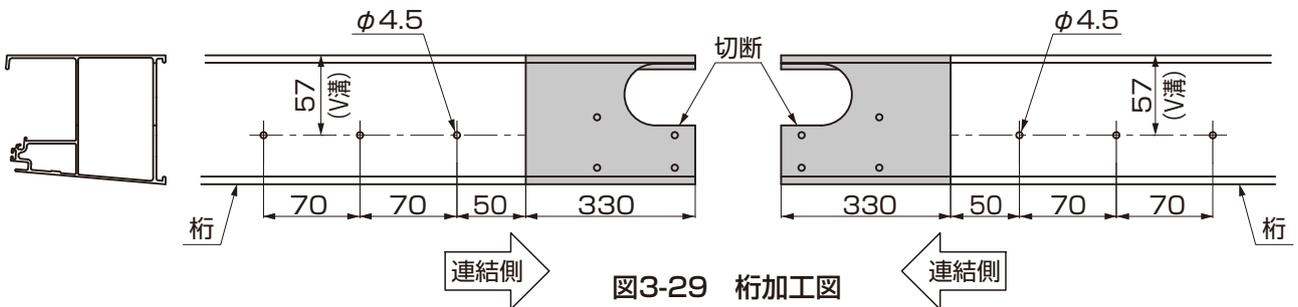


図3-29 桁加工図

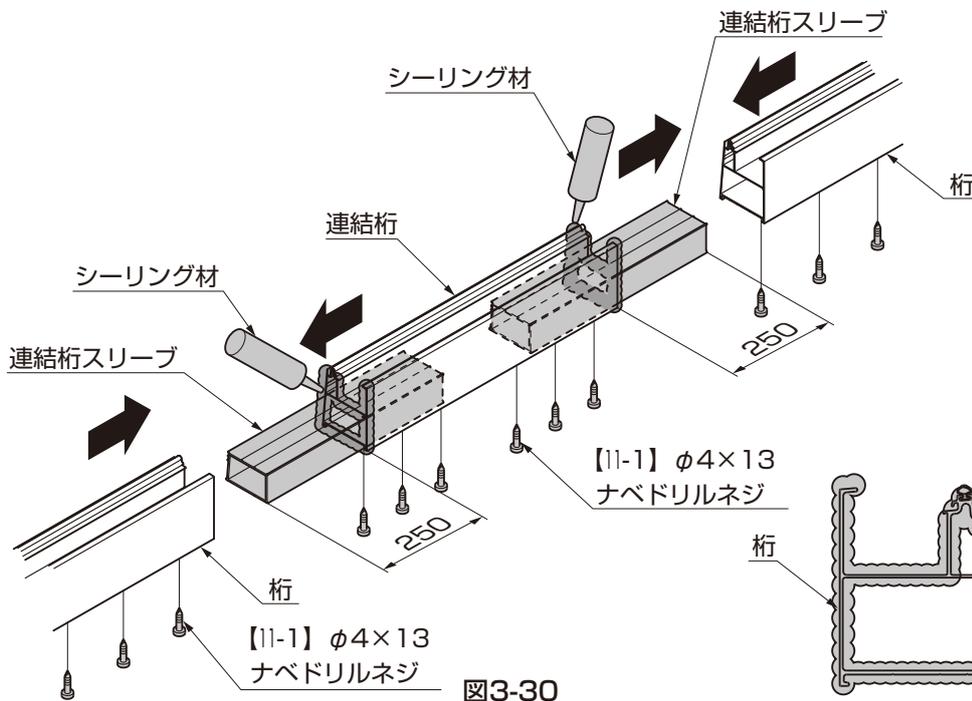


図3-30

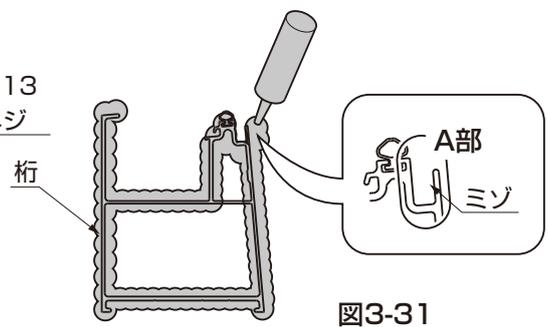


図3-31

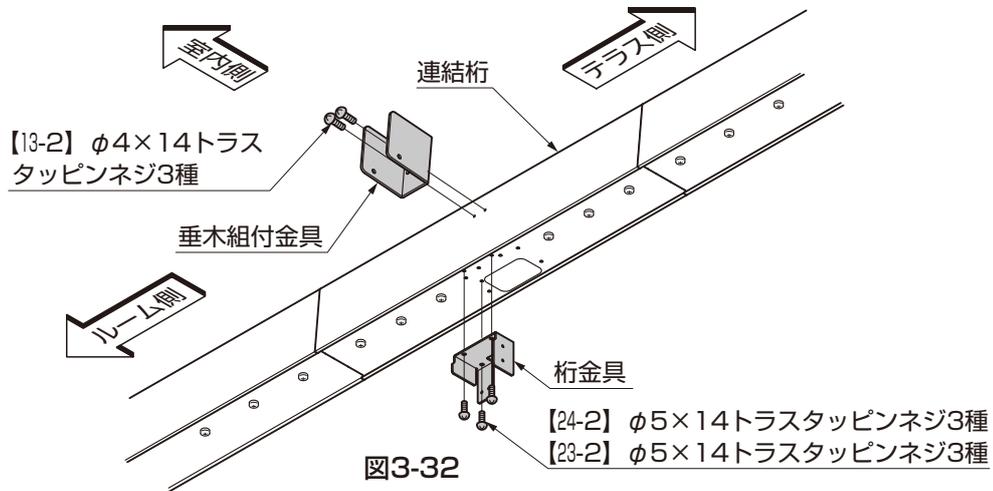
- ①図3-29を参照して連結桁、桁を加工してください。
- ②桁の連結部にシーリングをしてください。(図3-30、図3-31参照)
- ③切断した桁、連結桁、連結桁スリーブを【11-1】で取付けてください。(図3-30参照)

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。(図3-30、図3-31参照)
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図3-31参照)

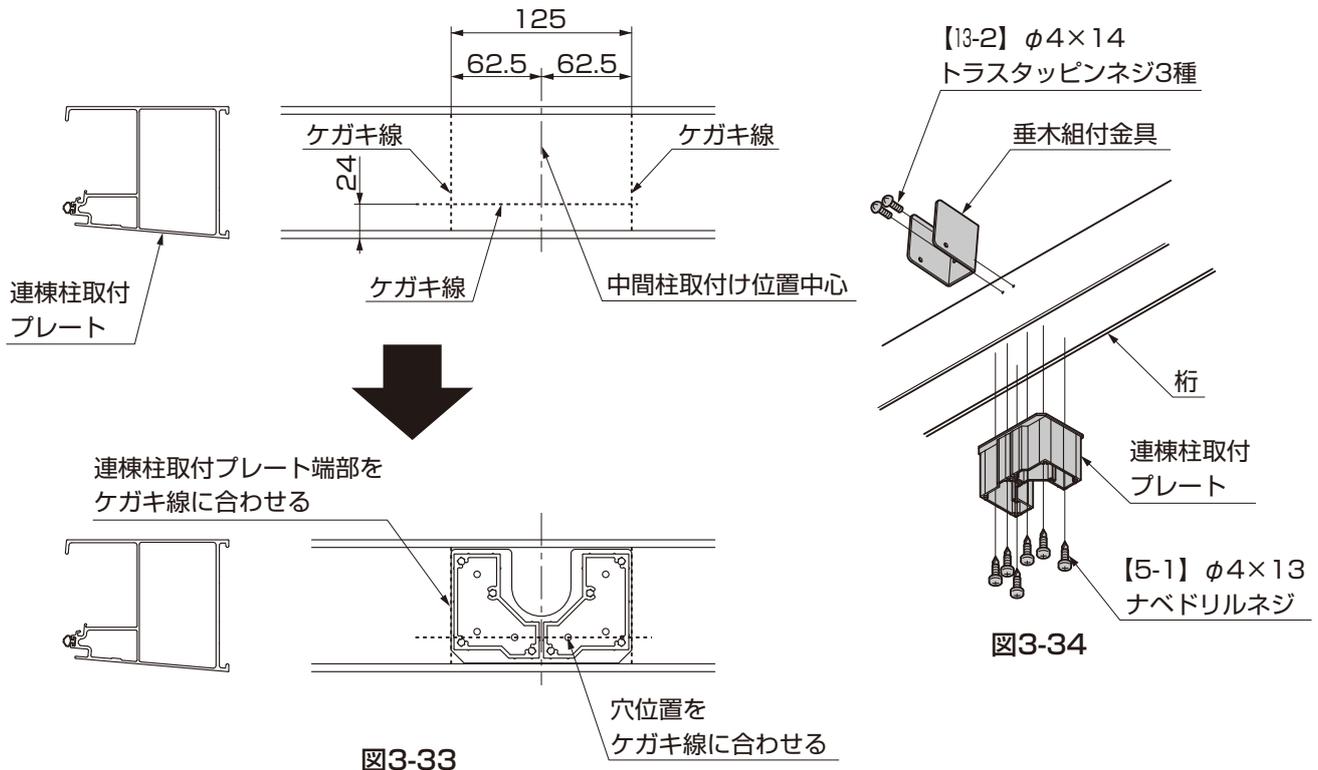
3. (つづき)

3-4 つづき



- ③垂木組付金具を連結桁に【13-2】で取付けてください。
- ④連結桁に桁金具を【23-2】または、【24-2】で取付けてください。

(5) テラスの中間柱対応について



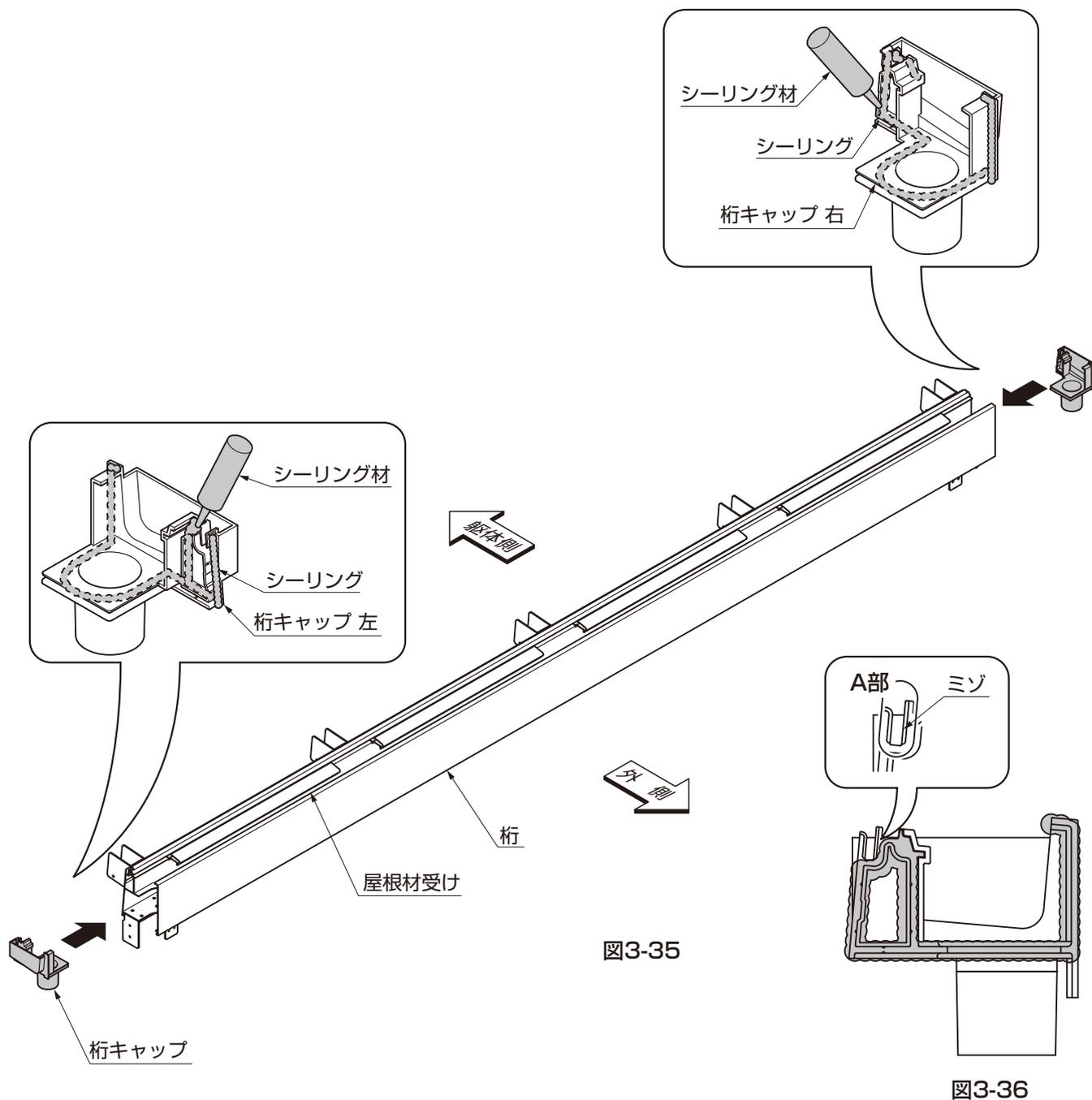
補足

- テラスに中間柱を施工する場合、連棟柱を使います。

ポイント

- 柱の建込みやベースプレートの取付け、前面・背面カバーの取付け等は取付説明書（本体編）の連棟柱を確認してください。
- 中間柱として使用する場合は排水する必要がありませんので丸樋や雨樋下部品の設置はありません。

(6) 桁キャップの取付け



- ① 桁キャップにシーリングをしてください。(図3-35、図3-36参照)
- ② 桁キャップを桁の切欠きに当るよう、奥まで差込んでください。

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。(図3-35、図3-36参照)
- A部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図3-36参照)
- 桁キャップ取付け前に必ず屋根材受けが桁に取付いているか確認してください。

3. (つづき)

3-5 桁の取付け ※「1.5間～3.0間」で「ルームタイプ、テラスタイプ」の場合の作業です。

(1) レール取付材の取付け ※ルームタイプ、エクシオールプラスのテラス側の場合の作業です。
※この作業は柱に取付ける前に必ず行なってください。

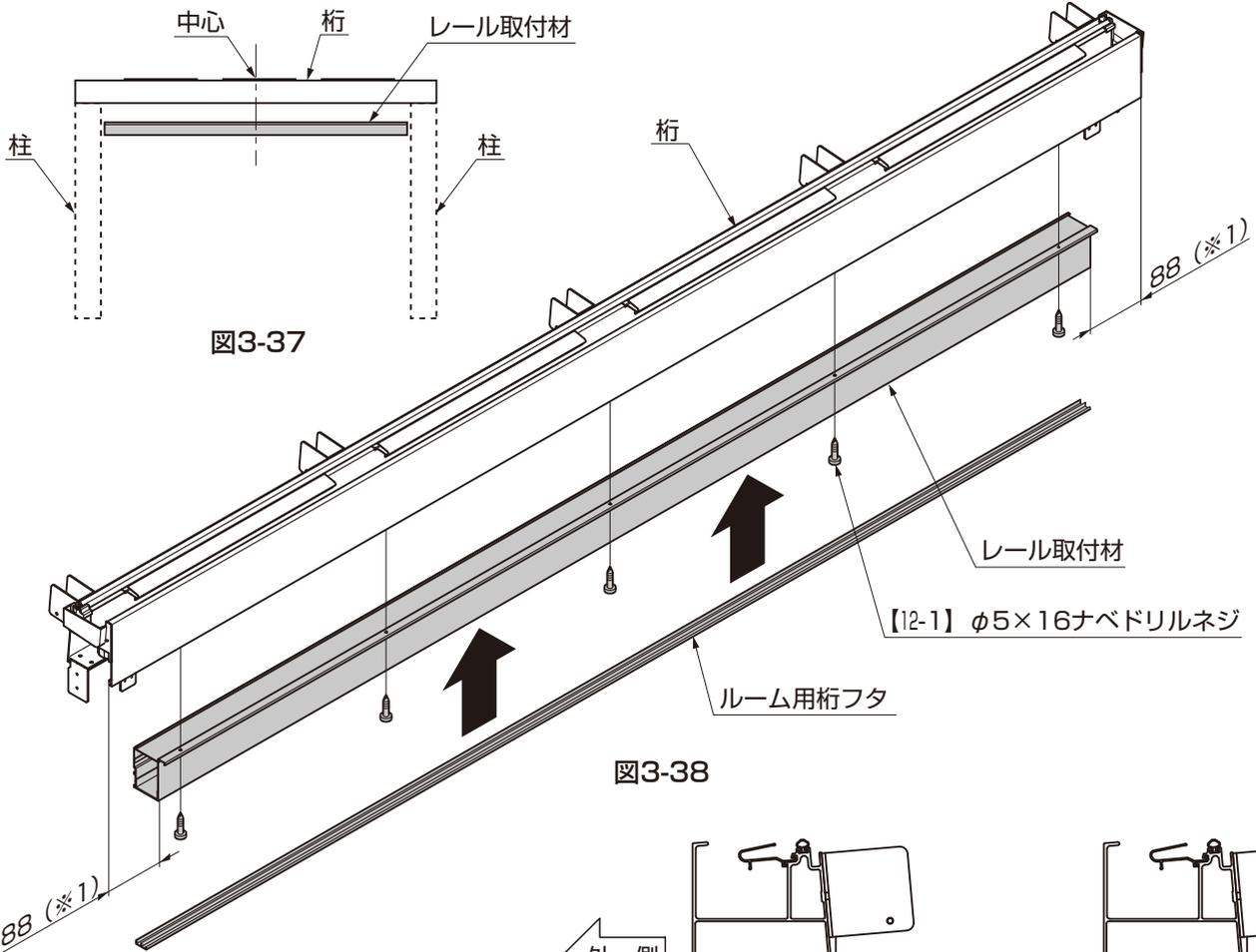


図3-37

図3-38

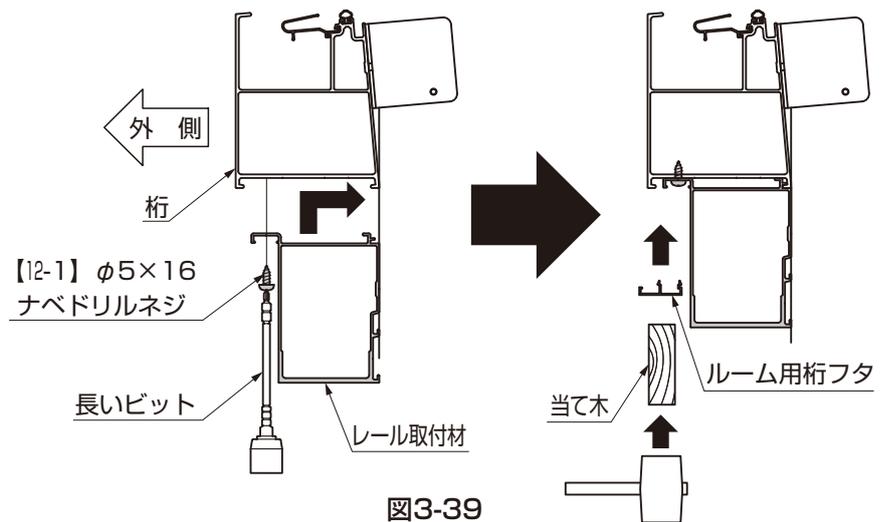


図3-39

①レール取付材を桁に【12-1】で取付けてください。

ポイント

- 桁とレール取付材の中心を合わせながら両端の寸法が88mm(※1)となるように取付けてください。
(図3-37、図3-38参照)
- 【12-1】は長いビットを使用するなどして、必ず垂直になるように取付けてください。ネジを斜めに取付けてしまうと部材のたわみが大きくなってしまい、パネルの開閉に支障をきたすおそれがあります。

②ルーム用桁フタを当て木を使ってレール取付材にはめ込んでください。

(2) 桁の取付け

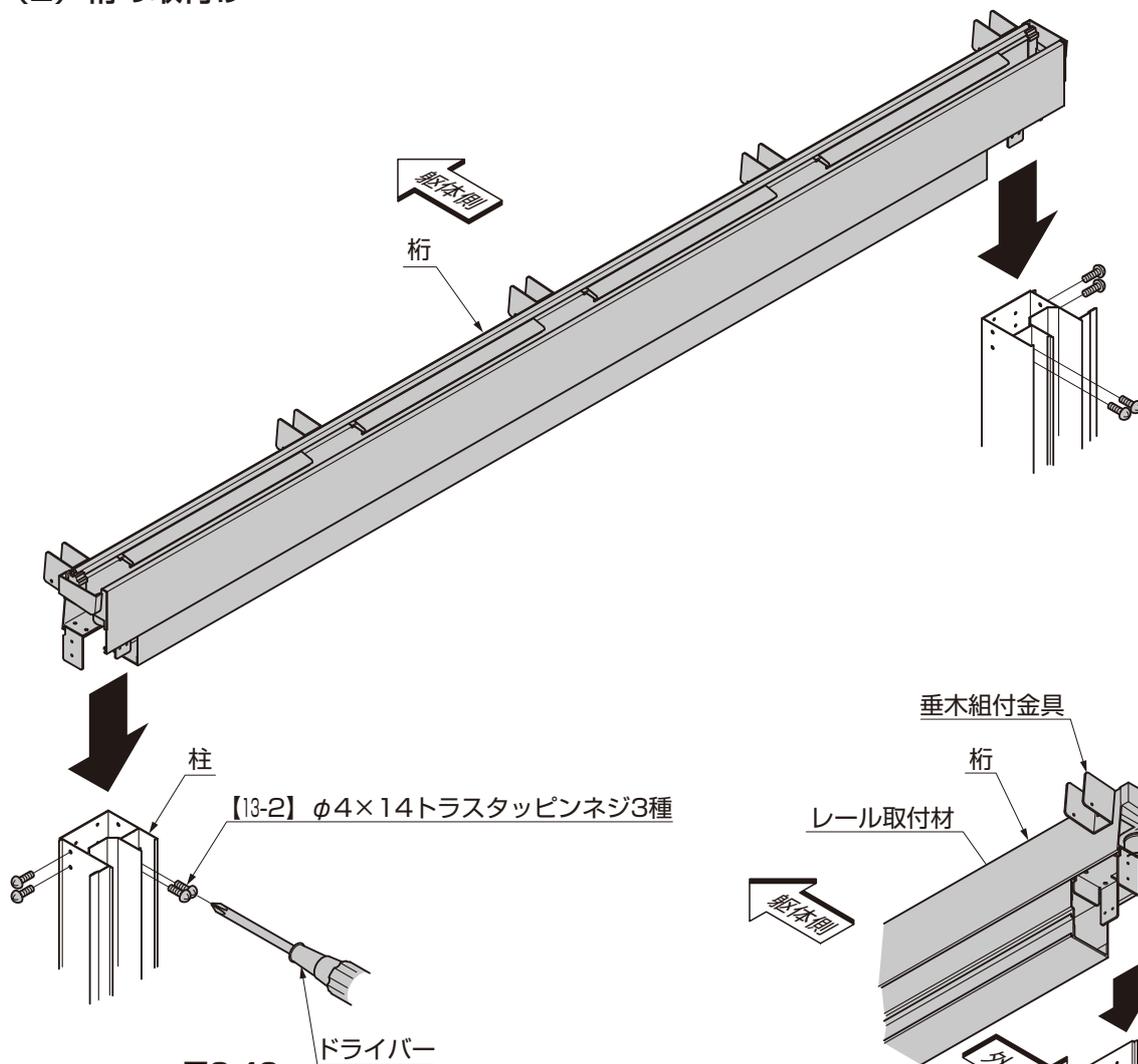


図3-40

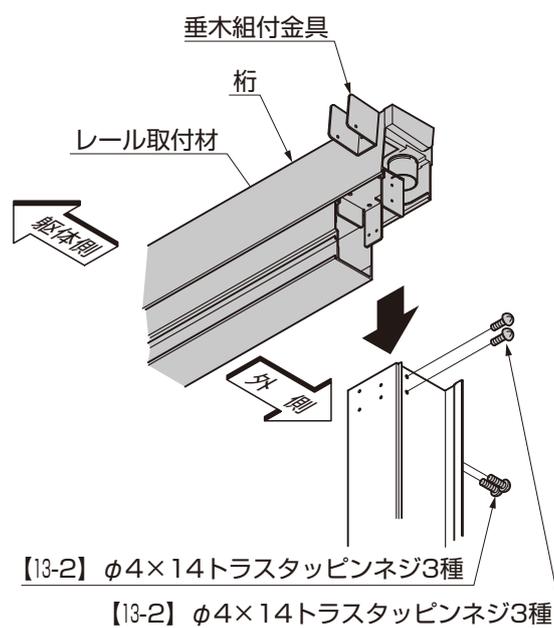


図3-41

① 桁を柱に【13-2】で取付けてください。

ポイント

- 【13-2】で桁を取付ける場合は、手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。
- エクシオールプラスの場合は、テラス側にもレール取付材が取付きます。

補足

- テラスタイプの場合はレール取付材は取付いていません。

3. (つづき)

3-6 桁の取付け ※「3.5間以上」、「エクシオールプラスタイプ」、「テラス中間柱仕様」、「テラス(妻梁上部側面フィックス)仕様」の場合の作業です。

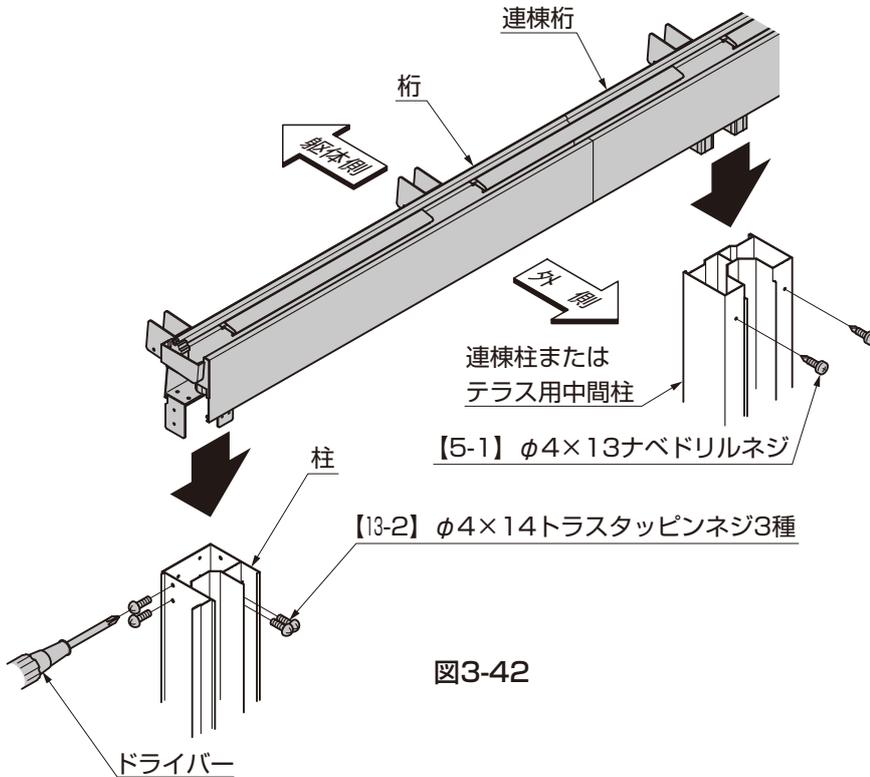


図3-42

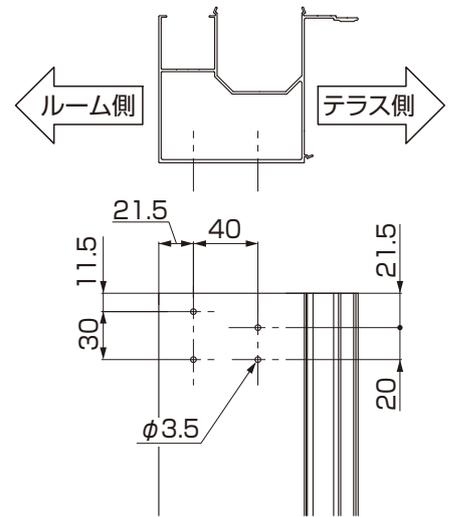


図3-43

エクシオールプラスタイプ、
テラス(妻梁上部側面フィックス)柱の加工

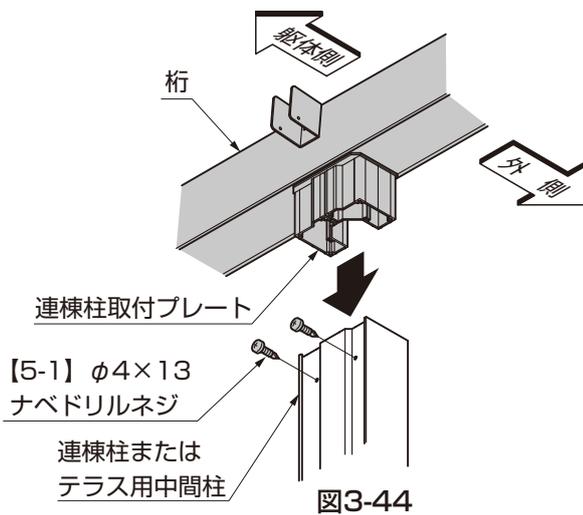


図3-44

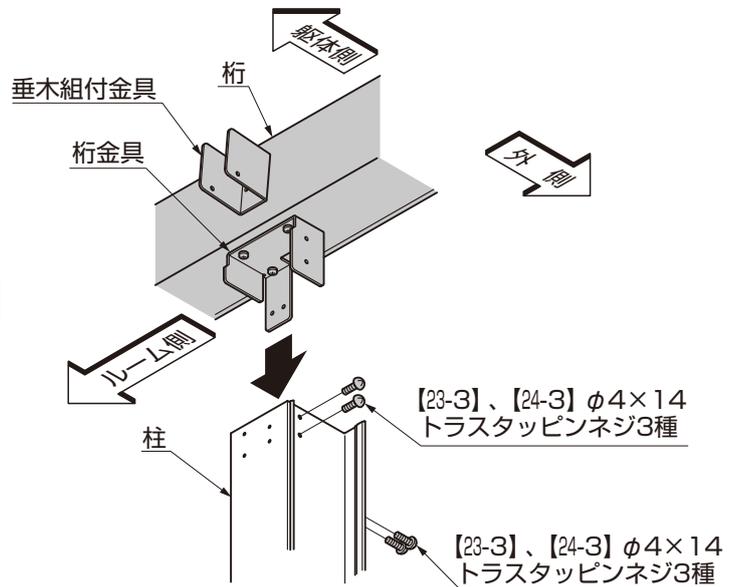


図3-45 エクシオールプラスタイプの場合

①桁を柱に【5-1】で取付けてください。

ポイント

- エクシオールプラスタイプのテラス側の端部柱には、テラス用柱を使用してください。
- エクシオールプラスタイプで、テラス側に妻梁上部側面フィックスを取付ける仕様は、図3-43を参照して柱に穴加工をしてください。
- 【13-2】、【23-3】、【24-3】で取付ける場合は、手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。
- エクシオールプラスタイプの場合は図3-45を参照して柱を取付けてください。

3-7 柱側面材の取付け

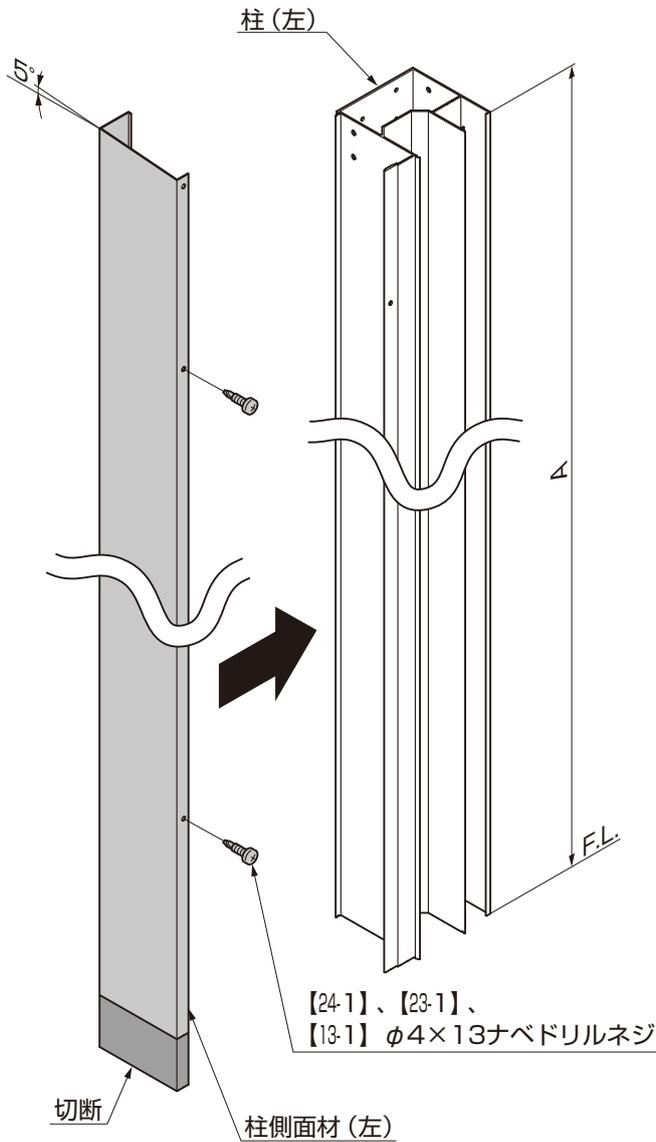


図3-46

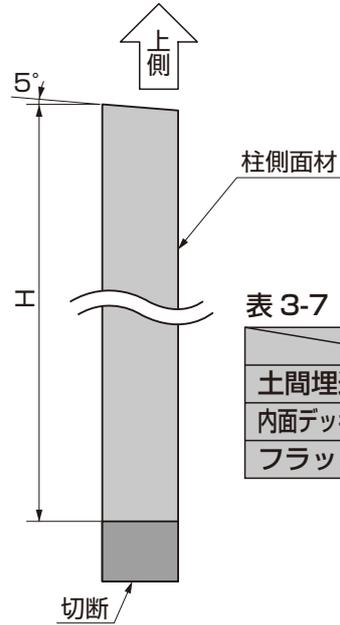


図 3-47

表 3-7 主柱の場合

	H
土間埋込み仕様	切断不要
内面デッキ立上げ施工	A+122.5
フラット施工	A+117.5

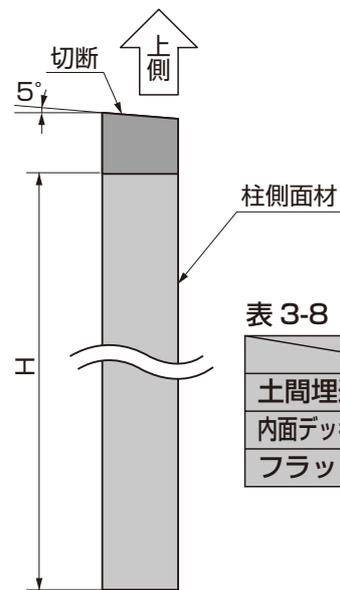


表 3-8 エクシオールプラスの場合

	H
土間埋込み仕様	切断不要
内面デッキ立上げ施工	A+5
フラット施工	A-3

図 3-48 エクシオールプラスの場合

- ①図を参考に柱側面材を柱に合わせて切断加工してください。
- ②柱側面材を柱に【13-1】または、【23-1】、【24-1】で取付けてください。

ポイント

- エクシオールプラスの場合は、上側を切断してください。

3. (つづき)

3-8 入隅仕様の場合の柱の固定 ※柱固定ベースプレートを使用の場合

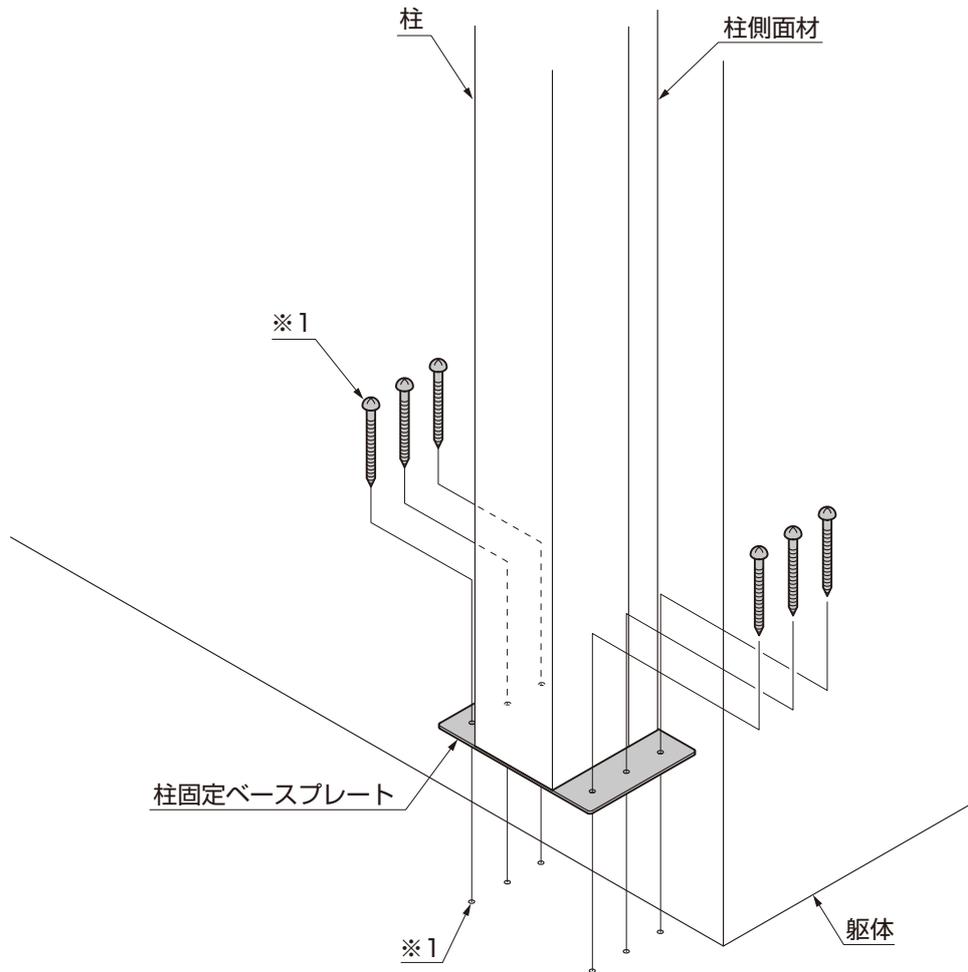


表 3-9 (※1) 柱固定ベースプレート取付けネジ一覧

	取付けネジ	下穴・深さ
土間・束石用	【1-3】φ5×35 ナベセルフタップアンカー	φ4.3・45mm
デッキ用	【1-4】φ4.5×63 サラ木ネジ	不要

①柱固定ベースプレートを仮止めしてください。

ポイント

- 柱固定ベースプレートを固定するネジは土間・束石用とデッキ用とでは異なりますので。(表3-9を参照)
- 土間に固定する際は、土間の強度を確認してください。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

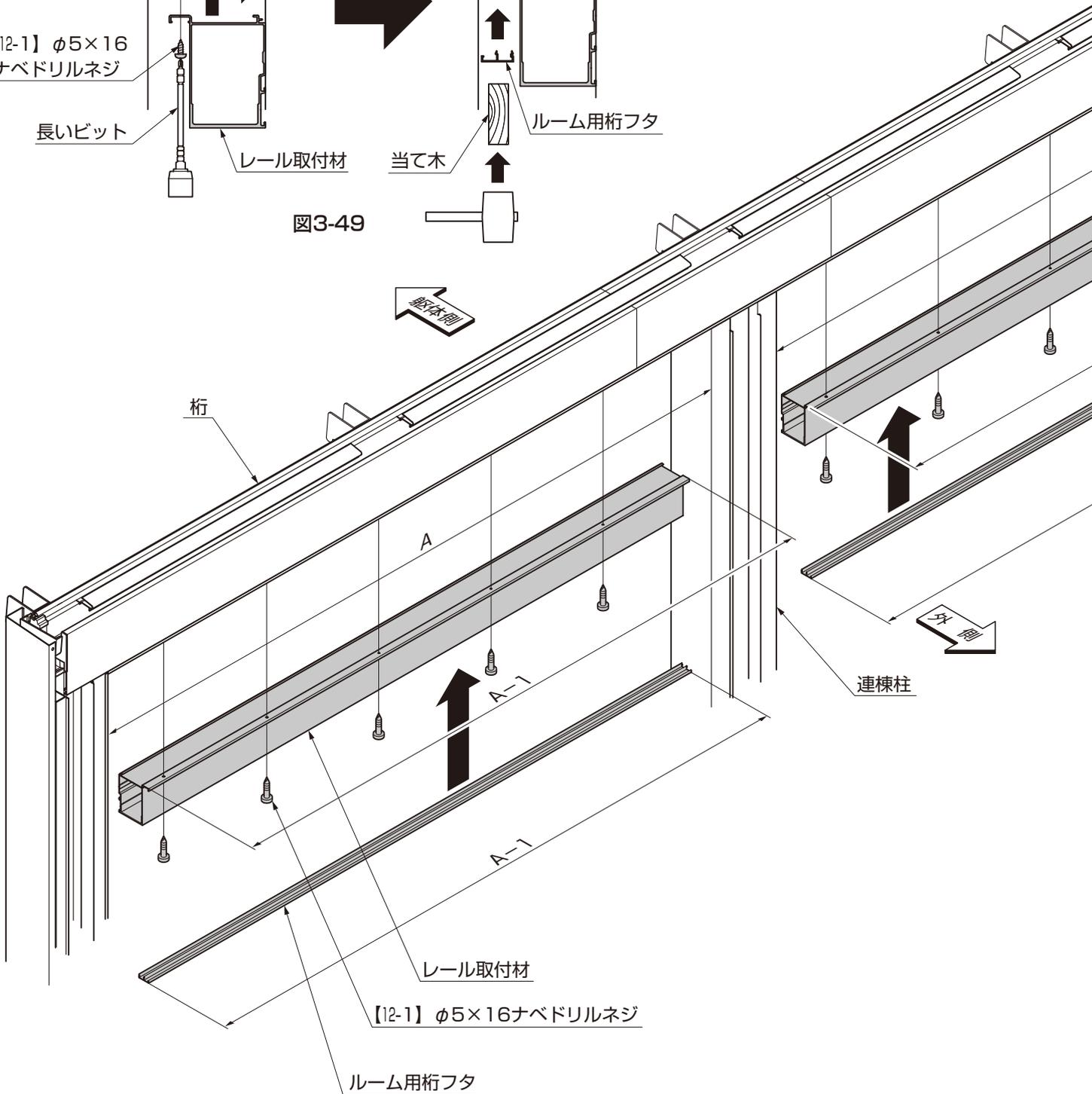
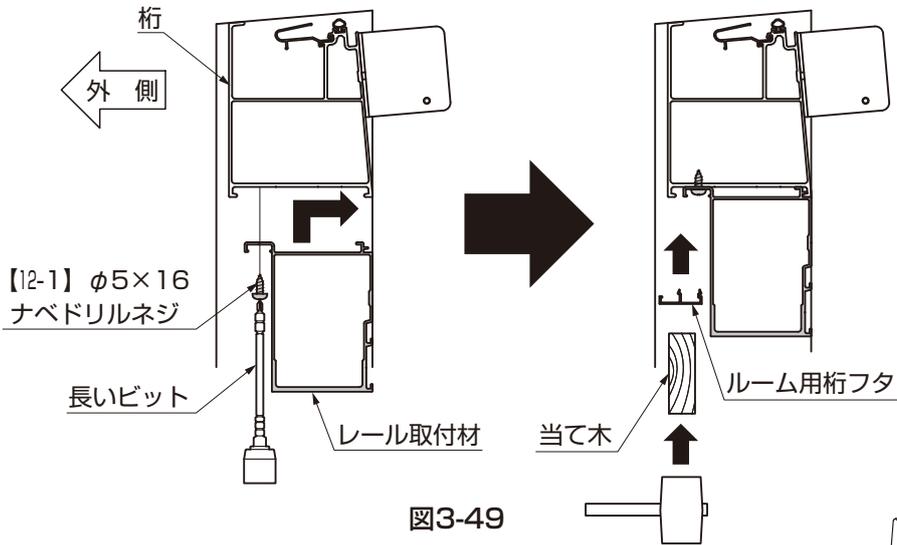
.....

.....

.....

3. (つづき)

3-9 エクシオールプラスもしくは、連棟柱を取付ける場合のレール取付材の取付け



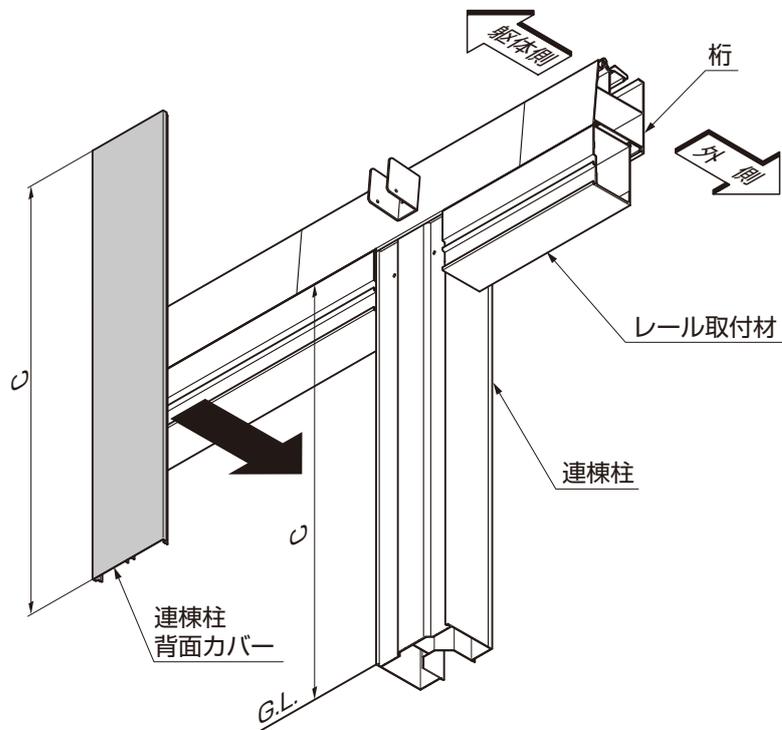
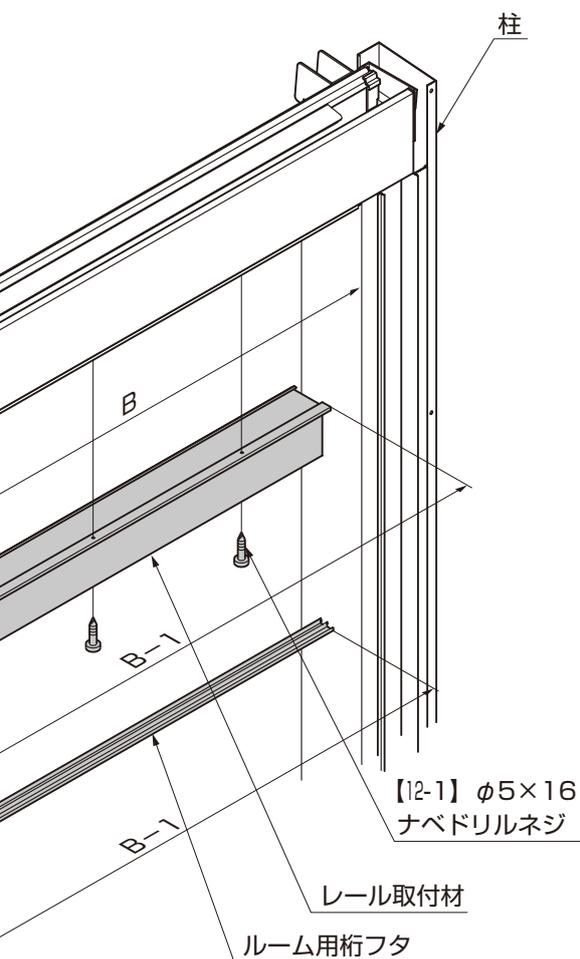


図3-50

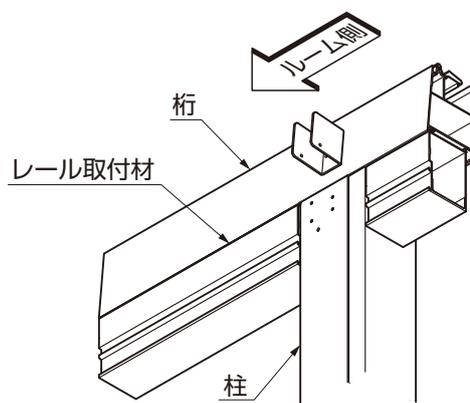


図3-51 エクシオールプラスの場合

- ①柱の内々寸法を実測（A寸法）し、レール取付材、ルーム用桁フタを切断加工してください。
- ②レール取付材を桁に【12-1】で取付けてください。
- ③ルーム用桁フタをあて木を使ってレール取付材にはめ込んでください。
- ④G.L.またはF.Lから桁下面までを実測（C寸法）し、連棟柱背面カバーをその寸法に切断して連棟柱にはめ込んでください。（図3-50参照）

ポイント

- エクシオールプラスの場合はルーム側とテラス側の両方にレール取付材を取付けてください。
- 【12-1】は長いビットを使用するなどして、必ず垂直になるように取付けてください。

4. 雨樋の取付け

4-1 主柱の場合

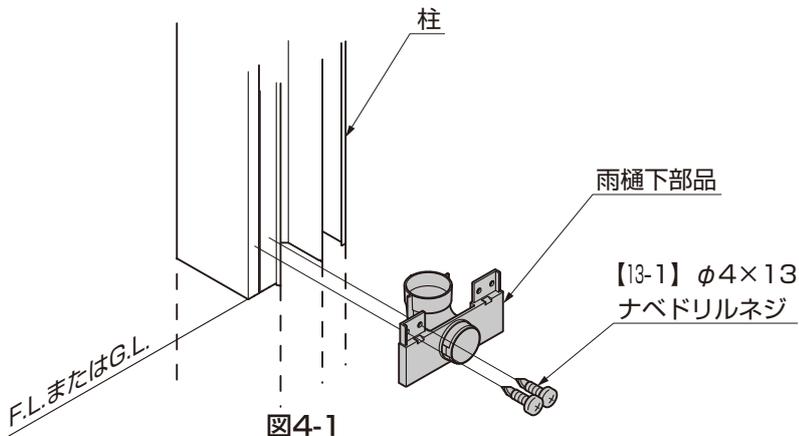


表4-1 雨樋下部品下端位置

施工方法	位置
内面デッキ立上げ仕様(※)	F.L.
土間仕様 柱埋込	
内面デッキ立上げ仕様(※)	
ロング柱埋込	G.L.
外面床なし仕様 ロング柱	

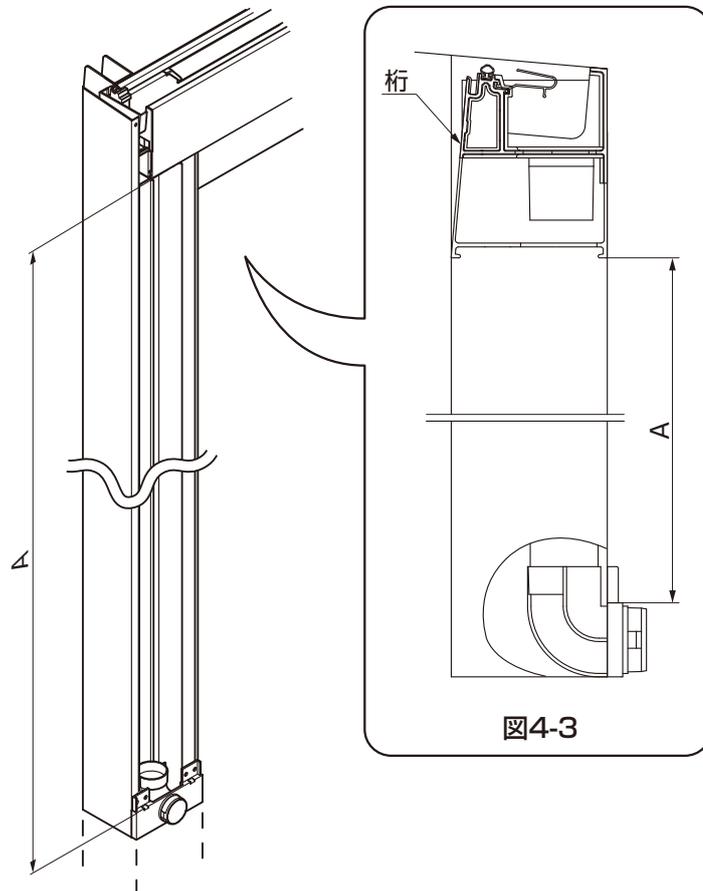


図4-2

①雨樋下部品を柱に【13-1】で取付けてください。

ポイント

●柱の施工によって雨樋下部品を取付ける位置がことなります。(表4-1参照)

②桁の下から雨樋下部品までを実測(A寸法)してください。(図4-2、図4-3参照)

補足

●ロング柱を使用している場合、雨樋下部品下端をG.L.にすることで排水をデッキ下に行うことができます。(※)この場合、雨樋の掃除がしにくくなるおそれがあります。

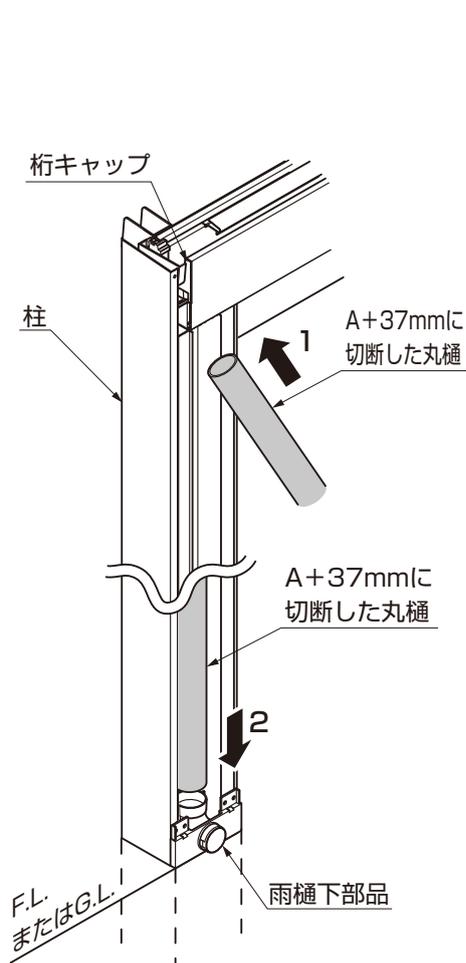


図4-4 標準柱の場合

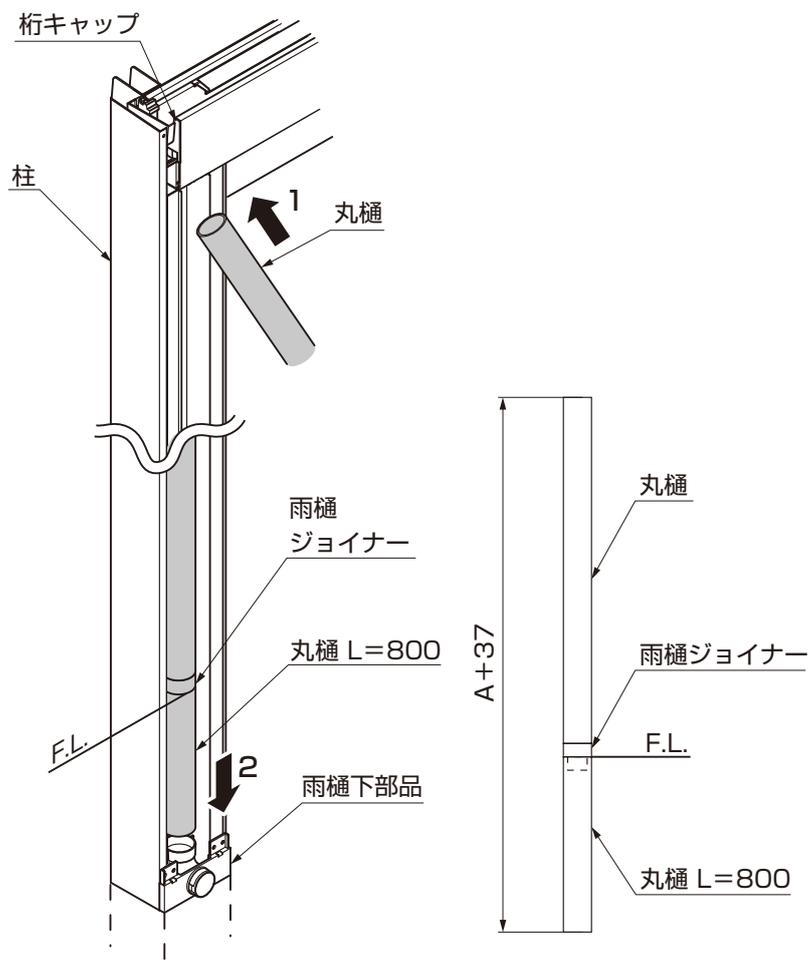


図4-5 ロング柱の場合

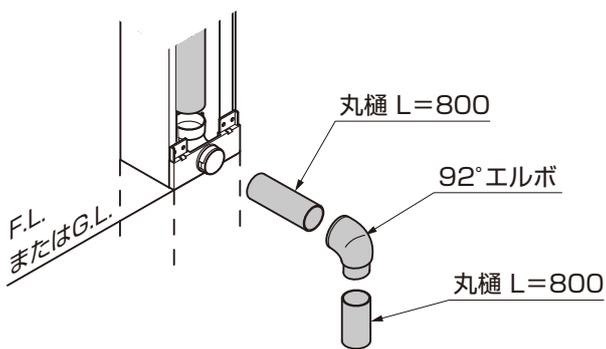


図4-6

③実測したA寸法+37mmに切断した丸樋を桁キャップと雨樋下部品にはめ込んでください。

ポイント

- ロング柱でたて樋の長さが足りない場合は、同梱の雨樋ジョイナーとL=800の丸樋を切断して使用してください。
- 丸樋と桁キャップ、雨樋ジョイナー、雨樋下部品は接着しないでください。
- 丸樋がはめづらい時には雨樋下部品をいったん取外し、丸樋にはめ込んだ状態で取付けてください。

補足

- 雨樋下部品に柱セットに同梱のL=800の丸樋とエルボ使用して床下に排水するなどが可能です。(図4-6参照)

4. (つづき)

4-2 連棟柱、柱 (エクシオールプラス用) の場合

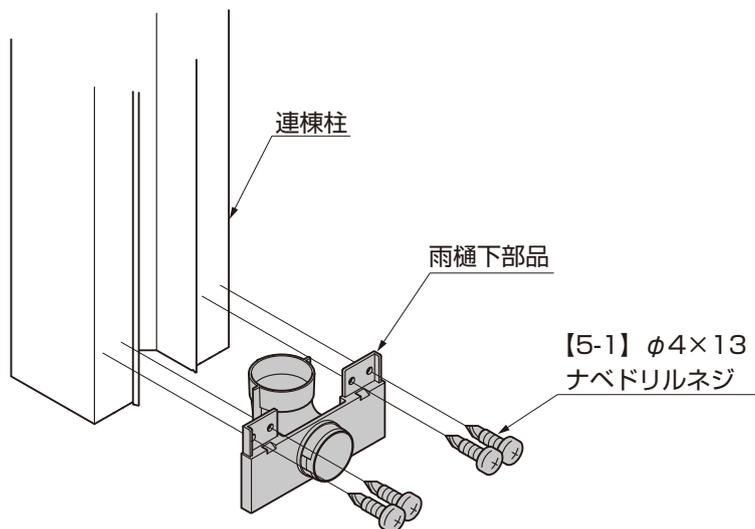


図4-7

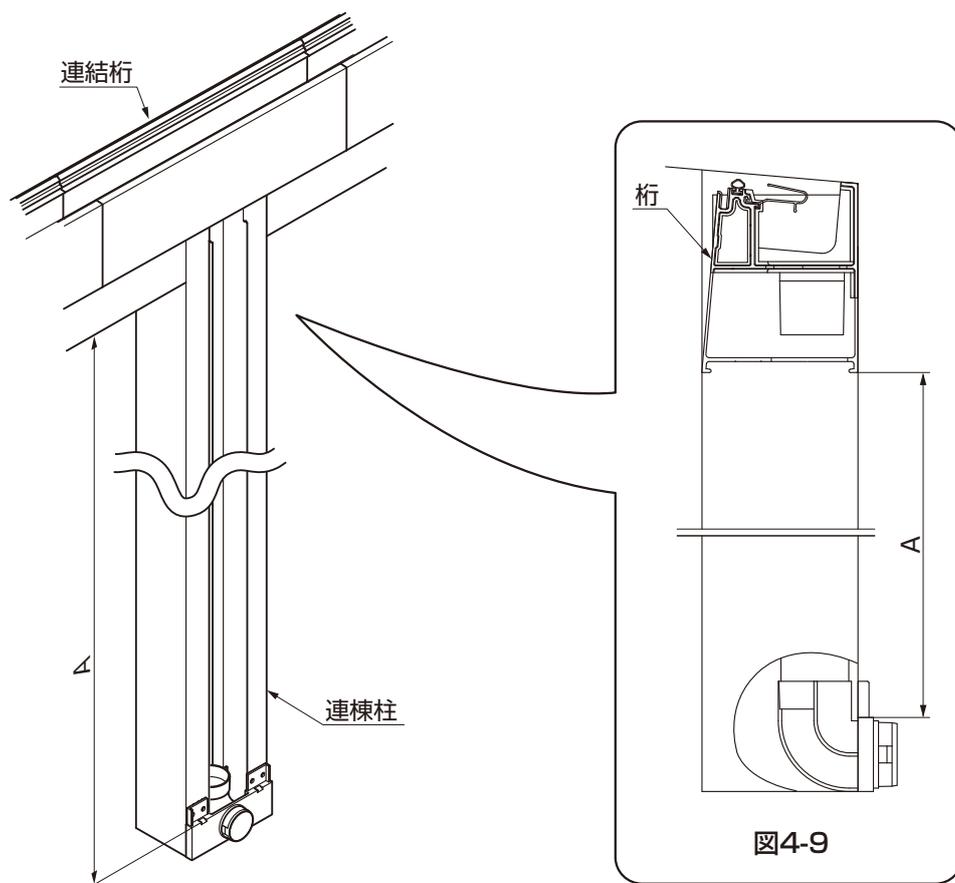


図4-8

図4-9

- ①雨樋下部品を連棟柱または柱 (エクシオールプラス用) に【5-1】で取付けてください。(図4-7参照)
- ②桁の下から雨樋下部品までを実測 (A寸法) してください。(図4-7、図4-8参照)

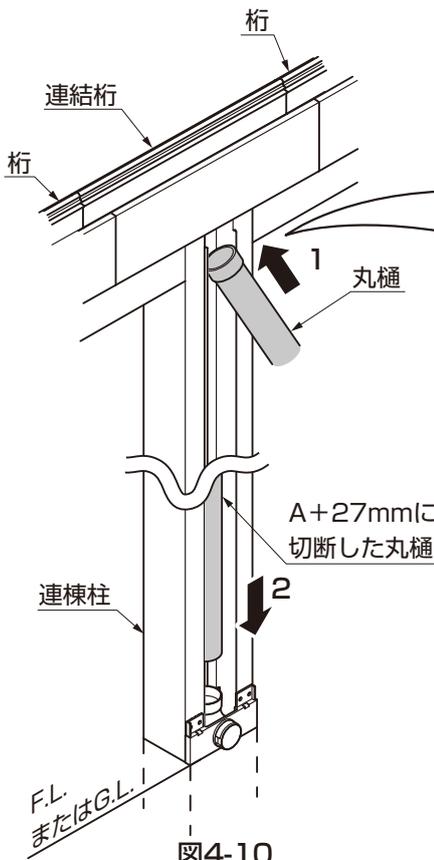


図4-10

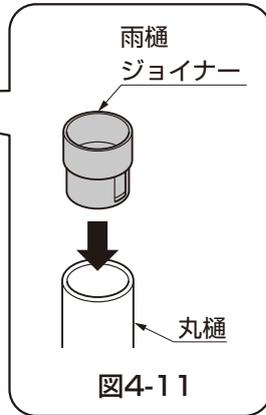


図4-11

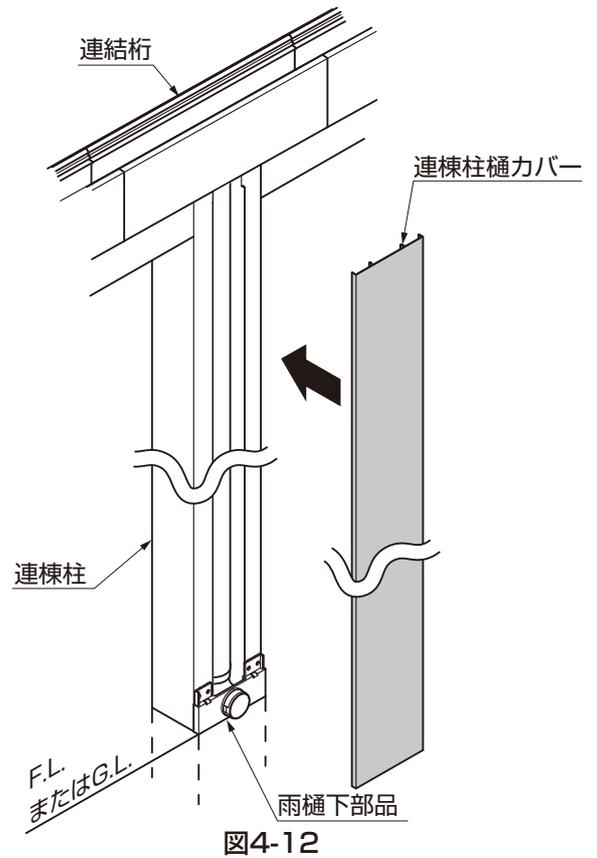


図4-12

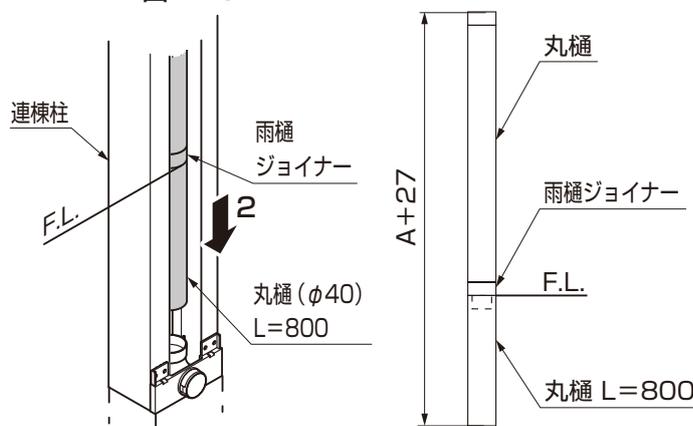


図4-13 ロング柱の場合

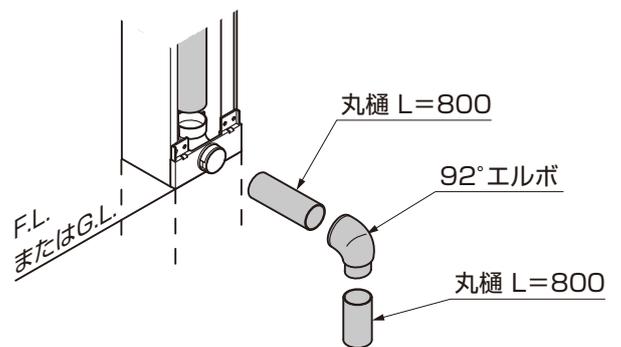


図4-14

- ③丸樋を実測したA寸法+27mmに切断してください。
- ④雨樋ジョイナーを丸樋に取付けてください。(図4-11参照)
- ⑤雨樋ジョイナー付きの丸樋を連結桁雨樋部品、雨樋下部品にはめ込んでください。(図4-10参照)

ポイント

- ロング柱の場合、同樋の雨樋ジョイナーとL=800の丸樋を使用してください。
- 丸樋と雨樋ジョイナー、雨樋下部品は接着しないでください。
- 丸樋がはめづらい時には雨樋下部品をいったん取り外し、丸樋にはめ込んだ状態で取付けてください。

- ⑥A寸法に切断した連棟柱樋カバーを連棟柱または柱(エクシオールプラス用)にはめ込んでください。(図4-12参照)

補足

- 柱セットに同樋のL=800の丸樋とエルボ使用して床下に排水するなどが可能です。(図4-14参照)

5. テラス用桁フタの取付け

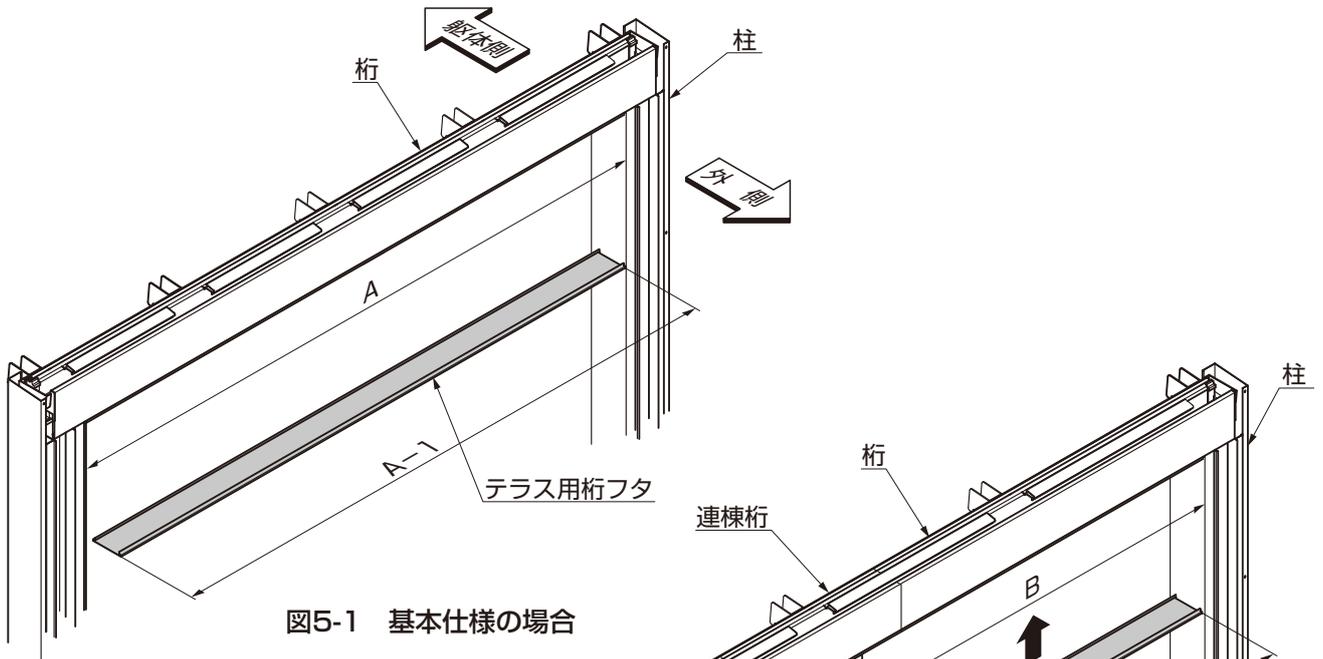


図5-1 基本仕様の場合

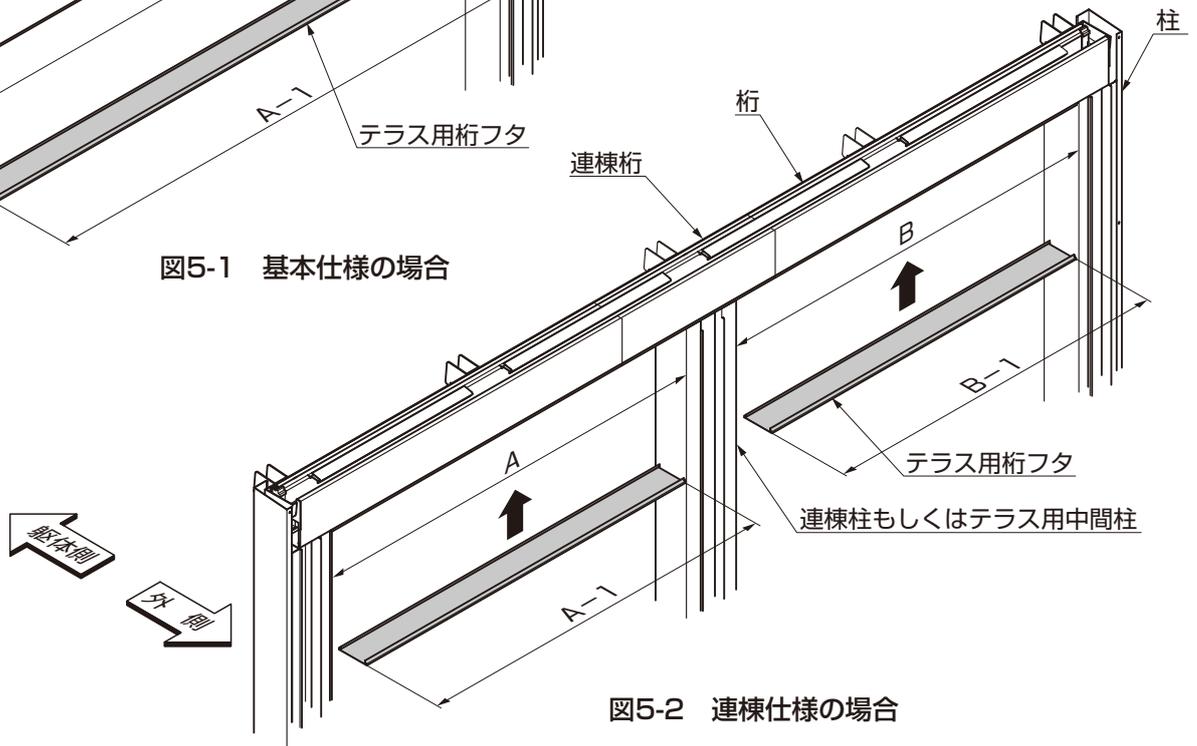


図5-2 連棟仕様の場合

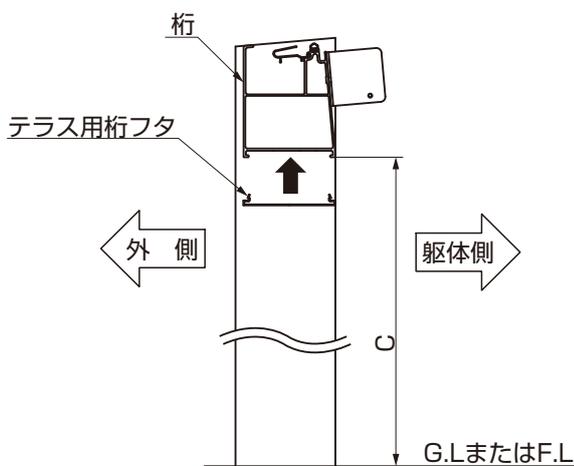


図5-3 連棟仕様もしくは
テラス用中間柱仕様の場合

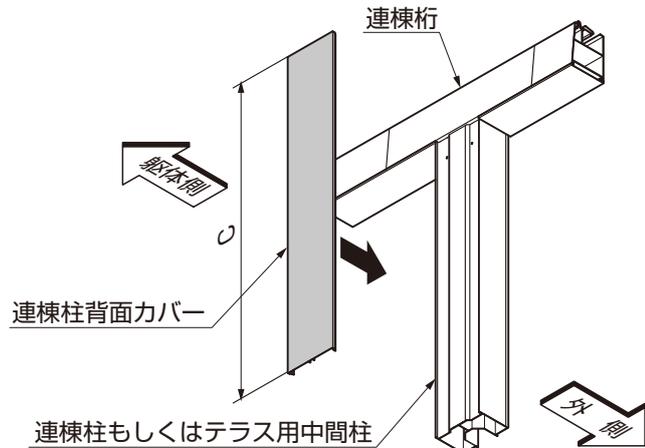
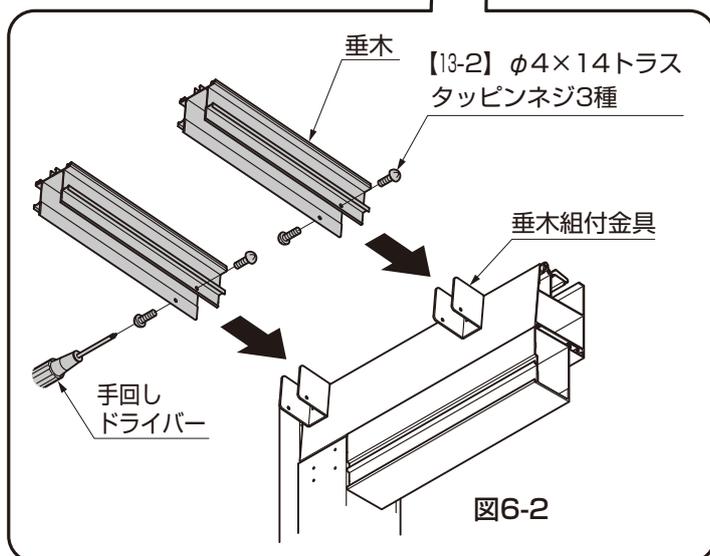
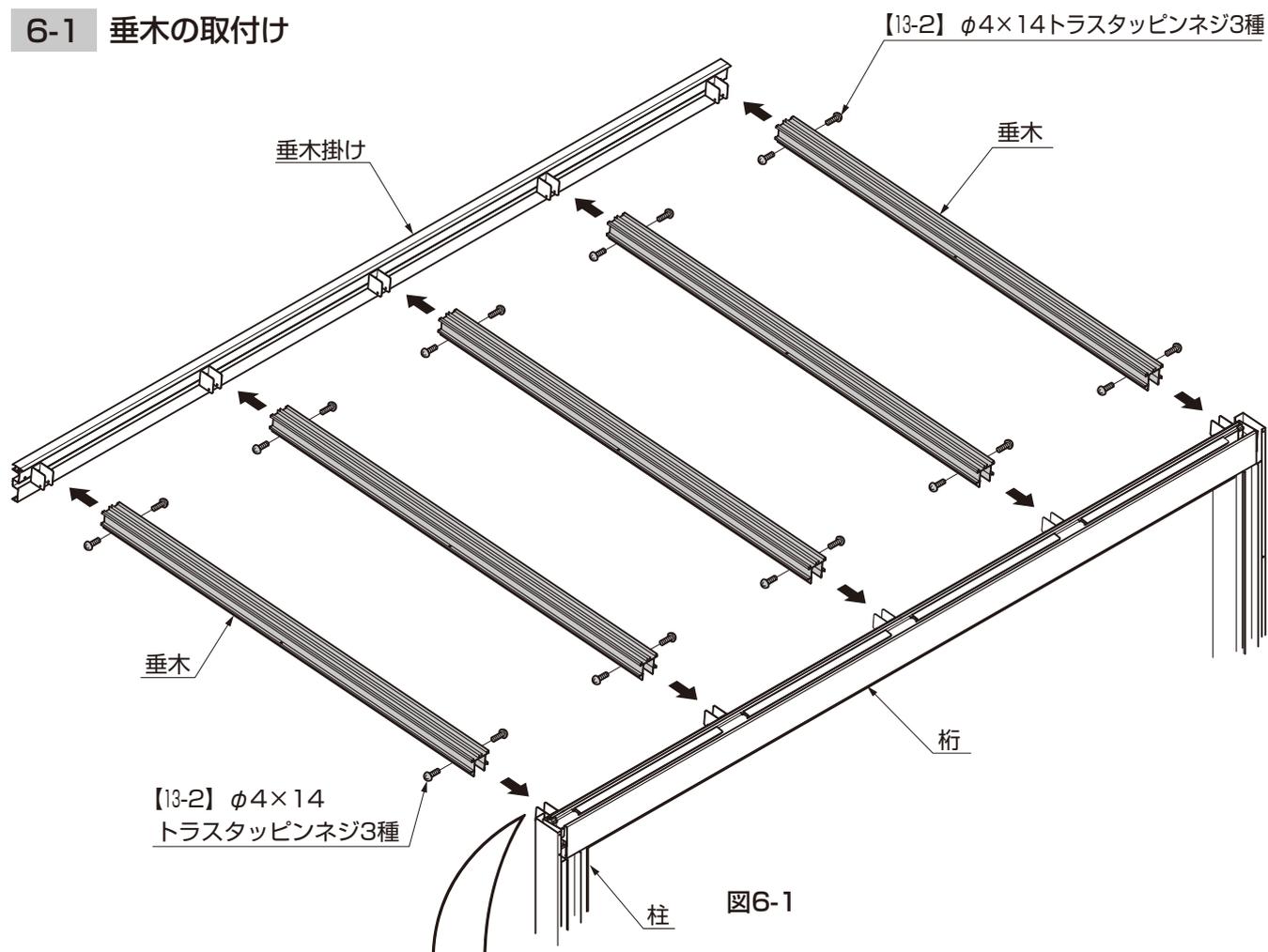


図5-4 連棟仕様もしくは
テラス用中間柱仕様の場合

- ①柱の内々寸法を実測 (A寸法またはB寸法) し、テラス用桁フタを切断加工してください。(図5-1、図5-2参照)
- ②連棟仕様もしくは、テラス用中間柱仕様はG.L.またはF.L.から桁下面までを実測 (C寸法) し、連棟柱背面カバーをその寸法に切断して連棟柱もしくは、テラス用中間柱にはめ込んでください。(図5-3、図5-4参照)

6. 垂木、中骨、妻垂木側面材の取付け

6-1 垂木の取付け



①垂木を垂木組付金具に【13-2】で取付けてください。

ポイント

- 【13-2】で取付ける場合は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

6. (つづき)

6-2 入隅の場合

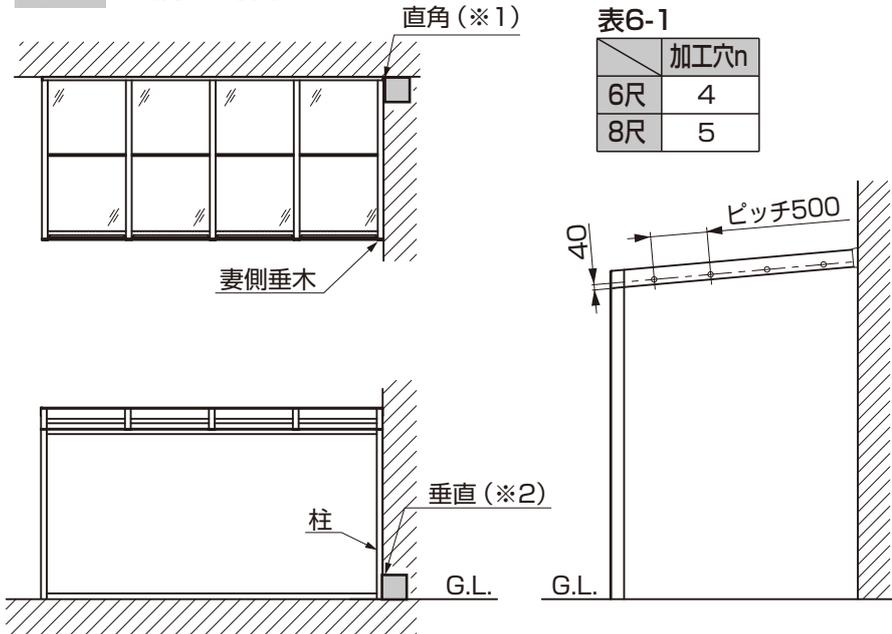


図6-3

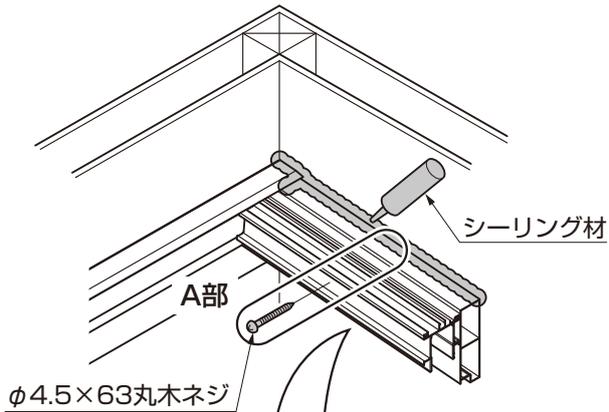
図6-4

表6-1

	加工穴n
6R	4
8R	5

ポイント

- 躯体外壁の直角度(※1)、垂直度(※2)に狂いが生じている場合は、取付けることができませんので、修正してください。修正時の部材については、現場で手配してください。(図6-3参照)



φ4.5×63丸木ネジ

- ① 妻垂木側面材を垂木に固定しない仮組状態にして垂木を垂木組付金具に、【13-2】で取付けてください。(図6-5参照)
- ② 入隅側妻垂木側面材にφ10、φ5の穴をあけてください。(図6-4、図6-6参照)
- ③ 躯体に妻垂木側面材取付用のφ3.5の下穴をあけてください。
- ④ 妻垂木側面材と躯体を、「φ4.5×63丸木ネジ」で取付けてください。
- ⑤ 妻垂木側面材と躯体の組み合わせ部に、シーリングをしてください。

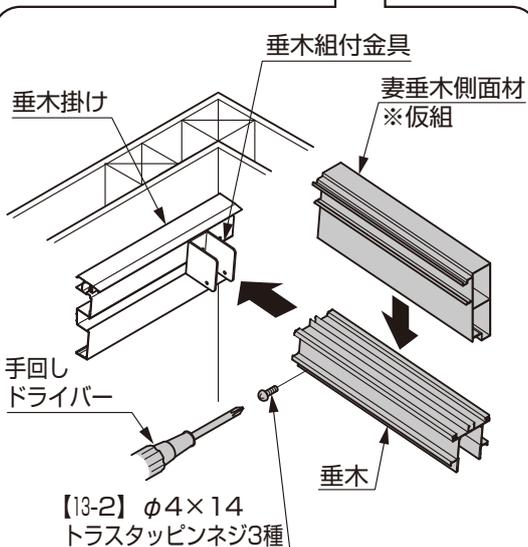


図6-5

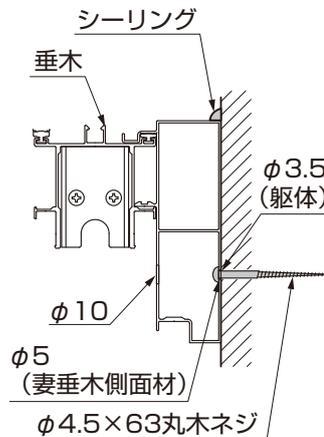


図6-6 A部詳細図

ポイント

- φ4.5×63丸木ネジは現場で手配してください。
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。
- 入隅側のシーリング材は現場で手配してください。
- 【13-2】で取付ける場合は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

6-3 出幅違いの場合

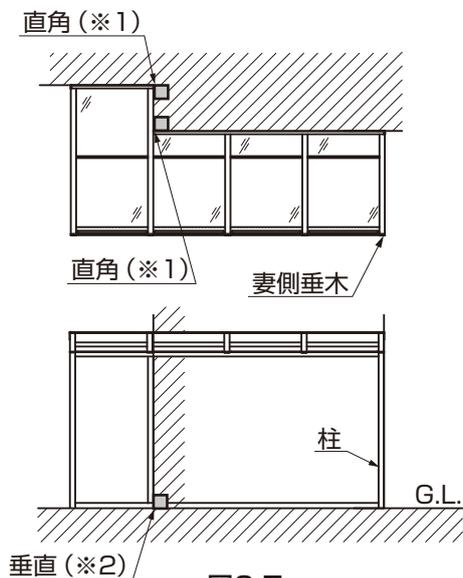


図6-7

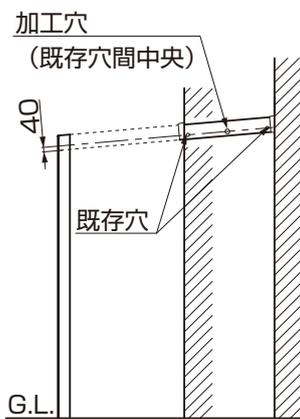


図6-8

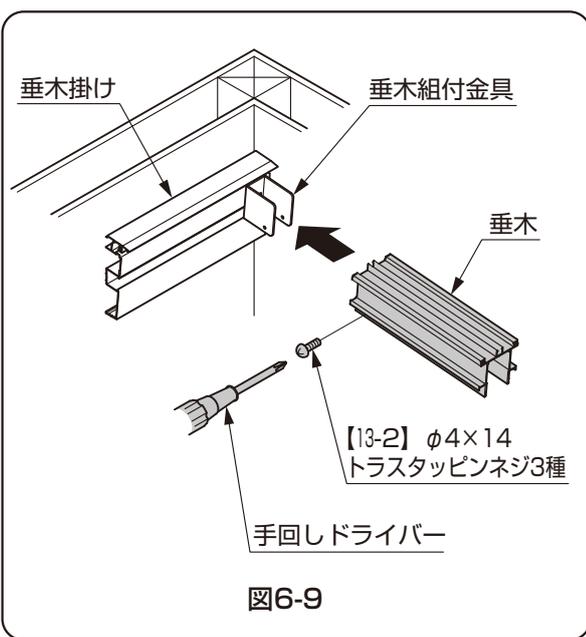


図6-9

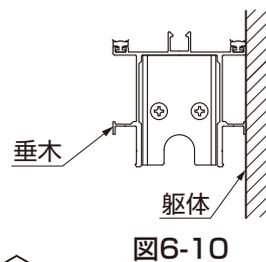
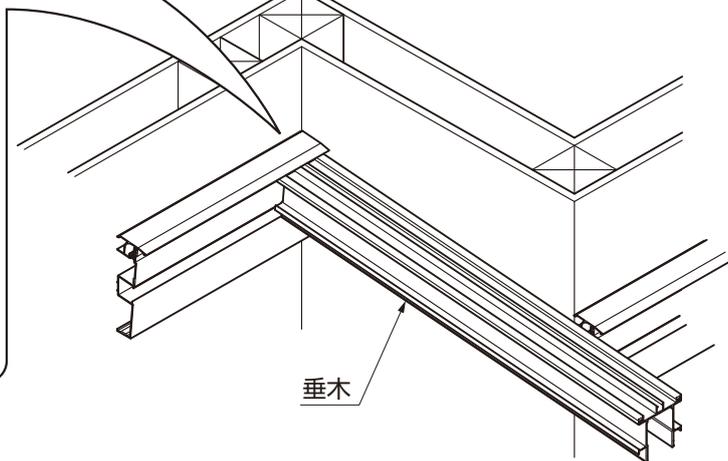


図6-10



ポイント

●躯体外壁の直角度(※1)、垂直度(※2)に狂いが生じている場合は、取付けることができませんので、修正してください。修正時の部材については、現場で手配してください。(図6-7参照)

①垂木を垂木組付金具に、【13-2】で取付けてください。(図6-9参照)

ポイント

●出幅違いの垂木は、垂木化粧材取付け時に躯体に固定します。
●【13-2】で取付ける場合は手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

6. (つづき)

6-4 中骨、妻垂木側面材の取付け

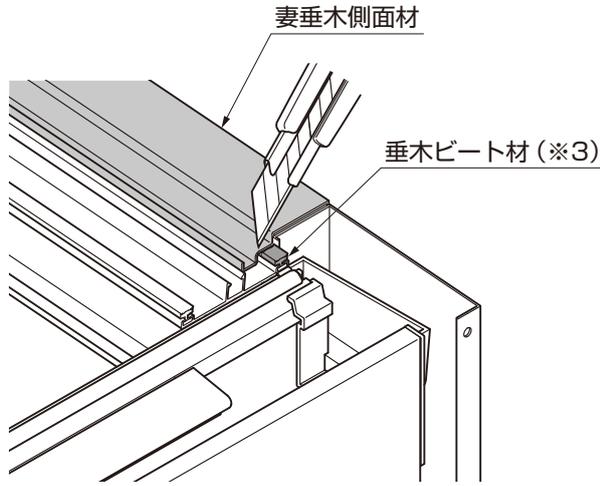


図6-14 A部詳細図

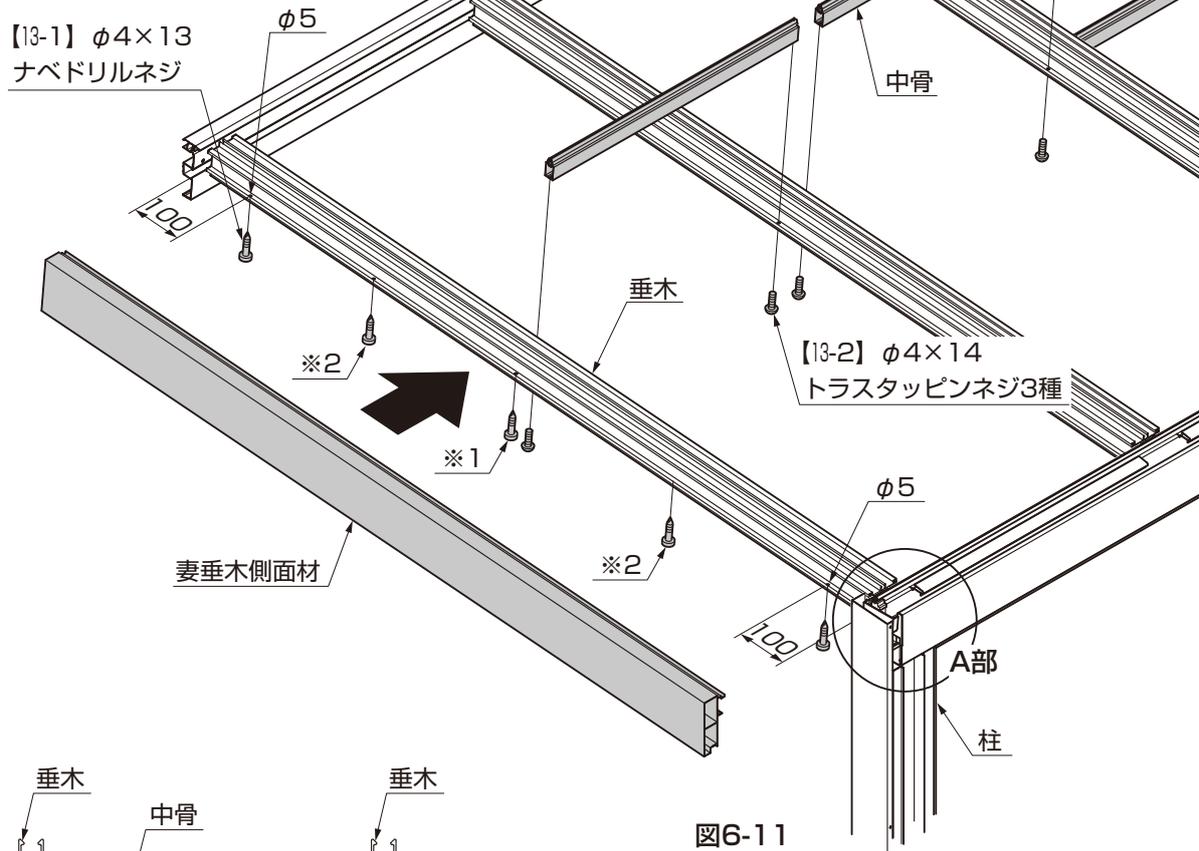


図6-11

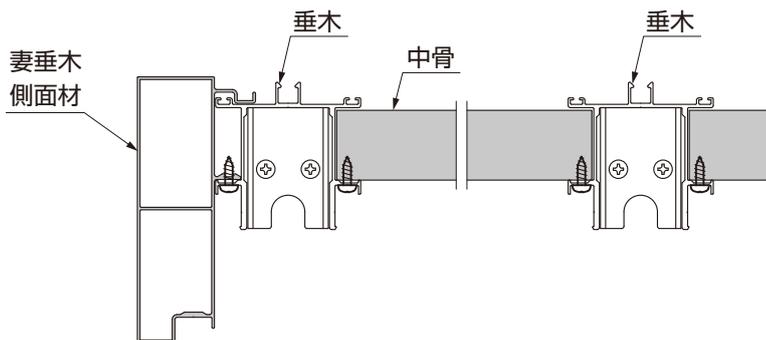
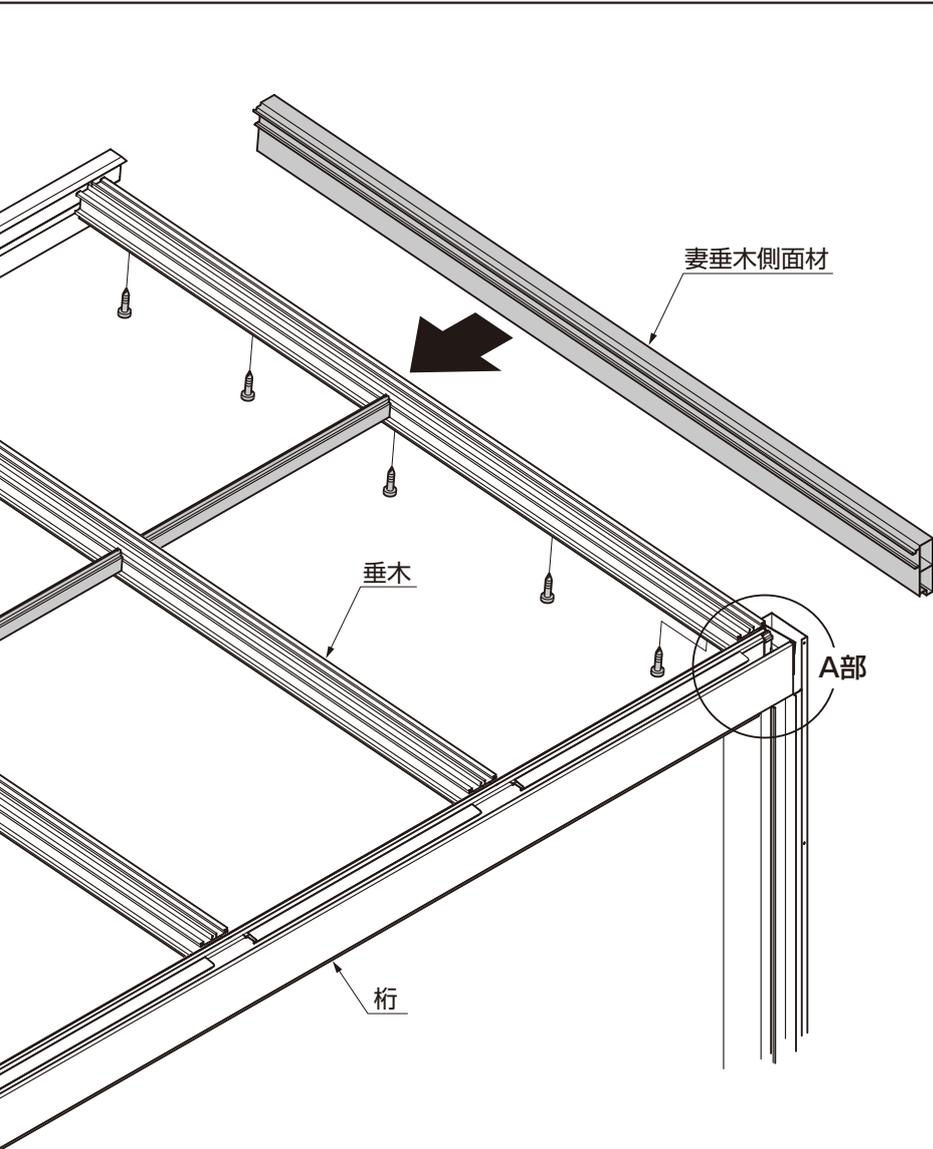


図6-12

表6-2
1スパン当りの中骨本数

6尺	8尺
1本	2本



- ①妻垂木の両端から100mmの箇所にφ5の穴をあけてください。
- ②中骨を垂木に【13-2】で取付けてください。
- ③妻垂木側面材を垂木につき当て【13-1】で取付けてください。

補足

- ※1は6尺の場合、中骨取付穴を利用して妻垂木側面材を取付けます。
- ※2は8尺の場合、中骨取付穴を利用して妻垂木側面材を取付けます。

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。
- B部のミゾは、シーリングで埋めないようにしてください。(図6-13参照)
- 妻垂木側面材は柱に突き当たった状態でネジ止めしてください。
- 妻垂木側面材を固定後に、※3の部分の垂木ビート材をカッターなどで切断してください。(図6-14参照)

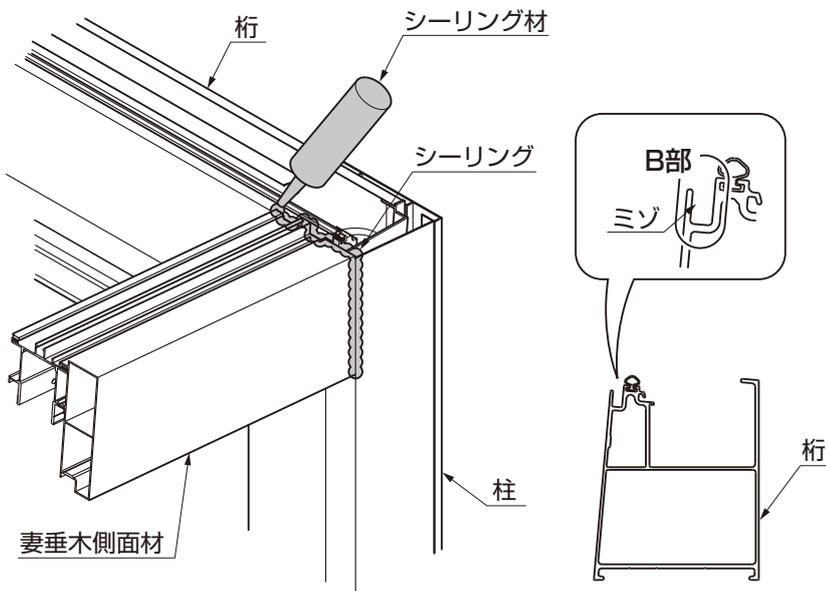
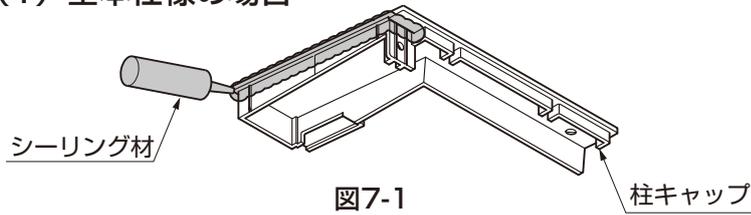


図6-13

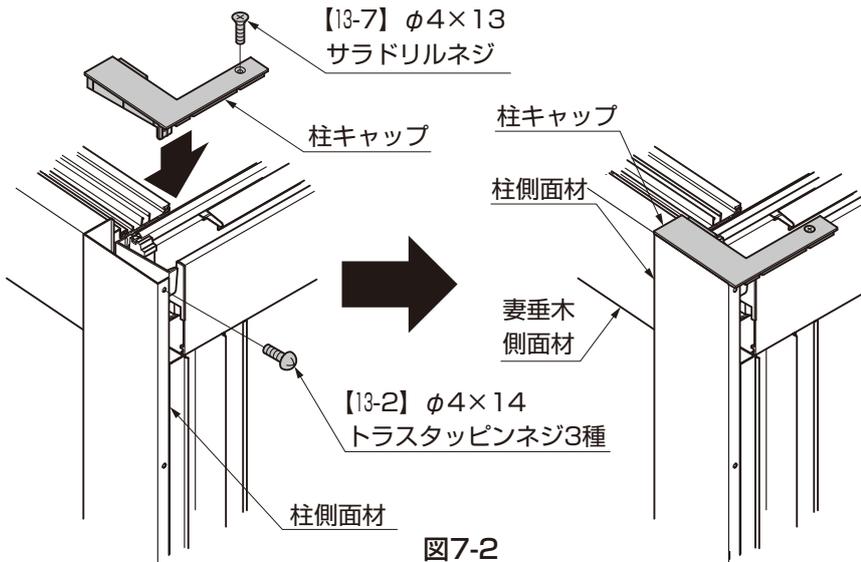
7. 柱キャップ、柱樋カバーの取付け

(1) 基本仕様の場合

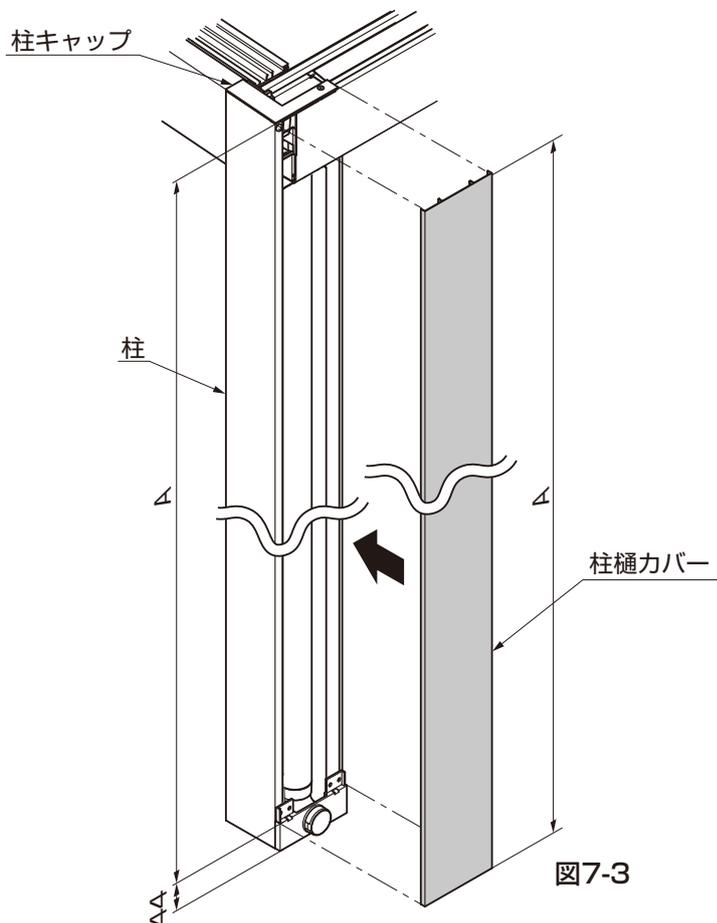


ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。



- ① 柱キャップを柱側面材と桁に【13-2】と【13-7】で取付けてください。



- ② 柱キャップから雨樋下部品までを実測(A寸法)してください。
- ③ 柱樋カバーをA寸法で切断してください。
- ④ 柱に柱樋カバーをはめ込んでください。

(2) エクシオールプラスの場合

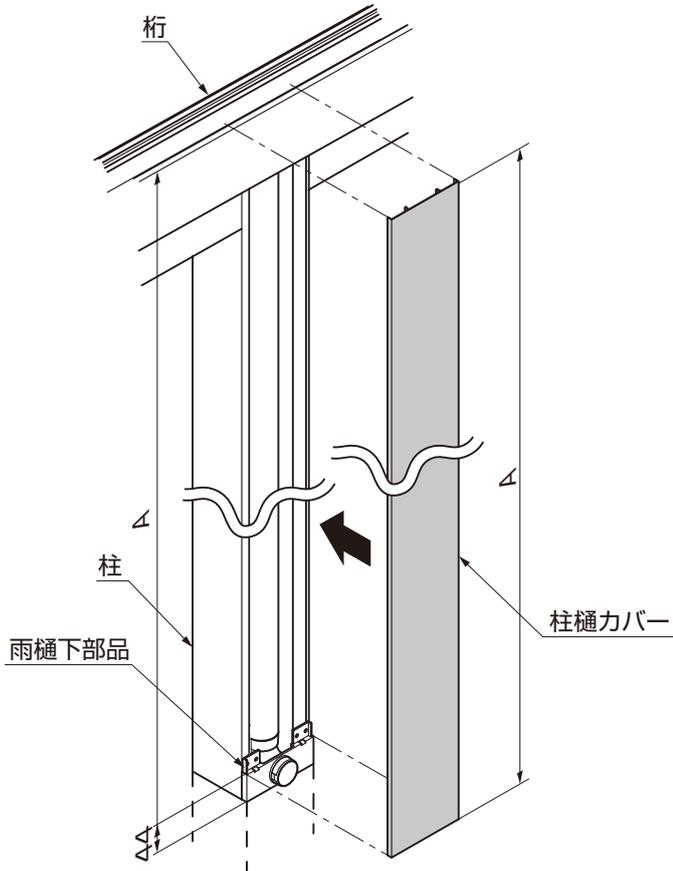


図7-4

- ① 桁上部から、雨樋下部品までを図7-5を参照して実測してください。
- ② 柱樋カバーを実測した寸法で切断してください。
- ③ 柱に柱樋カバーをはめ込んでください。

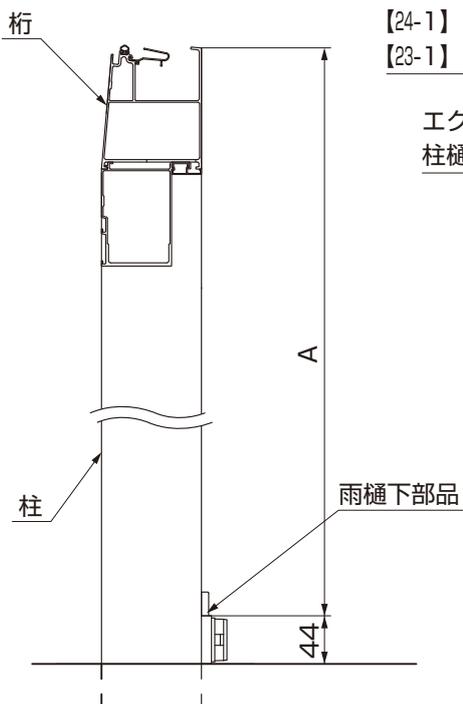


図7-5

【24-1】φ4×13ナベドリルネジ
【23-1】φ4×13ナベドリルネジ

エクシオールプラス用
柱樋カバー天端押え

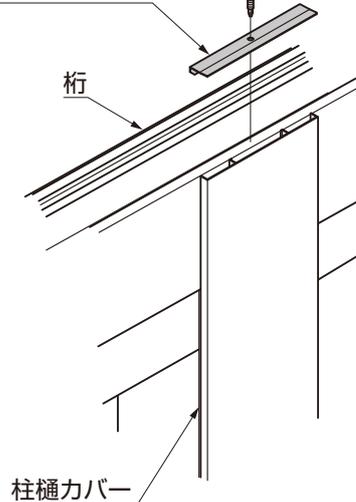


図7-6

- ④ エクシオールプラス用柱樋カバー天端押えを桁に【23-1】または、【24-1】で取付けてください。

8. 屋根材の取付け

8-1 屋根材の取付け

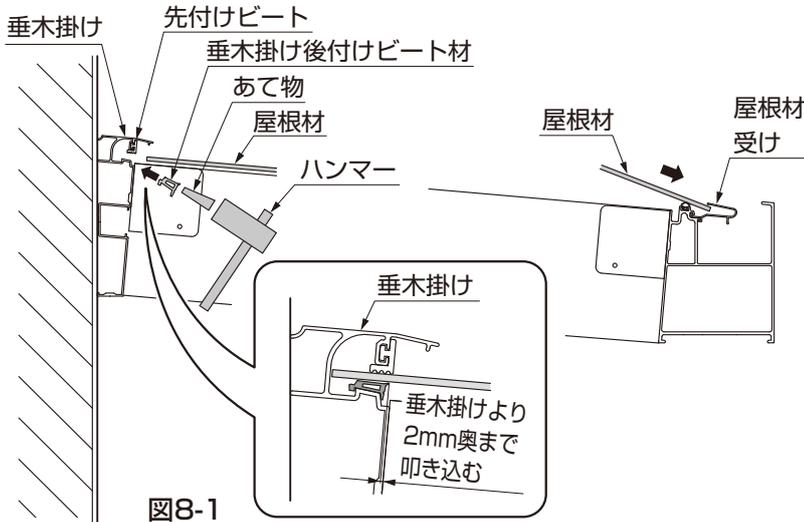


図8-1

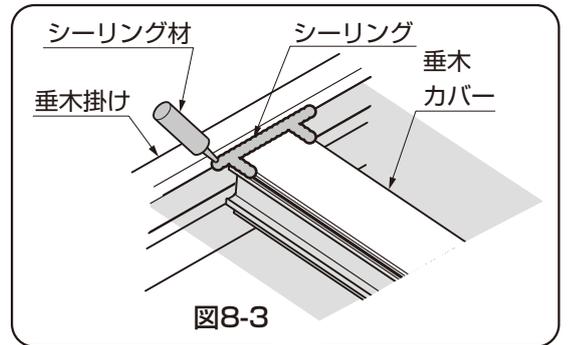


図8-3

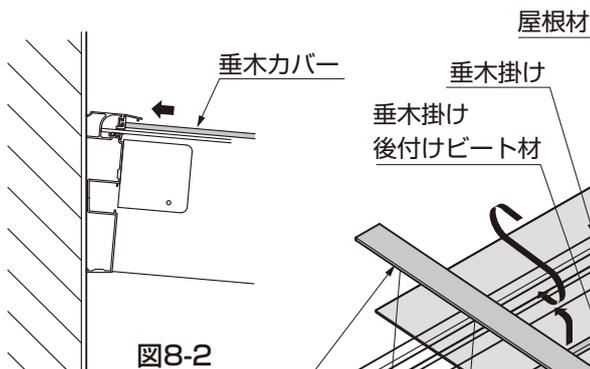


図8-2

垂木カバー

妻垂木側面材

垂木カバー

【13-3】φ4×12トラスタッピンネジ 2種 (ゴムワッシャー付)

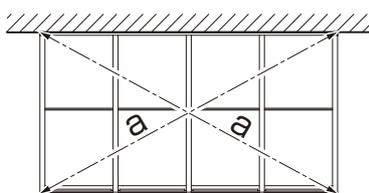


図8-8

表8-1

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業 (株)	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン (合)	トスシール380
東レ・ダウコーニング・シリコン (株)	SE960

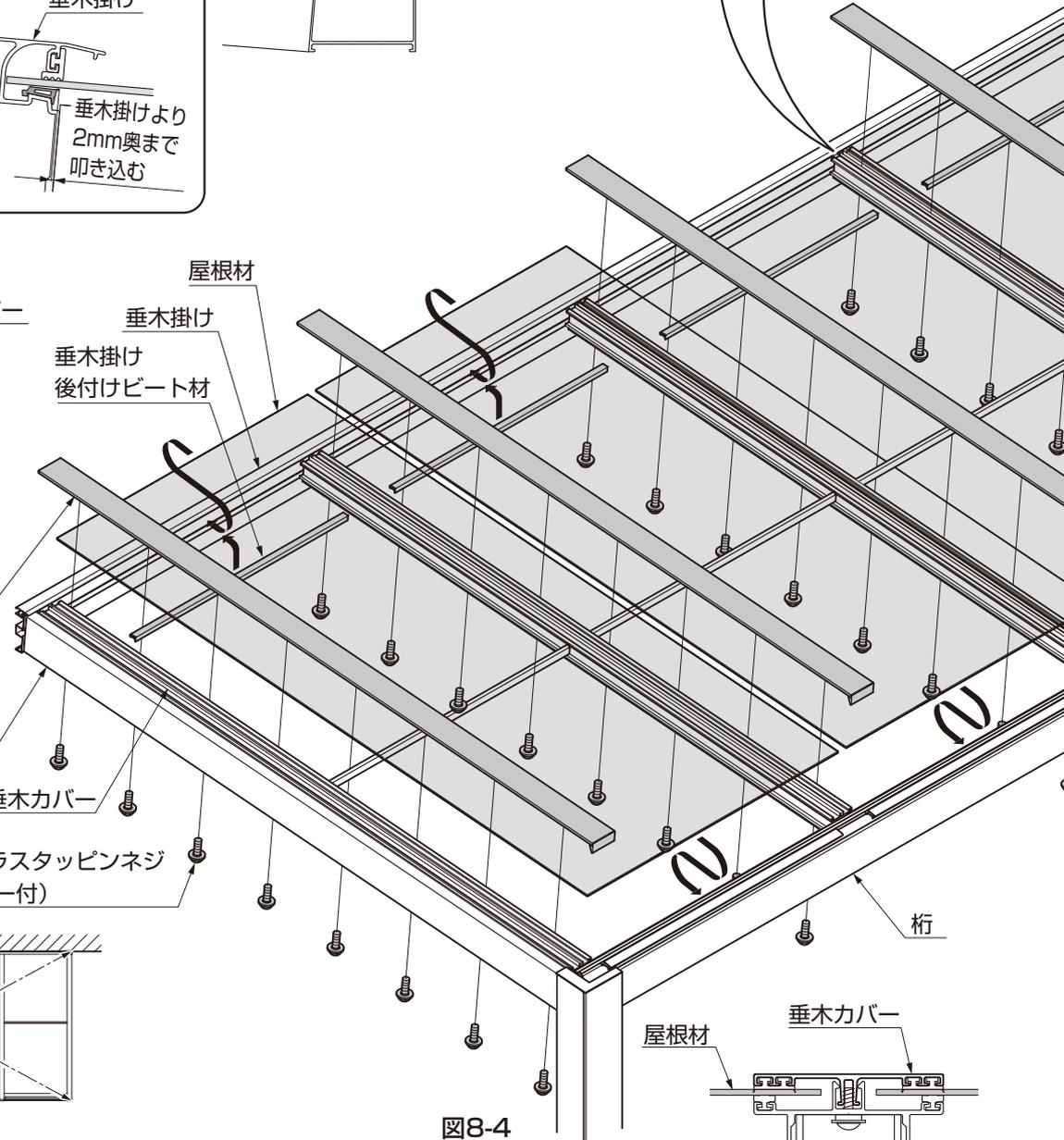


図8-4

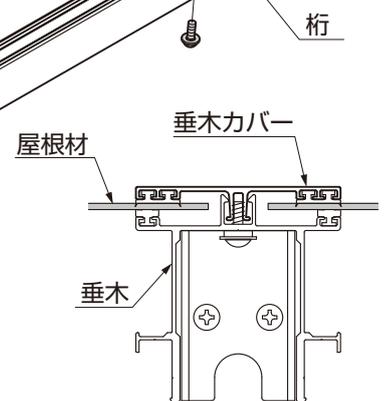


図8-5

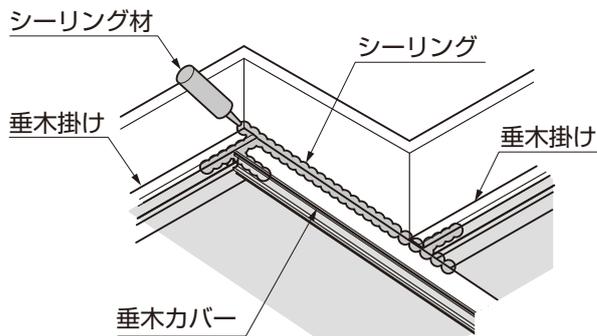


図8-9 出幅違いの場合

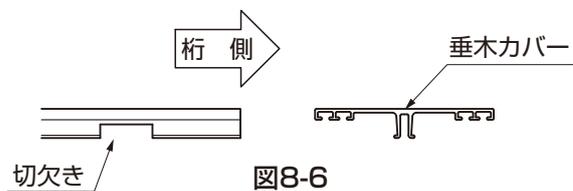
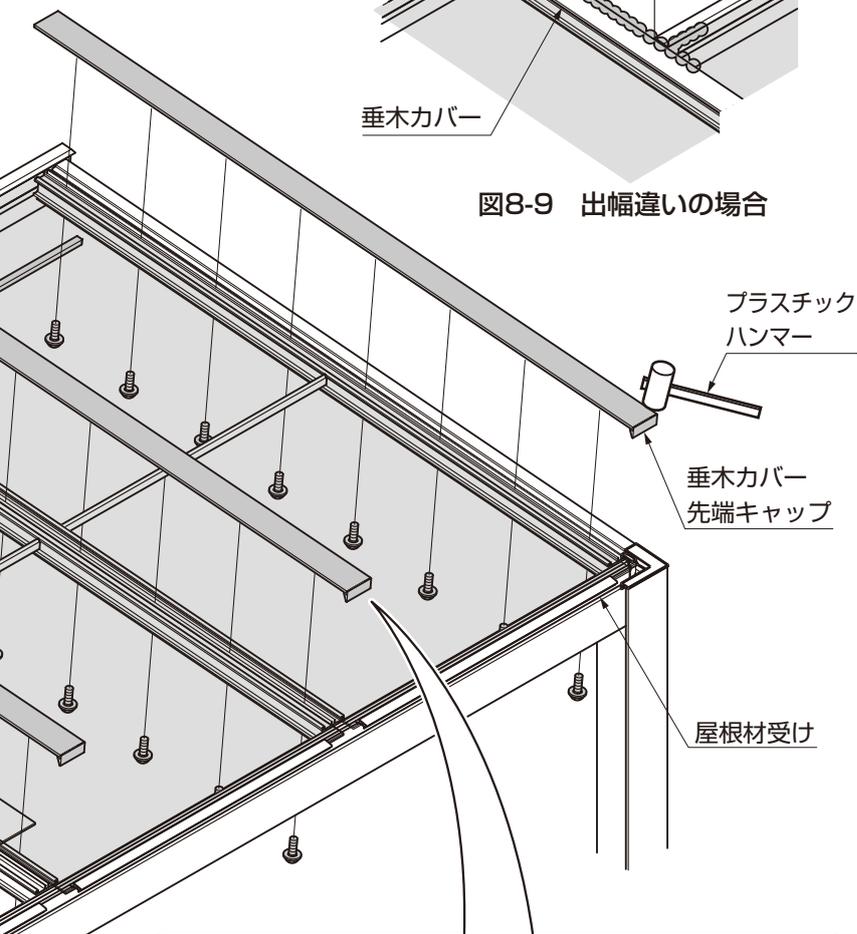
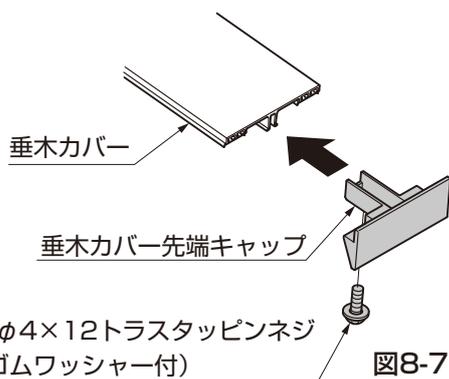


図8-6



【13-3】φ4×12トラスタッピンネジ 2種（ゴムワッシャー付）

図8-7

1. 屋根材の取付け

ポイント

- 屋根材の取付けを行なう前に屋根の対角を出してください。（図8-8参照）

- ① 屋根材受けを垂木と垂木の間で位置をあわせてください。
- ② 屋根材を垂木掛けに差込んでください。
- ③ 屋根材を屋根材受けに差込んでください。
- ④ 垂木掛け後付けビート材をあて物をあてて、垂木掛けに叩き込んでください。（図8-1参照）

ポイント

- 屋根材の取付けは、のみ込みが左右均等になるようにしてください。
- 屋根材受けを垂木間の均等な位置に合わせて、屋根材を取付けてください。
- 垂木掛け後付けビート材は、あて物をして奥まで叩き込んでください。奥まで入っていないと、外れてしまう場合があります。（図8-1参照）

2. 垂木カバーの取付け

- ① 垂木カバー先端キャップを垂木カバーにはめ込んで【13-3】で取付けてください。（図8-7参照）
- ② 垂木カバーを垂木掛けに差込み、【13-3】で取付けてください。

ポイント

- 垂木カバーは切欠きのある方を桁側にしてください。（図8-6参照）
- 垂木カバーは垂木掛けに突き当てて、取付けてください。（図8-2参照）
- 垂木カバーは部材が凹まないように注意しながら、プラスチックハンマー等で押し込んでください。

3. 垂木カバーのシーリング

- ① 垂木カバーにシーリングしてください。（図8-3、図8-9参照）

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。
- ポリカーボネート板へシーリングする場合は、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。（表8-1参照）それ以外のシーリング材では、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがあります。

9. 垂木化粧材の取付け ※図はルームタイプの場合を示します。

表9-1 妻垂木化粧材について

ルームタイプの場合	テラスタイプの場合

表9-2 垂木化粧材について

一般地域用	積雪地域用

表9-3 エクシオールプラスの場合の化粧材

エクシオールプラスの場合

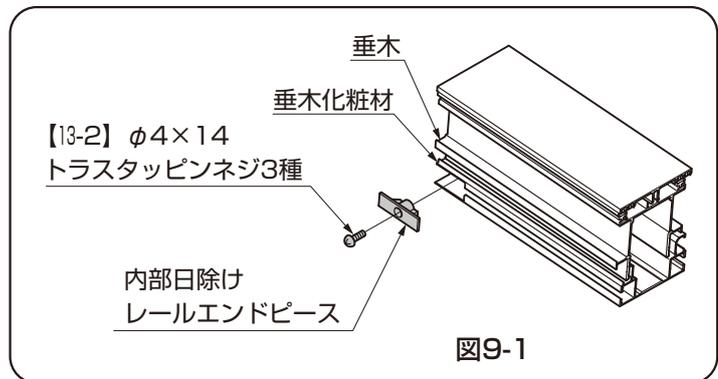


図9-1

垂木掛け
垂木カバー

[13-1] φ4×13
ナベドリルネジ

妻垂木化粧材

垂木

[7-1] φ4.5×63
丸木ネジ

出幅違い用
垂木掛けカバー

垂木掛け

垂木カバー

垂木

垂木化粧材 図9-2

図9-6 出幅違いの場合

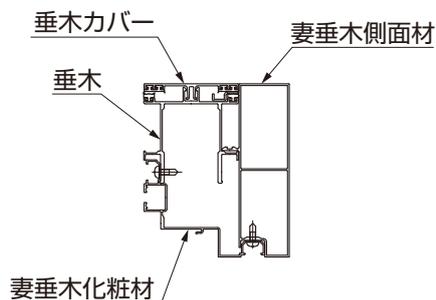


図9-3 A部詳細図

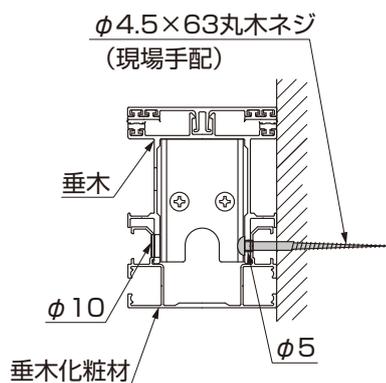


図9-4 出幅違いの場合

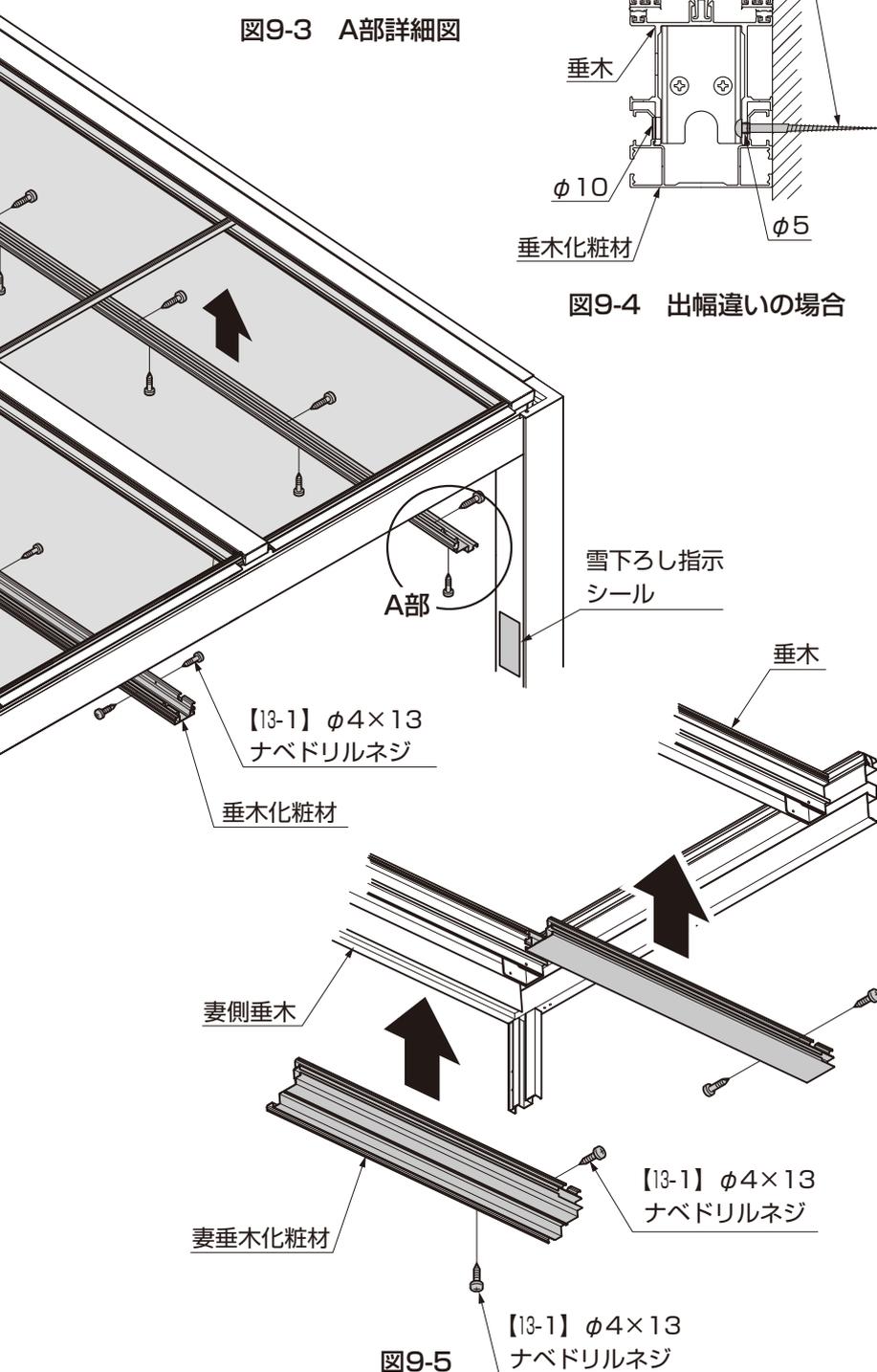


図9-5

- ① 垂木化粧材を垂木に【13-1】で取付けてください。
- ② 妻垂木化粧材を妻側垂木に【13-1】で取付けてください。

ポイント

- 妻垂木化粧材にはルームタイプと、テラスタイプ、エクシオールプラスタイプがあります。
- 垂木化粧材には一般地域用と積雪地域用があります。

- ③ 内部日除けレールエンドピースを垂木化粧材、妻垂木化粧材に【13-2】で取付けてください。(図9-1参照)

ポイント

- 【13-2】は強く締めすぎないでください。

- ④ 柱の見やすい位置に雪下ろし指示シールを貼付けてください。

ポイント

- エクシオールプラスの場合は表9-3の垂木化粧材を取付けてください。

- ⑤ 出幅違いの場合の躯体隣接部分は、垂木と垂木化粧材にφ10、φ5の穴をあけ、躯体にはφ3.5の下穴をあけて、「φ4.5×63丸木ネジ」で垂木化粧材と同時に取付けてください。(図9-4参照)

ポイント

- φ4.5×63丸木ネジは、現場で手配してください。

- ⑥ 出幅違いの場合は、垂木掛け側面のアルミ部断面を塞ぐように出幅違い用垂木掛けカバーを【7-1】で取付けてください。(図9-6参照)

10. 垂木掛けキャップの取付け

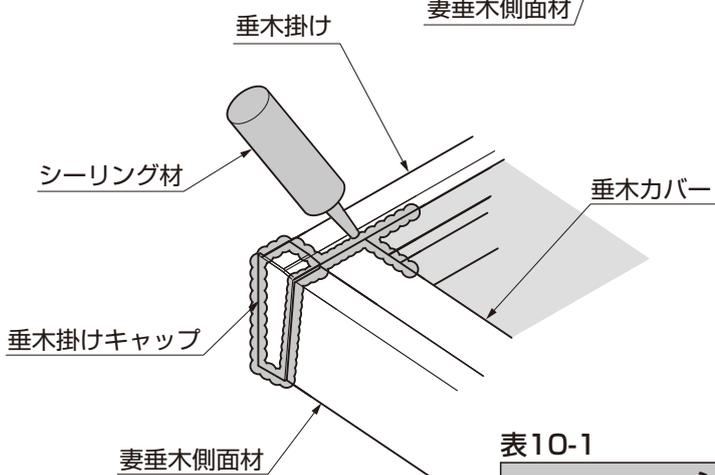
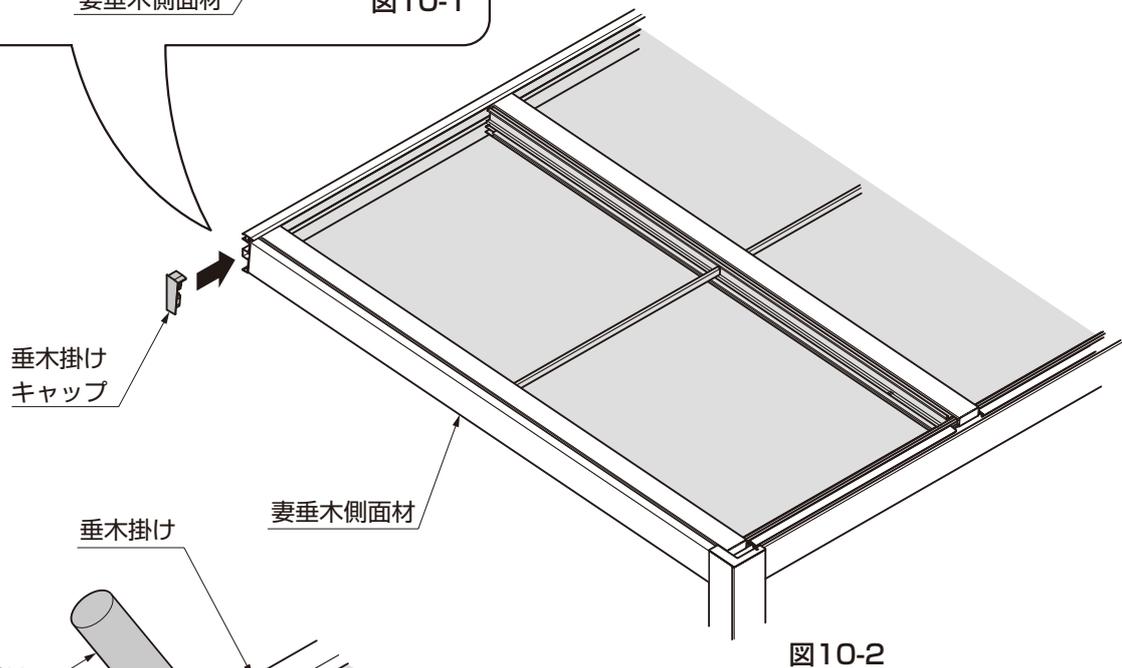
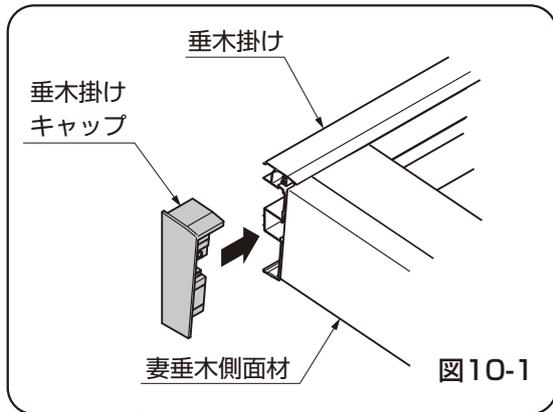


表10-1

シーリングメーカー	品名および品番
信越化学工業（株）	シーラント72
モメンティブ・パフォーマンス・マテリアルズ・ジャパン（合）	トスシール380
東レ・ダウコーニング・シリコン（株）	SE960

①垂木掛けキャップを、垂木掛けに取付けてください。

ポイント

- 入隅の場合は入隅側の垂木掛けキャップは取付けません。
- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。
- ポリカーボネート板へシーリングする場合は、当社指定の脱アルコール系シーリング材を使用してください。（表10-1参照）それ以外のシーリング材では、ポリカーボネート板のひび割れ等のおそれがあります。

7 開閉パネルの取付け

1. 妻梁の取付け

1-1 基本タイプの取付け

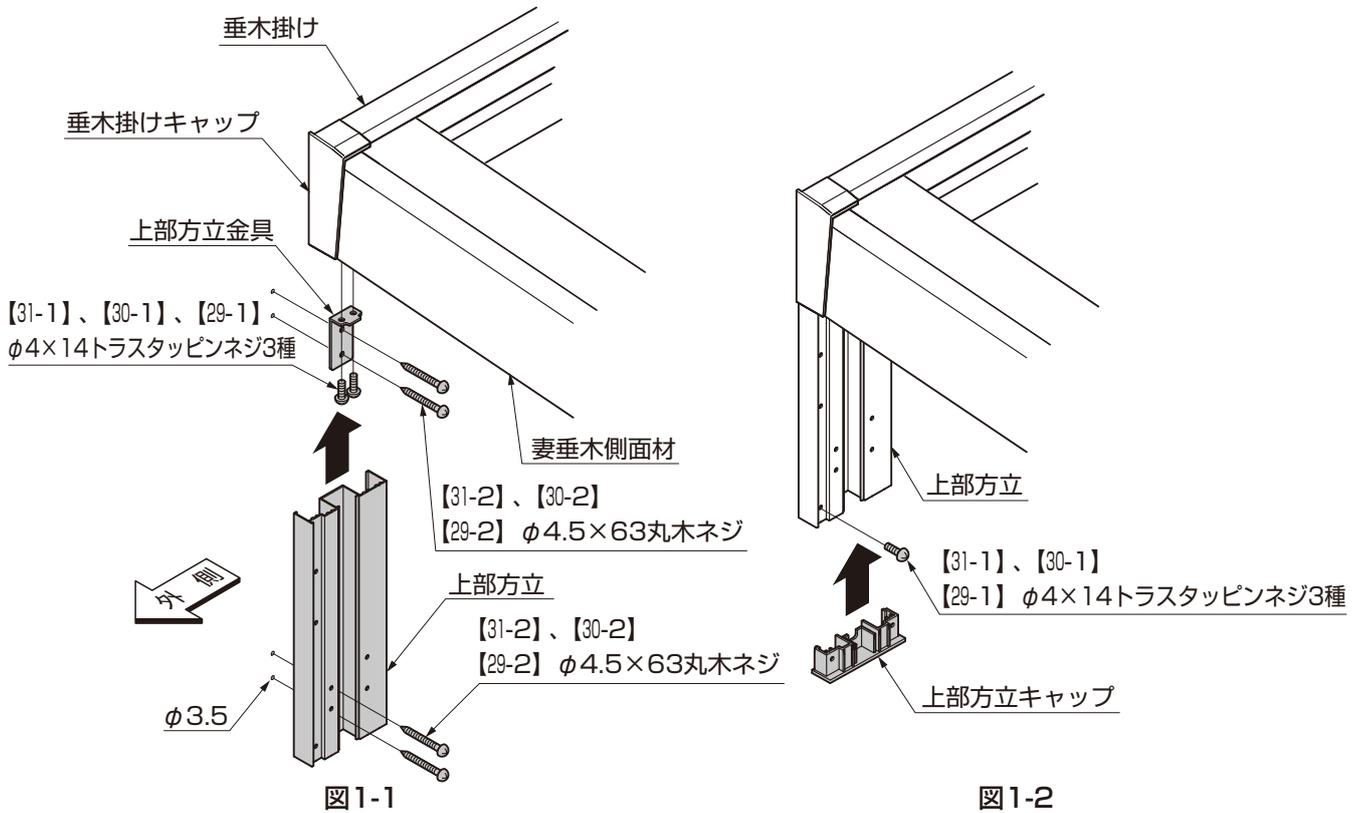


図1-1

図1-2

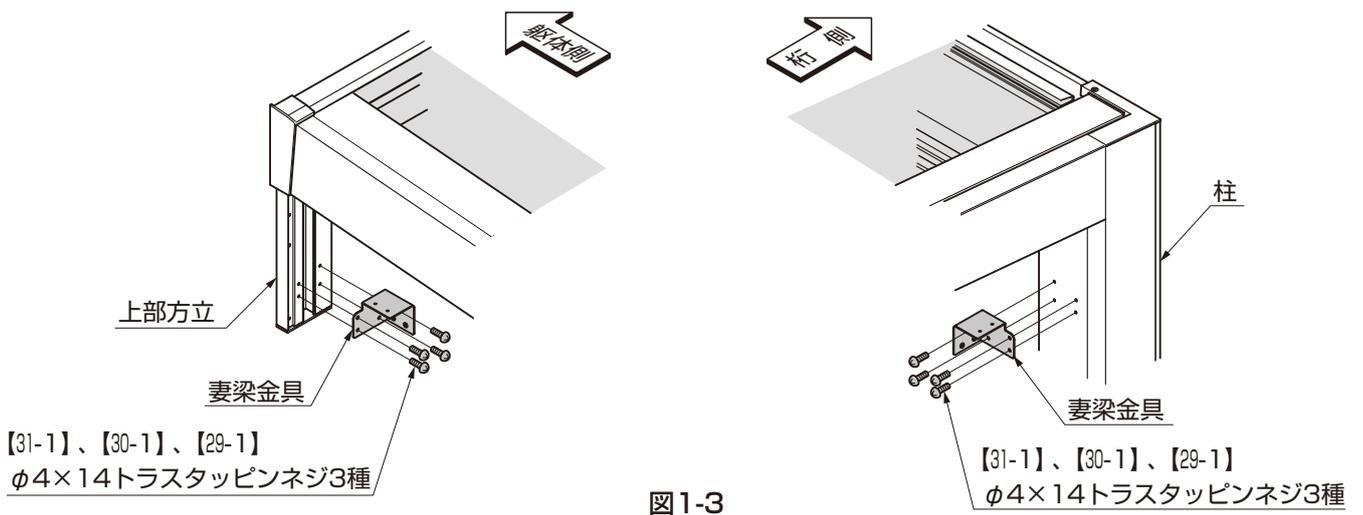


図1-3

- ① 上部方立金具を垂木掛けに【29-1】または、【30-1】、【31-1】で取付けてください。
- ② 上部方立取付け用の穴位置を躯体にけがいて、φ3.5の下穴をあけてください。
- ③ 上部方立を上部方立金具にスライドさせ【29-2】または、【30-2】、【31-2】で取付けてください。
- ④ 上部方立に上部方立キャップを【29-1】または、【30-1】、【31-1】で取付けてください。

ポイント

- 上部方立は水平・垂直を出して取付けてください。
- ④ 妻梁金具を上部方立、柱に【29-1】または、【30-1】、【31-1】で取付けてください。

1. (つづき)

1-2 エクシオールプラスタイプの場合

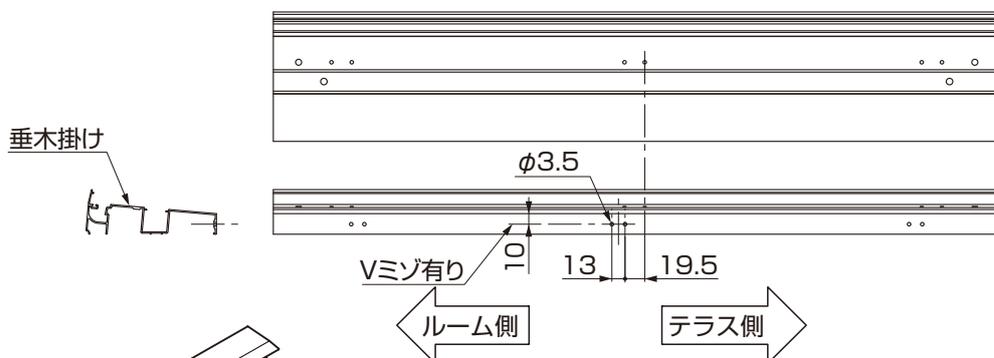


図1-4

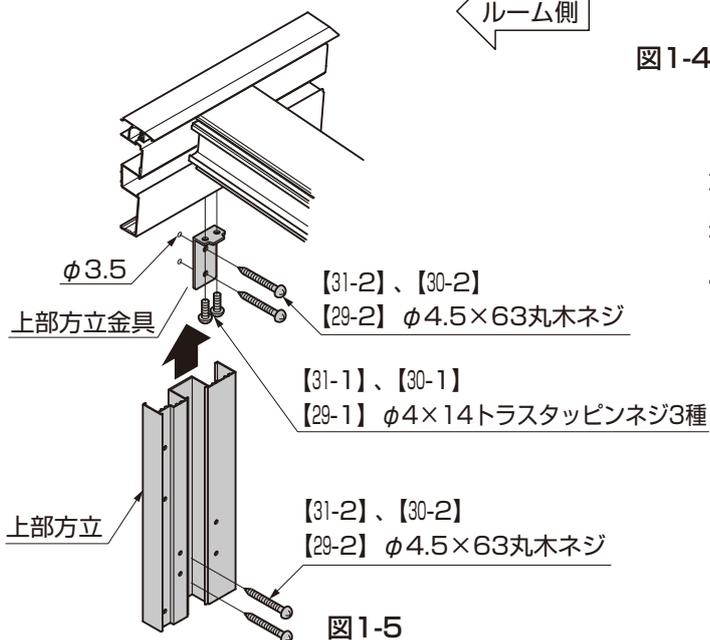


図1-5

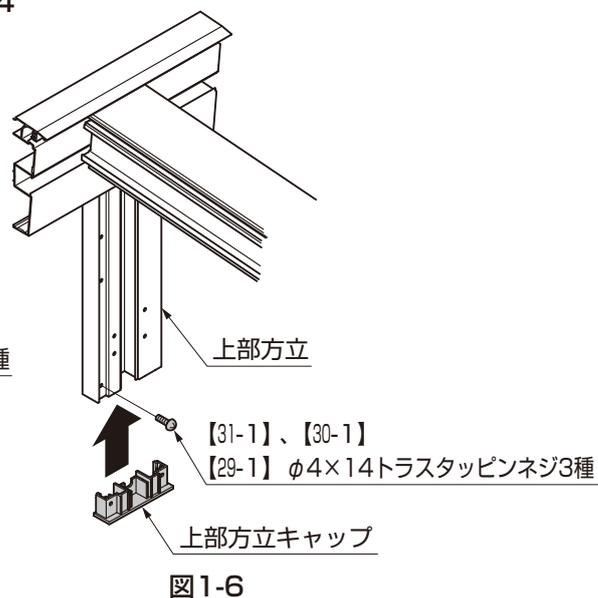


図1-6

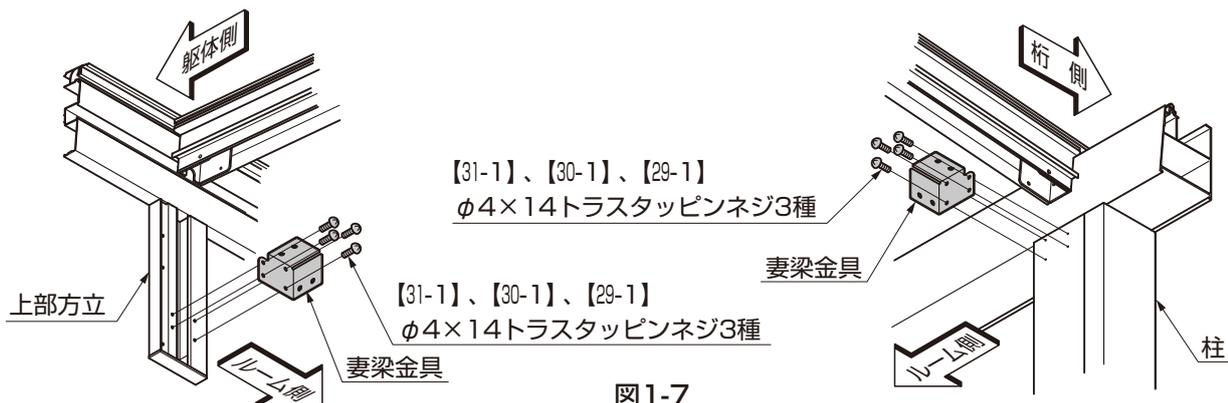


図1-7

- ① 垂木掛けに上部方立取付け用のφ3.5の穴をあけてください。(図1-4参照)
- ② 上部方立金具を垂木掛けに【29-1】または、【30-1】、【31-1】で取付けてください。
- ③ 上部方立取付け用の穴位置を躯体にけがいて、φ3.5の下穴をあけてください。
- ④ 上部方立を上部方立金具にスライドさせ【29-2】または、【30-2】、【31-2】で取付けてください。
- ⑤ 上部方立に上部方立キャップを【29-1】または、【30-1】、【31-1】で取付けてください。

ポイント

- 上部方立は、柱の正面に取付けてください。
 - 上部方立は水平・垂直を出して取付けてください。
- ⑥ 妻梁金具を上部方立、柱に【29-1】または、【30-1】、【31-1】で取付けてください。

1-3 妻梁の取付け

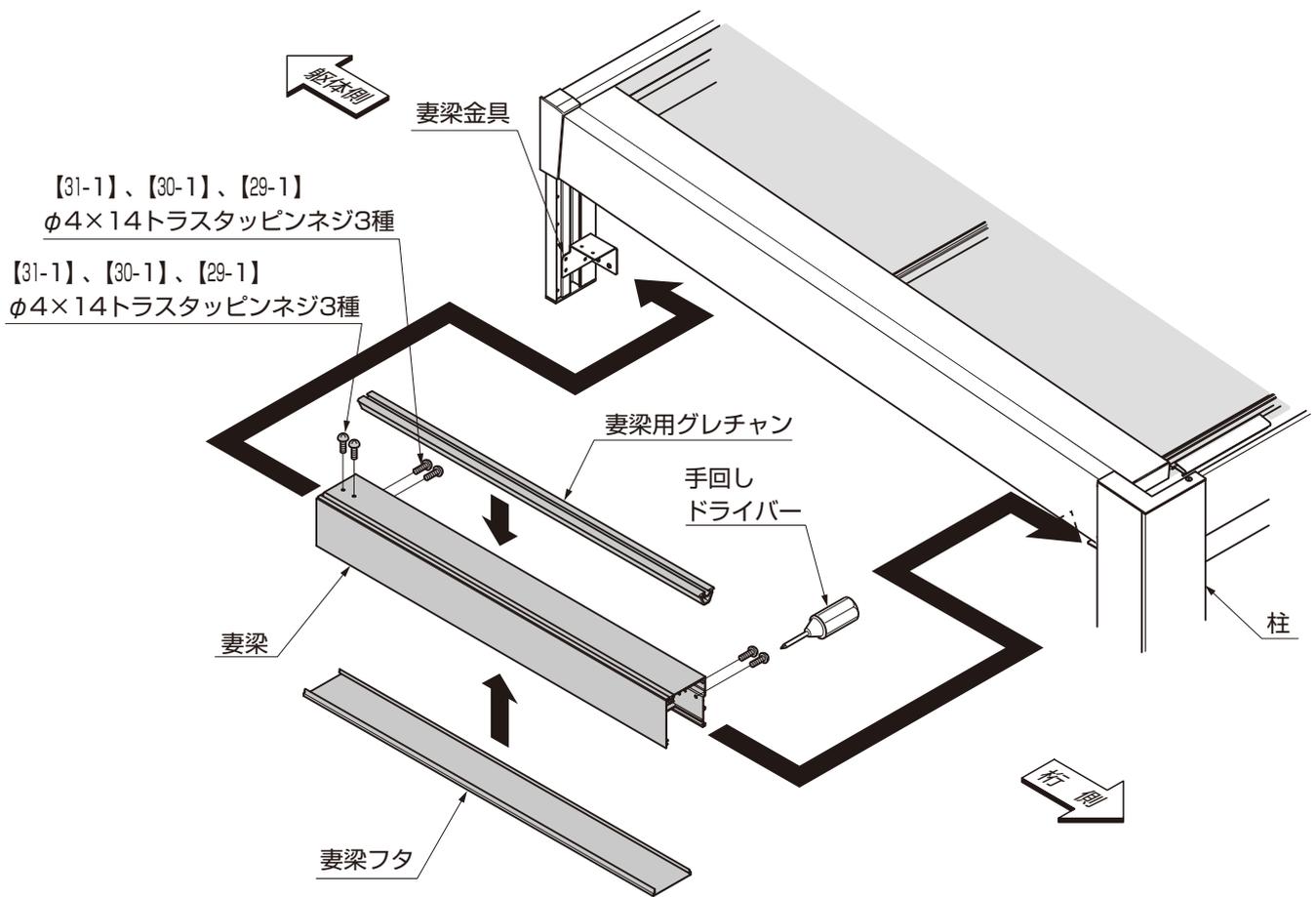


図1-8

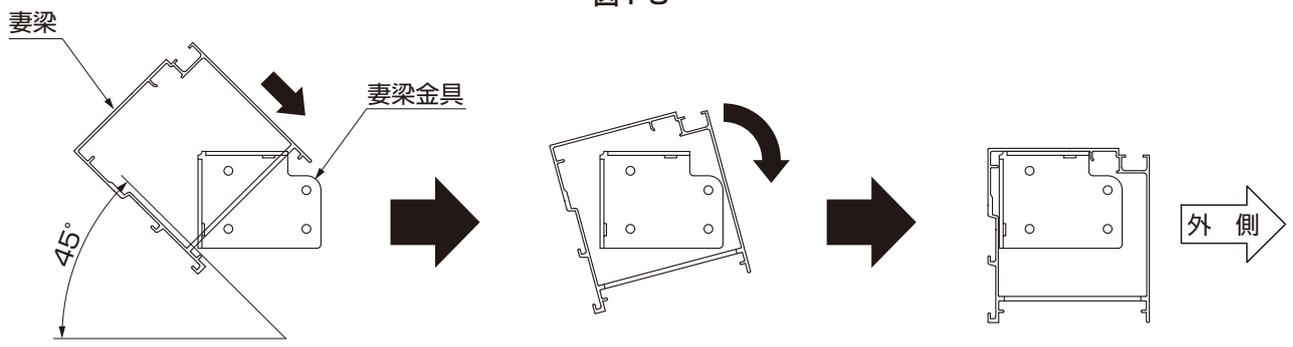


図1-9

- ①妻梁を妻梁金具に【29-1】または、【30-1】、【31-1】で取付けてください。
- ②妻梁用グレチャンを妻梁にはめ込んでください。

ポイント

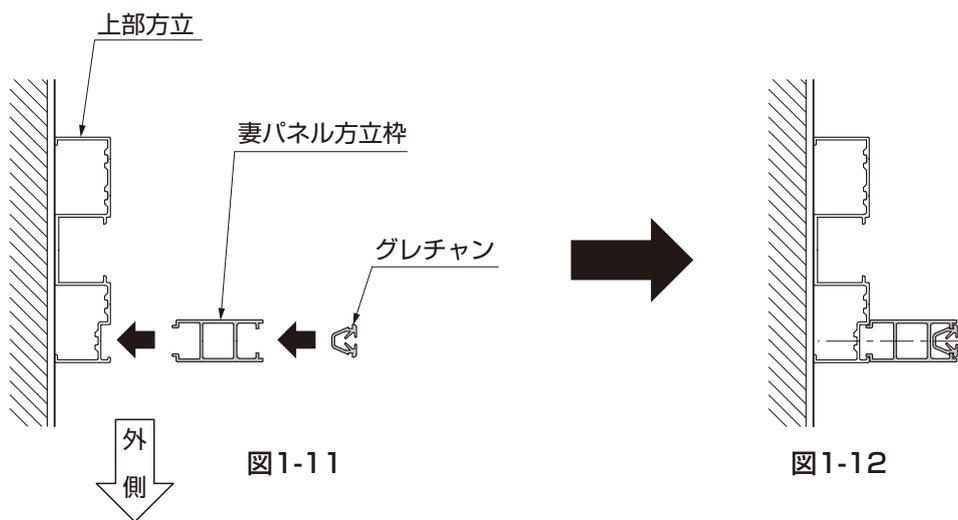
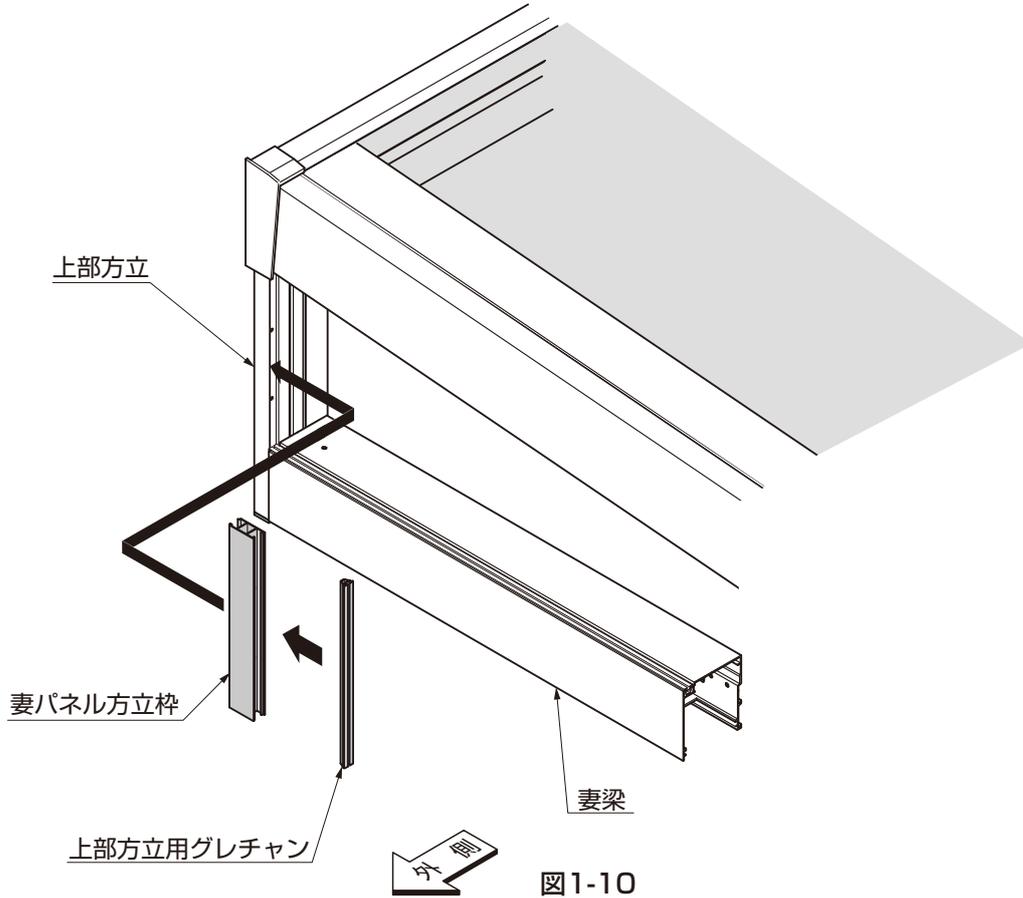
- 妻梁には左右があります。
- 妻梁を取付ける際は、図1-9のように回転させて取付けてください。
- 【29-1】、【30-1】、【31-1】を取付ける場合、手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取付かない場合があります。

- ③妻梁フタを妻梁にはめ込んでください。

1. (つづき)

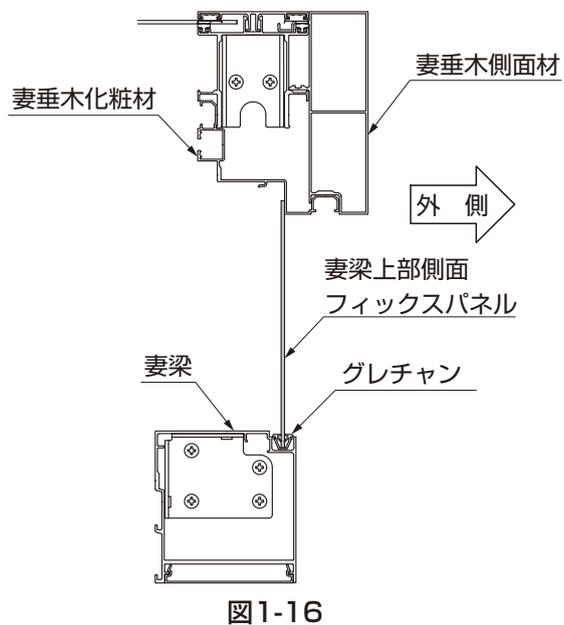
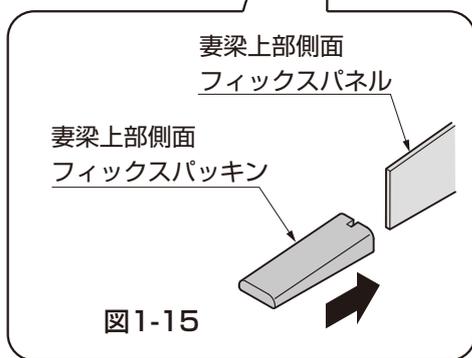
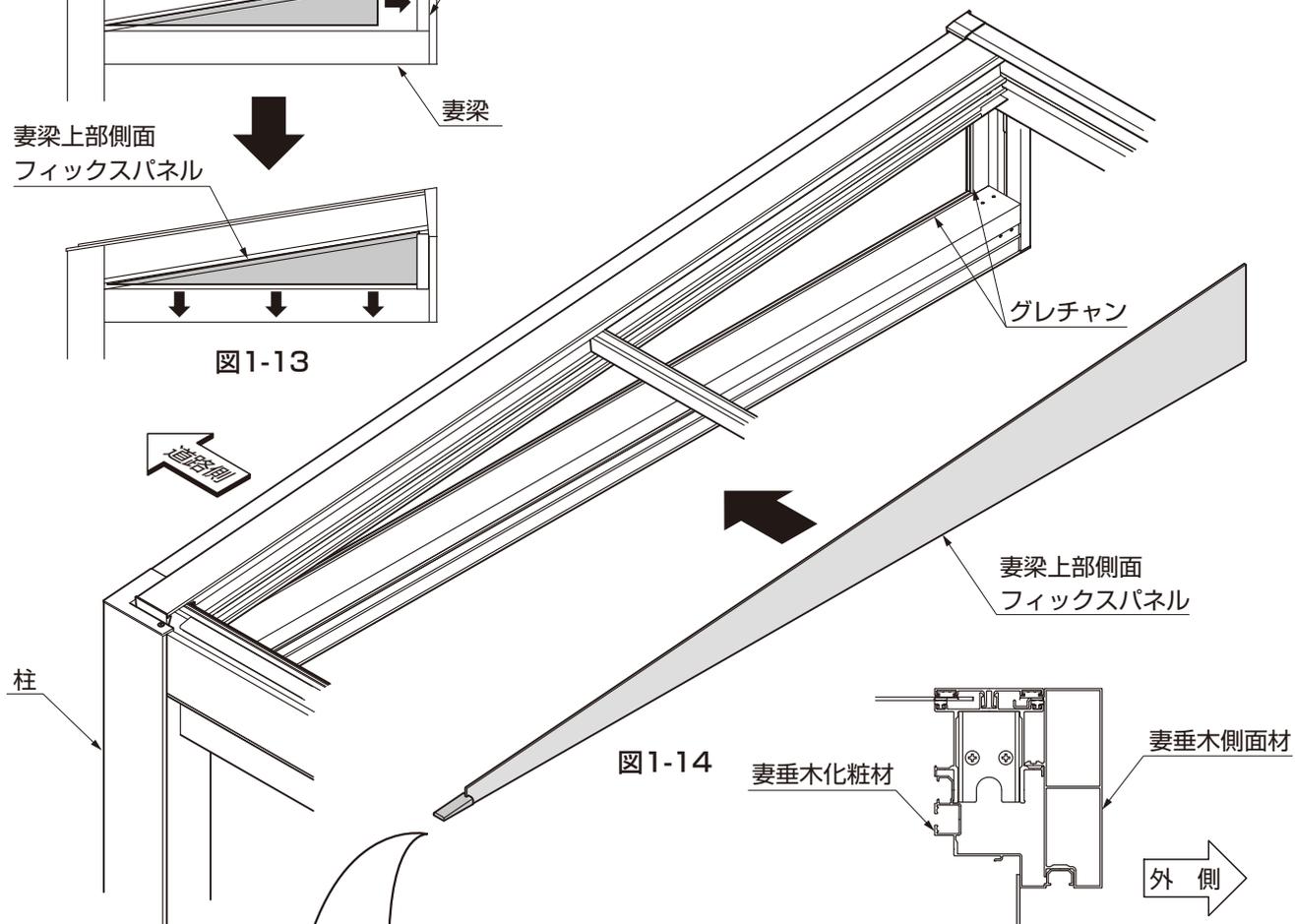
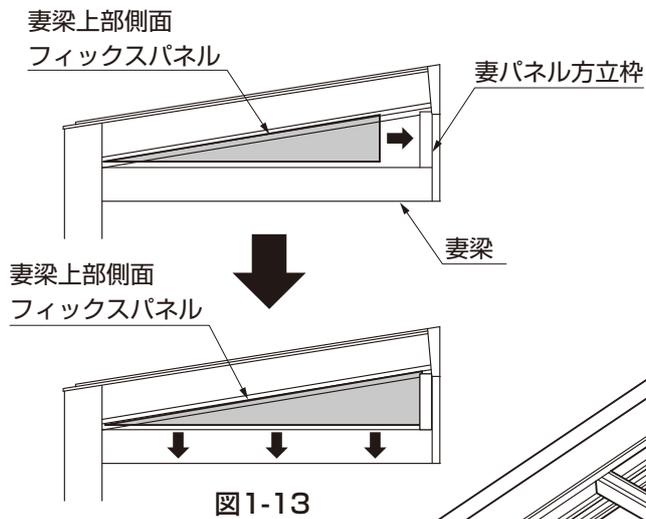
※「部分入隅引戸対応部材」を取付ける場合は、ここより「部分入隅対応部材 (E306)」を参照してください。

1-4 妻パネル方立枠の取付け



- ①上部方立用グレチャンを妻パネル方立枠にはめ込んでください。
- ②妻パネル方立枠を上部方立に取付けてください。

1-5 妻梁上部側面フィックスパネルの取付け



- ①妻梁上部側面フィックスパッキンを妻梁上部側面フィックスパネルにはめ込んでください。
- ②妻梁上部側面フィックスパネルを妻パネル方立柱、妻梁のグレチャンにはめ込んでください。

ポイント

- 妻梁上部側面フィックスパネルは妻パネル方立柱のグレチャンに差し込んだ後に妻梁のグレチャンに差し込んでください。
- 妻梁上部側面フィックスパネルには左右があります。「この面が太陽側です。」が外側です。

1. (つづき)

1-6 フィックス押えの取付け

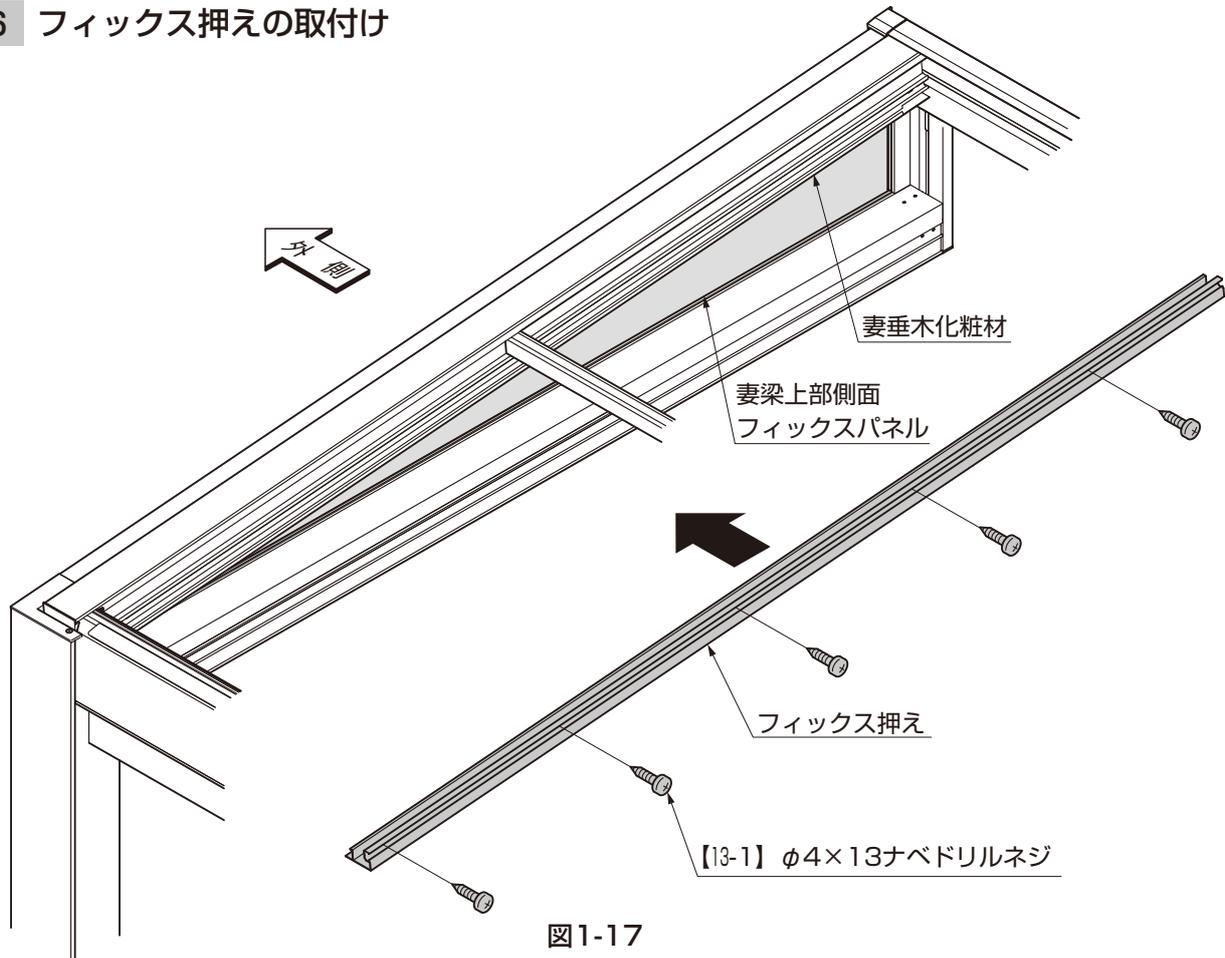


図1-17

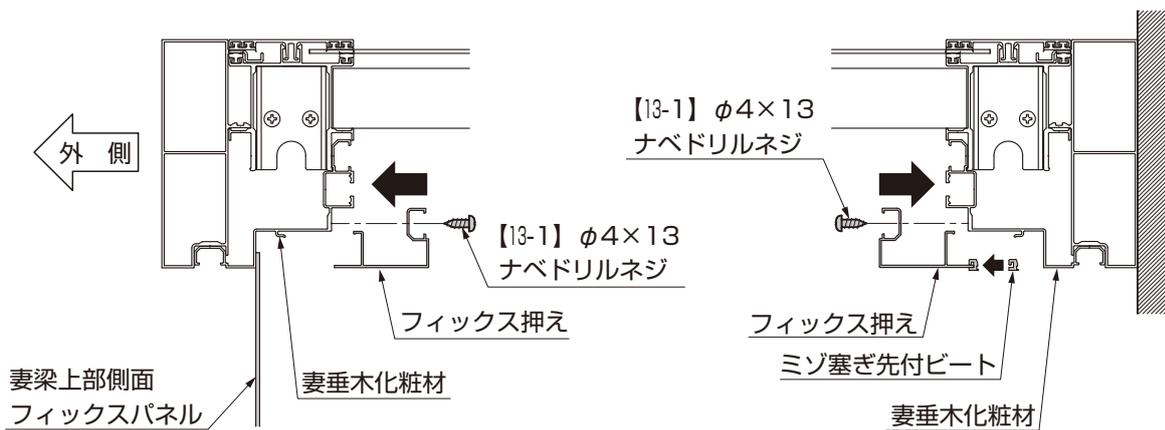


図1-18

図1-19 妻梁上部側面フィックスパネルを使用しない場合

- ① フィックス押えを妻垂木化粧材に【13-1】で取付けてください。
- ② 入隅の躯体側（妻梁上部側面フィックスパネルを使用しない側）にはフィックス押えにミゾ塞ぎ先付ビートをはめ込んでからフィックス押えを取付けてください。

ポイント

- ミゾ塞ぎ先付ビートはL=595.5が6尺用には3本、8尺用には4本入っています。フィックス押えの長さに合わせて調整して使用してください。

1. (つづき)

1-7 つづき

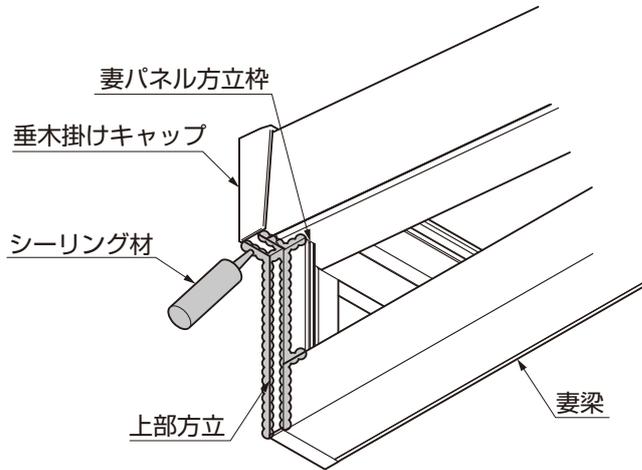


図1-25

④ 図1-25の箇所にシーリングをしてください。

ポイント

● 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。

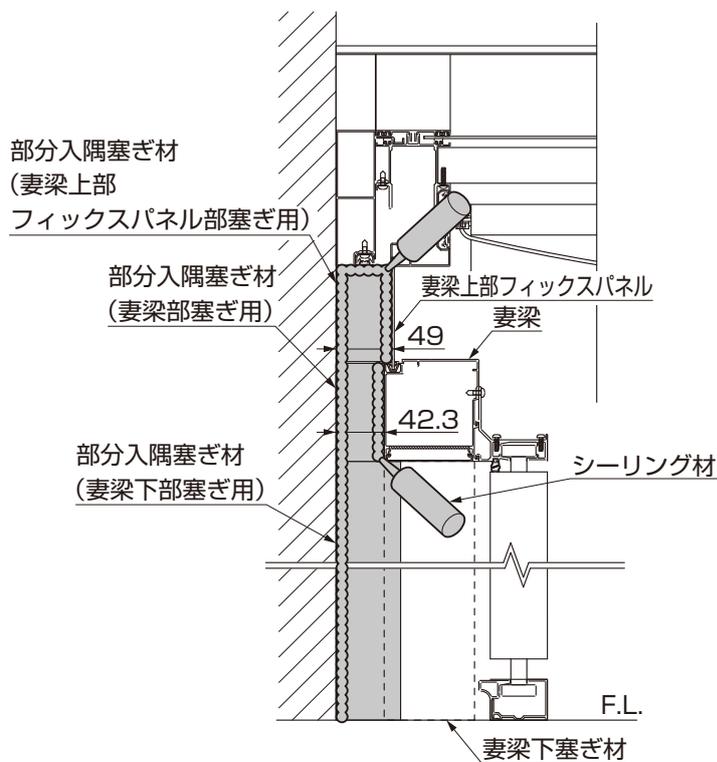


図1-26

⑤ 図1-26の箇所にシーリングをしてください。

ポイント

● 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。

2. ベース材の取付け ※ベース材仕様の場合の作業です。

2-1 連棟仕様の場合

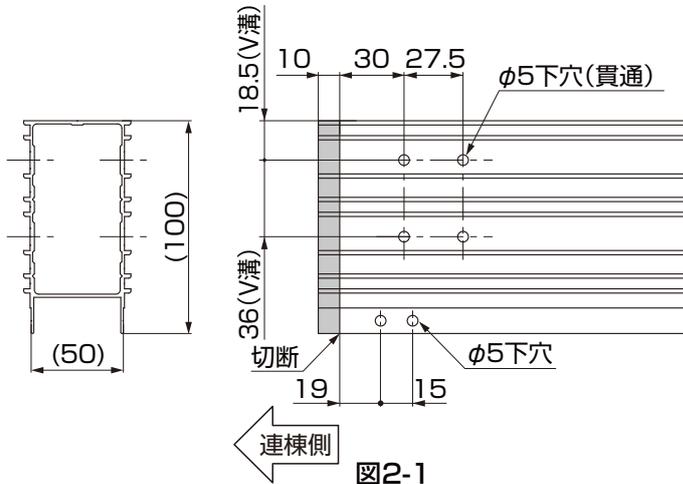


図2-1

- ①前面ベース材の連結する側を10mm切断してください。
- ②前面ベース材の連結する側にφ5の穴加工をしてください。

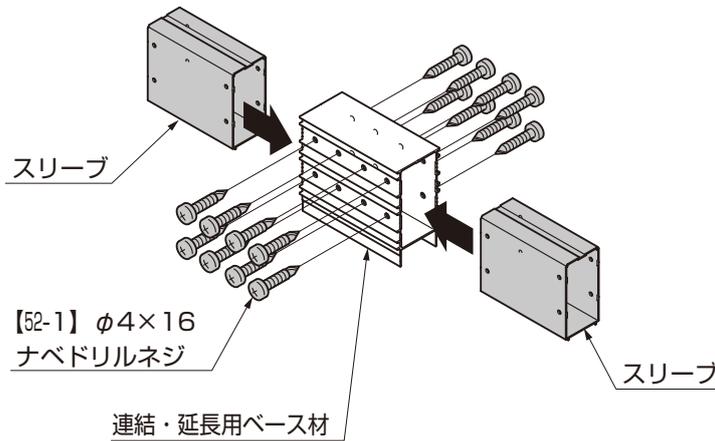


図2-2

- ③ベース材スリーブを延長用ベース材の両端に差込み、【52-1】で取付けてください。

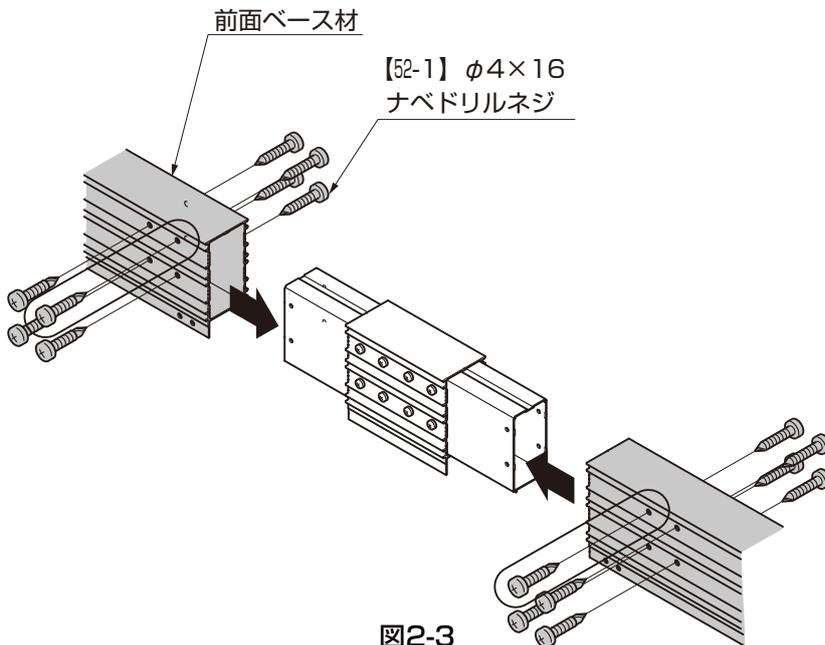


図2-3

- ④上で組付けたものの両端に前面ベース材を差込み、【52-1】で取付けてください。

ポイント

- 内面デッキ立上げ仕様では○部はまだ固定しないでください。

2. (つづき)

2-2 入隅仕様の場合

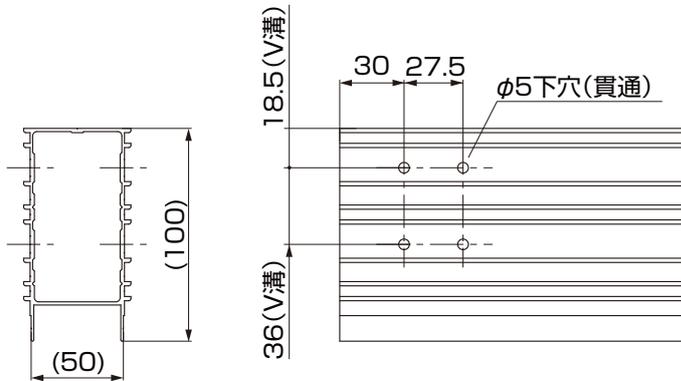


図2-4

① 連結する側の前面ベース材に加工をしてください。

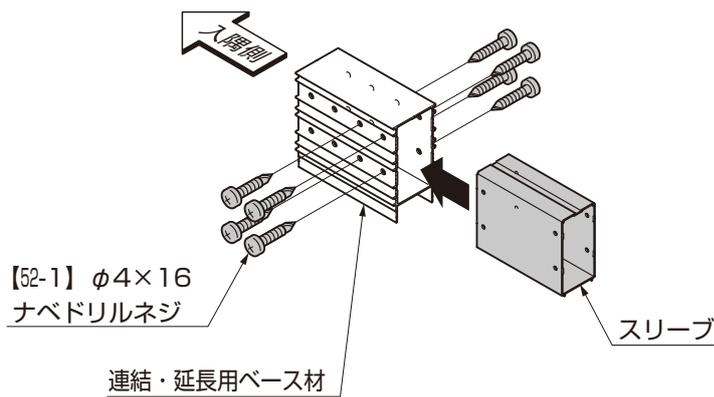


図2-5

② 連結・延長用ベース材の入隅側を10mm切断してください。

③ ベース材スリーブを延長用ベース材に差込み、【52-1】で取付けてください。

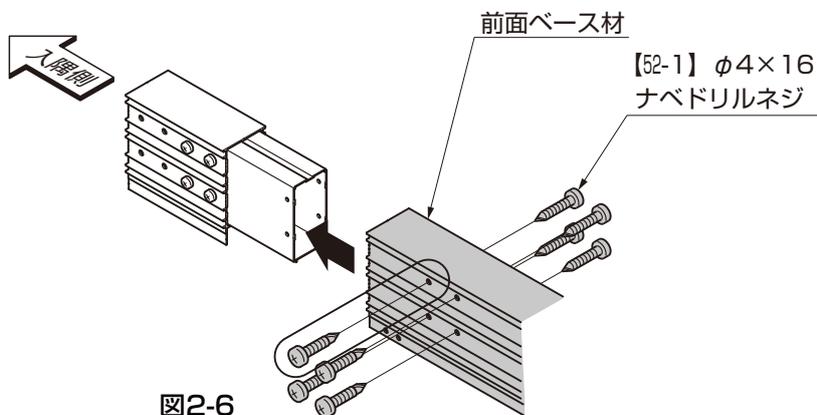


図2-6

④ 上で組付けたものに前面ベース材を差込み、【52-1】で取付けてください。

ポイント

● 内面デッキ立上げ仕様では○部はまだ固定しないでください。

2-3 3尺延長仕様の場合

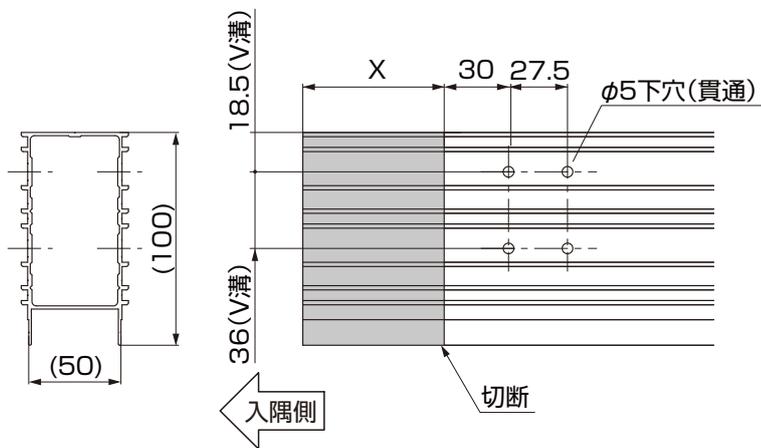


図2-7

①4尺用の側面ベース材を切断して、穴加工を行なってください。

表2-1

仕様	切断寸法X
単純延長	388
バルコニー下	
バルコニー前	138
バルコニー前 (部分屋根側)	88

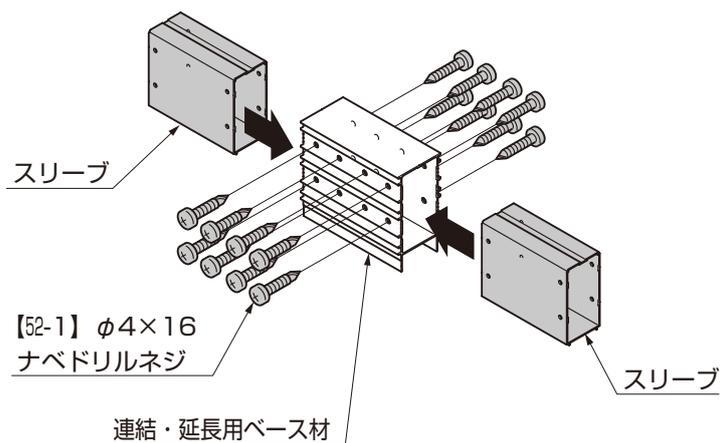


図2-8

②ベース材スリーブを延長用ベース材の両端に差込み、【52-1】で取付けてください。

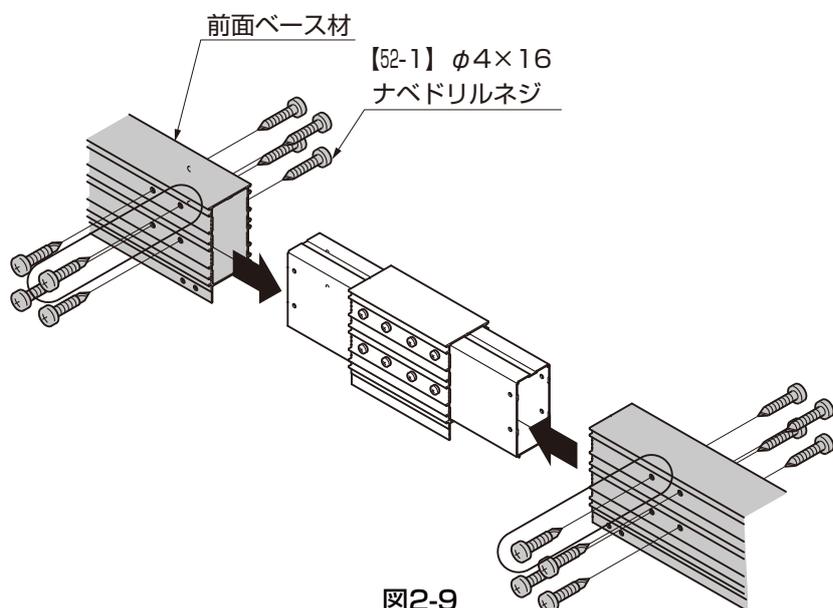


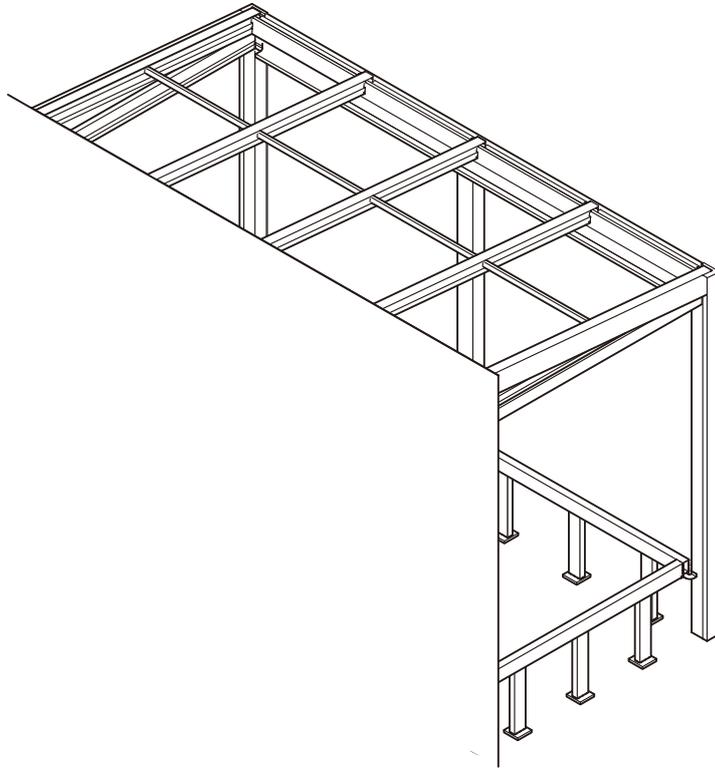
図2-9

④上で組付けたものの両端に側面ベース材を差込み、【52-1】で取付けてください。

ポイント

●内面デッキ立上げ仕様では○部はまだ固定しないでください。

2. (つづき)



2-4 束柱の加工

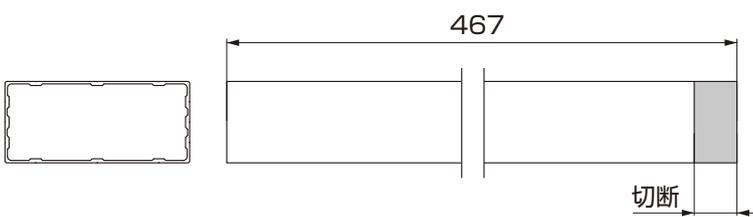


図2-10 束柱の切断

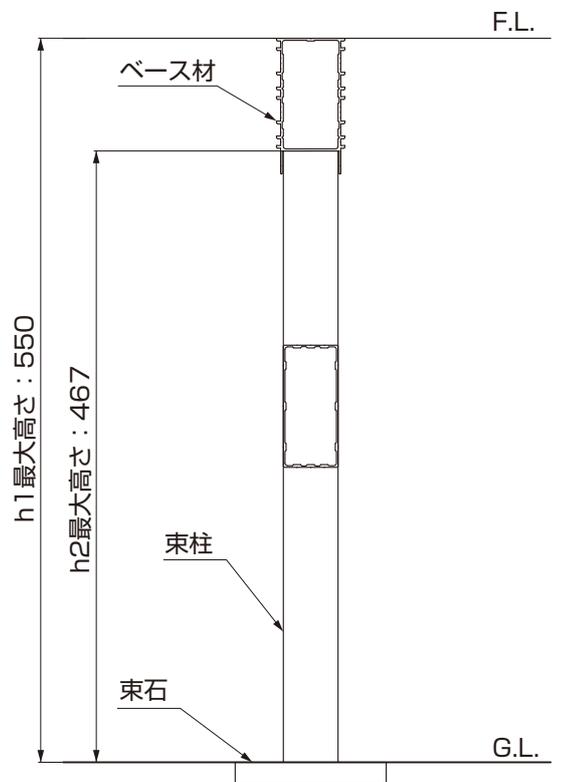
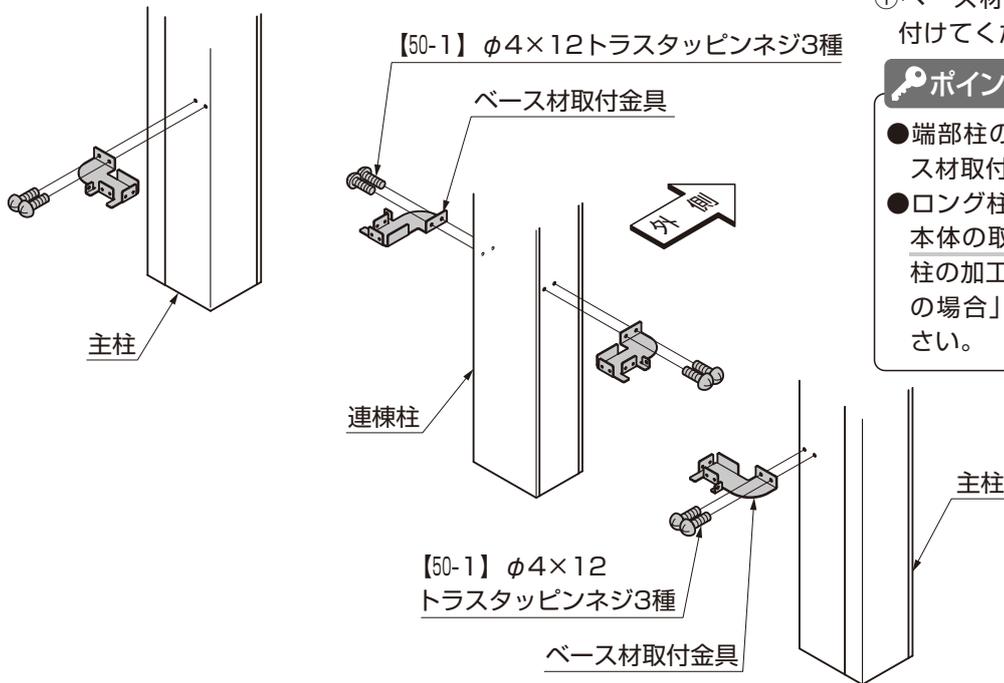


図2-11 束柱の必要寸法

①すべての束柱の上端の高さがそろそろよう束柱を切断してください。

2-5 ベース材取付金具の取付け

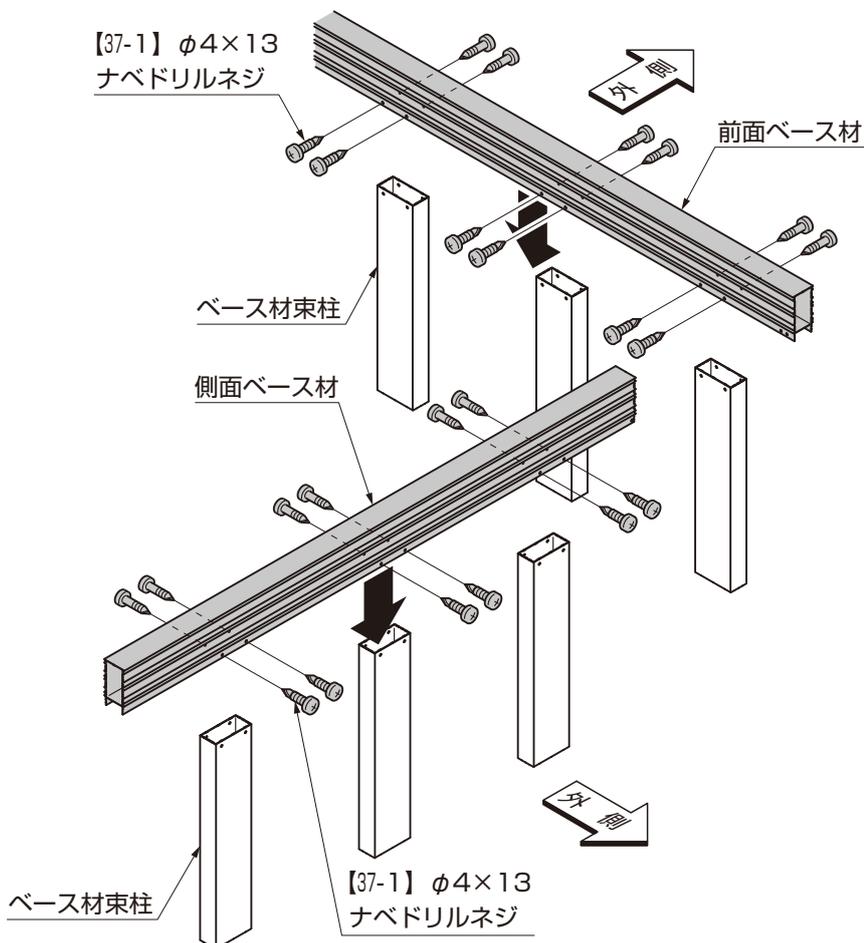


① ベース材取付金具を柱に【50-1】で取付けてください。

ポイント

- 端部柱の左右、連棟柱に取付けるベース材取付金具には、向きがあります。
- ロング柱のH21、H23の場合は「6. 本体の取付け 3. 柱・桁の加工 3-2 柱の加工 (2) ルームタイプ ロング柱の場合」で加工した穴に取付けてください。

2-6 ベース材と束柱の取付け



① ベース材束柱を前面ベース材と側面ベース材に【37-1】で取付けてください。

2. (つづき)

2-7 延長・中間用スペーサーの取付け

(1) 3尺延長の場合

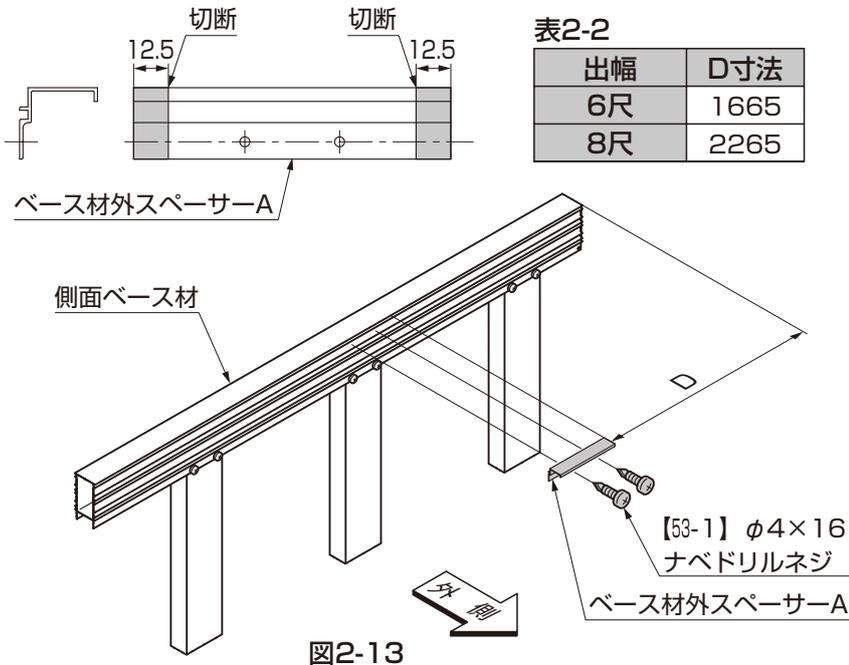


表2-2

出幅	D寸法
6尺	1665
8尺	2265

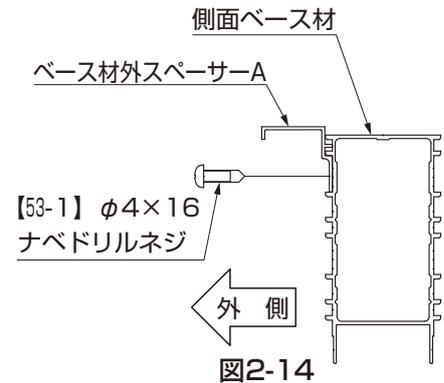


図2-14

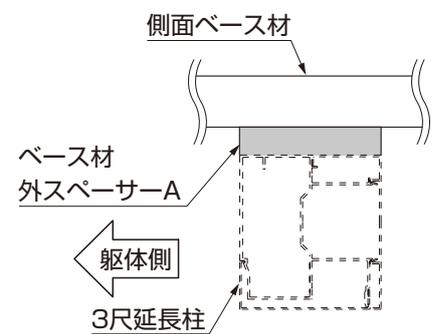


図2-15

- ①ベース材外スペーサー-Aを両端から12.5mmずつ切断してください。
- ②表2-2を参照してベース材外スペーサー-Aを側面ベース材に【53-1】で取付けてください。

ポイント

- ベース材外スペーサー-Aの取付け位置は基準です。現場の状況で3尺延長柱の位置がずれている場合などは現場合せで位置を決めてください。

(2) 中間柱の場合

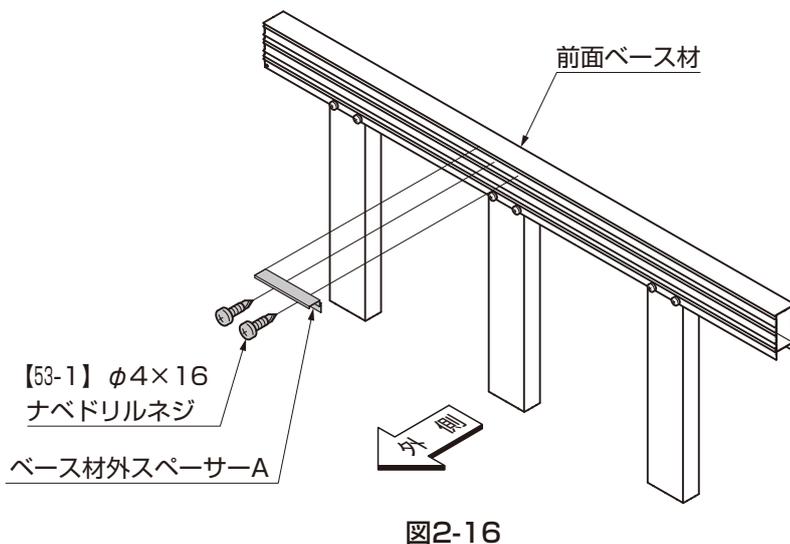


図2-16

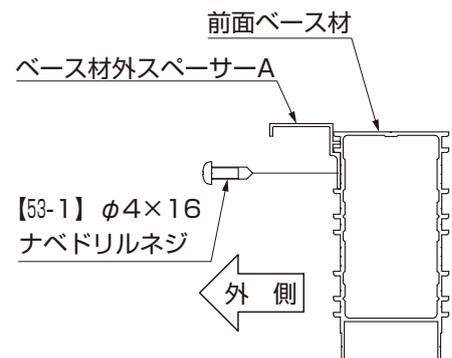


図2-17

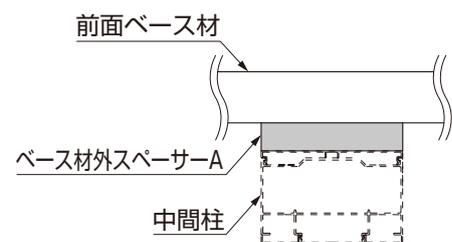


図2-18

- ①ベース材外スペーサー-Aを中間柱と同じ位置になるよう、前面ベース材に【53-1】で取付けてください。（図2-16、図2-17、図2-18参照）

2-8 ベース材の取付け

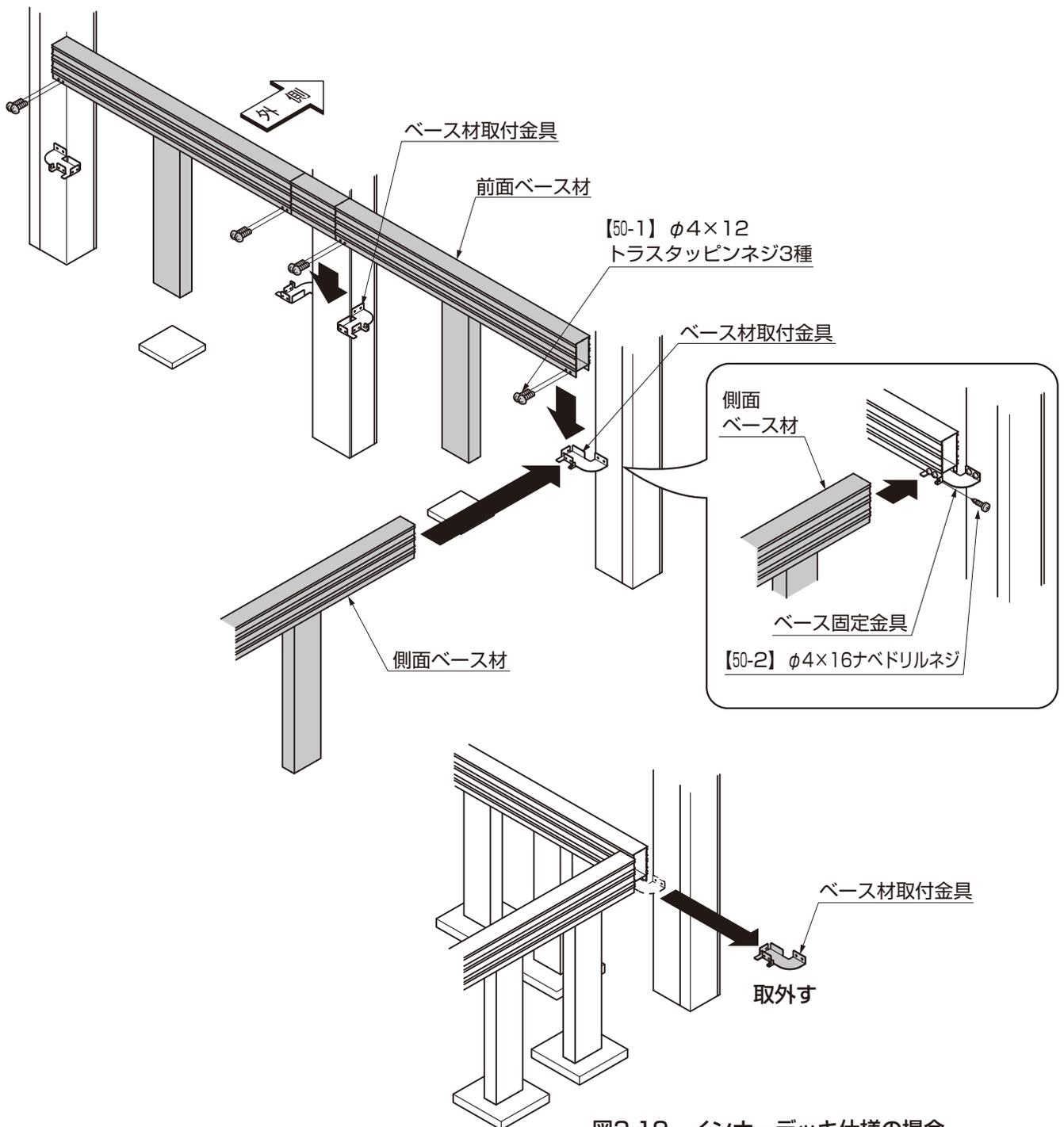


図2-19 インナーデッキ仕様の場合

①前面ベース材をベース材取付金具に【50-1】で固定してください。

ポイント

- 前面ベース材は、手回しドライバーで取付けてください。電動ドライバーで作業すると、ネジが金具にうまく取り付かない場合があります。
- インナーデッキ仕様の場合、ベース材の位置、高さが確定したらベース材取付金具を取外してください。

②側面ベース材は前面ベース材にしっかり突き当てながらベース材取付金具に【50-2】で取付けてください。

3. デッキの貼付け

ポイント

- ベース材を取付けた後に「ジーマ デッキ編（樹ら楽ステージ） 取付説明書(E362)」を参照して各デッキを貼付けてください。

4. 方立の取付け ※図は、左側を示します。右側は対象です。

4-1 上レールの仮止め

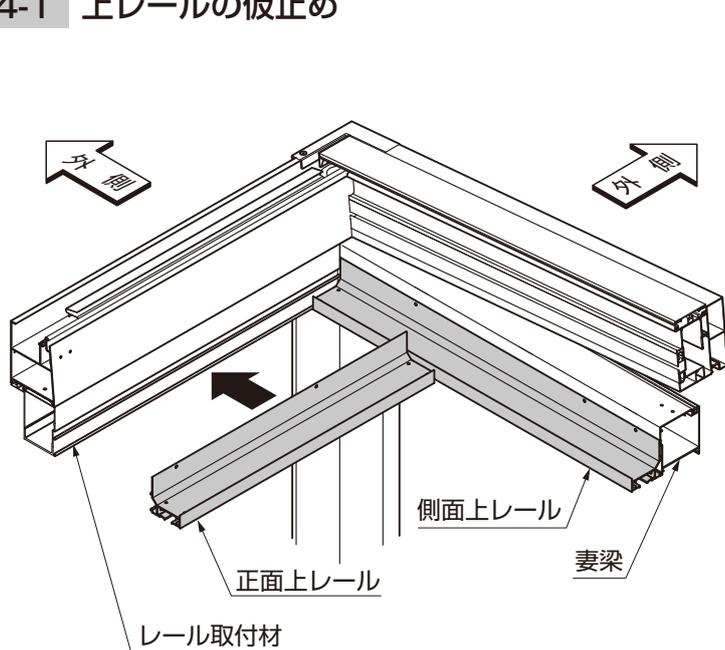


図4-1

- ①側面上レールを妻梁に引掛けて仮置きしてください。
- ②正面上レールをレール取付材も引っ掛け、仮置きしてください。

補足

- 側面上レールは、方立の取付けのために正面方向に寄せておいてください。

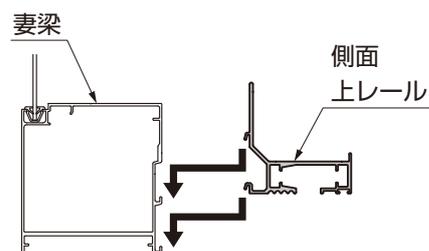


図4-2 側面上レールの取付け

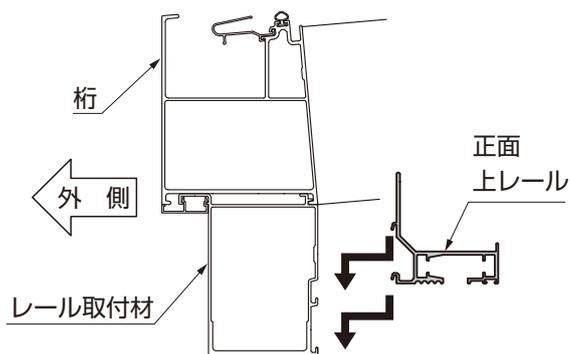


図4-2 正面上レールの取付け

4-2 方立キャップの加工

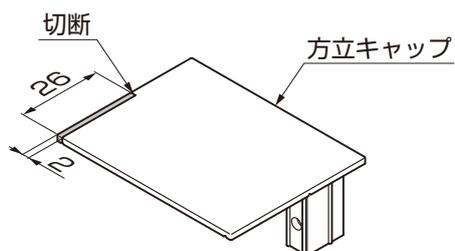


図4-3

- 【47-2】φ4×10トラスタッピンネジ1種
【48-2】φ4×10トラスタッピンネジ1種

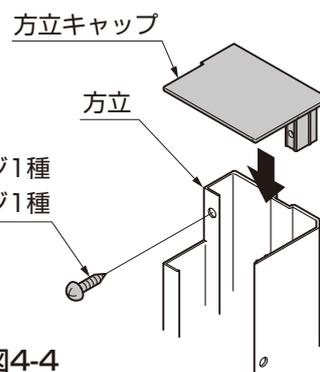
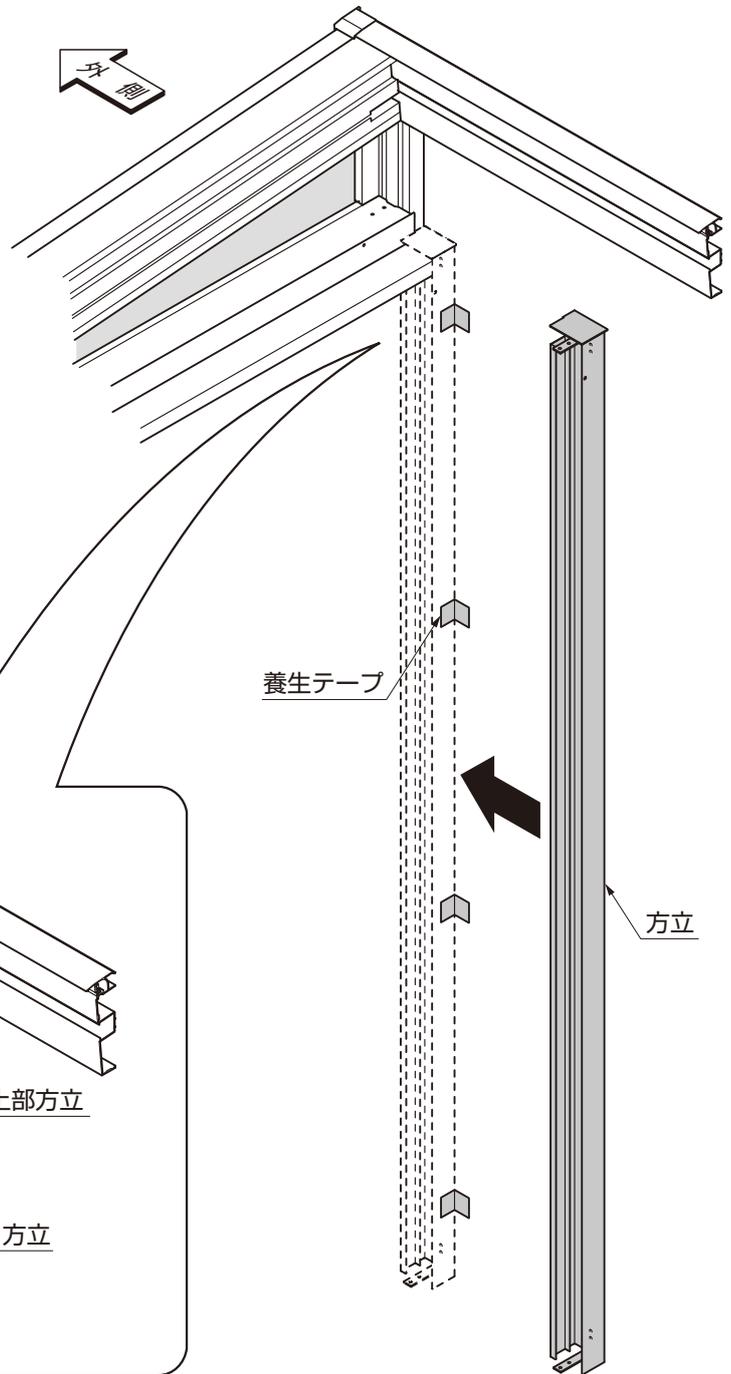
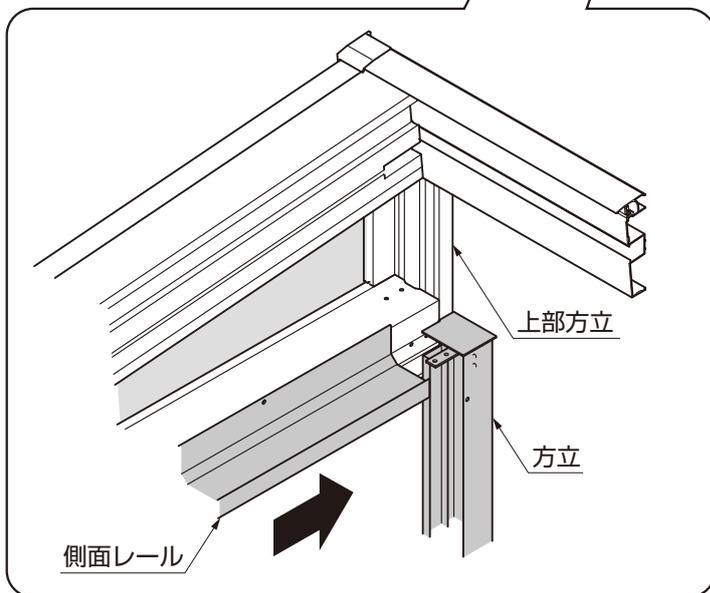
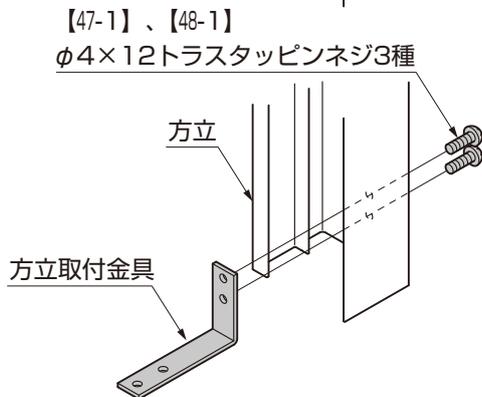
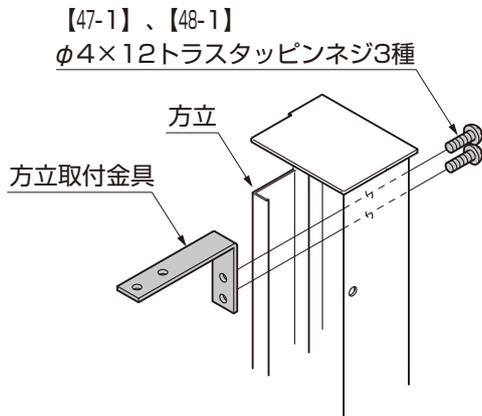


図4-4

- ①方立キャップを図4-3のように加工してください。加工は、方立上部の切欠き側を行なってください。
- ②方立キャップを方立に【47-2】、【48-2】で取付けてください。

4-3 方立の仮固定



- ①方立取付金具を方立に【47-1】または【48-1】で取付けてください。
- ②方立を上部方立に接するように並べ、側面レールを方立の切欠きにはまるようにスライドさせてください。
- ③方立を躯体に養生テープ等で垂直になるように仮固定してください。

補足

- 妻梁よりも下の位置の躯体に障害物がある場合は、レールを切詰めることで方立を移動することができます。方立と躯体の間はフィックスなどで納めてください。その場合の方立の仮固定は、上レールにテープ止めするなどしてください。

5. 上レールの取付け

5-1 上レールの取付け

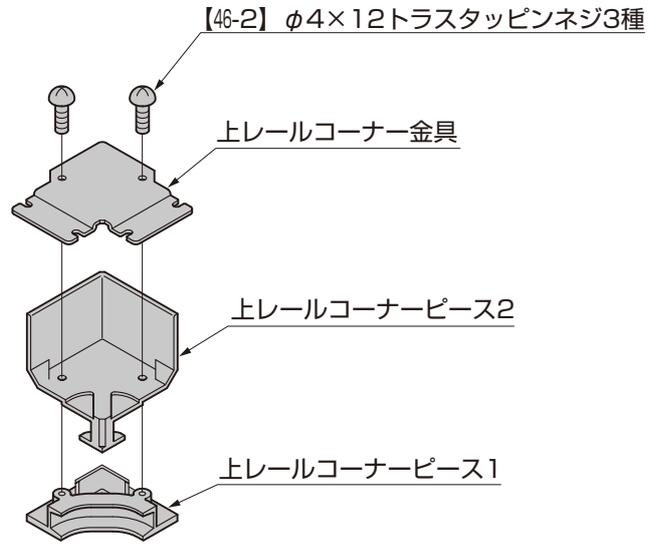


図5-1

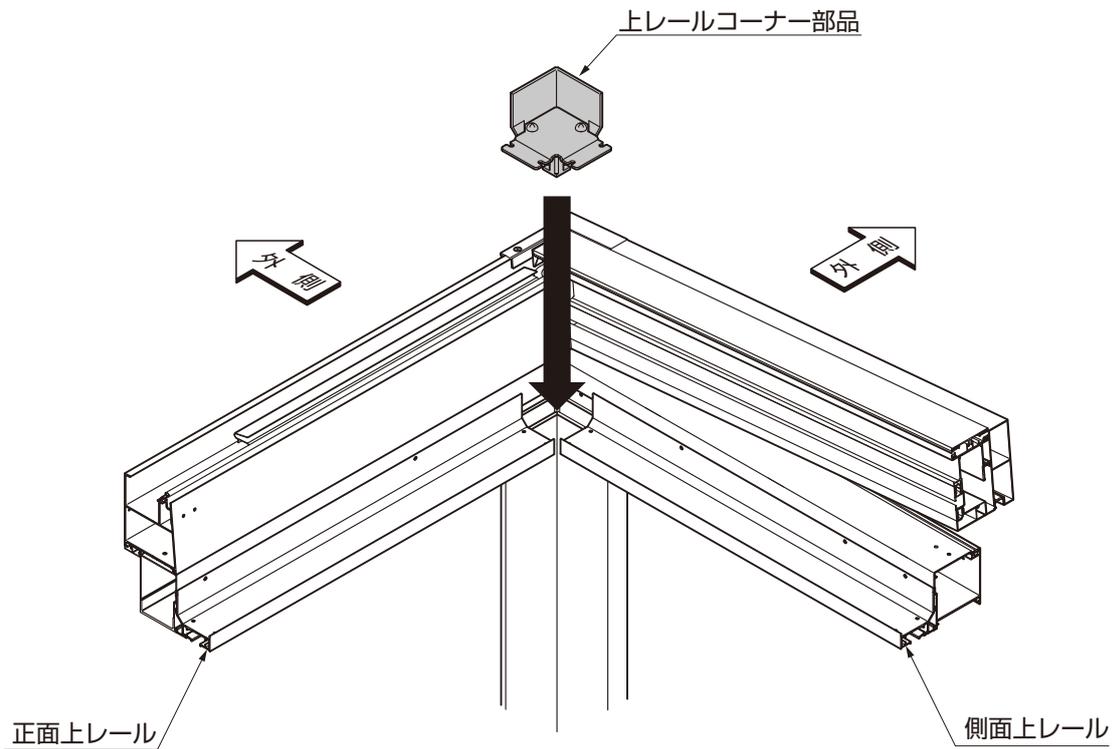


図5-2

- ①上レールコーナー金具、上レールコーナーピース1、上レールコーナーピース2を【46-2】で仮組みしてください。

ポイント

- 各部品が動く程度にゆるく組付けしてください。

- ②上レールコーナー部品を側面上レールと正面上レールの間に仮置きしてください。

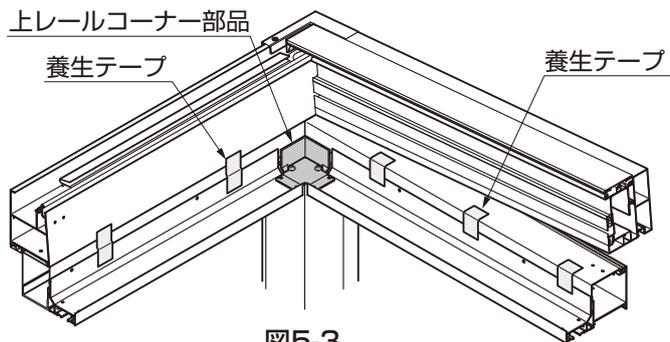


図5-3

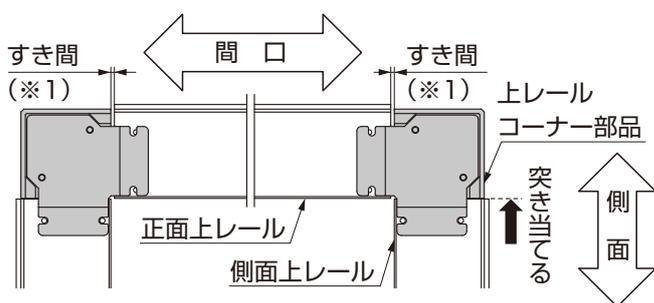


図5-4 標準納まり

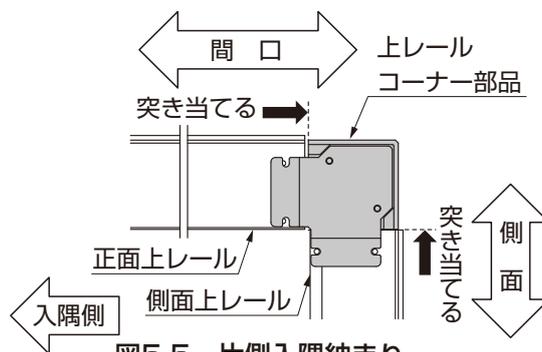


図5-5 片側入隅納まり

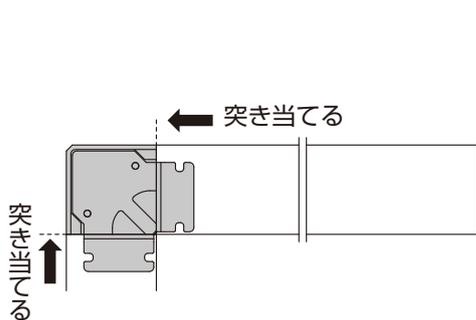


図5-6 連棟納まり

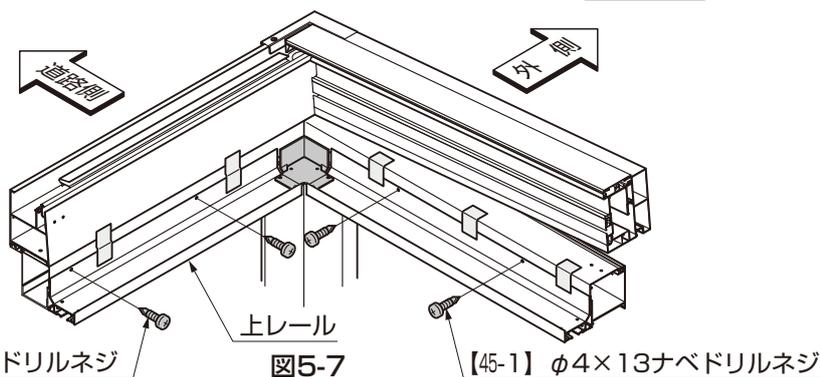
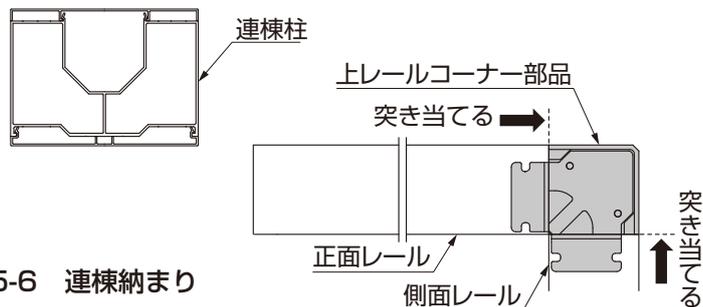


図5-7

③側面上レールと正面上レールを養生テープで仮固定してください。

ポイント

- 標準納まりの場合、正面上レールは上レールコーナー部品とのすき間が左右均等な位置で、側面上レールは上レールコーナー部品に突き当たる位置で仮固定してください。
- すき間(※1)を左右均等にしてください。
- 入隅および連棟の場合、正面レール及び側面上レールは上レールコーナー部品に突き当たる位置で固定してください。

④上レールを【44-1】、【45-1】で取付けてください。

5. (つづき)

5-2 上レールの加工 ※両入隅の正面、3連棟以上の中間部、ガラスフィックス部での作業です。

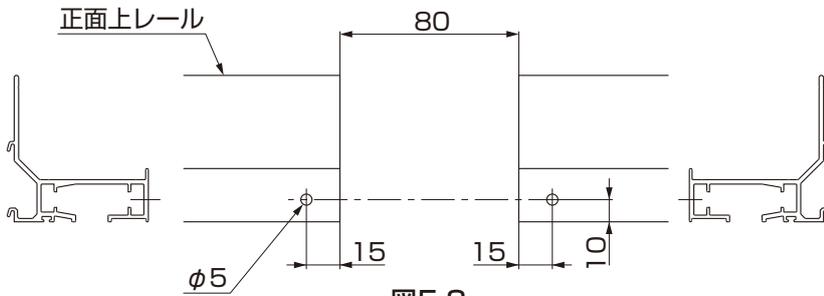


図5-8

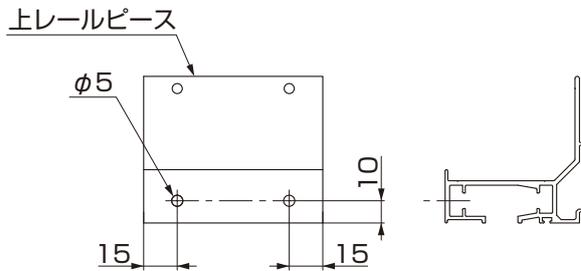


図5-9

- ① 正面上レールを80mm切断する位置を決めて、上レールを2分割にしてください。

補足

- 両入隅仕様で折り戸パネルを取り外すことができるようにするために必要な手順です。
- 後の手順で下レールも同様の作業を行いません。

ポイント

- 分割する位置は、エクシオールを閉めた際に折り戸パネルのローラーの位置にならないようにしてください。

- ② 分割した正面上レールの切断側端部にφ5の穴加工をしてください。
- ③ 上レールピースの両端部にφ5の穴加工をしてください。

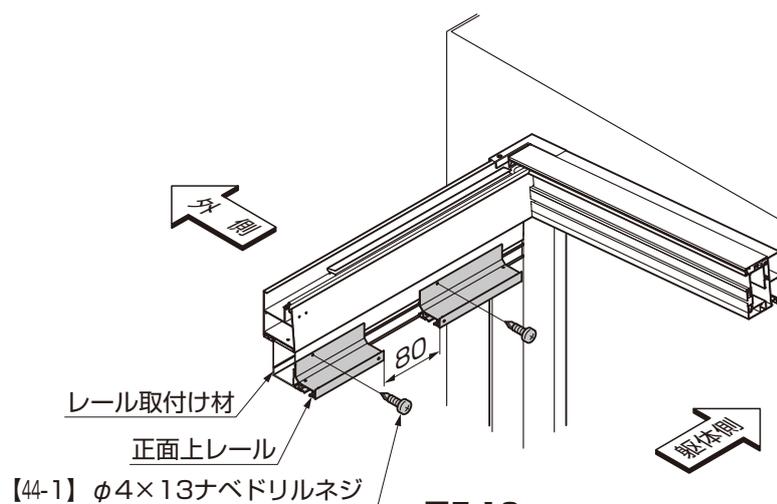


図5-10

- ④ 正面上レールをレール取付け材に【44-1】で取付けてください。

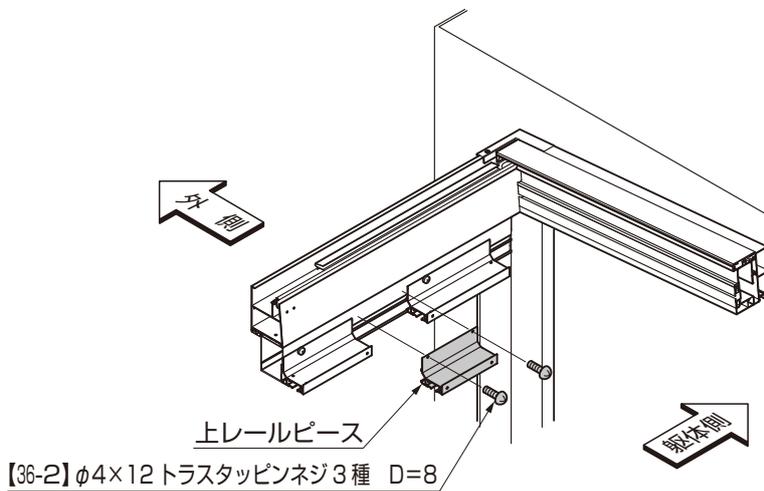


図5-11

- ⑤80mmカットして空いた所に上レールピースを当て、上レールの穴をガイドにレール取付け材に下穴をあけてください。
- ⑤上レールピースをレール取付け材に【36-2】で取付けてください。

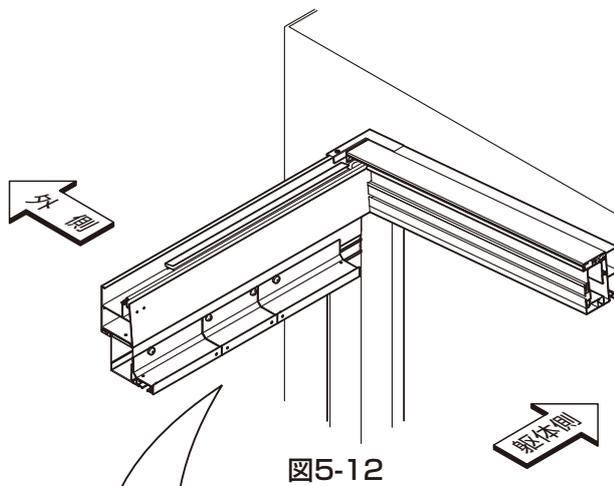


図5-12

- ⑥上レール連結金具を上レールピースと正面上レールに【36-1】で取付けてください。

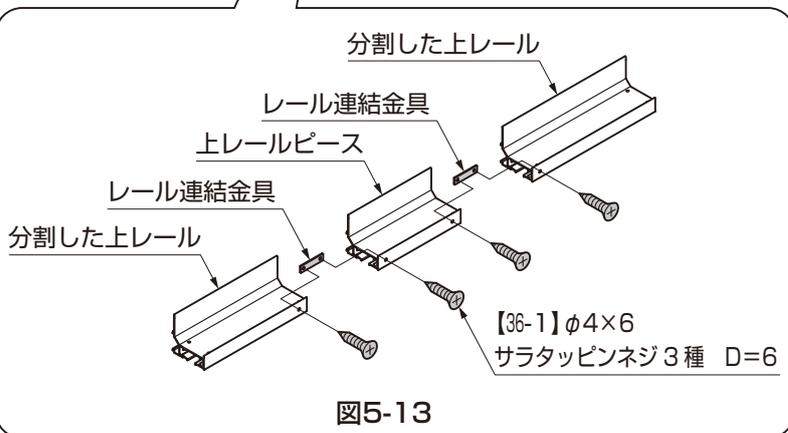
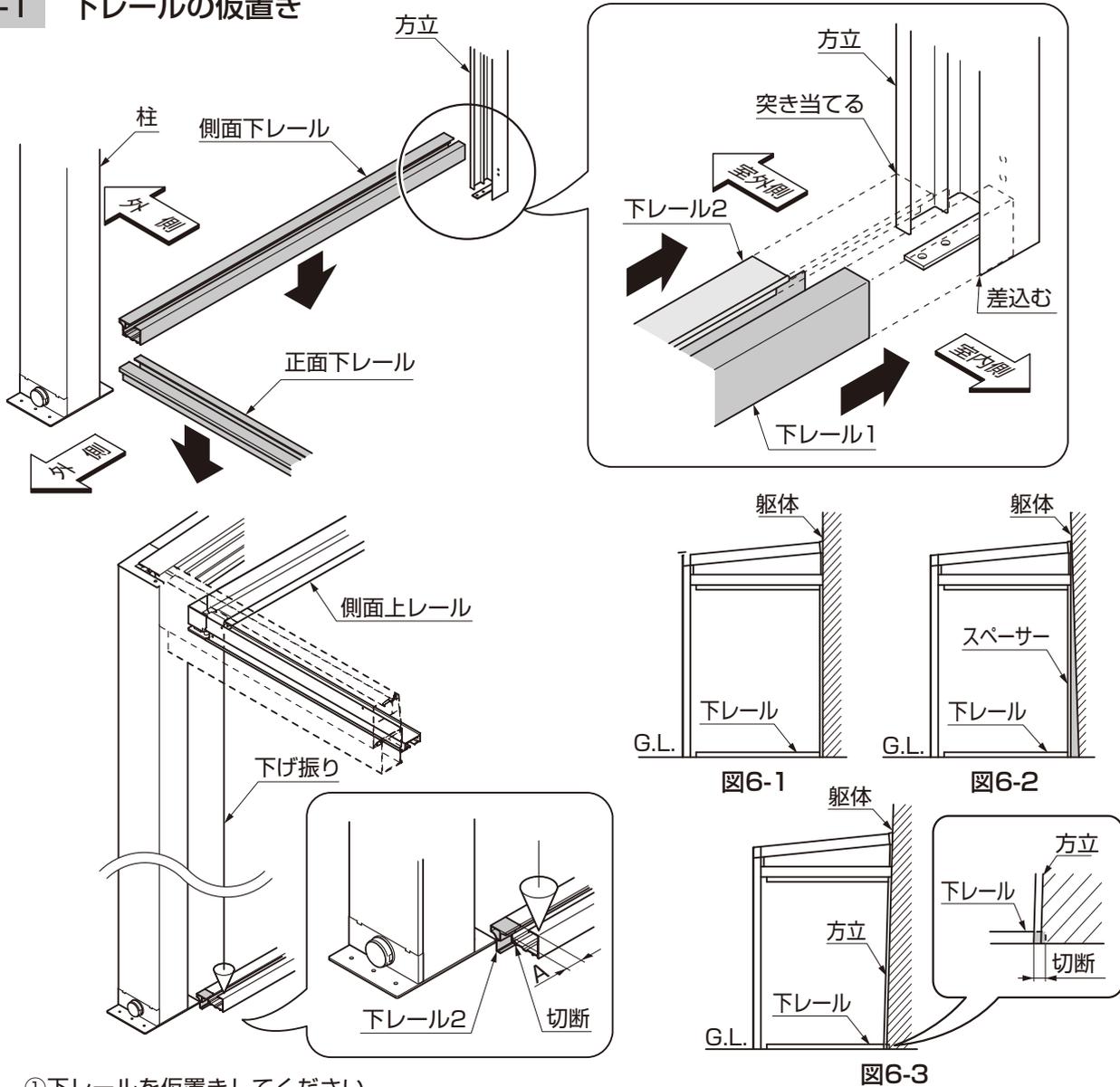


図5-13

6. 下レールの取付け

6-1 下レールの仮置き



①下レールを仮置きしてください。

ポイント

- 下レールは、方立取付金具の下になるように取付けてください。

補足

- 下レール1は方立に差込むように、下レール2は方立に突き当たるようにしてください。

②下レール2の端面と下レール1の端面が同じになるように下レール2を切断してください。

③下げ振りを使って側面上レール内側角部と側面下レール内側角部が同じ位置になるように位置出しをしてください。

ポイント

- 上下レールとの位置関係がずれてしまうと、折戸パネルの動きが悪くなってしまいます。
- 図6-3のように躯体の状態によっては、下レールを切断しないと位置が合わない場合もあります。逆に図6-2のように方立と躯体の間にスペーサーを入れないと位置が合わない場合があります。
- 下レール2は、下レールを一度引抜いてから躯体側をA寸法分だけ切断してください。

6-2 下レールの加工 ※両入隅の場合の作業です。

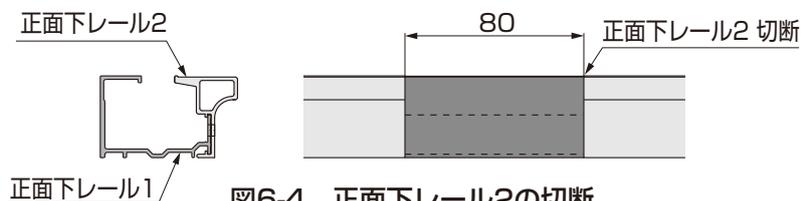


図6-4 正面下レール2の切断

- ①正面下レール2を80mm切断する位置を決めて、下レール2を2分割にしてください。

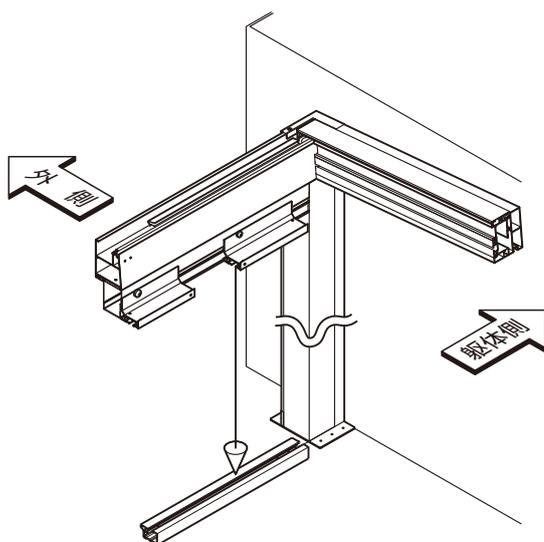


図6-5 正面下レール2の切断位置

補足

- 両入隅仕様で折り戸パネルを取り外すことが出来るようにするために必要な手順です。

ポイント

- 下レール2のみを分断してください。
- 分断する位置は、下げ振りを使って上レールと同じ位置になるようにしてください。(図6-5参照)

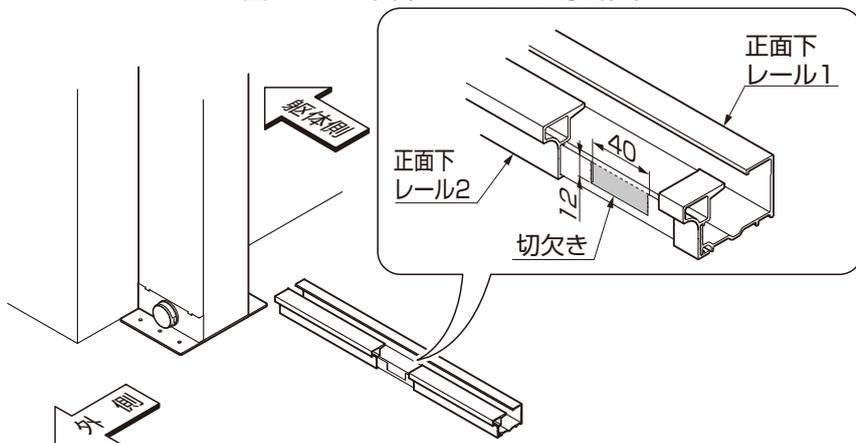


図6-6 正面下レール1の切り欠き

- ②正面下レール1の外側立上がり部を切欠いてください。(図6-6参照)

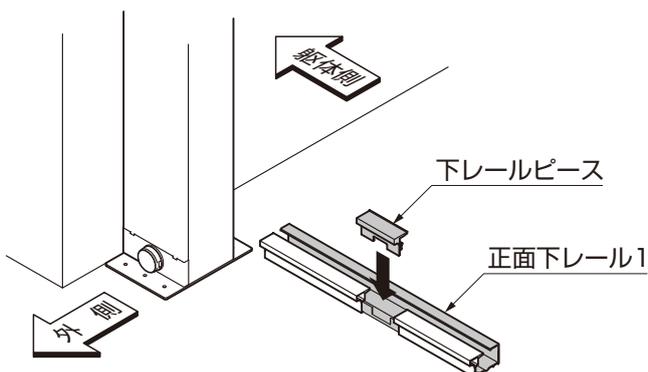


図6-7 下レールピースの取付け

- ③下レールピースを正面下レール1にはめ込んでください。(図6-7参照)

6. (つづき)

6-3 下レールの固定

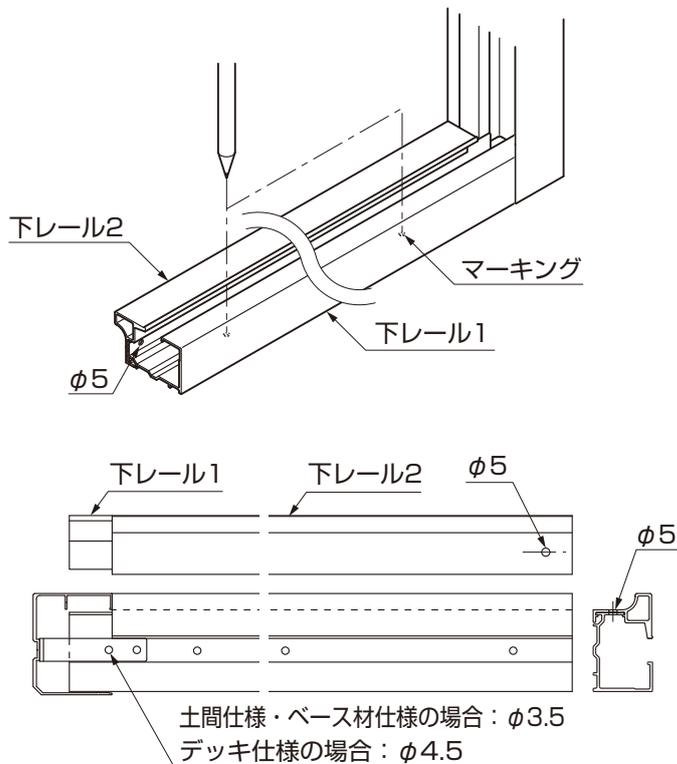
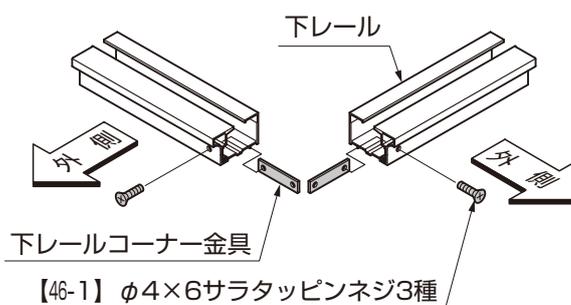
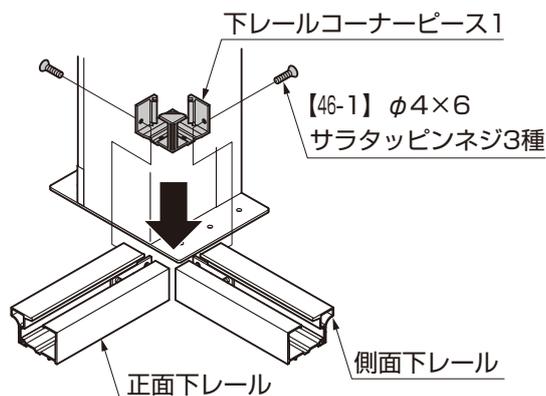


図6-8 下レール穴加工



【46-1】φ4×6サラタッピンネジ3種



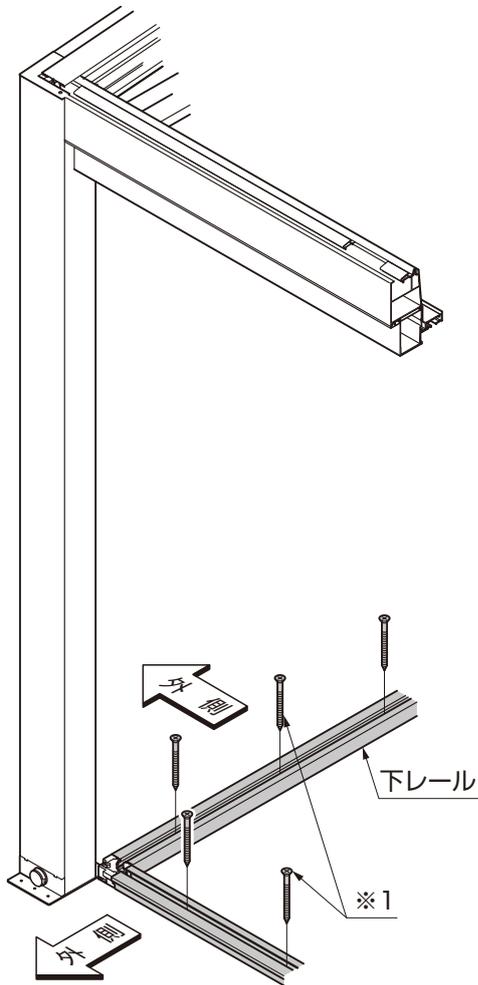
- ① 下レール1の加工穴をガイドにして、ネジ固定位置を床面にマーキングしてください。
- ② 下レール1側面の加工穴をガイドにして、下レール2の柱側の側面にφ5の穴加工をしてください。
(図6-8参照)
- ③ ①でマーキングした床面に穴加工をしてください。

ポイント

- ベース材仕様の場合、方立取付金具の下穴2ヶ所はφ3.5の穴加工をしてください。(図6-8参照)

- ③ 下レールコーナー金具を下レールに【46-1】で取付けてください。

- ④ 下レールコーナーピース1を下レールコーナー金具に【46-1】で取付けてください。



⑤ 下レールを固定してください。
(※1)

ポイント

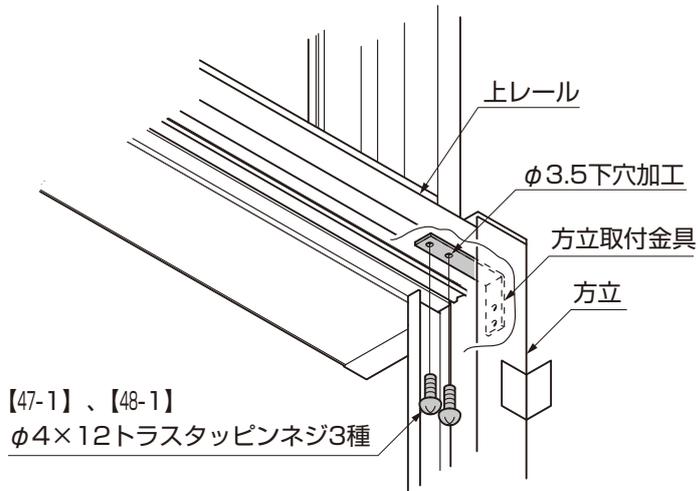
● 下レール固定用ネジは、土間用は【フィッシャープラグ】と【φ4.1×32サラ木ネジ】、デッキ用は【φ4.5×63サラ木ネジ】を使用してください。

表6-1 下レール固定用ネジ一覧(※1)

		下レール固定用ネジ	フィッシャープラグ
土間用	正面側	【44-3】 φ4.1×32サラ木ネジ	【44-4】 フィッシャープラグS6
	側面側	【45-3】 φ4.1×32サラ木ネジ	【45-4】 フィッシャープラグS6
デッキ用	正面側	【44-2】 φ4.5×63サラ木ネジ	不要
	側面側	【45-2】 φ4.5×63サラ木ネジ	不要
ベース材仕様用	正面側	【50-3】 φ4×16サラドリルネジ	不要
	側面側	【51-1】 φ4×16サラドリルネジ	不要

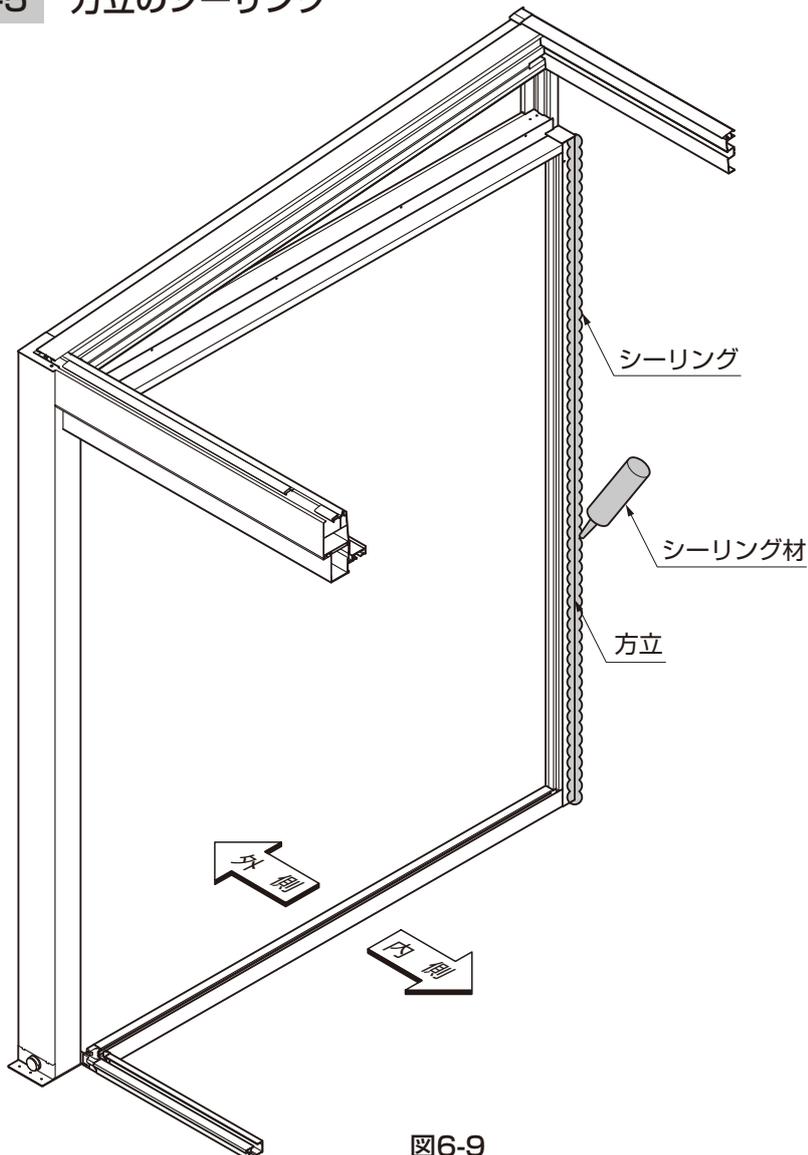
6. (つづき)

6-4 方立の固定



- ⑤ 方立取付金具の穴をガイドにして、上レールにφ3.5の穴加工をしてください。
- ⑥ 方立取付金具を上レールに【47-1】または【48-1】で取付けてください。

6-5 方立のシーリング



- ⑥ 方立の室内側にシーリングをしてください。(図6-9参照)

ポイント

- 指定の箇所には必ずシーリングをしてください。

図6-9

6-6 施工寸法の計測と下レールの水平確認

上レール下面～下レール上面 (図5-20参照)

正面 (1②) および側面 (3④)

- ①：外観右端柱部
- ②：外観左端柱部
- ③：外観右方立付近
- ④：外観左方立付近

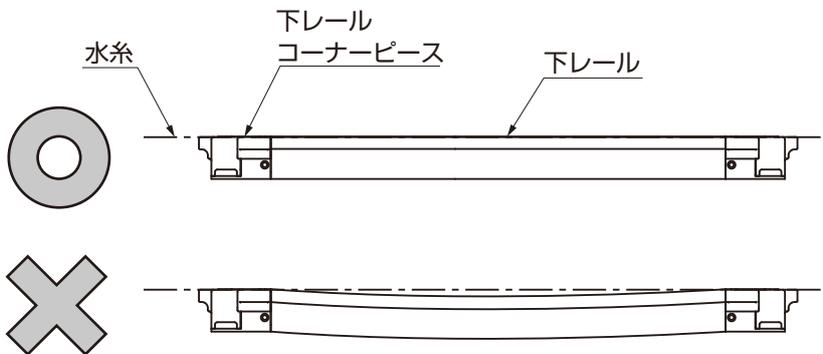
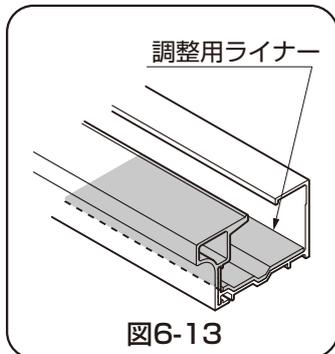
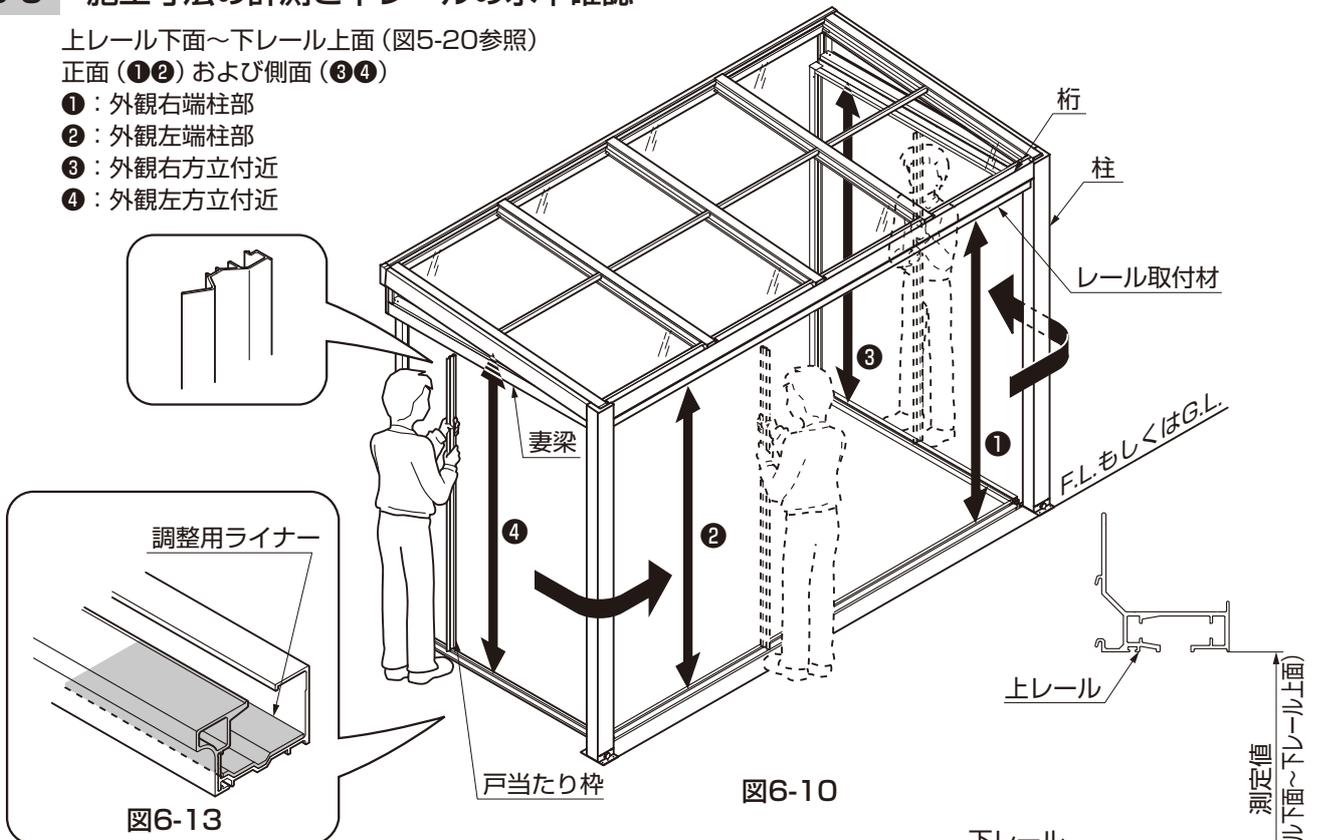


図6-11

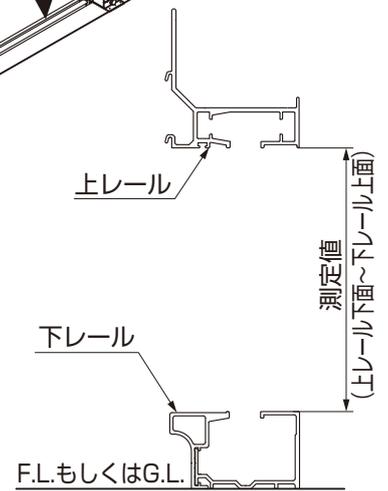


図6-12

表6-2

	測定値
H21	2061～2064
H23	2261～2264
H25	2461～2464

- ①図5-18にしたがって①～④を計測し、各部の測定値が表5-3の範囲内であることを確認してください。
 プラス側に外れている場合は、下レールの下にスペーサーを入れるなどして調整してください。

ポイント

- 下レールは水糸などを使用して水平になるように調整してください。床の状態に合わせて、下レールの下にスペーサーを入れるなどの調整をしてください。(図6-11参照)
- プラスの寸法分下レールの下に下レール調整用ライナー **オプション** を入れないとパネルのボトム材が十分に作動せず、十分な止水性能が得られないおそれがあります。(図6-13参照)

補足

- 方立セットに同梱のと当たり枠の長さは表5-3測定値の下限寸法となっています。戸当たり枠を利用して上下レール間の大まかな寸法を確認することができます。その際、上レールに取り付いている止水ビートを傷つけないようにしてください。

6. (つづき)

6-7 土間見切り材の取付け ※ベース材仕様で土間用の場合の作業です。

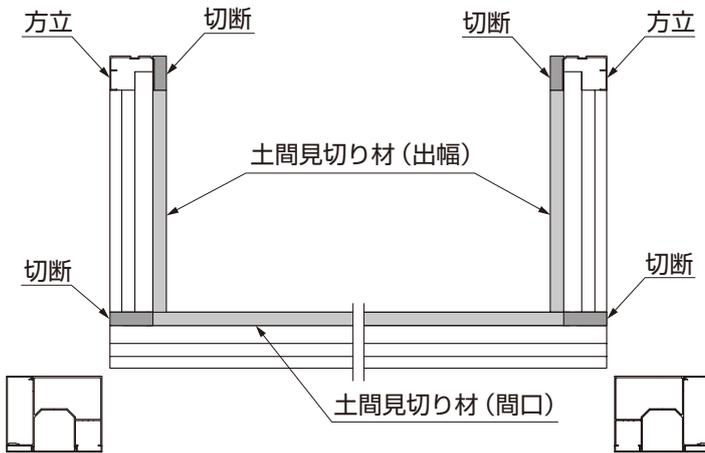


図6-14

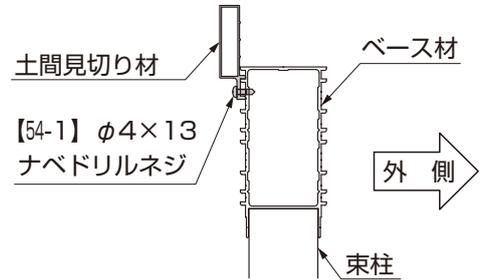


図6-15 土間見切り材の取付け

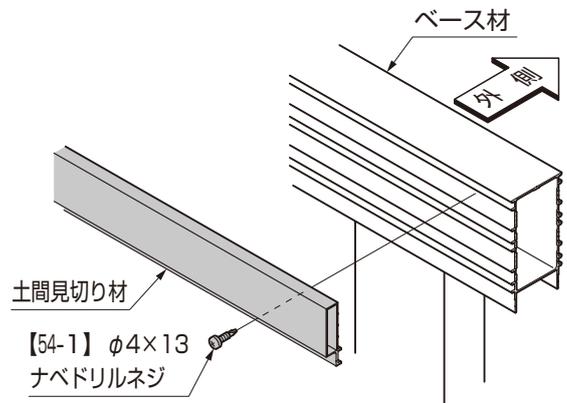


図6-16 土間見切り材の取付け

- ① 出幅方向のベース材内々寸法で間口方向の土間見切り材を現場合わせで加工してください。
- ② 方立を土間見切り材と干渉しないように切り欠いてください。
- ③ 土間見切り材をベース材に【54-1】で取付けてください。

6-8 ベース材束柱の取付け

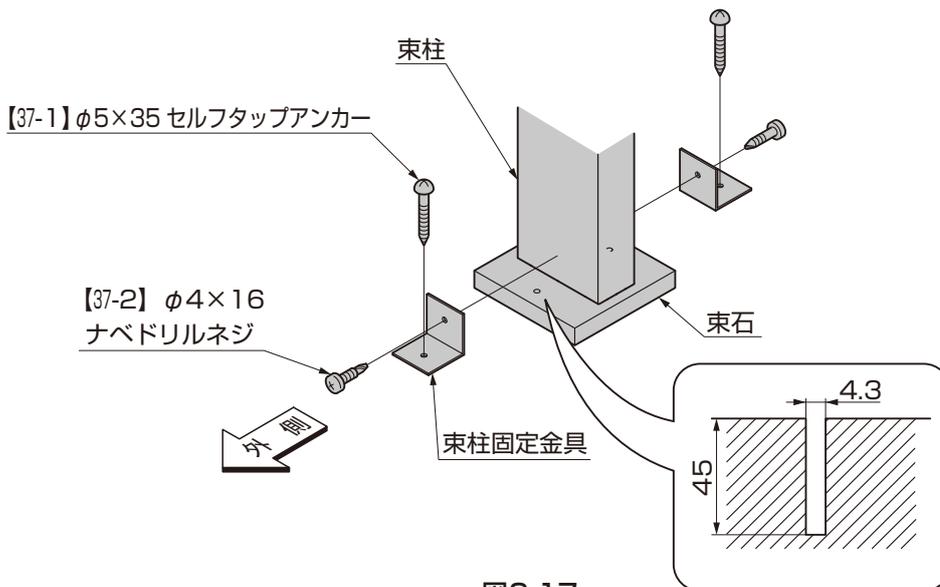


図6-17

- ① 束柱固定金具を束柱に【37-2】で取付けてください。
- ② 束石にφ4.3の穴加工をしてください。
- ③ 束柱を土間に【37-1】で取付けてください。

7. パネルの建込み

7-1 建込み前準備

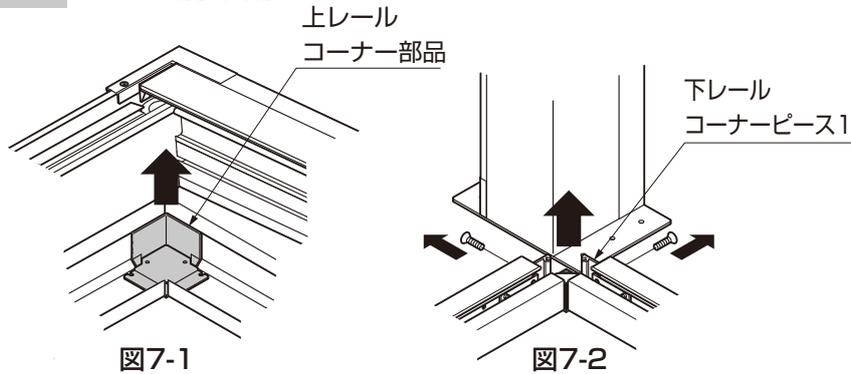


図7-1

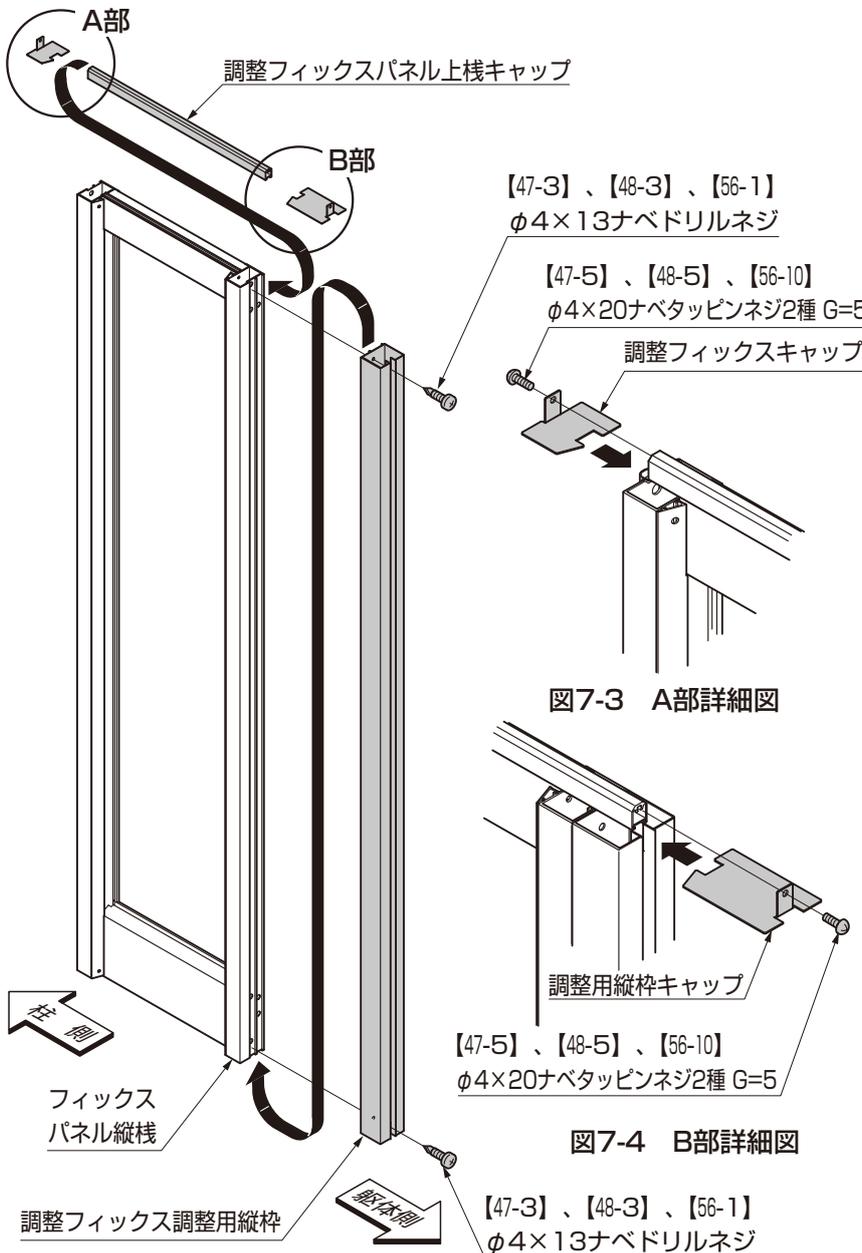
図7-2

①上下のコーナー部品をいったん取外してください。(図7-1、図7-2参照)

ポイント

- 上レールコーナー部品は緩く組付けたままで取外してください。
- 下レールコーナー金具はレールに取付いたままで下レールコーナーピース1を取外してください。取外したネジは紛失しないように保管してください。

7-2 調整フィックスパネルの組立て



【47-3】、【48-3】、【56-1】
φ4×13ナベドリルネジ

【47-5】、【48-5】、【56-10】
φ4×20ナベタッピンネジ2種 G=5

調整フィックスキャップ

図7-3 A部詳細図

【47-5】、【48-5】、【56-10】
φ4×20ナベタッピンネジ2種 G=5

図7-4 B部詳細図

【47-3】、【48-3】、【56-1】
φ4×13ナベドリルネジ

- ①調整フィックス用調整縦枠を躯体側の縦棧にスライドして【47-3】、【48-3】、【56-1】で取付けてください。
- ②フィックスパネル用上棧キャップを上棧にスライドして組付けてください。
- ③フィックス調整縦枠キャップを躯体側のフィックス上部に、フィックスパネルキャップをパネル側のフィックス上部に【47-5】、【48-5】、【56-10】で取付けてください。

7. (つづき)

7-3 調整フィックスパネルの建込み

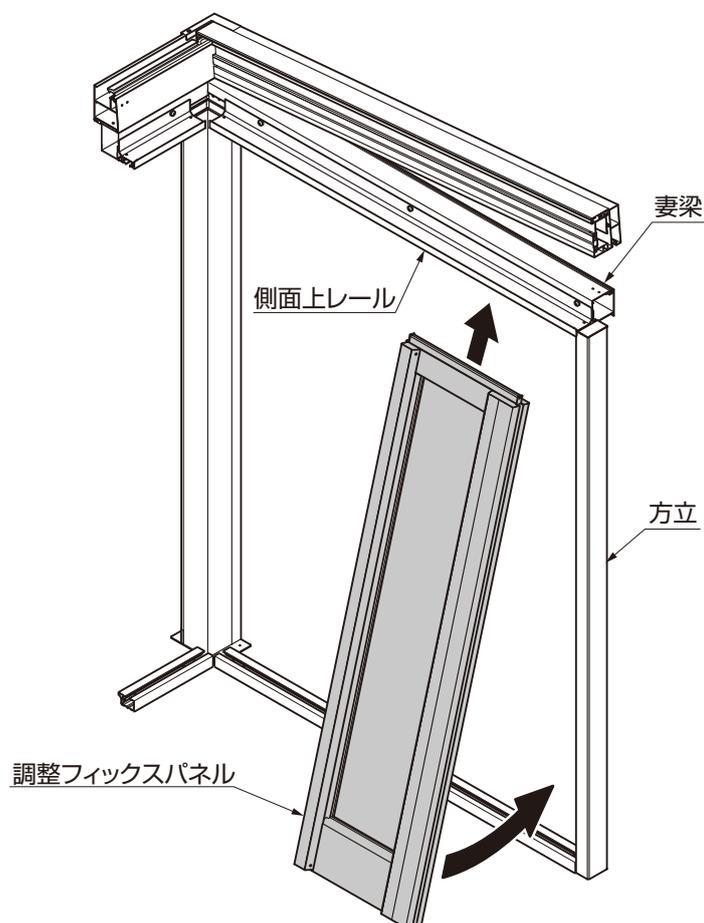


図7-5

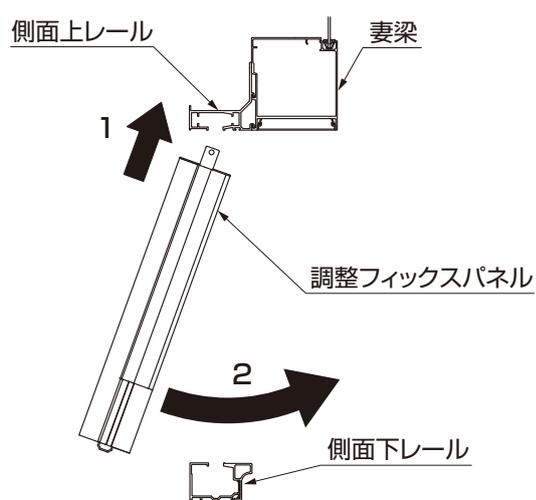


図7-6

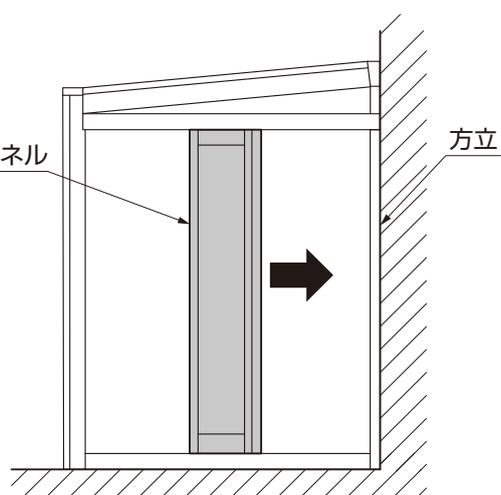
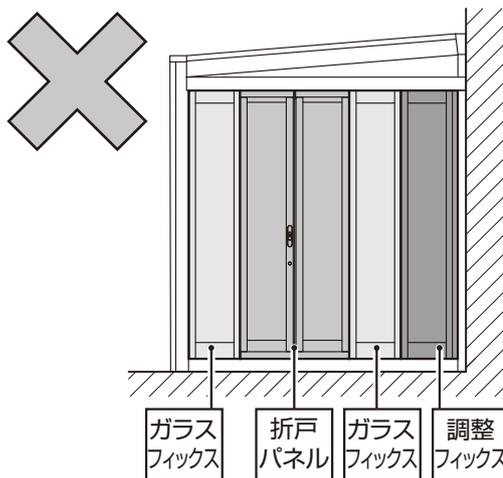
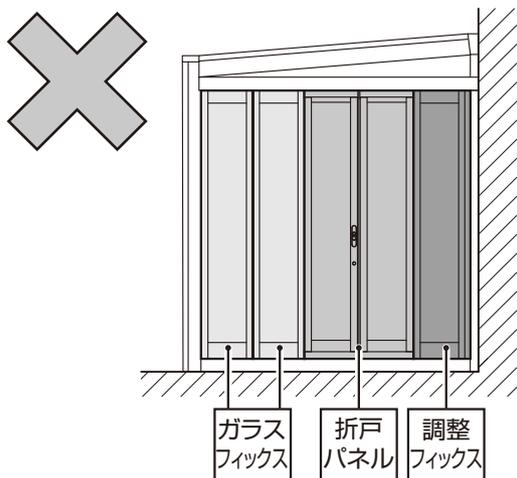
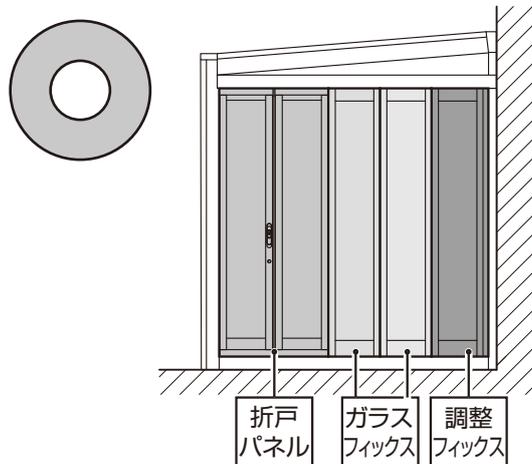


図7-7

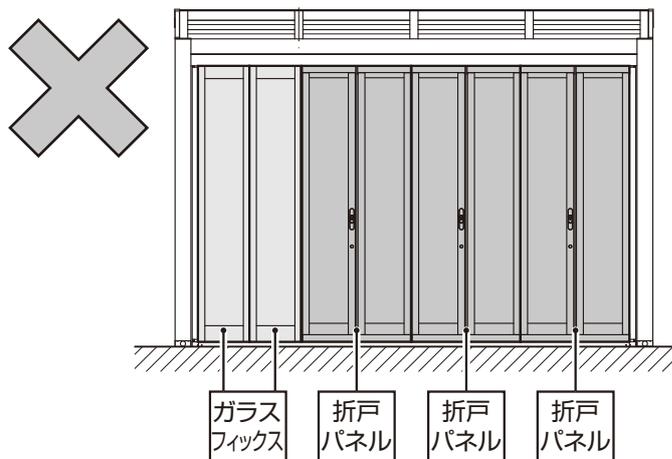
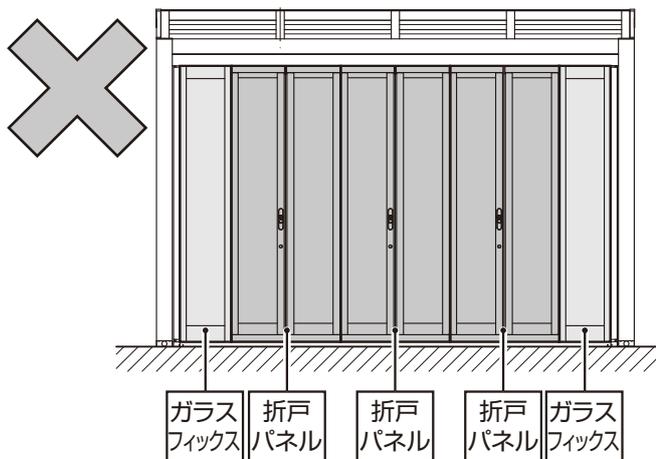
- ①調整フィックスパネルを側面に建込んでください。
- ②調整フィックスパネルを方立に建込んでください。

7-4 ガラスフィックスと折戸パネルを同じ開口部に取り付ける場合

(1) 出幅



(2) 間口

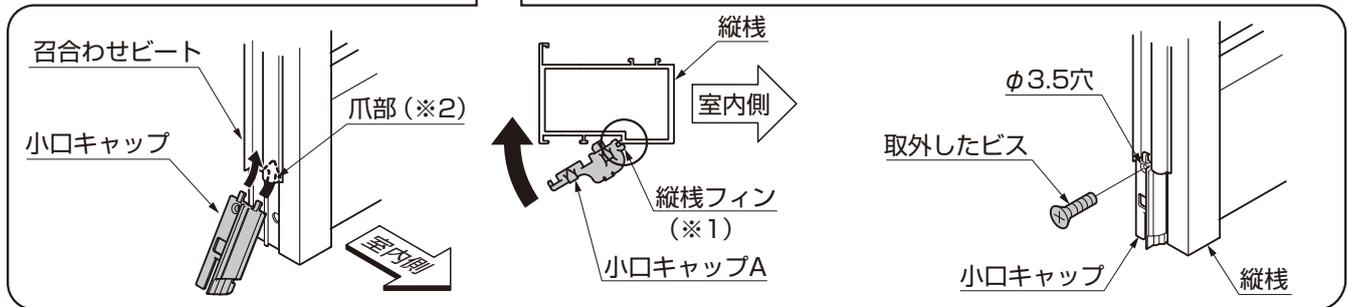
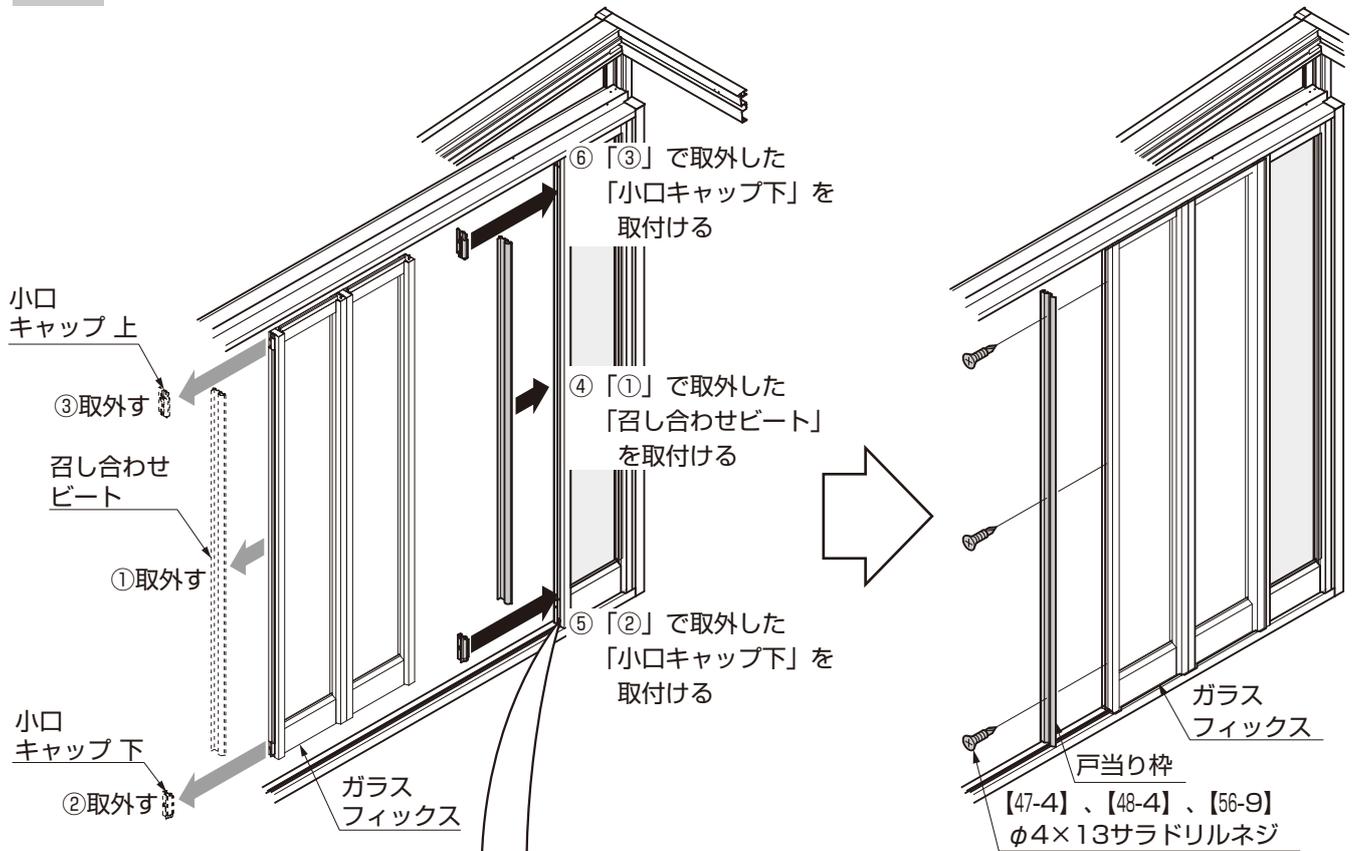


ポイント

- ◎は部品、部材の組換えでの現場対応が可能です。
- ✕は部品、部材の組換えでの現場対応はできません。

7. (つづき)

7-4 つづき ※作業するのは折戸と接しているガラスフィックスです。



- ① 召し合わせビートをガラスフィックスパネルから取外してください。
- ② 小口キャップ下を取外してください。
- ③ 小口キャップ上を取外してください。
- ④ 召し合わせビートを調整フィックスパネルに取付けてください。
- ⑤ 小口キャップ下を取付けてください。
- ⑥ 小口キャップ上を取付けてください。

ポイント

- 小口キャップ取付けの詳細手順は、下記を参照してください。
※図は小口キャップ下を示しますが、小口キャップ上も同様です。
 - ① 小口キャップを縦棧フィン(※1)にはめ合わせながら、爪部(※2)を召し合わせビートに確実にかみ込むように取付けてください。
 - ② 小口キャップの穴をガイドにφ3.5の穴をあけてください。
● 穴をあける際は、小口キャップが動かないようにしてください。
 - ③ 小口キャップを取外したネジで取付けてください。
- ⑦ 戸当り枠をガラスフィックスパネルに [47-4]、[48-4]、[56-9] で取付けてください。

7-5 戸当たり枠の取付け

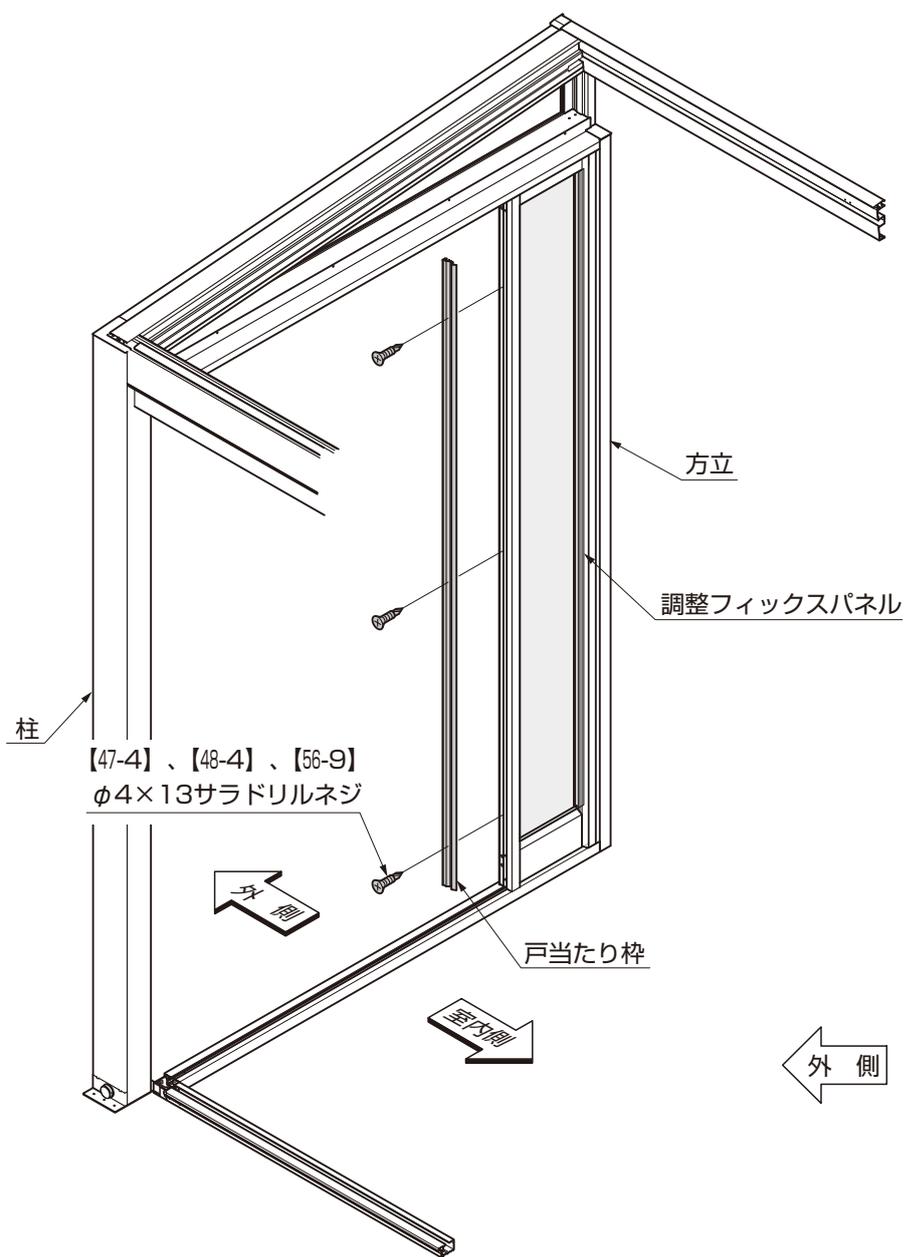


図7-8

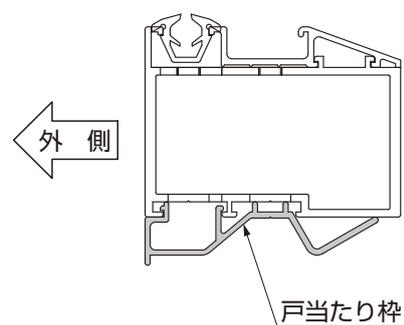


図7-9

- ①戸当たり枠を調整フィックスパネルまたはガラスフィックスに【47-4】、【48-4】、【56-9】で取付けてください。

7. (つづき)

7-6 ガラスフィックスの建込み

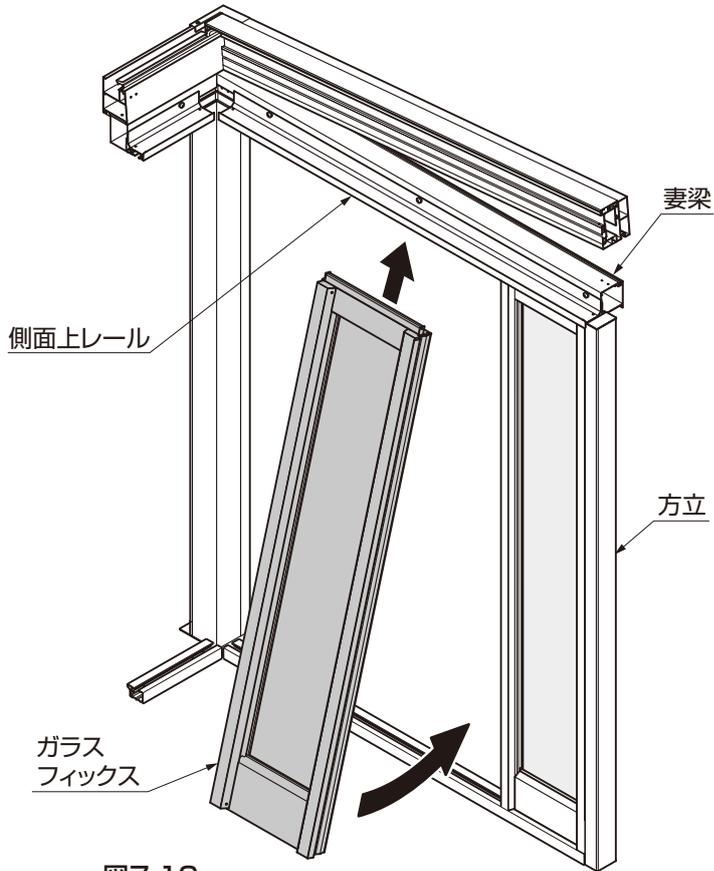


図7-10

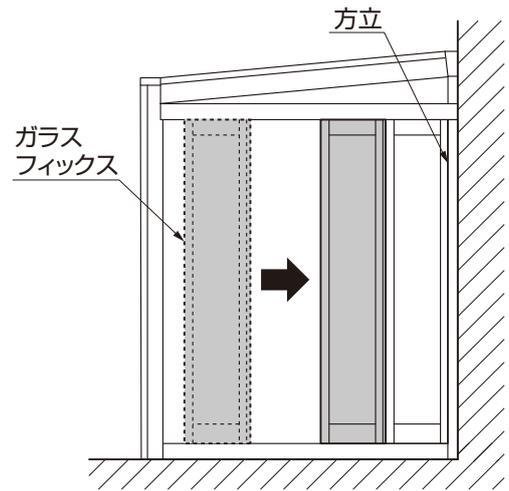


図7-12

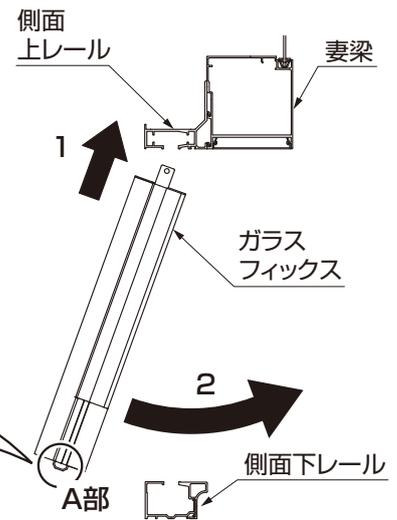
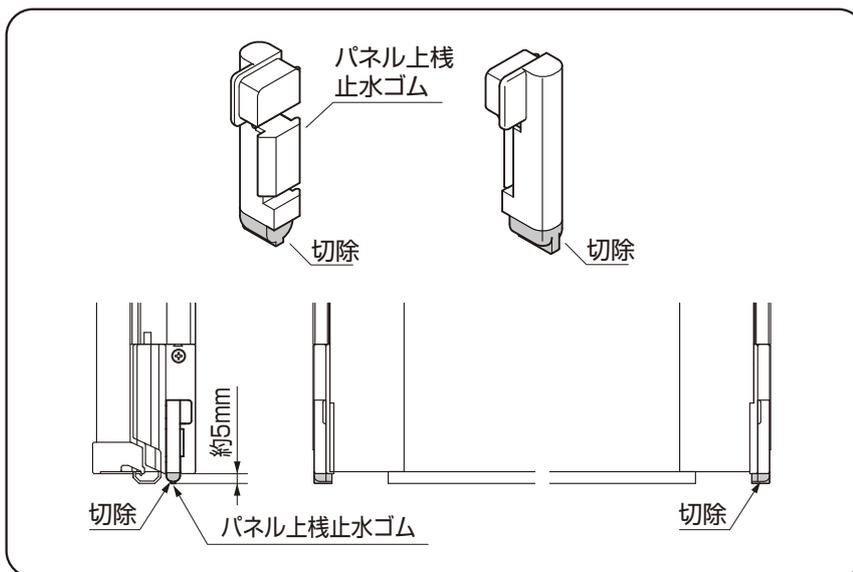


図7-11

ポイント

●フィックスパネルの場合は、パネル上棧止水ゴムを一度取外し、切断してからパネルを建込んでください。

- ①ガラスフィックスパネルを建込んでください。
- ②ガラスフィックスパネルを所定の位置に移動してください。

7. (つづき)

7-7 開き止めストッパーの取付け

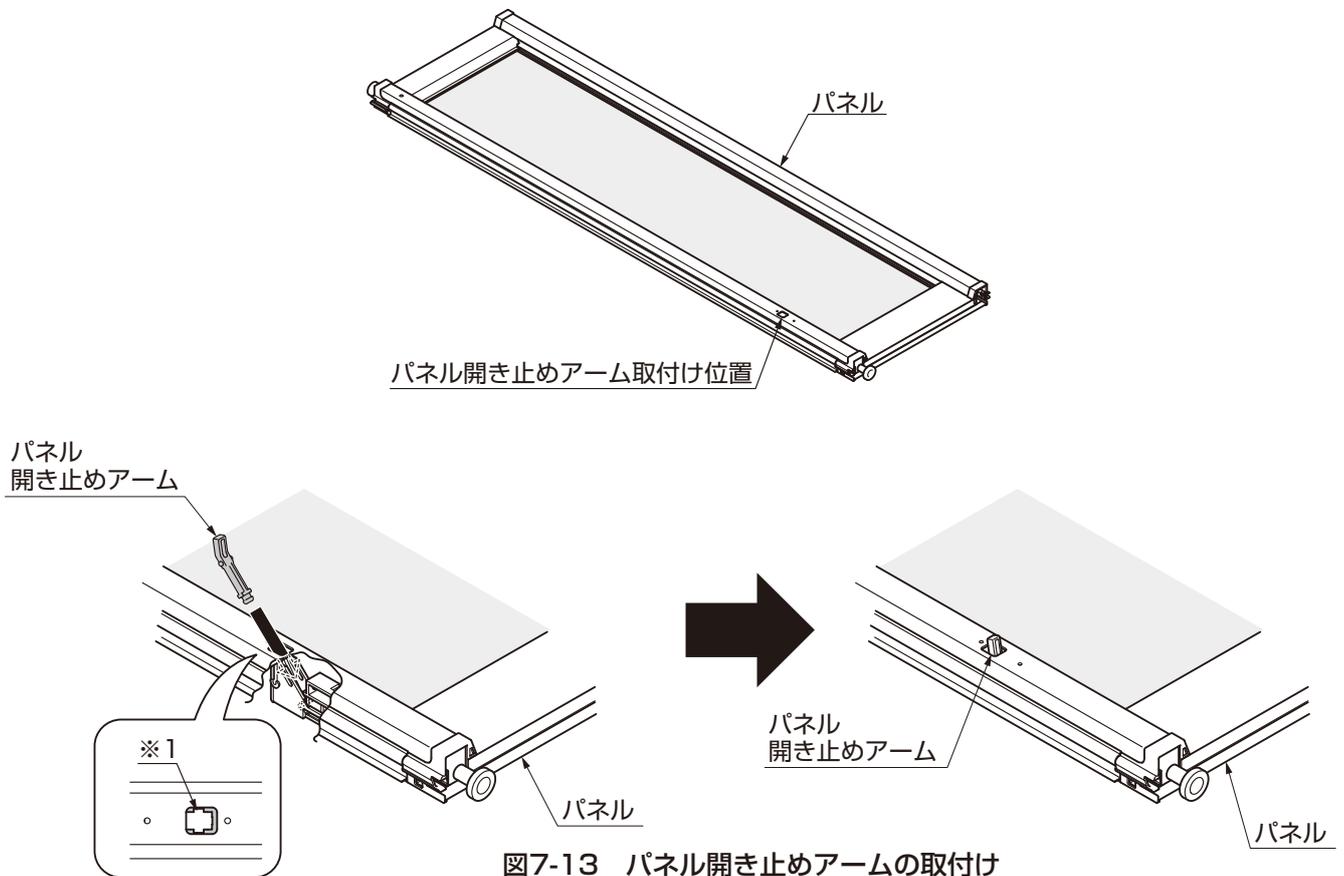


図7-13 パネル開き止めアームの取付け

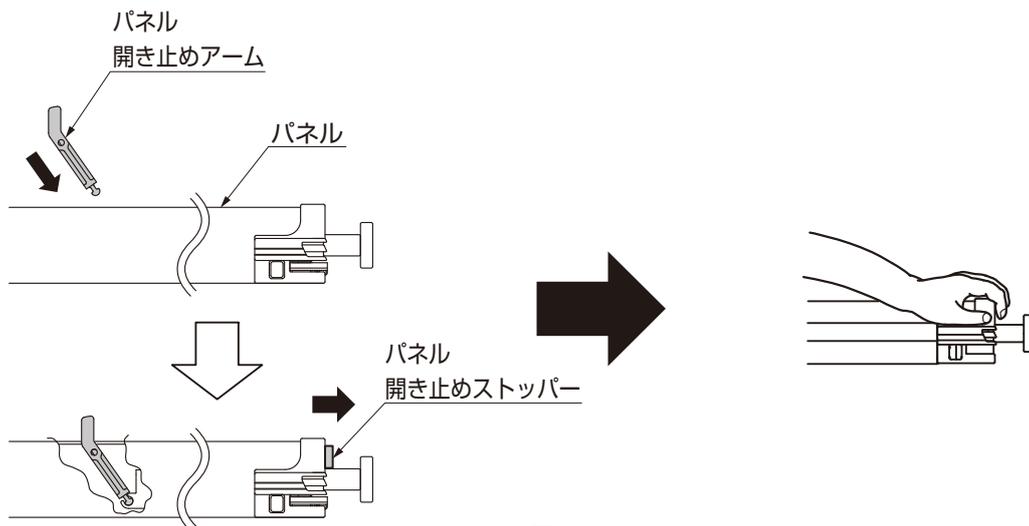


図7-14

①パネル開き止めアームをパネル室内側から差込み、「カチッ」とはまるまで押し込んでください。

ポイント

- パネル開き止めアームは、※1の溝にはまるように差込んでください。(図7-13参照)
- パネル開き止めアームを差込む際、パネル開き止めストッパーが動いてしまい、パネル開き止めアームが差込めない場合があります。その時は、パネル開き止めストッパーが下に動かないように手でおさえてパネル開き止めアームを差込んでください。(図7-14参照)
- パネル開き止めが正しく取付けられると、パネルから突き出た部分が水平となります。

7. (つづき)

7-8 パネル開き止めの取付け

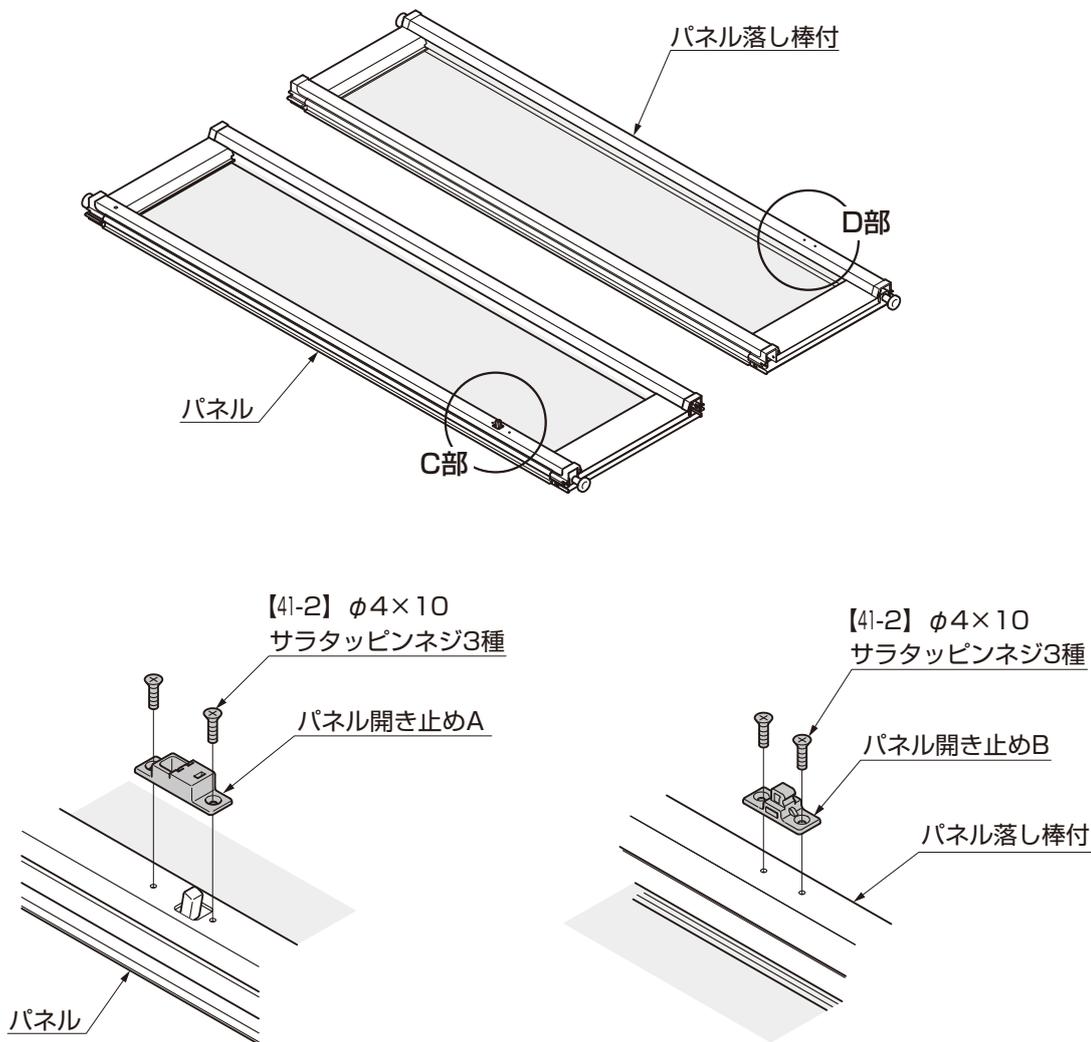


図7-15 C部詳細図
パネル開き止めAの取付け

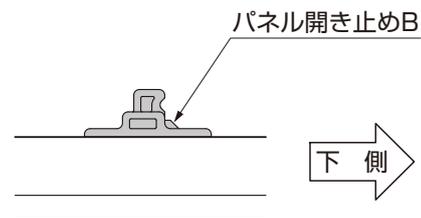


図7-16 D部詳細図
パネル開き止めBの取付け

- ①折戸にパネル開き止めAを【41-2】で取付けてください。
- ②折戸にパネル開き止めBを【41-2】で取付けてください。

ポイント

- パネル開き止めBには上下の向きがあります。(図7-16参照)

7-9 パネルの吊込み ※パネルは左右のコーナー部より吊り込んでください。

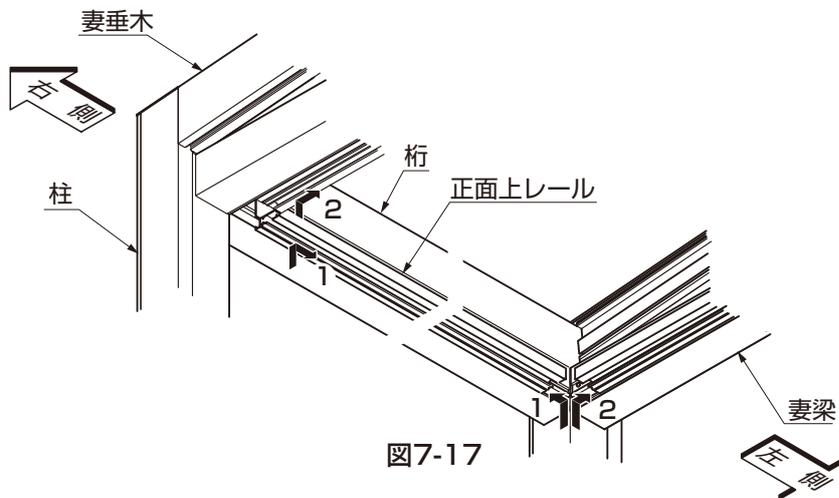


図7-17

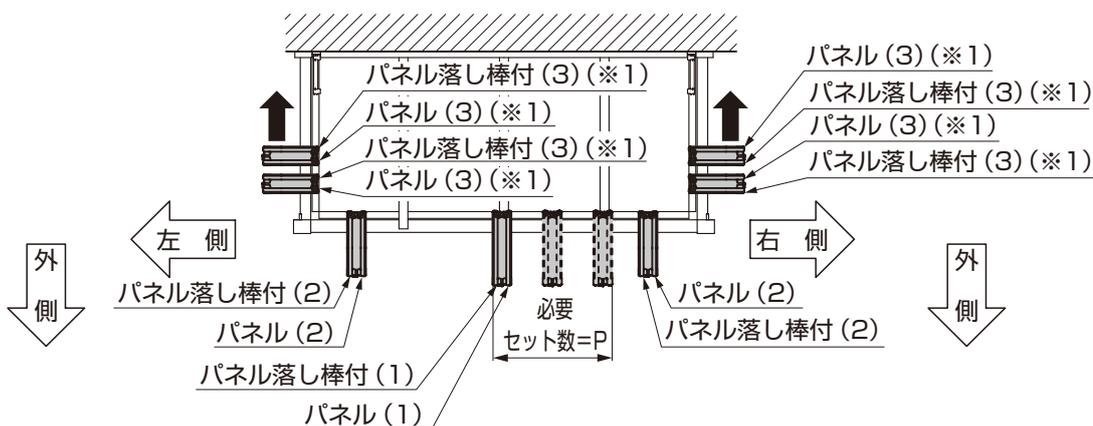


図7-18 標準納まり

表7-1

	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
必要セット数=P	1	2	3	4

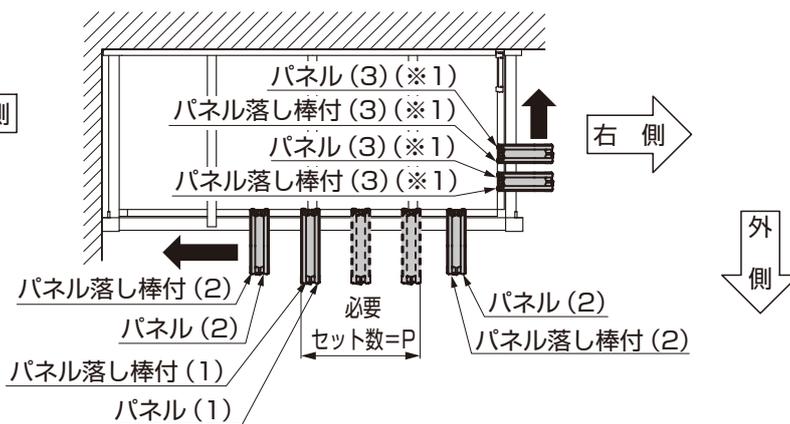


図7-19 片側入隅納まり

①パネルおよびパネル落し棒付の水平ローラーを左右のコーナー部より挿入し、上下レールへ吊り込んでください。

ポイント

- パネルおよびパネル落し棒付は図7-18および図7-19の順番に挿入して吊り込んでください。順番を間違えるとパネルが正しく機能しません。
- 出幅方向のパネルは6尺の場合です。(※1) 8尺の場合は「パネル(1)、パネル落し棒付(1)」を吊り込んでください。
- 間口中央部のパネル(1)およびパネル落し棒付(1)の必要セット数は表7-1を参照し吊り込み枚数を確認してください。

7. (つづき)

7-10 連棟タイプの場合のパネルの吊込み

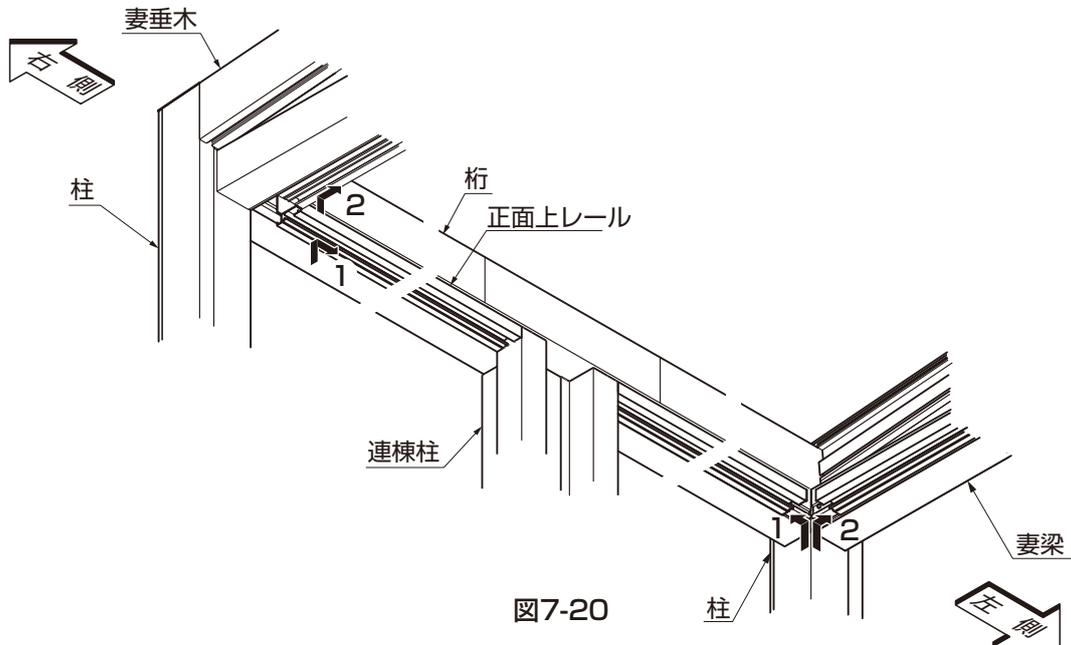


図7-20

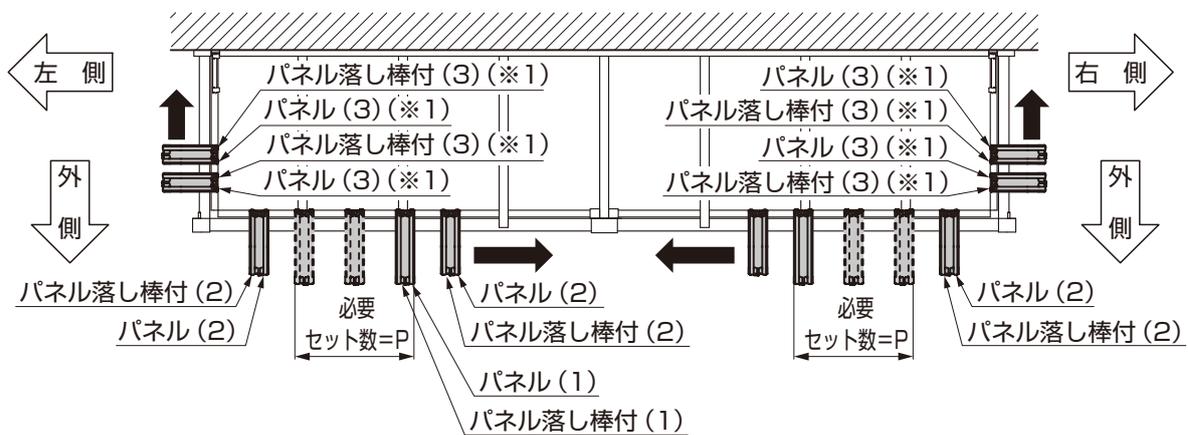


図7-21 連棟納まり

表7-2

	1.5間	2.0間	2.5間	3.0間
必要セット数=P	1	2	3	4

① パネルおよびパネル落し棒付の水平ローラーを左右のコーナー部より挿入し、上下レールへ吊り込んでください。

ポイント

- パネルおよびパネル落し棒付は図7-21の順番で挿入して吊り込んでください。順番を間違えるとパネルが正しく機能しません。
- 出幅方向のパネルは6尺の場合です。(※1) 8尺の場合は「パネル(1)、パネル落し棒付(1)」を吊り込んでください。
- 間口中央部のパネル(1)およびパネル落し棒付(1)の必要セット数は表7-2を参照し吊り込み枚数を確認してください。

7-11 ヒンジの取付け

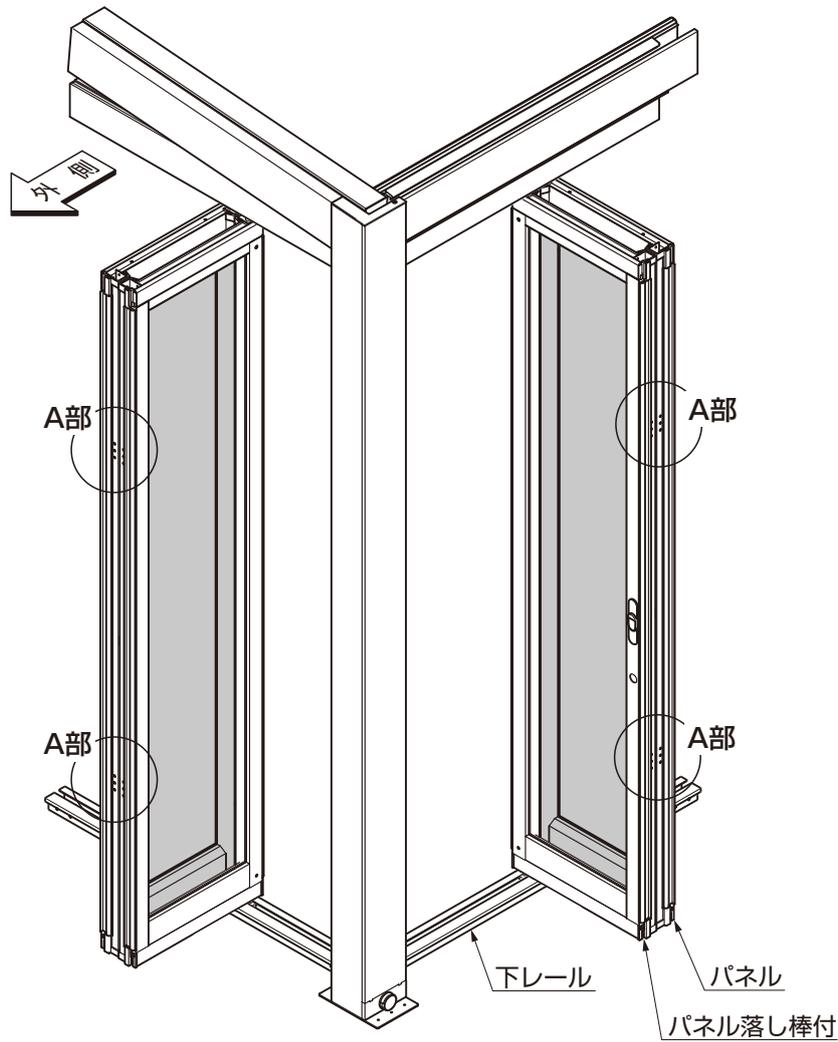


図7-22

- ① パネルとパネル落とし棒付を開き止めではめ合わせて、仮固定してください。
- ② ヒンジをパネルとパネル落とし棒付に【4I-1】で取付けてください。

ポイント

- ヒンジは外観から見てバネ部(※1)が右側になるように取付けてください。
- ヒンジは必ず手回しドライバーで固定してください。
- ヒンジ取付ネジが緩むとパネルが脱落してパネルが破損するおそれがありますので、確実にきつく締めてください。

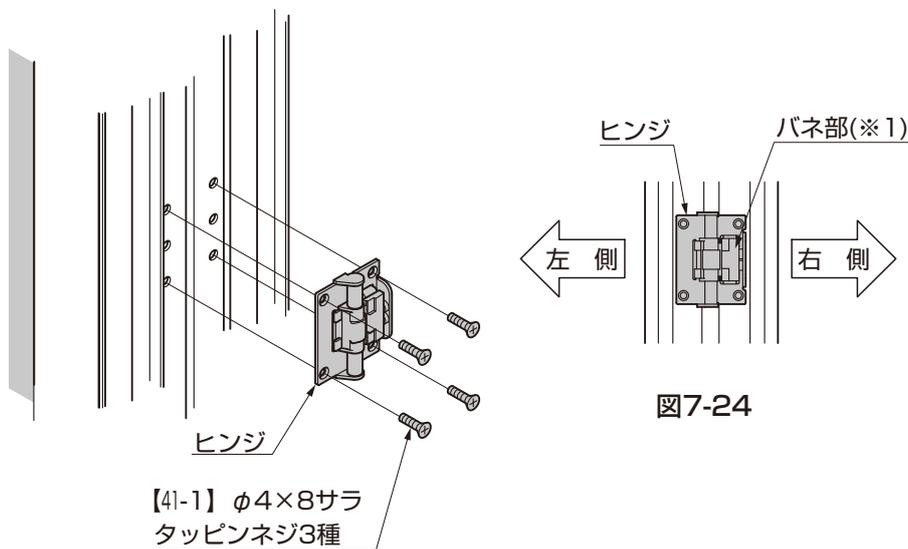


図7-23 A部詳細図

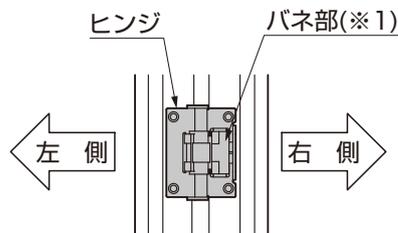


図7-24

7. (つづき)

7-12 パネル開き止めの調整について ※パネル開き止めのはめ合いがかたい場合

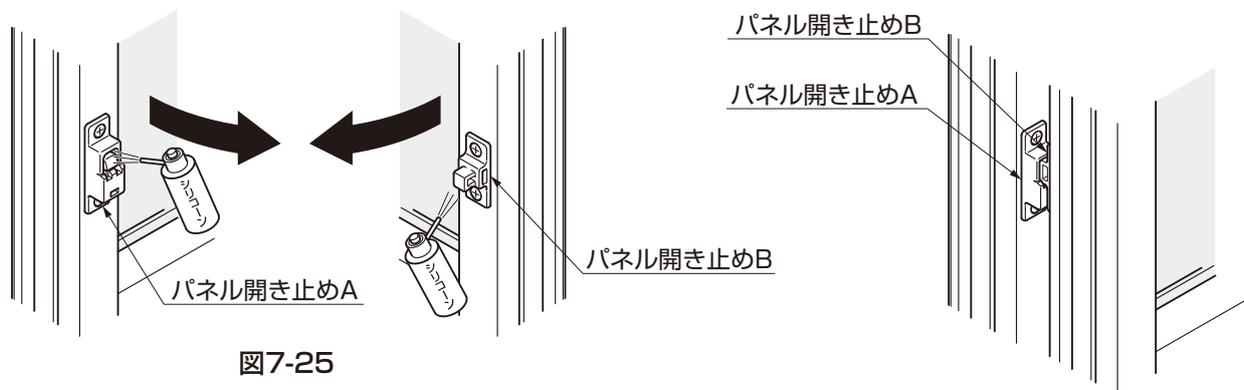


図7-25

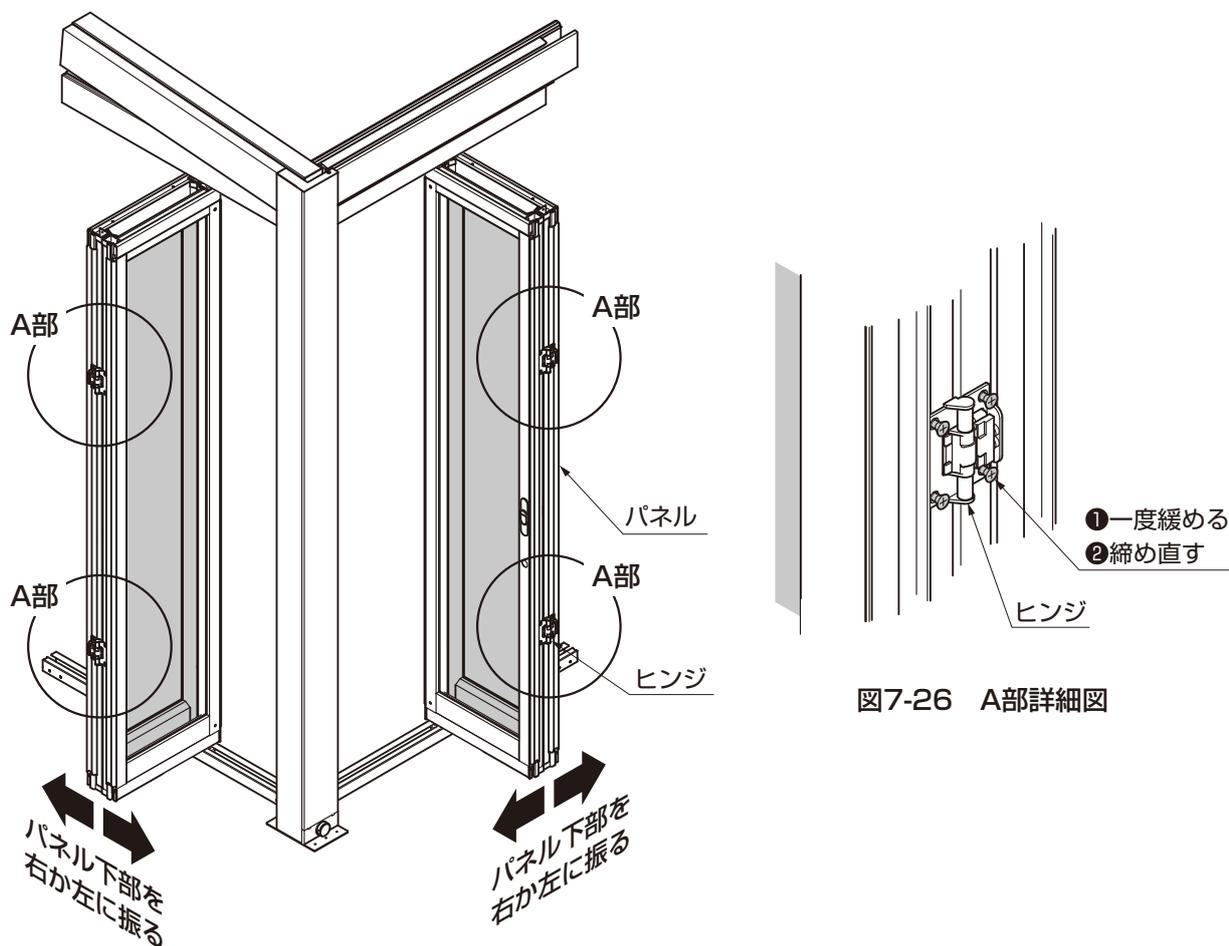


図7-26 A部詳細図

- ①同梱のシリコンスプレーをパネル開き止めAと、パネル開き止めBに塗布してください。
- ②ヒンジを固定しているネジを1山~2山程度緩めてください。
- ③パネルを畳んで、パネル下部を外観右側または左側に振りながらパネル開き止めA、Bをはめ合わせてください。
- ④パネル開き止めがはめ合った際のパネルを振った状態のまま緩めたネジを締め直してください。

ポイント

- パネル開き止めAはかん合部内部、パネル開き止めBは下面を重点に塗布してください。
- ヒンジは必ず手回しドライバーで固定してください。
- ヒンジ取付ネジが緩むとパネルが脱落してパネルが破損するおそれがありますので、確実にきつく締めてください。

7-13 コーナー框の建込み ※コーナー框は下図の位置に納まるよう吊り込んでください。

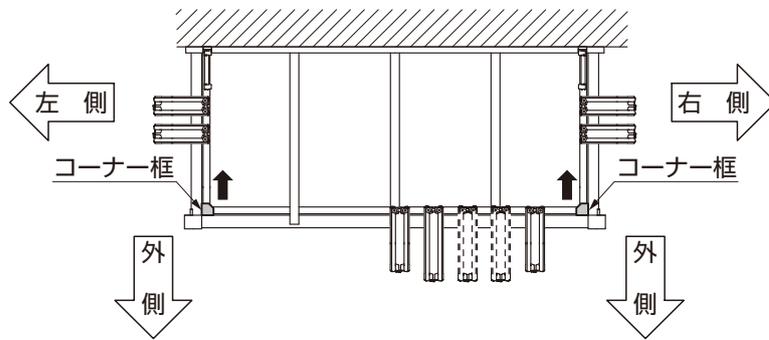


図7-27 標準納まり

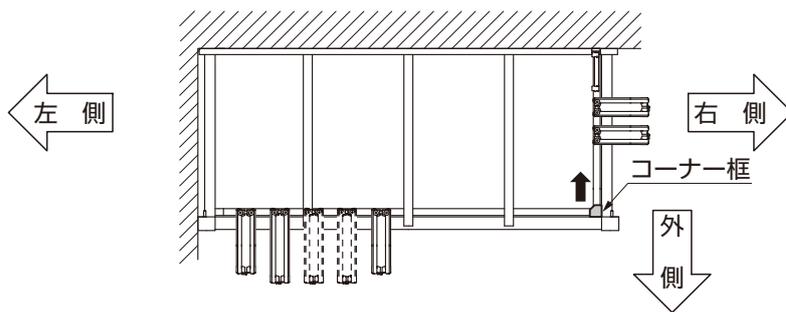


図7-28 片側入隅納まり

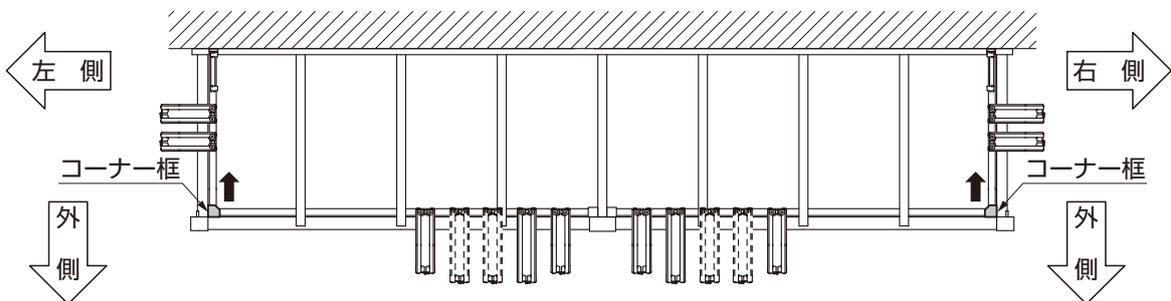
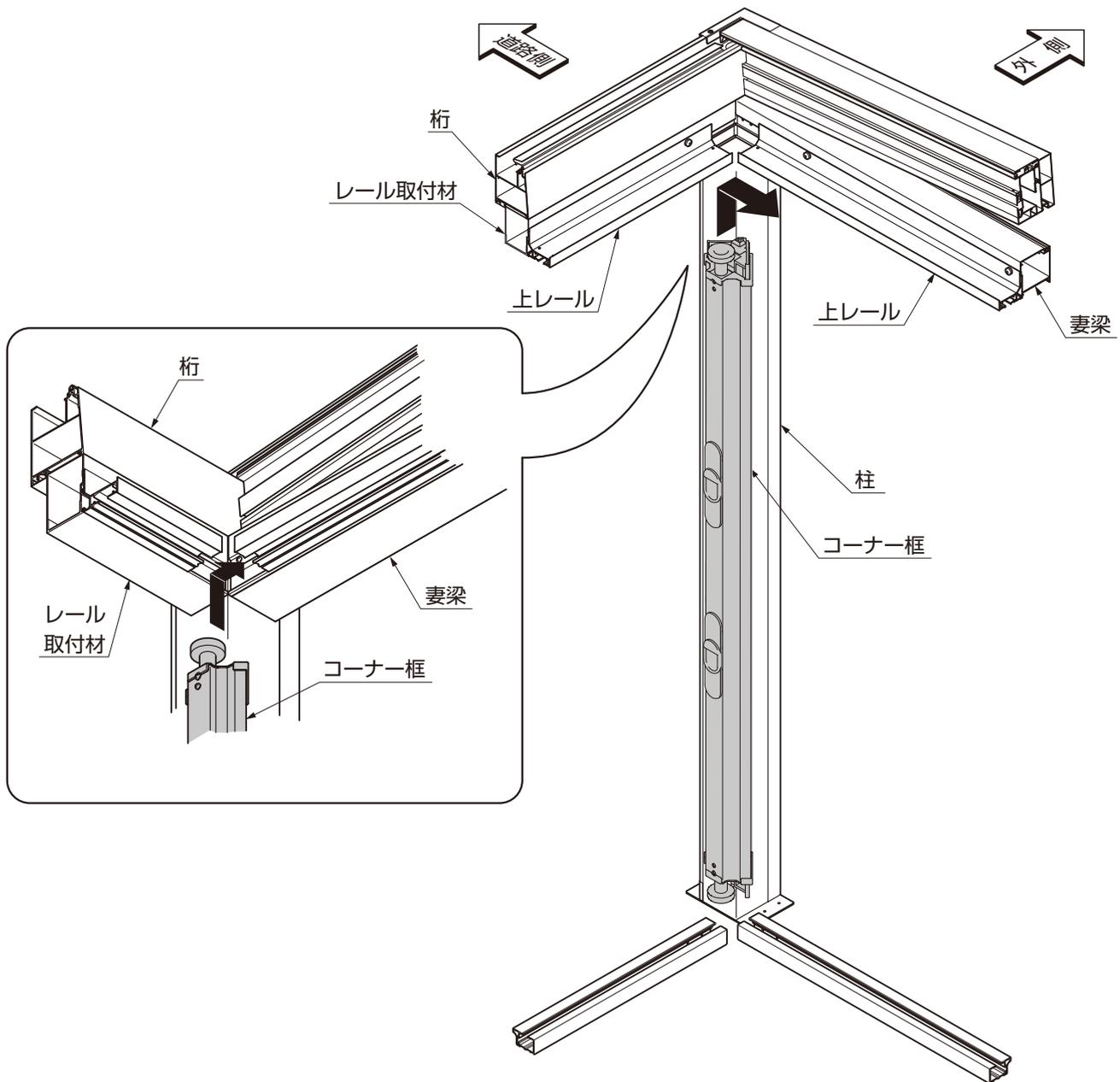


図7-29 連棟納まり

7. (つづき)



① コーナー框をパネル同様にコーナー部より上下レールに吊り込んでください。

ポイント

- コーナー框は標準納まりの場合は2本、片側入隅納まりの場合は1本、連棟納まりの場合は2本となります。
- 全閉時のコーナー部にコーナー框が納まるように吊り込んでください。

メモページ

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

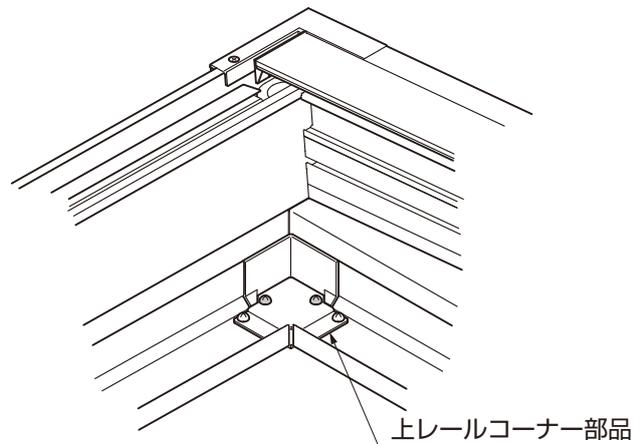
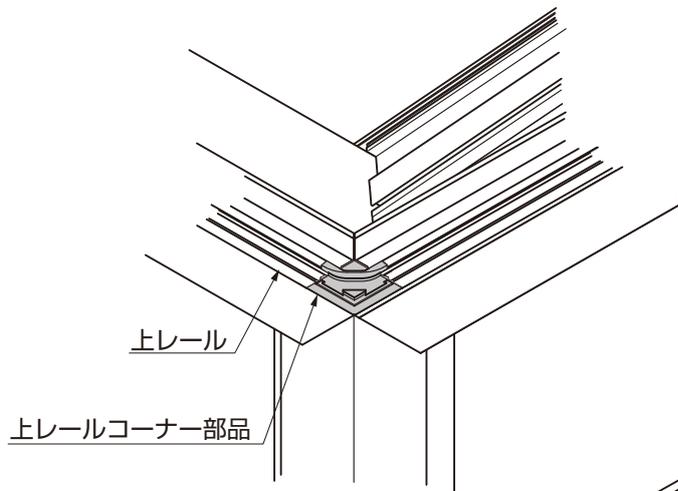
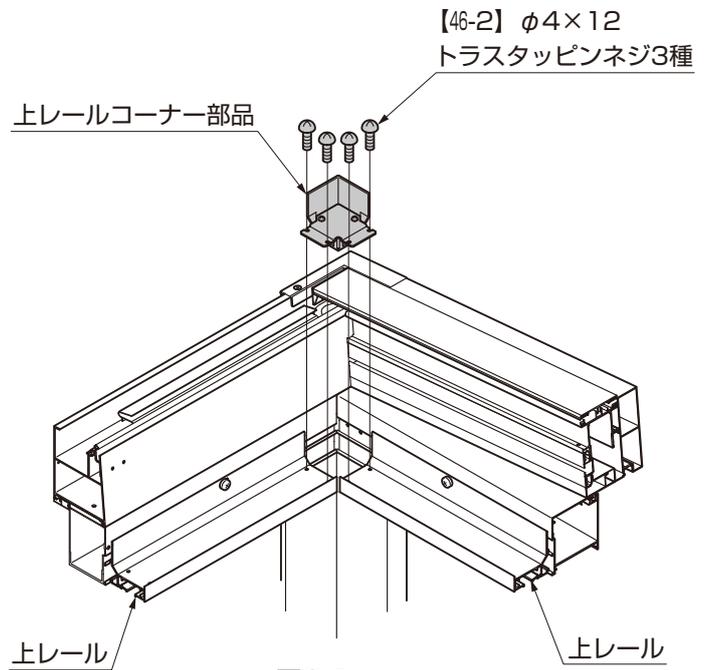
.....

.....

.....

8. レールコーナー部品の取付け

8-1 上レールコーナー部品の取付け



- ①上レールコーナー部品を上レールに【46-2】で固定してください。
- ②上レールコーナー部品と上レールに段差がないように調整し、上レールコーナー部品を本締めしてください。

8-2 下レールコーナー部品の取付け

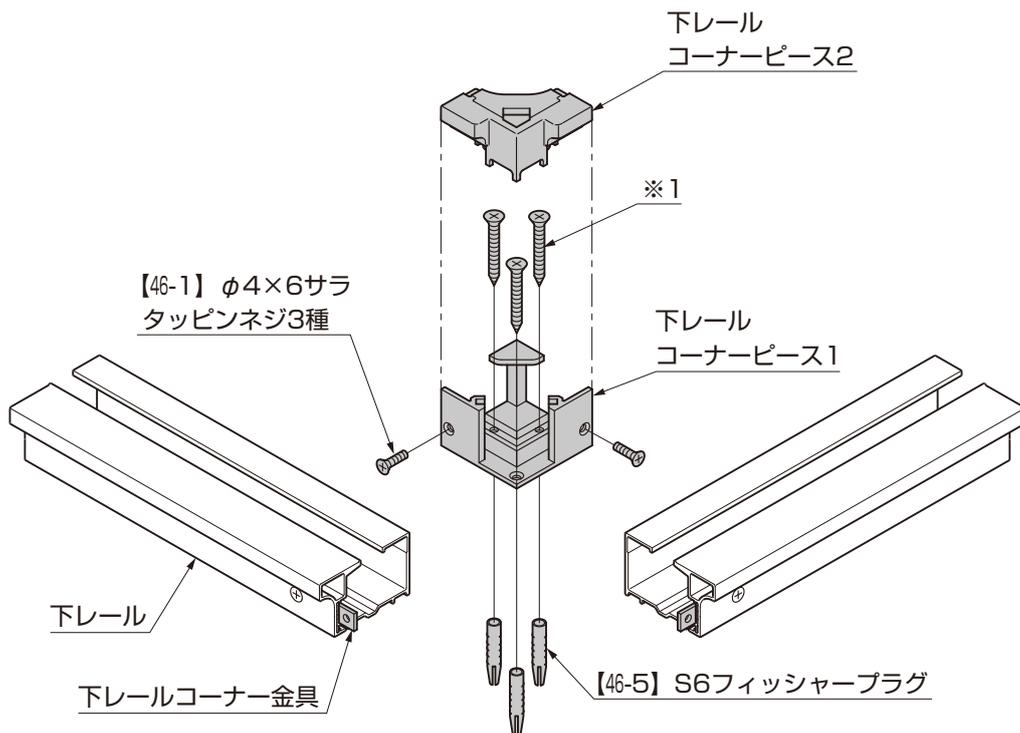


表 8-1 (※1) 下レールコーナーピース固定用ネジ一覧

	下レール固定用ネジ	フィッシャープラグ
土間用	【46-4】φ4.1×32 サラ木ネジ	【46-5】フィッシャープラグS6
デッキ用	【46-3】φ4.5×63 サラ木ネジ	不要
ベース材仕様用	【50-3】φ4×16 サラドリルネジ	不要

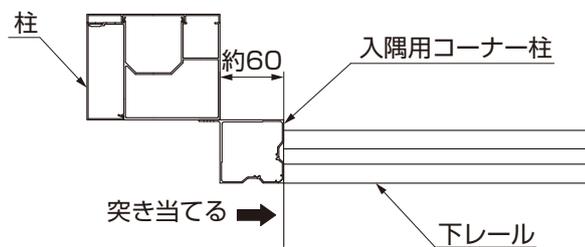
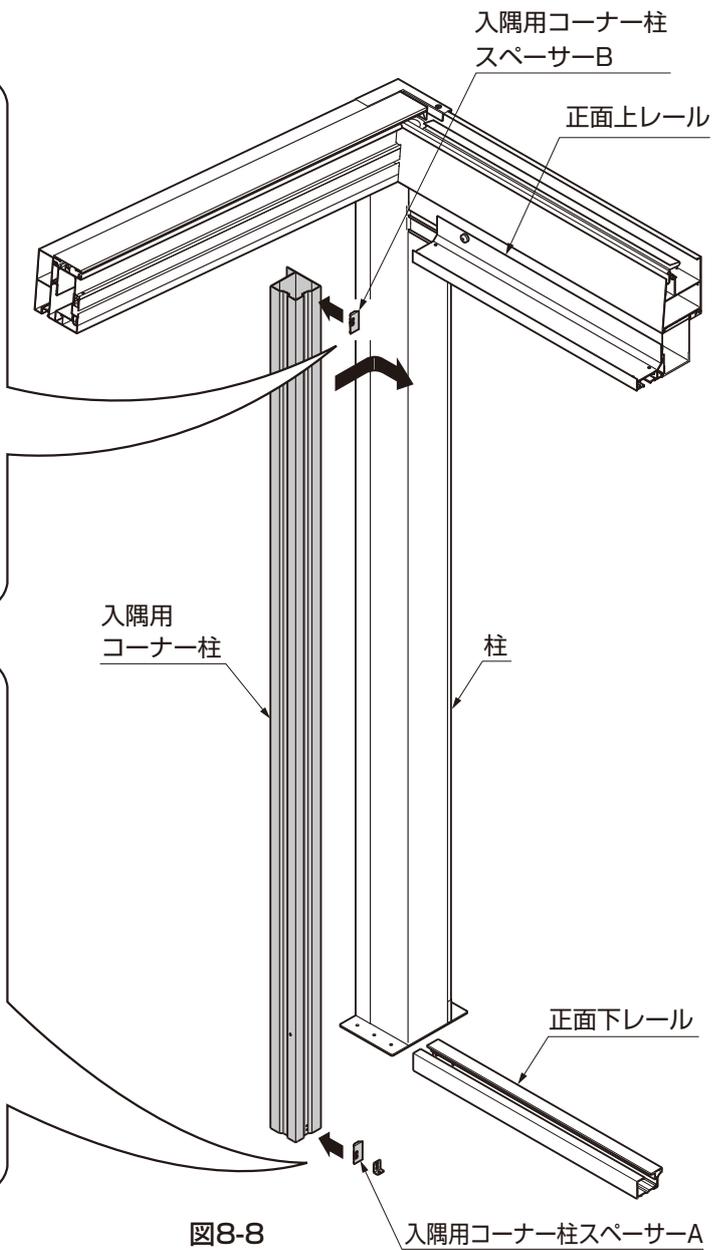
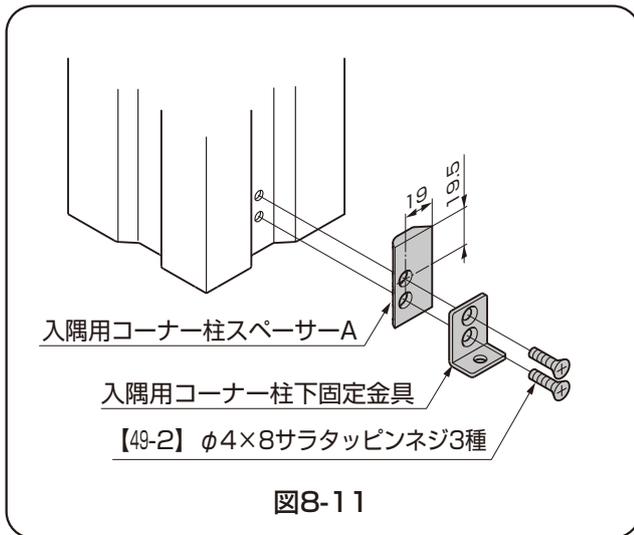
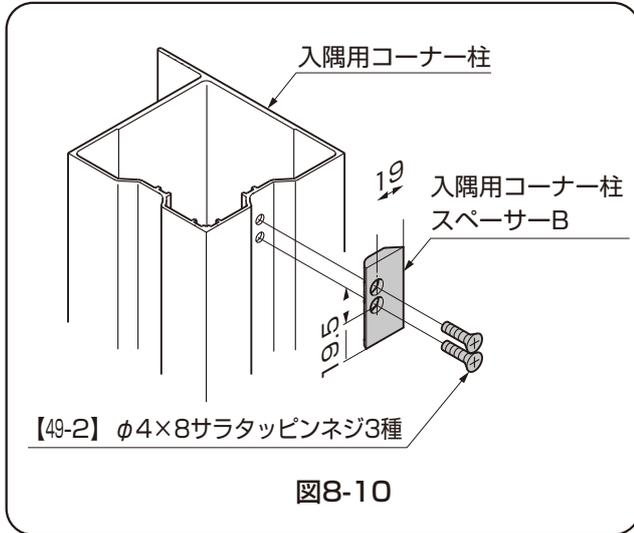
- ①下レールコーナーピース1を下レールコーナー金具に【46-1】で取付けてください。
- ②表8-1を参照して下レールコーナーピース1を固定してください。
- ③下レールコーナーピース2を下レールコーナーピース1にはめ込んでください。

ポイント

- 下レールコーナーピース固定の際、床がデッキの場合は【46-3】、土間の場合は【46-5】と【46-4】を使用してください。
- ベース材仕様の場合、下レールコーナーピース1の穴をガイドにベース材にφ3.5の穴加工をしてください。

8. (つづき)

8-3 つづき



- ②加工した柱に入隅用コーナー柱下固定金具、入隅用コーナー柱スペーサー-A、Bを【49-2】で固定してください。
- ③入隅用コーナー柱を上下レールの内側面をそろえてレールに突き当てて柱に取付けてください。

ポイント

- 入隅用コーナー柱スペーサーはAとBがあります。右入隅、左入隅でAとBが入れ替わります。(図8-10,11参照)

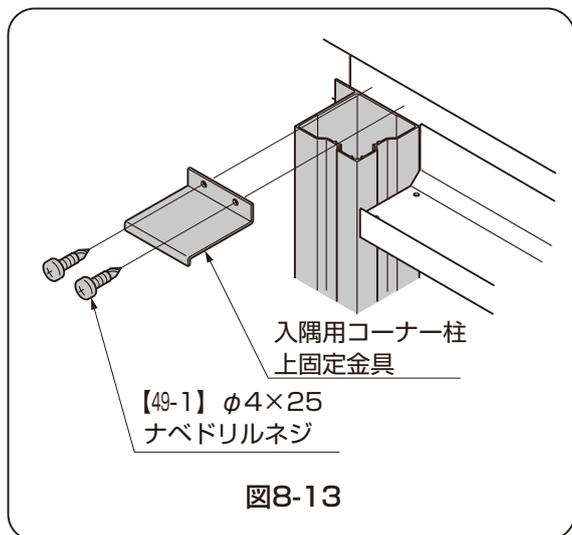


図8-13

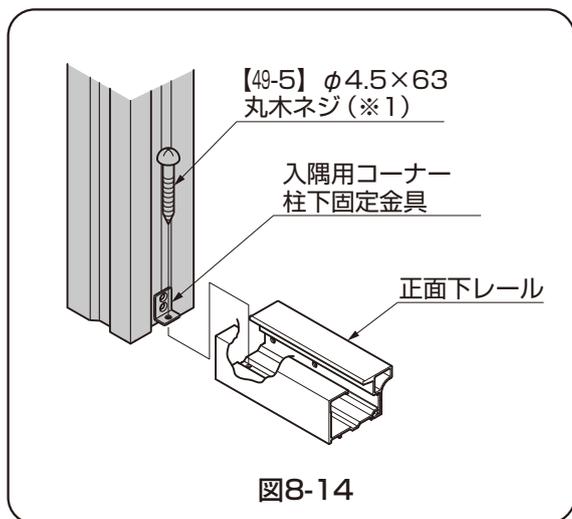


図8-14

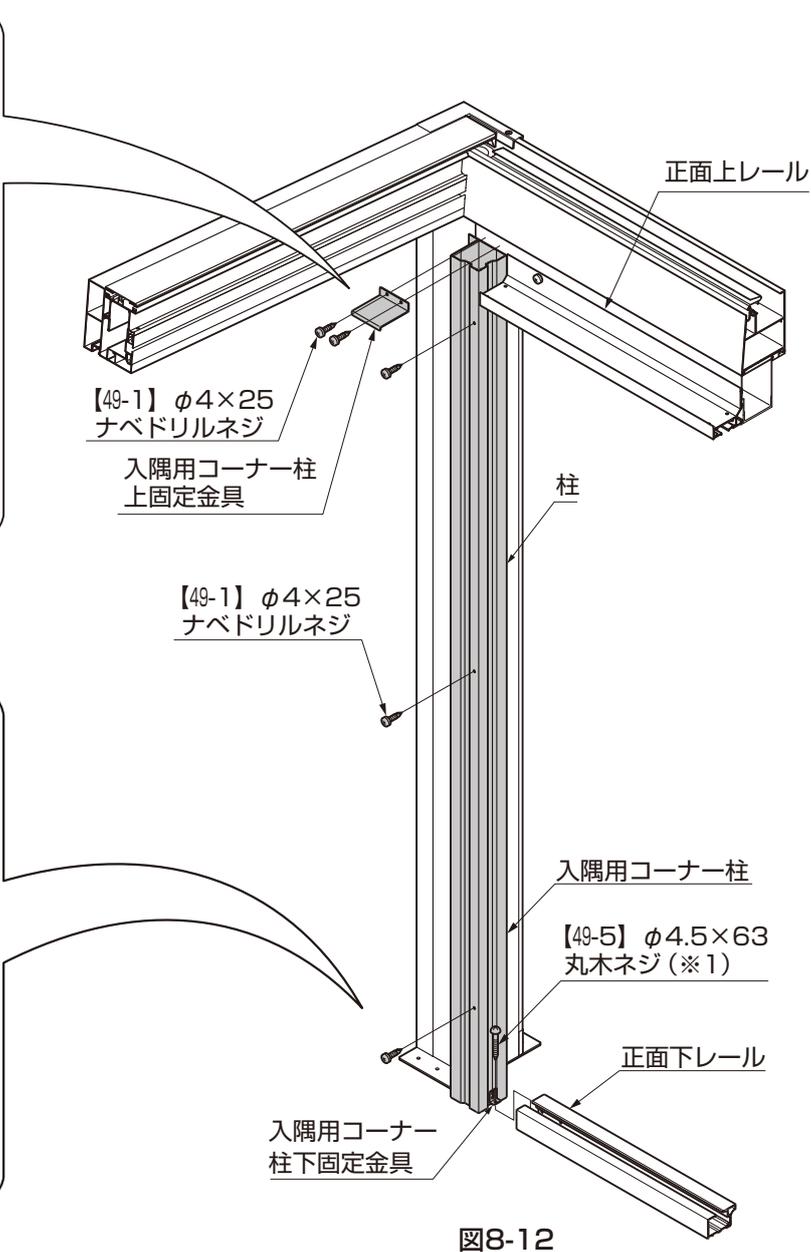


図8-12

- ④下レールと入隅用コーナー柱下固定金具を下地の状態に合わせて【49-5】で固定してください。
- ⑤入隅用コーナー柱上固定金具で入隅用コーナー柱の小口をカバーするように組付け、レール取付材へ【49-1】で取付けてください。

ポイント

- 土間の場合は【49-4】と【49-3】を使用してください。(※1)

8. (つづき)

8-4 連棟部の入隅用コーナー柱の組付け

(1) フラット施工の場合

入隅用コーナー柱A (外観左用)

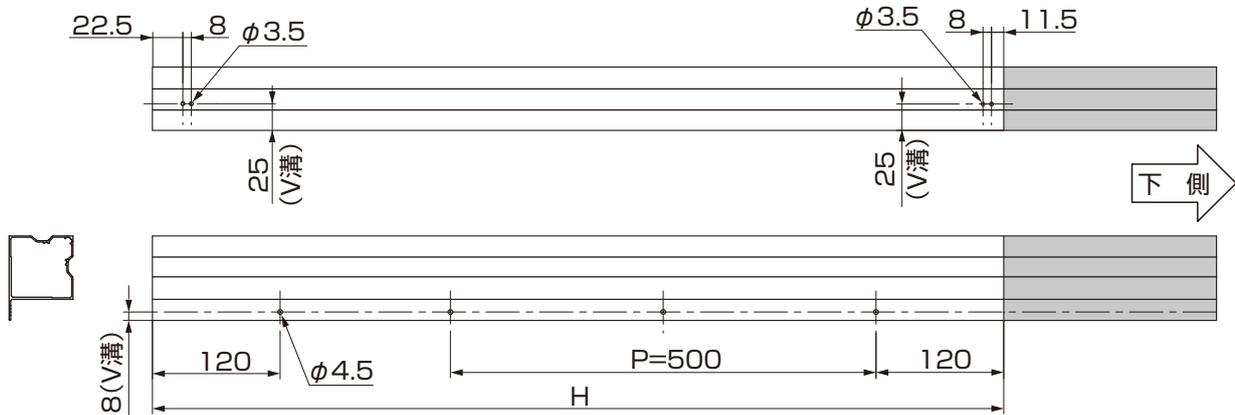


図8-14 入隅用コーナー柱A

入隅用コーナー柱B (外観右用)

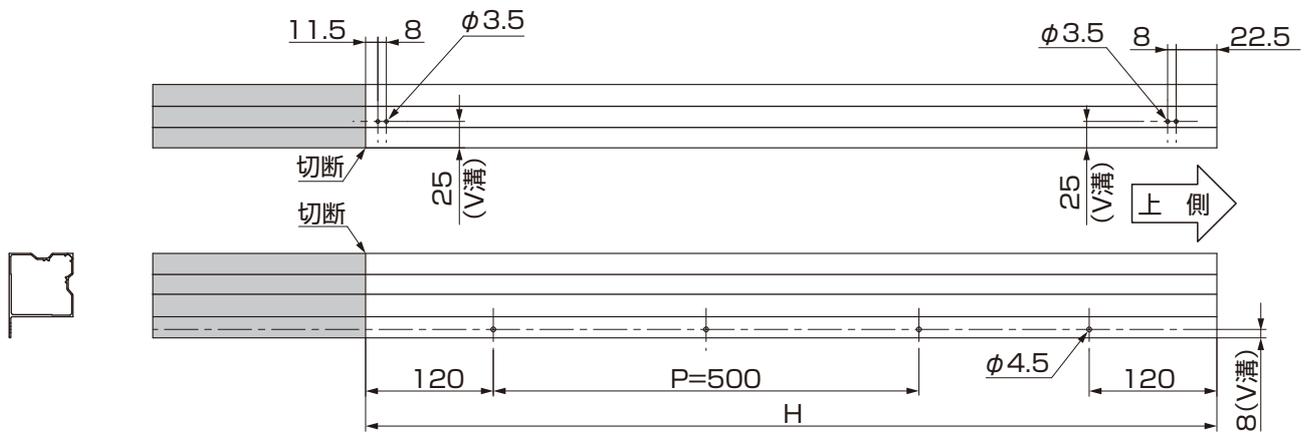


図8-15 入隅用コーナー柱B

表 8-4

	パネル高さ		
	H2100	H2300	H2500
H寸法	2150	2350	2550

①入隅用コーナー柱を図8-14、図8-15と表8-4を参照し、切断および下穴加工をしてください。

8. (つづき)

8-4 つづき

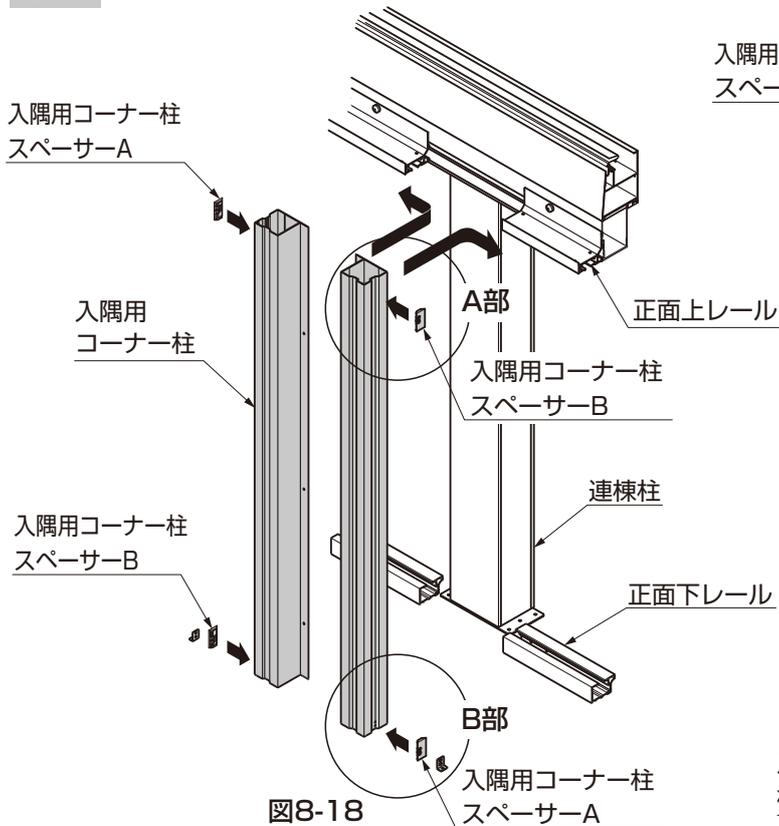


図8-18

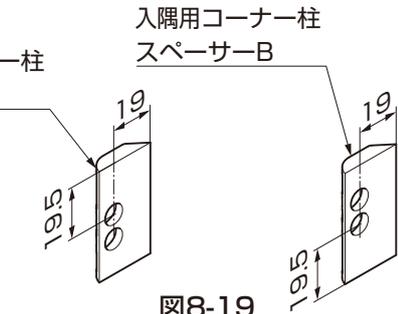


図8-19

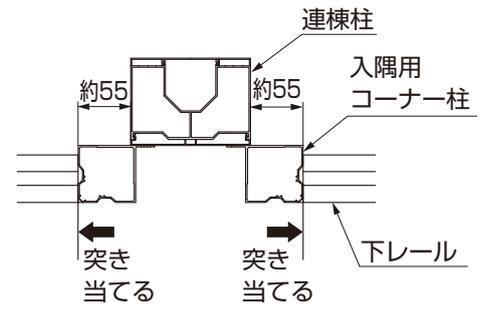


図8-20

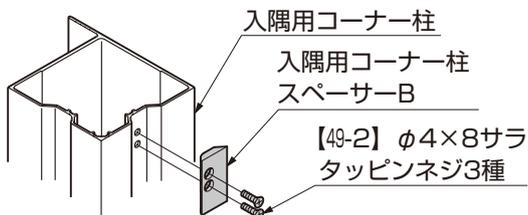


図8-21 A部詳細図

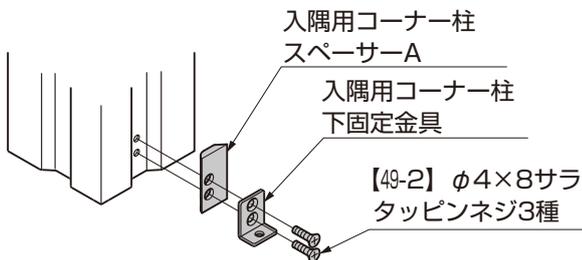


図8-22 B部詳細図

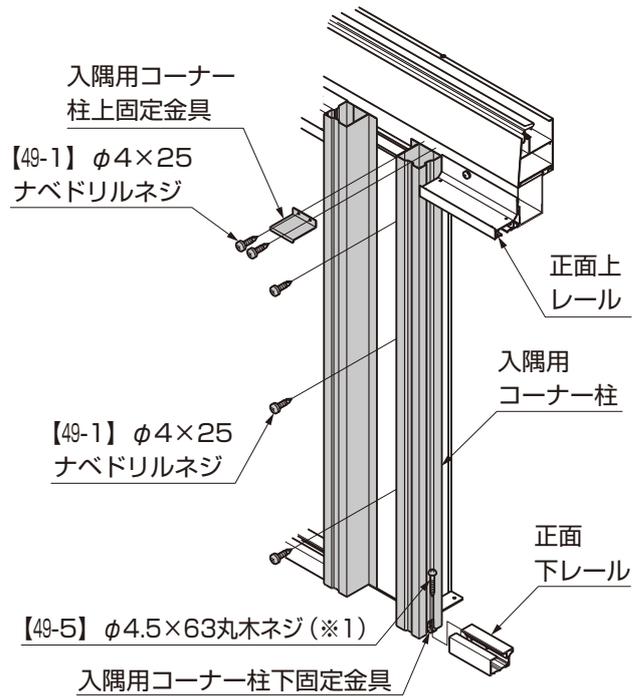


図8-23

- ②加工した柱に入隅用コーナー柱下固定金具、入隅用コーナー柱スペーサーA、Bを【49-2】で固定してください。
- ③入隅用コーナー柱を上下レールの内側面をそろえてレールに突き当てて柱に取付けてください。
- ④下レールと入隅用コーナー柱下固定金具を下地の状態に合わせて【49-5】で固定してください。
- ⑤入隅用コーナー柱上固定金具で入隅用コーナー柱の小口をカバーするように組付け、レール取付材へ【49-1】で取付けてください。

ポイント

- 土間の場合は【49-4】と【49-3】を使用してください。(※1)
- 入隅用コーナー柱スペーサーはAとBがあります。右入隅、左入隅でAとBが入れ替わります。(図8-19参照)

9. パネル部品の取付け

9-1 錠の取付け

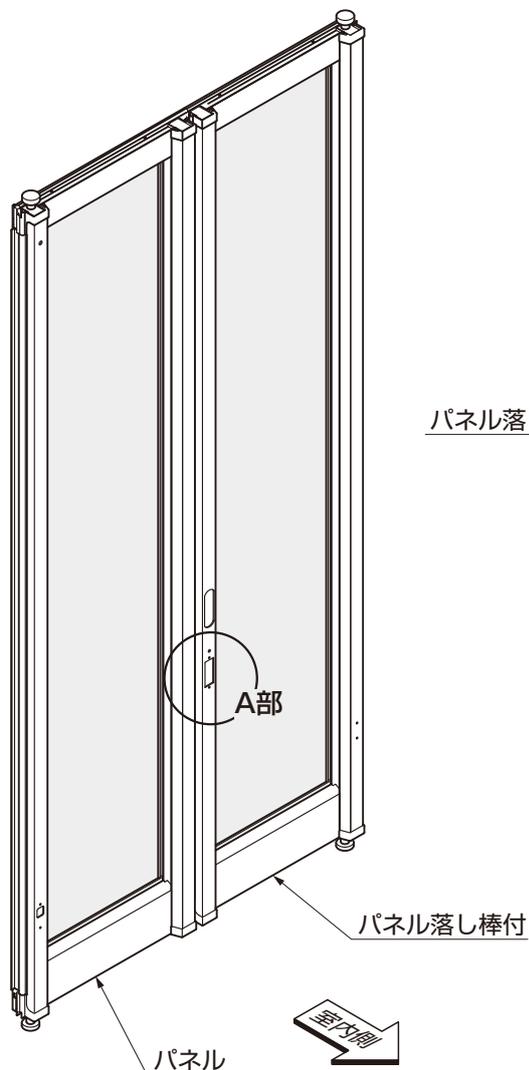


図9-1

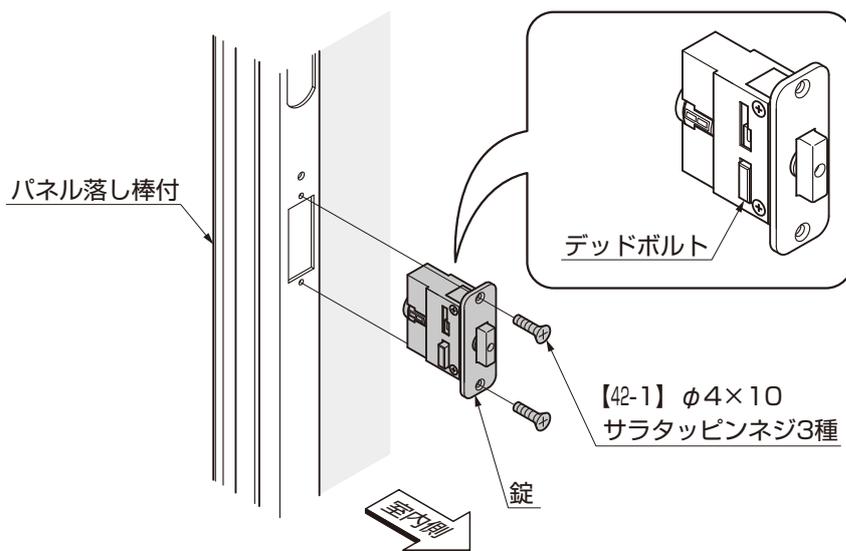


図9-2 A部詳細図
錠を取付ける場合

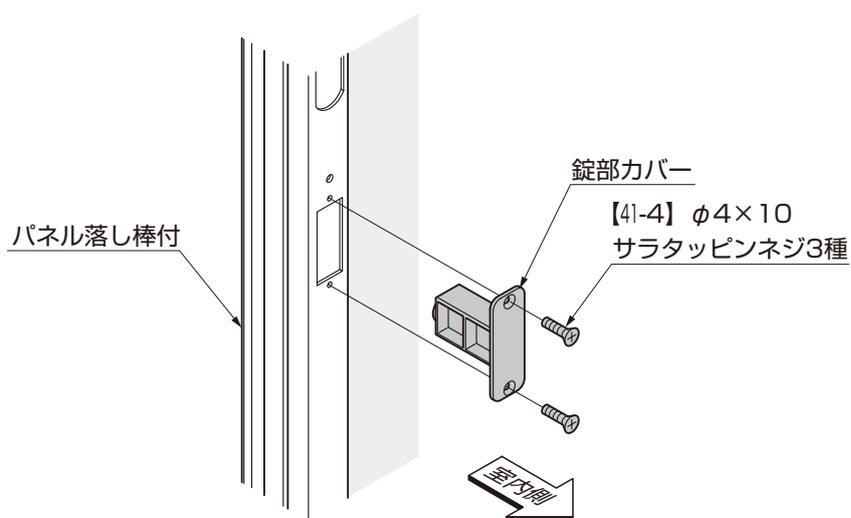


図9-3 A部詳細図
錠を取付けない場合

- ①錠を取付ける折戸を決め、室内側より【42-1】で錠を取付けてください。
- ②錠を取付けない折戸には、同じ場所に【41-4】で錠部カバーを取付けてください。

9. (つづき)

9-2 取っ手の取付け

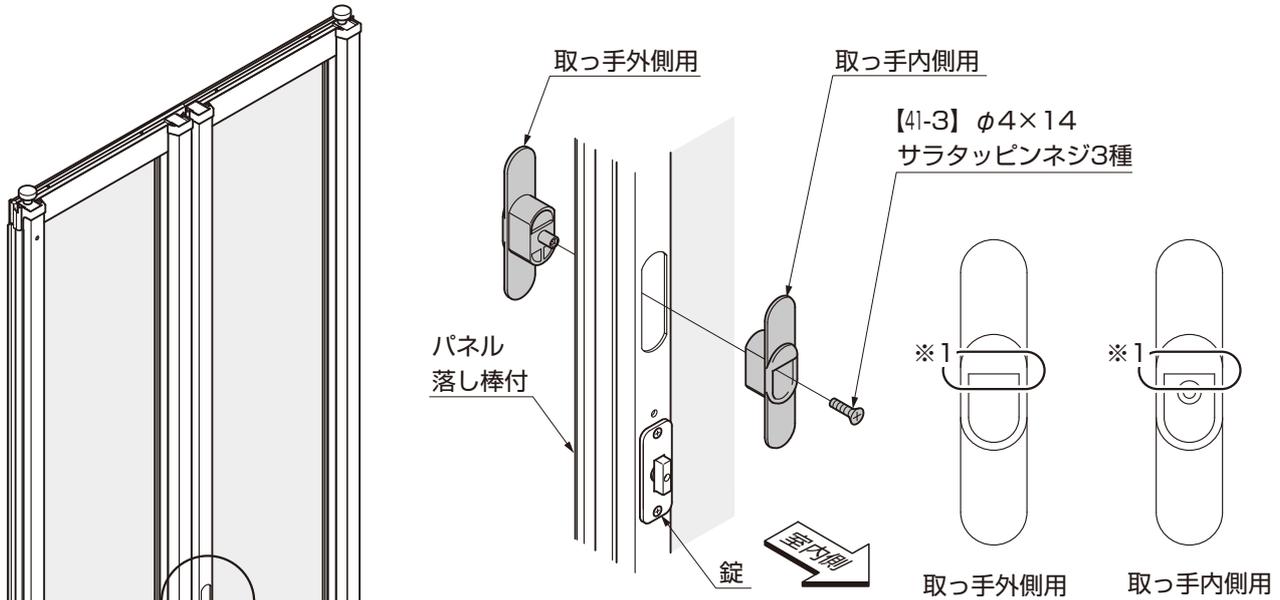


図9-4 B部詳細図
錠を取付けた場合

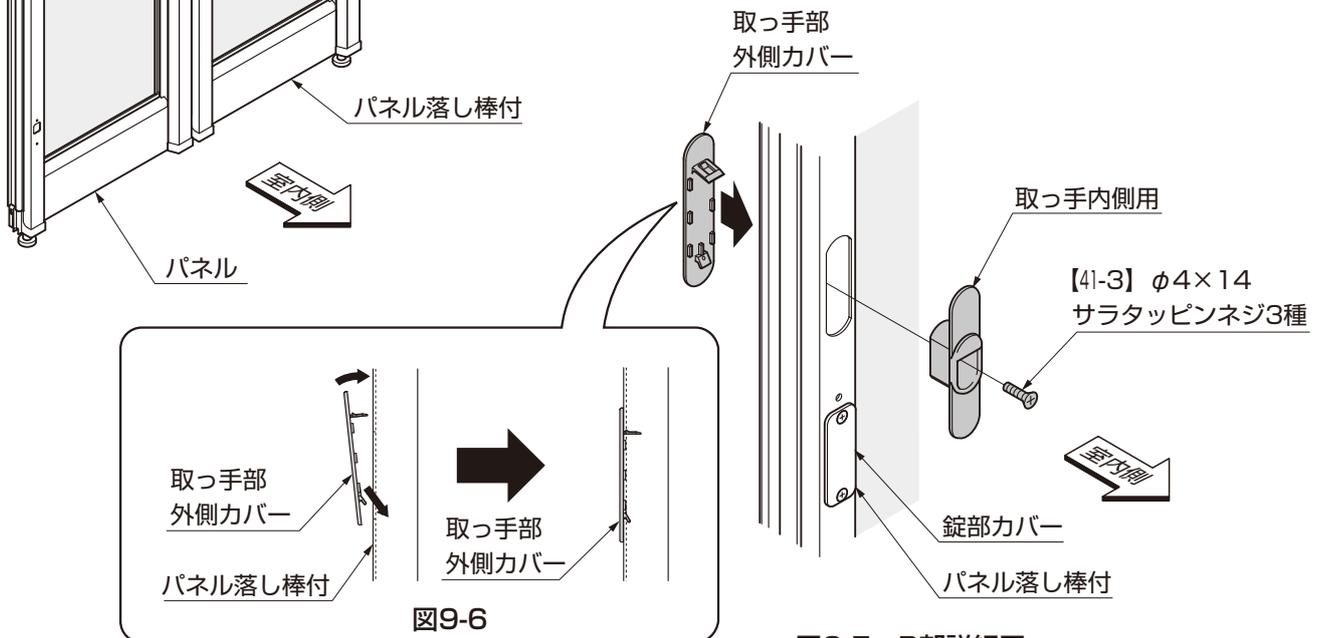


図9-5 B部詳細図
錠を取付けていない場合

①錠を取付けた折戸には、取っ手内側用と取っ手外側用を【41-3】で取付けてください。

ポイント

●取っ手内側用、取っ手外側用には向きがあります。※1部が上になるように取付けてください。

②錠を取付けない折戸には、【41-3】で取っ手内側用を取付け、室外側に取っ手部外側カバーをはめ込んでください。

10. 調整フィックスパネルの固定

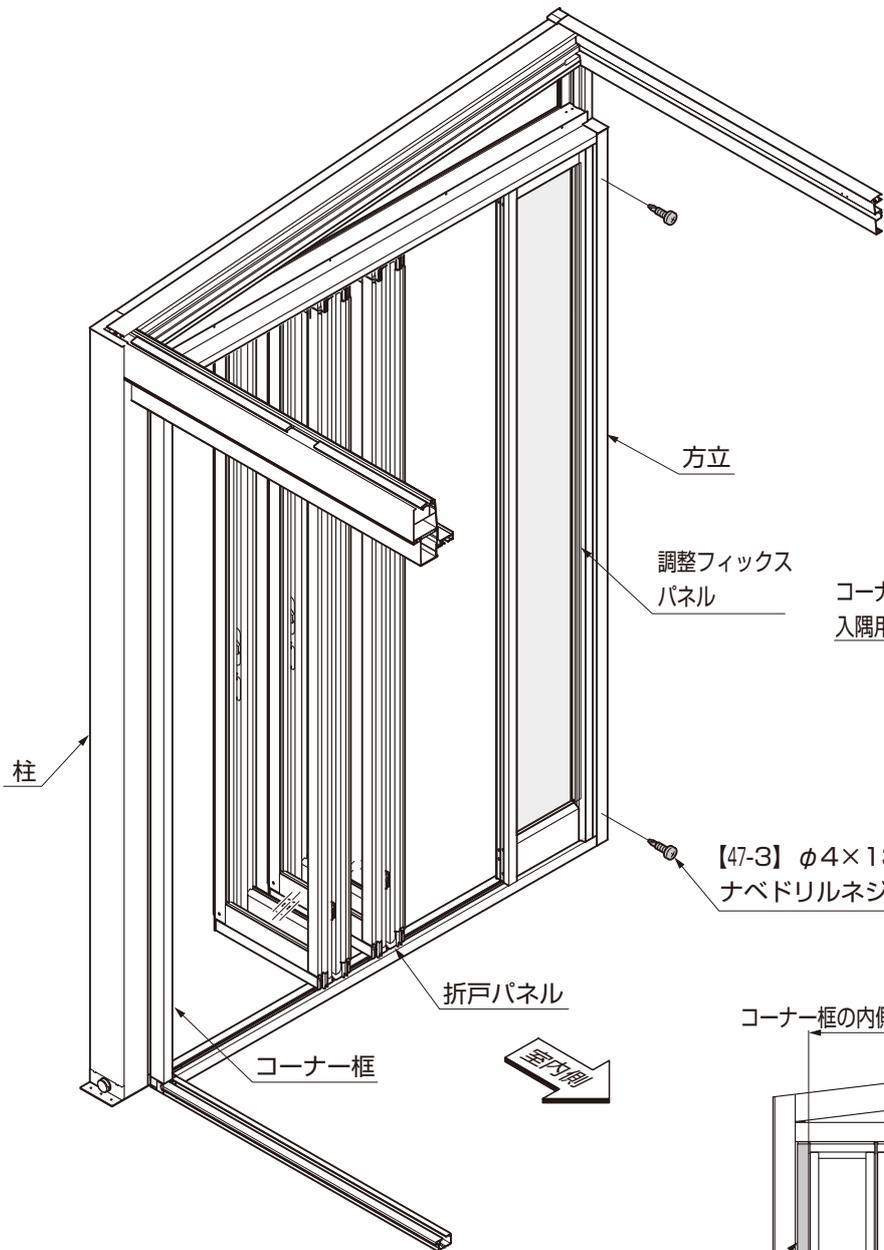


図10-1

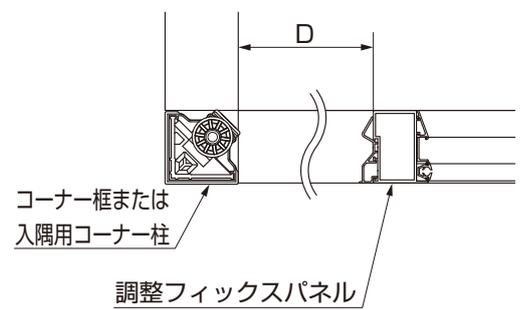


図10-2

表10-1

	D
6尺	1346~1348
8尺	1826~1828

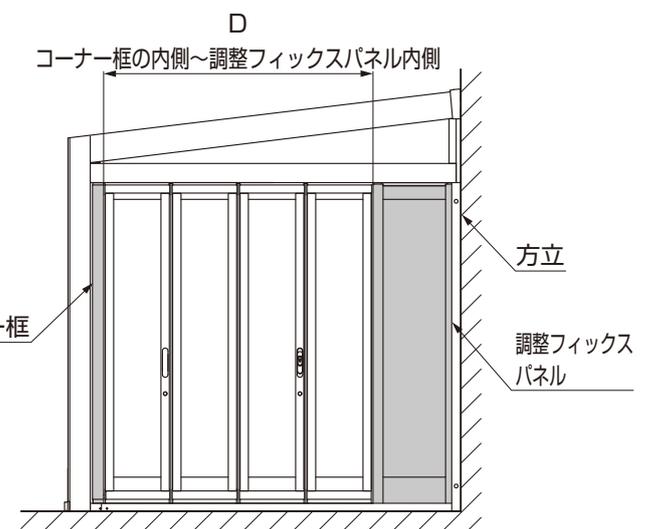


図10-3

- ①コーナー枠の内側～調整フィックスパネルの内側が上から下まで表10-1の寸法Dになるように調整フィックスパネルの位置を調整してください。
- ②調整フィックスパネルと方立を【47-3】で固定してください。

ポイント

- コーナー枠の内側～調整フィックスパネルの内側を表10-1の通りにしないと、ボトム材がうまく作動しなかったりパネルがうまく開閉しない場合があります。

11. パネル寸法の確認

※図は折戸パネルを示します。
 ※フィックスパネルの場合も同様に作業を行なってください。

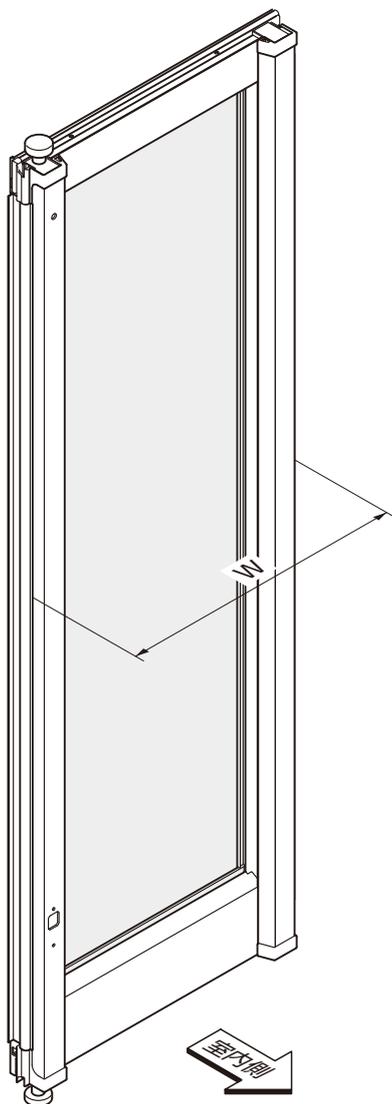


表11-1

	W
パネル(1)	440
パネル(2)	381
パネル(3)	320

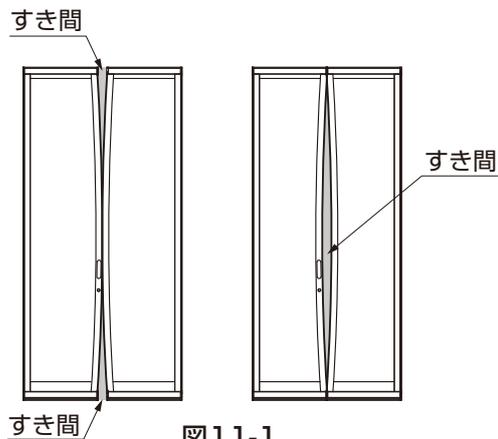


図11-1

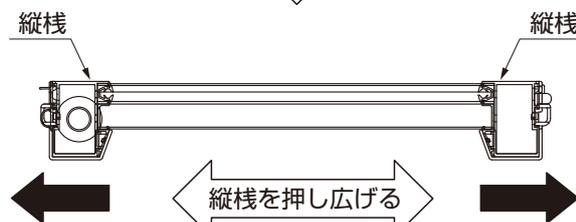


図11-2 パネルの幅が小さい場合

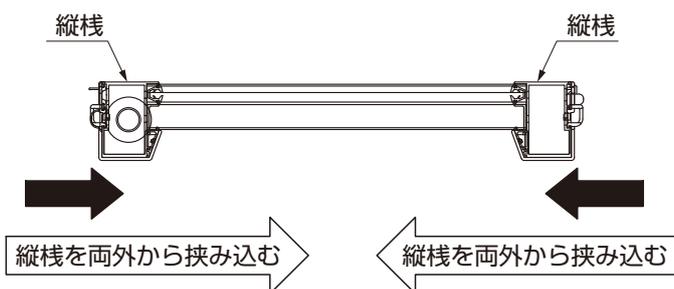


図11-3 パネルの幅が大きい場合

ポイント

●パネル間にすき間がある場合、幅の調整を行なってください。(図11-1参照)

- ①すべての作業が終了したら、パネル1枚毎に縦棧型材の外々寸法を室内側より計測してください。
- ②各パネルを計測し、縦棧型材の外々寸法が上から下まで表11-1の寸法Wになっていることを確認してください。

ポイント

- パネルの幅が小さかった場合を縦棧を少し押し広げて、寸法を合わせてください。
- パネルの幅が大きかった場合はパネル縦棧を両外から挟み込んで、寸法を合わせてください。
- ガラスフィックスのW寸法も同じです。

- ③全てのパネル同士にすき間がないことを確認してください。

12. 柱戸当りの取付け

12-1 柱戸当りの取付け

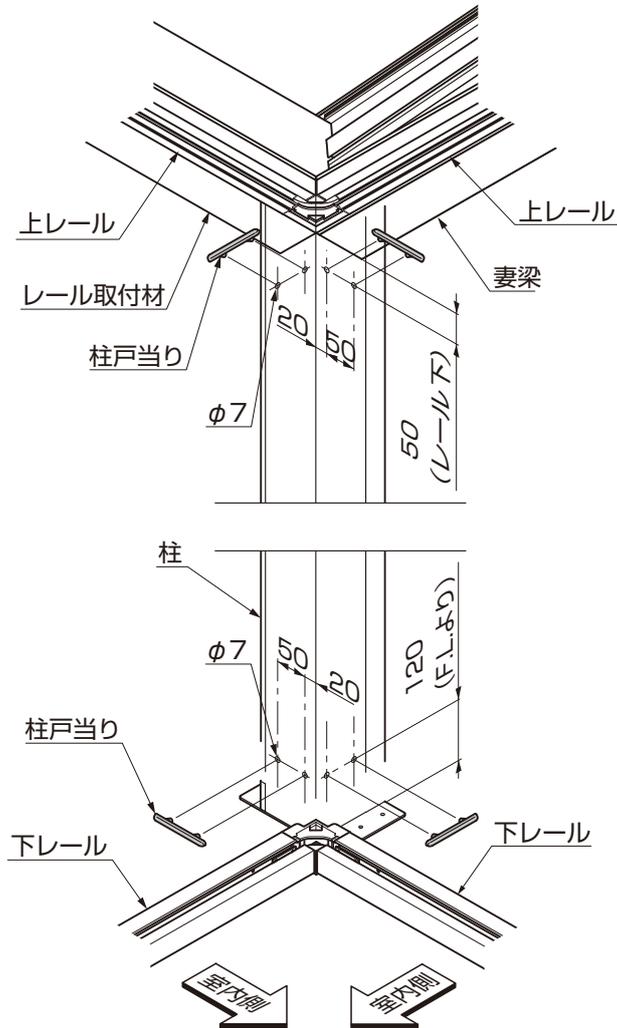
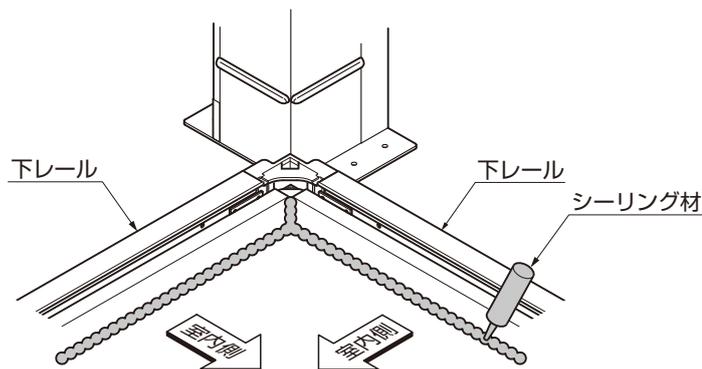


図12-1 端部柱

- ①柱にφ7の穴をあけてください。
- ②柱戸当りを柱に取付けてください。

12-2 下レールのシーリング



- ①床の仕様により下レール内側へシーリング処理を行なってください。

ポイント

- 指定の箇所には必ずシーリングをしてください。

13. 部分入隅納まりの場合

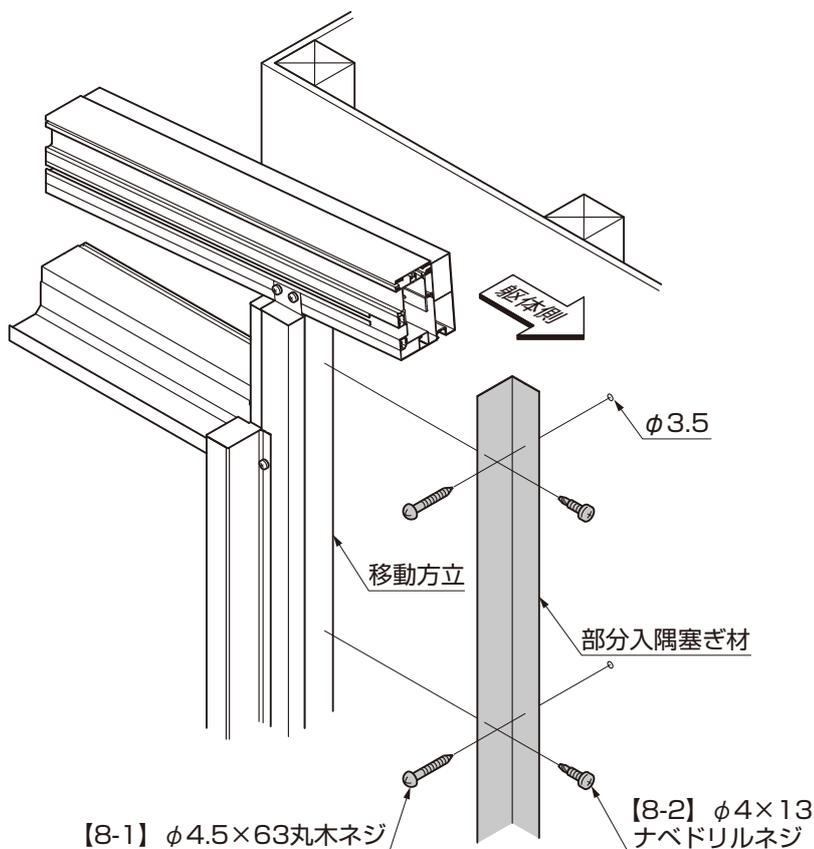


図13-1

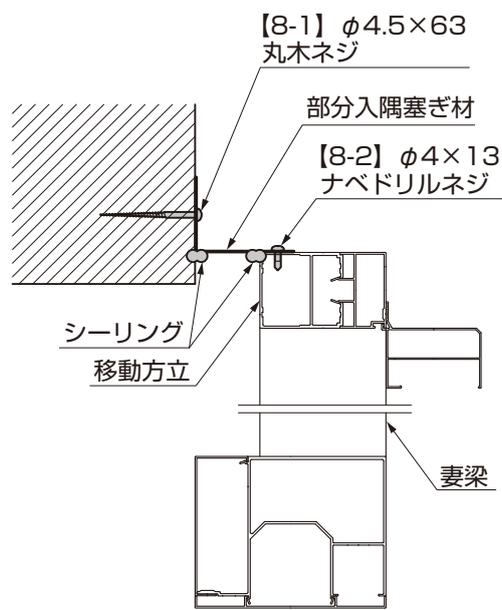


図13-2

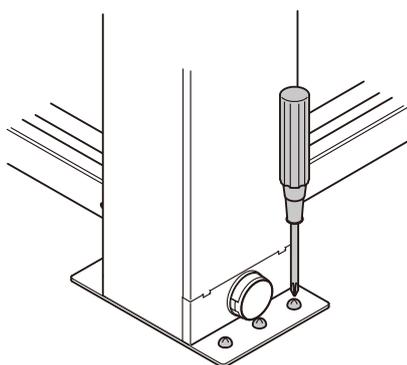
- ①部分入隅塞ぎ材を移動方立に【8-2】で取付けてください。
- ②部分入隅塞ぎ材取付け用の穴位置を躯体にけがいて、φ3.5の下穴をあけてください。
- ③部分入隅塞ぎ材を【8-1】で取付けてください

ポイント

- 指定の箇所には、必ずシーリングをしてください。

14. 柱の固定

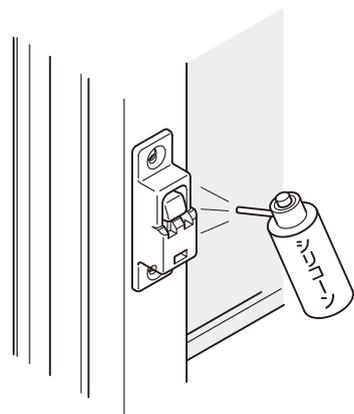
7
開閉パネル
の取付け



- ①仮固定していた柱を本締めして固定してください。

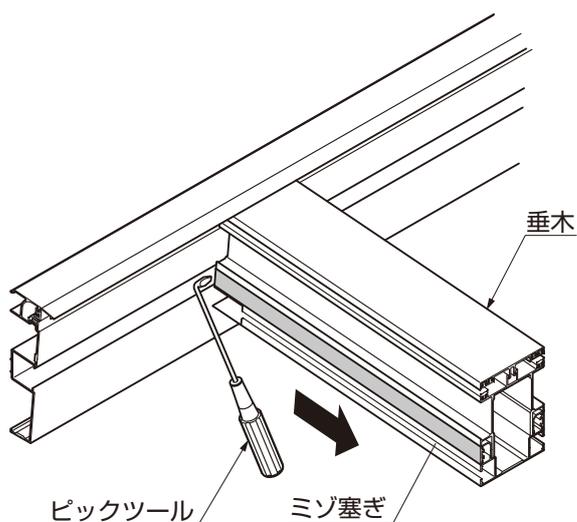
8 メンテナンス事項

1. ご使用される前に



- ①全ての作業が終了したら、パネルの開閉を確認してストッパーの納まりを確認してください。
開きが固い場合は同梱のシリコーンスプレーを塗布してください。

2. ミゾ塞ぎの取外し方



- ①ミゾ塞ぎを片側へずらし、ピックツールなどでミゾ塞ぎを取外してください。

3. 妻梁のメンテナンスについて ※妻梁のメンテナンスの為、妻梁フタを取外す場合の作業です。

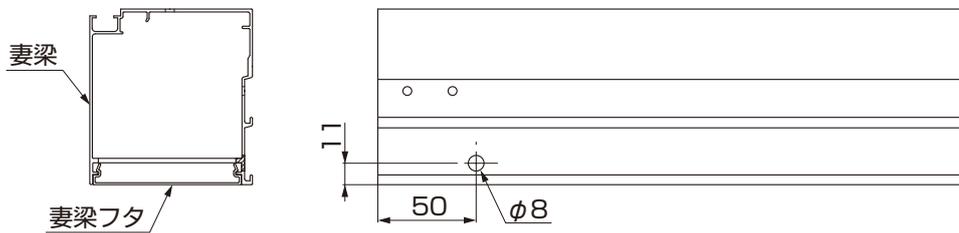


図3-1

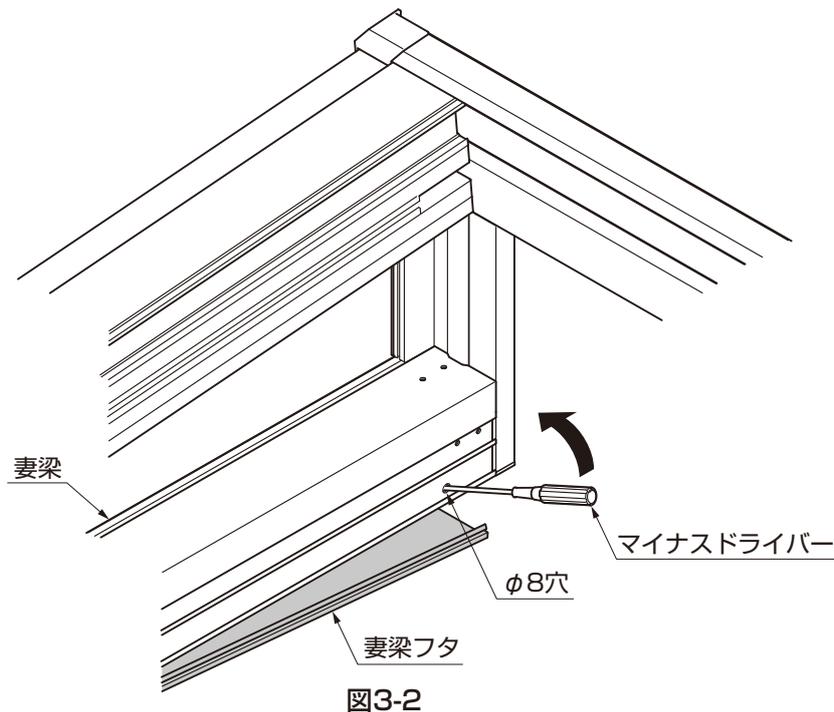


図3-2

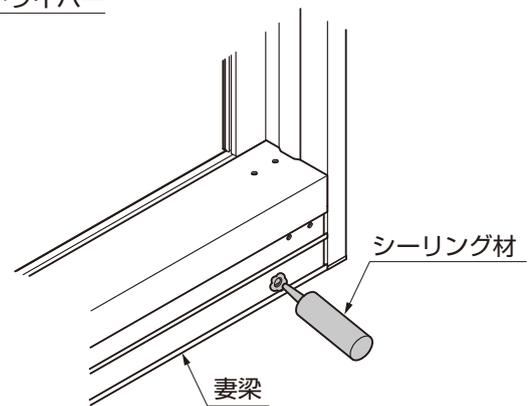


図3-3 テラスタイプの場合

- ①妻梁にφ8の穴をあけてください。
- ②あけたφ8の穴にマイナスドライバーなどを差込み、妻梁フタを取外してください。

ポイント

- テラスタイプの場合は、妻梁フタを取り外した後、シーリング材で穴をふさいでください。